

平成26年度

講義計画書  
(シラバス)

鹿児島県立短期大学

# 総目次

1	教養科目（人文，社会，自然，総合）	1
2	教養科目（外国語科目）	12
3	教養科目（スポーツ・健康科目）	42
4	教養科目（情報科目）	47
5	日本語日本文学専攻専門科目	53
6	英語英文学専攻専門科目	78
7	生活科学科共通科目	112
8	食物栄養専攻専門科目	114
9	生活科学専攻専門科目	135
10	第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）	159
11	経済専攻専門科目	170
12	経営情報専攻専門科目	182
13	第二部商経学科教養科目（教養一般）	191
14	第二部商経学科教養科目（外国語科目）	198
15	第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）	203
16	第二部商経学科教養科目（情報科目）	204
17	第二部商経学科専門科目	206
18	商経学科の演習・実習科目	234
19	教職に関する科目	236
20	司書教諭に関する科目	249

# 文 学 科 日 本 語 日 本 文 学 専 攻

<b>【教養科目】</b>		日本語学演習Ⅱ	58
(人文)		日本語学演習Ⅲ	57
日本の歴史	1	日本語学演習Ⅳ	58
こころの科学	2	日本語学演習Ⅴ	59
芸術論	2	日本語学演習Ⅵ	58
かごしまカレッジ教育	3	日本語表現法	59
(社会)		日本語表現法演習	60
日本国憲法	3	対照言語学	60
法学概論	4	(日本文学「古典」科目群)	
社会学	4	日本文学史・古典Ⅰ	61
生活と経済	5	日本文学史・古典Ⅱ	61
キャリアデザイン	5	日本文学講義Ⅰ	62
(自然)		日本文学講読Ⅰ	62
数学の世界	6	日本文学講読Ⅱ	63
物理の世界	6	日本文学講読Ⅲ	63
生物の科学	7	日本文学演習Ⅰ	64
化学の世界	7	日本文学演習Ⅱ	64
食生活と健康	8	日本文学演習Ⅲ	64
(総合)		(日本文学「近代」科目群)	
現代人権論	8	日本文学史・近代Ⅱ	65
鹿児島学	9	日本文学講義Ⅱ	65
かごしま教養プログラム	9	日本文学講読Ⅳ(1年生)	66
かごしまフィールドスクール	10	日本文学講読Ⅴ(2年生)	66
社会活動	10	日本文学講読Ⅵ(1年生)	66
企業研修	11	日本文学講読Ⅶ(2年生)	66
(外国語科目)		日本文学講読Ⅷ	67
英語Ⅰ(A)	12	日本文学講読Ⅸ	68
英語Ⅰ(B)	12	日本文学演習Ⅳ	68
英語Ⅱ(A)	17	日本文学演習Ⅴ	69
英語Ⅱ(B)	17	日本文学演習Ⅵ	68
英語Ⅲ(D)	23	(地域文学・中国文学科目群)	
英語Ⅲ(E)	24	南九州の文学Ⅰ(旧カリキュラム)	69
英語Ⅲ(F)	24	中国文学史Ⅰ	70
英語Ⅲ(G)	25	中国文学史Ⅱ	70
英語Ⅲ(H)	25	中国文学講読Ⅰ	71
英語Ⅳ(A)	26	中国文学講読Ⅱ	71
英語Ⅳ(B)	26	中国文学演習Ⅰ	72
英語Ⅳ(F)	28	中国文学演習Ⅱ	72
英語Ⅳ(G)	29	中国文学演習Ⅲ	73
異文化コミュニケーション(英語)	29	(卒業研究)	
異文化コミュニケーション(中国語)	30	卒業研究Ⅰ	73
中国語Ⅰ(A)	32	卒業研究Ⅱ	73
中国語Ⅰ(B)	33	(関連科目群)	
中国語Ⅰ(H)	36	英文学史	74
中国語Ⅱ(A)	36	米文学史	74
中国語Ⅱ(B)	37	比較文化	75
中国語Ⅱ(H)	40	書道Ⅰ	75
中国語Ⅲ	40	書道Ⅱ	76
中国語Ⅳ	41	書道Ⅲ	76
(スポーツ・健康科目)		書道Ⅳ	77
スポーツ・健康論	42	<b>【教職に関する科目】</b>	
生涯スポーツ実習Ⅰ(A)	42~43	教職入門	236
生涯スポーツ実習Ⅱ(A)	44~45	教育原理	237
(情報科目)		教育心理学	238
情報リテラシーⅠ(A)	47	教育行政学概論	238
情報リテラシーⅡ(A)	50	教育課程論	239
<b>【専門科目】</b>		国語科教育法	239
(専門基礎科目群)		道德教育の研究	241
日本文学概論	53	特別活動の研究	242
言語学概論	53	教育方法学概論	243
(日本語学科目群)		教育相談	243
日本語学概論	54	生徒指導論	244
日本語教育概論	54	教職実践演習(中)	245
日本語史	55	教育実習	247
日本文法論	55	<b>【司書教諭に関する科目】</b>	
日本語学講義	56	学校経営と学校図書館	249
日本語学講読Ⅰ	56	学校図書館メディアの構成	249
日本語学講読Ⅱ	57		
日本語学演習Ⅰ	57		

# 文学科 英語英文学専攻

<b>【教養科目】</b>			
(人文)			
日本の歴史	1	オーラルコミュニケーションⅢ	82～83
こころの科学	2	オーラルコミュニケーションⅣ	84
芸術論	2	LL演習Ⅰ	85
かごしまカレッジ教育	3	LL演習Ⅱ	85
		LL演習Ⅲ	86
(社会)		コミュニケーション概論	86
日本国憲法	3	ビジネス英語	87
法学概論	4	通訳入門	87
社会学	4	(英語学科目群)	
生活と経済	5	英語学概論	88
キャリアデザイン	5	英文法	88
(自然)		英語史	89
数学の世界	6	英語音声学	89
物理の世界	6	英語表現法Ⅰ	90
生物の科学	7	英語表現法Ⅱ	91
化学の世界	7	英語表現法Ⅲ	92
食生活と健康	8	講読演習Ⅰ	93
(総合)		基礎演習Ⅰ	93～94
現代人権論	8	英語学演習	94～95
鹿児島学	9	(英米文学科目群)	
かごしま教養プログラム	9	英文学概論	95
かごしまフィールドスクール	10	英文学史	96
社会活動	10	米文学史	96
企業研修	11	英米文学講読Ⅰ	97
		英米文学講読Ⅱ	97
(外国語科目)		英米文学講読Ⅲ	98
英語Ⅲ(A)	22	講読演習Ⅱ	98
英語Ⅲ(B)	22	基礎演習Ⅱ	99
英語Ⅲ(C)	23	英米文学演習	100
英語Ⅲ(D)	23	(比較文化科目群)	
英語Ⅲ(E)	24	比較文化(新)	101
英語Ⅲ(F)	24	イギリス事情	101
英語Ⅲ(G)	25	アメリカ事情	102
英語Ⅲ(H)	25	ヨーロッパ事情	102
英語Ⅳ(A)	26	講読演習Ⅲ	103
英語Ⅳ(B)	26	基礎演習Ⅲ	103
英語Ⅳ(C)	27	比較文化演習	104
英語Ⅳ(D)	27	(関連科目群)	
英語Ⅳ(E)	28	対照言語学	104
英語Ⅳ(F)	28	日本語学概論	105
英語Ⅳ(G)	29	日本文学史Ⅰ	105
異文化コミュニケーション(英語)	29	日本文学史Ⅱ	106
異文化コミュニケーション(中国語)	30	日本語教育概論	106
ドイツ語Ⅰ	30	国際経済論	107
ドイツ語Ⅱ	31	国際関係論	107
フランス語Ⅰ	31	検定対策講座Ⅰ	108
フランス語Ⅱ	32	検定対策講座Ⅱ	108
中国語Ⅰ(B)	33	(卒業研究)	
中国語Ⅰ(H)	36	卒業研究	109～111
中国語Ⅱ(B)	37	<b>【教職に関する科目】</b>	
中国語Ⅱ(H)	40	教職入門	236
中国語Ⅲ	40	教育原理	237
中国語Ⅳ	41	教育心理学	238
(スポーツ・健康科目)		教育行政学概論	238
スポーツ・健康論	42	教育課程論	239
生涯スポーツ実習Ⅰ(A)	42～43	英語科教育法	240
生涯スポーツ実習Ⅱ(A)	44～45	道德教育の研究	241
		特別活動の研究	242
(情報科目)		教育方法学概論	243
情報リテラシーⅠ(B)	47	教育相談	243
情報リテラシーⅡ(B)	50	生徒指導論	244
<b>【専門科目】</b>		教職実践演習(中)	245
(専門基礎科目群)		教育実習	247
スタディスキルズ	78	<b>【司書教諭に関する科目】</b>	
言語学概論	78	学校経営と学校図書館	249
比較文学	79	学校図書館メディアの構成	249
(コミュニケーション科目群)			
オーラルコミュニケーションⅠ	79～80		
オーラルコミュニケーションⅡ	81～82		

# 生活科学科 食物栄養専攻

<b>【教養科目】</b>			
（人文）			
文学の世界	1		
日本の歴史	1		
こころの科学	2		
芸術論	2		
かごしまカレッジ教育	3		
（社会）			
日本国憲法	3		
法学概論	4		
社会学	4		
生活と経済	5		
キャリアデザイン	5		
（自然）			
数学の世界	6		
物理の世界	6		
化学の世界	7		
食生活と健康	8		
（総合）			
現代人権論	8		
鹿児島学	9		
かごしま教養プログラム	9		
かごしまフィールドスクール	10		
社会活動	10		
企業研修	11		
（外国語科目）			
英語Ⅰ（C）	14		
英語Ⅰ（C）	14		
英語Ⅱ（C）	19		
英語Ⅱ（C）	19		
英語Ⅲ（A）	22		
英語Ⅲ（B）	22		
英語Ⅲ（C）	23		
英語Ⅳ（A）	26		
英語Ⅳ（B）	26		
英語Ⅳ（F）	28		
英語Ⅳ（G）	29		
異文化コミュニケーション（英語）	29		
異文化コミュニケーション（中国語）	30		
フランス語Ⅰ	31		
フランス語Ⅱ	32		
中国語Ⅰ（F）	35		
中国語Ⅰ（H）	36		
中国語Ⅱ（F）	39		
中国語Ⅱ（H）	40		
（スポーツ・健康科目）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（B）	42～43		
生涯スポーツ実習Ⅱ（B）	44～45		
（情報科目）			
情報リテラシーⅠ（C）	48		
情報リテラシーⅡ（C）	51		
<b>【専門科目】</b>			
（生活科学科目）			
生活科学概論	112		
生活経営学	112		
人間関係論	113		
社会福祉論	113		
（基礎科目）			
〈食物に関する科目〉			
食品学Ⅰ	114		
食品学Ⅱ	114		
食品学実験	115		
食品衛生学	115		
食品衛生学実験	116		
食品加工学	116		
調理学	117		
調理学実習Ⅰ	117		
調理学実習Ⅱ	118		
調理学実習Ⅲ	118		
〈消化・吸収・代謝に関する科目〉			
栄養学総論	119		
栄養学各論	119～120		
栄養学実習	120		
解剖生理学	121		
解剖生理学実験	121		
生化学Ⅰ	122		
生化学Ⅱ	122		
生化学実験	123		
〈健康と運動に関する科目〉			
健康と運動	123		
健康管理概論	124		
公衆衛生学	124		
運動生理学	125		
（応用科目）			
〈給食の管理に関する科目〉			
給食管理	125		
給食管理実習Ⅰ	126		
給食管理実習Ⅱ	126		
給食管理実習Ⅲ	127		
〈栄養の指導〉			
栄養教育論	127		
栄養指導論Ⅰ	128		
栄養指導論Ⅱ	128		
栄養指導論実習Ⅰ	129		
栄養指導論実習Ⅱ	129		
公衆栄養学	130		
栄養情報処理	130		
〈臨床関連科目〉			
臨床栄養学Ⅰ	131		
臨床栄養学Ⅱ	131		
臨床栄養学実習	132		
病理学	132		
〈栄養教諭関連科目〉			
学校栄養教育論	133		
（その他）			
有機化学概論	133		
生物概論	134		
<b>【教職に関する科目】</b>			
教職入門	236		
教育原理	237		
教育心理学	238		
教育行政学概論	238		
教育課程論	239		
道徳教育論	241		
特別活動論	242		
教育方法学概論	243		
教育相談	243		
生徒指導原論	244		
教職実践演習（栄養教諭）	246		
栄養教育実習	247		
栄養教育実習の事前事後の指導	248		

## 生活科学科 生活科学専攻

<b>【教養科目】</b>			
（人文）			
文学の世界	1	生活コロイド学	139
日本の歴史	1	食物と栄養	140
こころの科学	2	調理学	140
芸術論	2	調理実習	141
かごしまカレッジ教育	3	保育学	141
（社会）		卒業研究A	142～143
日本国憲法	3	（ビジュアル・ファッションデザイン系）	
法学概論	4	造形史	143
社会学	4	ビジュアルデザイン論	144
生活と経済	5	ビジュアルデザインⅠ	144
キャリアデザイン	5	ビジュアルデザインⅡ	145
（自然）		ファッションデザイン論	145
数学の世界	6	ファッション造形Ⅰ	146
物理の世界	6	ファッション造形Ⅱ	146
食生活と健康	8	ファッション造形Ⅲ	147
（総合）		ファッションビジネス	147
現代人権論	8	デジタルデザイン論	148
鹿児島学	9	デジタルデザイン	148
かごしま教養プログラム	9	卒業研究B	149
かごしまフィールドスクール	10	（建築デザイン系）	
社会活動	10	住生活学	150
企業研修	11	住居史	150
（外国語科目）		住居・インテリア設計学	151
英語Ⅰ（B）	13	設計製図Ⅰ	151
英語Ⅰ（B）	13	設計製図Ⅱ	152
英語Ⅱ（B）	18	住居構造学Ⅰ	152
英語Ⅱ（B）	18	住居構造学Ⅱ	153
英語Ⅲ（A）	22	住居環境学	153
英語Ⅲ（B）	22	住居環境学演習	154
英語Ⅲ（C）	23	建築材料学	154
英語Ⅳ（A）	26	建築生産	155
英語Ⅳ（B）	26	建築法規	155
英語Ⅳ（F）	28	CAD設計	156
英語Ⅳ（G）	29	建築史	156
異文化コミュニケーション（英語）	29	CAD設計特講	157
異文化コミュニケーション（中国語）	30	設計製図Ⅲ	157
フランス語Ⅰ	31	設計製図Ⅳ	158
フランス語Ⅱ	32	<b>【教職に関する科目】</b>	
中国語Ⅰ（G）	35	教職入門	236
中国語Ⅰ（H）	36	教育原理	237
中国語Ⅱ（G）	39	教育心理学	238
中国語Ⅱ（H）	40	教育行政学概論	238
（スポーツ・健康科目）		教育課程論	239
スポーツ・健康論	42	家庭科教育法	240
生涯スポーツ実習Ⅰ（B）	42～43	道徳教育の研究	241
生涯スポーツ実習Ⅱ（B）	44～45	特別活動の研究	242
（情報科目）		教育方法学概論	243
情報リテラシーⅠ（D）	48	教育相談	243
情報リテラシーⅡ（D）	51	生徒指導論	244
<b>【専門科目】</b>		教職実践演習（中）	245
（生活科学科目）		教育実習	247
生活科学概論	112	<b>【司書教諭に関する科目】</b>	
生活経営学	112	学校経営と学校図書館	249
人間関係論	113	学校図書館メディアの構成	249
社会福祉論	113		
（専門基礎系）			
生活環境学	135		
生活化学	135		
生活化学実験	136		
色彩学	136		
コンポジション	137		
デジタル造形基礎	137		
テキスタイルサイエンス	138		
ファッション造形基礎	138		
（ライフデザイン系）			
衣生活学	139		

# 商経学科 経済専攻

<b>【教養科目】</b>	
（人文）	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3
（社会）	
日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
キャリアデザイン	5
（自然）	
数学の世界	6
物理の世界	6
生物の科学	7
化学の世界	7
食生活と健康	8
（総合）	
現代人権論	8
鹿児島学	9
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	10
（外国語科目）	
英語Ⅰ(D)	15～16
英語Ⅱ(D)	20～21
英語Ⅲ(D)	23
英語Ⅲ(E)	24
英語Ⅲ(F)	24
英語Ⅲ(G)	25
英語Ⅲ(H)	25
英語Ⅳ(C)	27
英語Ⅳ(D)	27
英語Ⅳ(E)	28
英語Ⅳ(F)	28
英語Ⅳ(G)	29
異文化コミュニケーション(英語)	29
異文化コミュニケーション(中国語)	30
中国語Ⅰ(C)	33
中国語Ⅰ(E)	34
中国語Ⅰ(H)	36
中国語Ⅱ(C)	37
中国語Ⅱ(E)	38
中国語Ⅱ(H)	40
中国語Ⅲ	40
中国語Ⅳ	41
（スポーツ・健康科目）	
スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習Ⅰ(C)	42
生涯スポーツ実習Ⅱ(C)	44, 46
（情報科目）	
情報リテラシーⅠ(E)	49
情報リテラシーⅡ(E)	52
<b>【専門科目】</b>	
（専門基礎科目）	
〈基礎理論〉	
経済学	159
文化と社会	160
経済情報論	160
消費者問題	161
行政法	161
経済政策	162

社会政策	162
社会思想	163
民法	163
商法	164
産業心理学	164
簿記論Ⅰ	165
経営学総論	165
〈情報基礎〉	
情報科学概論	166
文書作成実習	166
統計学	167
応用文書処理	167
PCデータ活用	168
PCデータ活用実習	168
PCアプリケーション実習	169
（専攻専門科目）	
〈経済理論〉	
日本経済論	170
財政学	170
金融論	171
経済学史	171
経済学特講Ⅰ	172
経済学特講Ⅱ	172
簿記論Ⅱ	173
〈国際環境〉	
国際経済論	173
国際立地論	174
アジア経済論	174
外国貿易論	175
国際関係論	175
比較文化	176
アジア事情	176
国際経済特講	177
〈地域政策〉	
地域経済論	177
地域産業政策	178
地域史	178
地方財政論	179
非営利組織論	179～180
労働法	180
地域研究特講	181
地方自治法	181
〈演習・実習〉	
基礎演習	234
演習Ⅰ	234
演習Ⅱ	234
卒業研究	234
社会活動	235
企業研修	235

# 商経学科 経営情報専攻

<b>【教養科目】</b>	
（人文）	
文学の世界 .....	1
日本の歴史 .....	1
こころの科学 .....	2
芸術論 .....	2
かごしまカレッジ教育 .....	3
（社会）	
日本国憲法 .....	3
法学概論 .....	4
社会学 .....	4
キャリアデザイン .....	5
（自然）	
数学の世界 .....	6
物理の世界 .....	6
生物の科学 .....	7
化学の世界 .....	7
食生活と健康 .....	8
（総合）	
現代人権論 .....	8
鹿児島学 .....	9
かごしま教養プログラム .....	9
かごしまフィールドスクール .....	10
（外国語科目）	
英語Ⅰ（D） .....	15～16
英語Ⅱ（D） .....	20～21
英語Ⅲ（D） .....	23
英語Ⅲ（E） .....	24
英語Ⅲ（F） .....	24
英語Ⅲ（G） .....	25
英語Ⅲ（H） .....	25
英語Ⅳ（C） .....	27
英語Ⅳ（D） .....	27
英語Ⅳ（E） .....	28
英語Ⅳ（F） .....	28
英語Ⅳ（G） .....	29
異文化コミュニケーション（英語） .....	29
異文化コミュニケーション（中国語） .....	30
中国語Ⅰ（D） .....	34
中国語Ⅰ（E） .....	34
中国語Ⅰ（H） .....	36
中国語Ⅱ（D） .....	38
中国語Ⅱ（E） .....	38
中国語Ⅱ（H） .....	40
中国語Ⅲ .....	40
中国語Ⅳ .....	41
（スポーツ・健康科目）	
スポーツ・健康論 .....	42
生涯スポーツ実習Ⅰ（D） .....	42
生涯スポーツ実習Ⅱ（D） .....	44, 46
（情報科目）	
情報リテラシーⅠ（F） .....	49
情報リテラシーⅡ（F） .....	52
<b>【専門科目】</b>	
（専門基礎科目）	
〈基礎理論〉	
経済学 .....	159
文化と社会 .....	160
経済情報論 .....	160
消費者問題 .....	161
行政法 .....	161
経済政策 .....	162

社会政策 .....	162
社会思想 .....	163
民法 .....	163
商法 .....	164
産業心理学 .....	164
簿記論Ⅰ .....	165
経営学総論 .....	165
〈情報基礎〉	
情報科学概論 .....	166
文書作成実習 .....	166
統計学 .....	167
応用文書処理 .....	167
PCデータ活用 .....	168
PCデータ活用実習 .....	168
PCアプリケーション実習 .....	169
（専攻専門科目）	
〈経営理論〉	
簿記論Ⅱ .....	182
経営管理論 .....	182
労働管理論 .....	183
管理会計論 .....	183
原価計算 .....	184
経営学特講Ⅰ .....	184
経済学特講Ⅱ .....	185
〈情報分析〉	
情報管理論 .....	185
経営分析 .....	186
経営戦略論 .....	186
企業論 .....	187
財務会計論 .....	187
マーケティング論 .....	188
〈情報活用〉	
経営工学 .....	188
コンピュータ会計 .....	189
応用データ活用 .....	189
プログラミング .....	190
情報論特講 .....	190
〈演習・実習〉	
基礎演習 .....	234
演習Ⅰ .....	234
演習Ⅱ .....	234
卒業研究 .....	234
社会活動 .....	235
企業研修 .....	235

## 第二部商経学科

<b>【教養科目】</b>		国際立地論	219
(教養一般)		アジア経済論	220
人間と文化	191	外国貿易論	220
日本の歴史	191	国際関係論	221
日本文学	192	アジア事情	221
こころの科学	192	地域経済論	222
比較文化	193	地域産業政策	222
アジア文化論	193	地域史	223
日本国憲法	194	地方財政論	223
数学の世界	194	非営利組織論	224
環境問題	195	労働法	224
かごしまカレッジ教育	195	地域研究特講	225
かごしま教養プログラム	196	地方自治法	225
かごしまフィールドスクール	196	〈経営理論〉	
キャリアデザイン	197	簿記論Ⅱ	226
(外国語科目)		経営管理論	226
英語Ⅰ(A)	198	労働管理論	227
英語Ⅰ(B)	198	経営学特講	227
英語Ⅱ(A)	199	〈情報分析・活用〉	
英語Ⅱ(B)	199	情報管理論	228
異文化コミュニケーション(英語)	200	経営分析	228
異文化コミュニケーション(中国語)	200	経営戦略論	229
中国語Ⅰ(A)	201	企業論	229
中国語Ⅰ(B)	201	応用データ活用	230
中国語Ⅱ(A)	202	プログラミング	230
中国語Ⅱ(B)	202	財務会計論	231
(スポーツ・健康科目)		情報論特講	231
生涯スポーツ実習Ⅰ	203	マーケティング論	232
生涯スポーツ実習Ⅱ	203	〈演習・実習〉	
(情報科目)		基礎演習	234
情報リテラシーⅠ(A)	204	演習Ⅰ	234
情報リテラシーⅠ(B)	204	演習Ⅱ	234
情報リテラシーⅡ(A)	205	卒業研究	234
情報リテラシーⅡ(B)	205	社会活動	235
<b>【専門科目】</b>		企業研修	235
(専門基礎科目)			
〈基礎理論〉			
現代社会論	206		
経済学	206		
社会学	207		
文化と社会	207		
経済情報論	208		
行政法	208		
社会政策	209		
社会思想	209		
民法	210		
商法	210		
産業心理学	211		
簿記論Ⅰ	211		
経営学総論	212		
〈情報基礎〉			
情報科学概論	212		
文書作成実習	213		
統計学	213		
応用文書処理	214		
PCデータ活用	214		
PCデータ活用実習	215		
PCアプリケーション実習(A)	215		
PCアプリケーション実習(B)	216		
(専門応用科目)			
〈経済理論〉			
日本経済論	216		
財政学	217		
金融論	217		
経済学史	218		
経済学特講	218		
〈地域と国際〉			
国際経済論	219		

# 1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界	担当者	竹本寛秋, 中谷彩一郎, 轟義昭, 木戸裕子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注)		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】古今東西 詩の世界</p> <p>【概要】日頃本をあまり読まないで、「文学」なんて自分の生活とは無関係だと思いませんか。また、「文学」には興味はあるけれど、なんだか難しそうだと思いませんか。とくに詩なんて訳がわからないと思っている人、もちろん詩は大好きだという人も、そんな皆さんを、担当教員4名が古今東西、時間を超え空間を超え、さまざまな詩の世界にご案内します。</p> <p>【到達目標】さまざまな詩作品を読み解き、「文学」とくに詩に親しみをもってもらう。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント配布 (2) 各教員が必要に応じて教室で指示します。		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション, 宮沢賢治の詩と科学:『春と修羅』</p> <p>第2回 中原中也の詩と音楽:『山羊の歌』</p> <p>第3回 萩原恭次郎の詩と機械:『死刑宣告』</p> <p>第4回 インターネットと詩の現在</p> <p>第5回 古代ローマの恋愛詩:カトウツルスとプロペルティウスを中心に</p> <p>第6回 イタリア・ルネサンスの恋愛詩:ペトラルカを中心に</p> <p>第7回 フランス・ルネサンスの恋愛詩:ロンサールを中心に</p> <p>第8回 近代ドイツの恋愛詩:ゲーテとハイネを中心に</p> <p>第9回 中世イギリス文学における詩:チョーサー『カンタベリー物語』</p> <p>第10回 英詩と映画(1):シェイクスピア『ソネット』</p> <p>第11回 英詩と映画(2):ブレイクの詩</p> <p>第12回 万葉集の挽歌と相聞:古代人の死生観と恋愛観</p> <p>第13回 古今和歌集の恋の歌:宮廷詩としての和歌</p> <p>第14回 平安朝の漢詩:漢詩に託した心情</p> <p>第15回 梁塵秘抄の今様:民衆の心を歌う, まとめ</p>		
成績評価の方法	レポートの提出(80点)および講義に関する毎回の感想・意見等(20点)で評価します。レポートは4名が課したのから2つを選ぶかたちになります。		

(注) 文学科を除く

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限することがあります。

授業科目	日本の歴史	担当者	下原 美保
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注)		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の文化-特に美術-について, トピックスごとに紹介する。</p> <p>【概要】日本美術の特徴について, I 絵画(物語絵と絵巻・仏画・詩画軸と水墨画・狩野派・土佐派・浮世絵)・II 仏像(仏様の世界・藤原時代までの仏像・鎌倉時代の仏像)・III 暮らしと美術(茶の湯と美術・薩摩焼)の3点から紹介する。講義では, 教科書とともにスライドやビデオなどを用い, 具体的な作品鑑賞を行う。この際, 作品の見方や考え方についても解説を行う。</p> <p>【到達目標】日本文化-絵画・彫刻(仏像)・工芸-の特徴及び鑑賞のポイントを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『すぐわかる日本の美術』(田中日佐夫監修 東京美術 平成11年)</p> <p>(2) 『日本美術のこぼれ案内』(日高薫 小学館 2003年)</p> <p>『日本のやきもの 薩摩』(渡辺芳郎 淡交社 2003年)</p> <p>『新潮世界美術辞典』(新潮社 昭和60年1月)</p>		
授業スケジュール	<p>■ 授業スケジュール</p> <p>第1回 : オリエンタリング</p> <p>第2回~第9回 : I 絵画について 1) 物語絵と絵巻 2) 仏画 3) 詩画軸と水墨画 4) 狩野派土佐派 5) 浮世絵</p> <p>第10回~第12回 : II 仏像について 1) 仏様の世界 2) 藤原時代までの仏像 3) 鎌倉時代の仏像</p> <p>第13回~第14回 : III 暮らしと美術 1) 茶の湯と美術 2) 薩摩焼</p> <p>第15回 : まとめ</p>		
成績評価の方法	講義ごとの感想文(40%)及びレポート(60%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は, 人数を制限することがあります。

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらう実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの方見方・考え方を養うことを目標とする。</p> <p>②自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：対人認知</p> <p>第5回 社会心理学②：自己開示と自己呈示</p> <p>第6回 社会心理学③：様々な対人関係</p> <p>第7回 社会心理学④：集団の影響</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリングⅠ</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：自己理解のためのカウンセリングⅡ</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：ストレスへの対処</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	「レポート (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)」		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	芸術論	担当者	丸山 容爾
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 普段、鑑賞することの少ない芸術作品に触れ、芸術を味わう楽しさを体験する。</p> <p>【概要】 映像表現された作品を中心に、一般的に馴染み深い作品 (デザインのジャンルも含めて) を引用し、様々な視点からその芸術性を探っていく。</p> <p>【到達目標】 何気なく眺めていた芸術作品の美しさを再認識し、モノを観る真の目を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布。テキストは使用しない。</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。講義中、PowerPoint・DVDを活用する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」：講義方式の説明と資料配布 「クエイ兄弟ムービー」</p> <p>第2回 「草間彌生」：作品と制作風景</p> <p>第3回 「ショートフィルム 1」：世界のショートフィルム</p> <p>第4回 「日本の伝統芸能・落語」：落語の小道具、歴史</p> <p>第5回 「舞妓」：京都舞妓の衣装・髪型・小物・芸・歴史</p> <p>第6回 「造形作家の制作風景」：創造する喜びと生みの苦しみ</p> <p>第7回 「チャールズ・チャップリン 1」：人と作品</p> <p>第8回 「日本の伝統芸能・歌舞伎」：歌舞伎の魅力と小道具</p> <p>第9回 「錯視」：古典的錯視作品、身の周りの錯視・だまし絵</p> <p>第10回 「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」：その流行と時代背景</p> <p>第11回 「世界のコマーシャル・フィルム」：世界各国のコマーシャルの比較</p> <p>第12回 「日本の伝統芸能・人形浄瑠璃」：太夫・三味線・人形遣いの役割</p> <p>第13回 「ショートフィルム 2」：世界のショートフィルム</p> <p>第14回 「チャールズ・チャップリン 2」：人と作品</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (50%)、レポート (50%) で評価。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年 (〔学期〕 前期) 〔単位〕 2単位 (〔必修/選択〕 選択 (注) (〔授業形態〕 講義方式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 レポートと話し合いのための日本語力(書く力・話す力)を養成する。</p> <p>【概要】 「書く力」では、レポートの構成要素と表現を知り、データ・資料・情報に基づいた論証型のレポートを作成する力を養成する。「話す力」では、少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。</p> <p>【到達目標】 (1) 「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方・聞き方を学び、実際の話し合いの場で実践できる。 (2) グループの話し合いの結果を、簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。 (3) レポートの構成要素を理解し、組み立てにそって論理的なレポートが書ける。 (4) レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し、レポートの中で使うことができる。 (5) 事実と意見を区別し、データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小笠原喜康『新編 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	<p>第1回 導入 : 「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介、自己紹介</p> <p>第2回 地図 : 班分け、グループごとに動画を確認して意見交換、地図を口頭で説明し、略地図を書く</p> <p>第3回 漢字 : 地図の解答確認、難読語をどう調べるか、送り仮名、印刷標準字・手書き文字の字形、漢字の課題</p> <p>第4回 ネット利用 : 漢字課題の解答確認、ドメイン、電子メール利用の注意点、ネットで調べる、図書館資料をOPACで調べる</p> <p>第5回 調査方法 : 論文を調べる、新聞を調べる、引用・書誌情報、希望調査</p> <p>第6回 調査開始 : 班分けの発表、リーダー選出、図書館調査・ネット調査、本時の到達点を報告</p> <p>第7回 調査実施 : 引き続き課題についての調査を行う、本時までの到達点を報告</p> <p>第8回 図表 : 統計などの数字の扱い、図表の読み方と説明の仕方</p> <p>第9回 中間報告 : 口頭発表と質疑</p> <p>第10回 レポート : 文形・文体、現代語表記と原稿のきまり、文章の構成</p> <p>第11回 レポート : 第1回提出</p> <p>第12回 レポート : わかりやすく書くには</p> <p>第13回 レポート : 補充調査</p> <p>第14回 レポート : 第2回提出</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート(50%)、口頭発表(30%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 受講者数は、38名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	日本国憲法	担当者	山本敬生
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 (〔学期〕 後期) 〔単位〕 2単位 (〔必修/選択〕 選択 (〔授業形態〕 講義方式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】 日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問われ直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の睿智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】 日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 適宜、プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』(平成26年度版)有斐閣2013年		
授業スケジュール	<p>第1回: 憲法概論</p> <p>第2回: 基本権総論</p> <p>第3回: 包括的権利</p> <p>第4回: 精神的自由権(1)</p> <p>第5回: 精神的自由権(2)</p> <p>第6回: 精神的自由権(3)</p> <p>第7回: 経済的自由権</p> <p>第8回: 受益権</p> <p>第9回: 社会権(1)</p> <p>第10回: 社会権(2)</p> <p>第11回: 国会(1)</p> <p>第12回: 国会(2)</p> <p>第13回: 内閣</p> <p>第14回: 裁判所</p> <p>第15回: 財政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</li> <li>・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</li> <li>・ 幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について</li> <li>・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</li> <li>・ 表現の自由、知る権利、検閲の禁止、通信の秘密、報道の自由について</li> <li>・ 明白かつ現在の危険の基準、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</li> <li>・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍帰脱の自由、財産権について</li> <li>・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</li> <li>・ 生存権、環境権、教育を受ける権利について</li> <li>・ 勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について</li> <li>・ 国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について</li> <li>・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</li> <li>・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、内閣の責任について</li> <li>・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</li> <li>・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、予算について</li> </ul>		
成績評価の方法	筆記試験(90%)、授業での発言の記録(10%)により評価する。		

(注) 教職必修

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	法学概論	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】法学入門</p> <p>【概要】変容著しい社会の変動の中で、法学は日々新たな難問に直面し、制度的変革と新たな理論展開を余儀なくされている。裁判員制度もそうした変革の中の一つと言えるだろう。本講では、こうした現代社会の動向を意識して、法学の現在を概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>様々な角度から「法的なもの」に触れることによって、日常生活の中にある紛争にどう対処すればよいか、その基本的な判断力を磨く。法とそれ以外の分野との関連を意識しながら、様々な現代的問題に取り組める思考力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>プリントを配布する</p> <p>講義時に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 法の学び方：大学の法学教育</p> <p>第 2回 法とは何か：法と法秩序・法が担うべき機能</p> <p>第 3回 リーガル・マインド：リーガル・マインドと悪しきリーガリズム</p> <p>第 4回 法の適用：裁判規範としての法・行為規範としての法</p> <p>第 5回 法の体系：六法と法源</p> <p>第 6回 裁判の種類とその構造：民事裁判と刑事裁判はどう違うか</p> <p>第 7回 違憲審査制度：「憲法の番人」としての裁判所</p> <p>第 8回 憲法訴訟：ジェンダー視点から判決を採点してみると？</p> <p>第 9回 裁判員制度とその誕生の理由：日本で3度目の司法改革</p> <p>第 10回 司法改革はなぜ必要なのか：現代型訴訟の登場と裁判所の機能拡大</p> <p>第 11回 隣人訴訟に見る市民と法律家の裁判観のズレ</p> <p>第 12回 裁判に対する不満をどう解消するか：ロースクールと裁判員制度</p> <p>第 13回 裁判外紛争処理制度と裁判へのアクセスの確保</p> <p>第 14回 時代の変化と法</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	講義時に提出する小レポート (30%) + 最終レポート (70点)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	社会学	担当者	佐々木 陽子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>社会学の基本的概念を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>具体的な事例を提示し、葛藤に満ちている現代社会の諸問題を社会学的視点（主に歴史社会学、家族社会学、医療社会学など）から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的現象を多角的視点から見ることで、自明視している「常識」に疑問を持つようになる。</li> <li>社会に氾濫している情報や調査を批判的に読み解くことができるようになる。</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>特定のテキストは使用せず。</p> <p>授業時に提示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 社会学とはどんな学問か：常識を疑うとは・視点ずらしとは</p> <p>第 2回 社会学の手法としての社会調査Ⅰ：社会学と社会調査</p> <p>第 3回 社会学の手法としての社会調査Ⅱ：市場調査と我々の欲望</p> <p>第 4回 社会学の手法としての比較：幸福・豊かさの指標化とは1回目テスト</p> <p>第 5回 生命倫理をめぐる葛藤Ⅰ：生殖医療の進展と人間の欲望の肥大化</p> <p>第 6回 生命倫理をめぐる葛藤Ⅱ：生命の選別と中絶問題</p> <p>第 7回 家族問題は個人の問題か：戦前の家父長制から現代を考える</p> <p>第 8回 時事問題から見出す社会学・2回目テスト</p> <p>第 9回 セクシュアリティをめぐる政治Ⅰ：G I D (性同一性障害)</p> <p>第 10回 セクシュアリティをめぐる政治Ⅱ：セクシュアルマイノリティとカミングアウト</p> <p>第 11回 歴史と社会学：ハンセン病差別と優生思想</p> <p>第 12回 歴史と社会学：多重祭祀される戦死者問題</p> <p>第 13回 ロマンチックラブ・イデオロギーの考察</p> <p>第 14回 時事問題から見出す社会学・3回目テスト</p> <p>第 15回 社会学とは何だったのか</p>		
成績評価の方法	授業内に実施する複数回のテスト (80%) と授業への参加の積極度 (20%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	生活と経済	担当者	篠田 剛
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 岐路に立つ日本経済と私たちの暮らし  <b>【概要】</b> 1980年代には「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と称された日本経済はバブル崩壊を契機に長期の経済低迷にはいり、既に20年あまりを経過している。その間に日本経済が解決しなければならない課題は山積した。なぜ日本だけが長期のデフレ経済に陥ったのか、なぜ財政赤字は未曾有の規模に達したのか、なぜエネルギー政策の転換は困難なのか、なぜ地方経済は疲弊しているのか、なぜ経済格差は拡大したのか。一見こうした問題は私たちの日々の生活と遠いものに見えるかもしれないが、就職氷河期や将来に対する漠然とした不安とも無関係でない。岐路に立つ日本経済と私たちの日常生活との関係を考える。  <b>【到達目標】</b> 日本経済の抱える諸課題と自分たちの生活を結び付けて理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 指定しない (2) 授業の中で適宜提示する		
授業スケジュール	第1回 講義概要 第2回 戦後の日本経済の歩み 第3回 日本企業の多国籍化と国際競争 第4回 雇用環境の変化と非正規雇用 第5回 国民生活と格差・貧困問題 第6回 少子高齢化と社会保障 第7回 地域経済と地方財政 第8回 戦後日本の経済政策の変遷 第9回 財政政策と財政赤字 第10回 税制と国民生活 第11回 金融政策とデフレ脱却 第12回 世界経済の中の日本 第13回 資源エネルギー戦略と環境問題 第14回 これからの日本経済と私たちの暮らし 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、コミュニケーションペーパー (30%)		

(注) 商経学科を除く。

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
	[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式及びワークショップ		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること <b>【概要】</b> 近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。 短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。 ※1年生は原則として全員受講すること。 <b>【到達目標】</b> 本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。		
授業スケジュール	<b>(講師陣は平成25年度実績)</b> ・第1期(7月25日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師: 有村恵美(生活科学科助教), 内田昌廣(商経学科教授), 西村道子(株式会社 昂) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月24,25日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師: 前田幸一(株浜島印刷), 神前明浩(神前司法書士事務所) 田原武志(株アシップ), 丸田真悟(NPO 法人かごしまアトワーク) 小林陸夫(大学生協九州事業連合) ・第3期(12月18日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師: 井川直子(株健康家族), 北川隆巳(京セラ株), 綾部敏郎(株フォーバル), 秋葉重登(鹿児島相互信用金庫), 本学卒業生5人(中学校教員など) ・第4期(2月7日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師: 疋田京子(商経学科准教授), 学生部学生課職員 ※26年度のスケジュール・講師は適宜提示する。		
成績評価の方法	レポート提出2回 (100%)		

授業科目	数学の世界	担当者	和田信哉
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 数学を愉しむ</p> <p>【概要】 小学校の算数や中学校・高等学校の数学で学習した知識等を活用し、数学のよさや美しさなどを実感することによって、数学を愉しむことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な数学的知識を理解する。</li> <li>・数学的に考えることを愉しむことができる。</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス 第 2回 数(1) : 九九表 第 3回 数(2) : ロッカーの問題 第 4回 数(3) : ハノイの塔 第 5回 数(4) : 黄金比 第 6回 図形(1) : 敷き詰め 第 7回 図形(2) : 正三角形 第 8回 図形(3) : ペントミノ 第 9回 図形(4) : 一裁ち折り紙 第 10回 図形(5) : はと目返し 第 11回 関数 : リレーのバトンパス 第 12回 確率 : 身の回りの確率 第 13回 和算 : 算額 第 14回 問題設定 : 問題をつくろう 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごと実施する小論文 (40%)		

(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	物理の世界	担当者	藤井伸平
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】 ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか? 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてシャボン玉にはきれいな色がつくのでしょうか? このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、2, 3のゆかいな実験も行う予定です。お楽しみに。</p> <p>【到達目標】 物理学を身近に感じる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (適宜プリントを配布) (2) 適宜授業中に紹介。		
授業スケジュール	第 01回 ……講義の概要、および、単位について 第02-03回 ……ニュートン力学 (これであなたの日常が変わる) 第04-05回 ……地球・月・太陽について 第06-08回 ……日本の春夏秋冬 第09-10回 ……みのまわりの磁石 第11-12回 ……みのまわりの放射線 第13-14回 ……音の世界 第15回 ……まとめ (2, 3のゆかいな実験も計画していますのでお楽しみに。)		
成績評価の方法	レポート		

(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	生物の科学	担当者	塔筋 弘章
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】細胞・遺伝・進化</p> <p>【概要】いきものは細胞からできています。特徴として、代謝、自己複製、成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったりすることです。また、生殖とは、固有の設計図（遺伝子）をもとにして、子孫を作ることですが、代謝など一連の作業のくり返しになります。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、これが進化を引き起こします。本講義では、生物を理解するために、「細胞」「遺伝」「進化」について学びます。</p> <p>【到達目標】生物の成り立ちや生命について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料プリントを配布します。</p> <p>(2) 必要に応じて講義中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 生物の基本構造：化学成分と細胞</p> <p>第2回 代謝：エネルギー産生のしくみ</p> <p>第3回 DNAからタンパク質へ：転写と翻訳、遺伝子の調節</p> <p>第4回 バイオテクノロジー：遺伝子組換えと制限酵素</p> <p>第5回 細胞分裂（1）：細胞分裂と細胞周期</p> <p>第6回 細胞分裂（2）：減数分裂と受精、発生</p> <p>第7回 遺伝の基礎：メンデルの法則</p> <p>第8回 染色体と遺伝子：遺伝と確率、連鎖、遺伝地図</p> <p>第9回 突然変異：変異原、遺伝子の修復</p> <p>第10回 発がん：突然変異とがん</p> <p>第11回 進化論：ラマルクとダーウィン</p> <p>第12回 集団遺伝学と進化：遺伝子型頻度、多型、遺伝的变化</p> <p>第13回 生物の進化：単細胞から多細胞へ</p> <p>第14回 恐竜：恐竜から鳥へ</p> <p>第15回 人類の進化：類人猿からヒトへ</p>		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 生活科学科を除く。

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	化学の世界	担当者	井余田秀美・木下朋美
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのように関わっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から、身の回りの物質や現象、生活に潤いをもたらす茶や香りについて、講義を行う。</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探求し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会編、『日本茶のすべてがわかる本』、農文協 貝村法人 日本ホテル教育センター編、『世界・お茶の基本』、プラザ出版</p>		
授業スケジュール	<p><b>1 身近な物質</b> (井余田)</p> <p>第1回 自然の恩恵(暮らしと化学物質 天然資源の利用)</p> <p>第2回 化学の基礎(自然と生命の物質—無機物と有機物 物質の成り立ち、状態や性質、変化)</p> <p>第3回 生活と化学(1日の生活 衣食住)</p> <p><b>2 身近な現象</b> (井余田)</p> <p>第4回 物質の変化(溶ける、煮る・焼く、洗う、染める、さびる)</p> <p>第5回 洗濯の科学(界面化学 洗剤の働き)</p> <p>第6回 光と色(染料と染色 シャボン玉 花火)</p> <p><b>3 茶と香りの化学</b> (木下)</p> <p>第7回 茶に隠された化学を探る</p> <p>第8回 様々な茶を生み出した歴史 茶製法の変遷</p> <p>第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法(1)</p> <p>第10回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法(2)</p> <p>第11回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工(ブレンド・焙煎)</p> <p>第12回 茶の味お淹れ方次第 溶出成分の特徴</p> <p>第13回 茶の品質を見極める 官能検査と化学分析</p> <p>第14回 味をも作り出す 香りの特性と役割</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート		

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	食生活と健康	担当者	有村恵美・倉元綾子・冨田司・木下朋美
	〔履修年次〕 1,2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた栄養、運動や休養・睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれるほど存在し、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらのなかには十分に検証されないまま提供される有害なものも少なくない。本科目では、健康で、安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 健康な食生活：健康とは何か？食生活が健康に及ぼす影響（有村） 第2回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素（有村） 第3回 健康な食生活：食品の特性（木下） 第4回 健康な食生活：食の安全（木下） 第5回 私たちの食生活トピックス1；ワークショップ（倉元） 第6回 私たちの食生活トピックス2；ワークショップ（倉元） 第7回 私たちの食生活トピックス3；ワークショップ（倉元） 第8回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方1（多田） 第9回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方2（多田） 第10回 健康・栄養情報：ダイエット・サプリメント（有村） 第11回 健康な食生活：あなたの食生活チェック（有村） 第12回 健康な食生活：食事のバランス・食品選択の方法（有村） 第13回 健康な食生活：生活習慣病（有村） 第14回 健康な食生活：休養・睡眠・運動（有村） 第15回 まとめ：健康な食生活とは（有村）		
成績評価の方法	試験、レポート、授業ごとの小論文、発表内容によって総合的に評価する 各担当者の成績を集計して、加重平均。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	現代人権論	担当者	疋田 京子・森田 豊子・田口 康明
	〔履修年次〕 1, 2年いずれも履修可能 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人権の主体に注目する（女性、外国人、子ども）</p> <p>【概要】「すべて人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」（世界人権宣言第1条）すなわち人権は普遍的である。しかし平等は「等しいものは等しく、等しからざる者は等しからざるように取り扱え」が基本的なテーゼであるといわれる。ここに、「誰と誰が等しく、誰と誰が異なるのか？」という問いが生まれる。差異ある人々にも同様に保障されるべき「自由」「尊厳」「権利」とはどのようなものか。この講義では、人権を、制度の中に固定的にあるものと捉えるのではなく、新たな権利の担い手の出現と時代が支持する思想によって、歴史的に発展してきたものと捉え、その権利の担い手として「女性」「外国人」「子ども」に注目する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>グローバル化する社会の中で、女性、外国人、子どもがどのような人権問題に直面しているのか、その原因と背景を踏まえ、そうした状況に対して、国際社会はどのように対応しようとしているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	後日それぞれの担当者が指定する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：人権とは何か？（第1回～第5回：疋田） 第2回 個人の尊重と男女平等：リベラル・フェミニズムの挑戦 第3回 性と生殖の権利：ラディカル・フェミニズムの挑戦 第4回 男女の「差異」の再評価：カルチュラル・フェミニズムの挑戦 第5回 多文化主義と人権：ポスト・モダン・フェミニズム 第6回 世界の外国人移民：世界および日本における外国人移民の歴史的経緯と現状（第6回～第10回：森田） 第7回 在日外国人の抱えている問題：外国人の在留資格、法的地位、参政権についての問題 第8回 在日外国人の抱えている問題：医療、教育における問題 第9回 世界の移民の人権（1）：世界における女性の移民が抱える問題 第10回 世界の移民の人権（2）：世界および日本におけるイスラーム教徒移民が抱える問題 第11回 「子ども」とは何か：子どもの定義（日本と諸外国）（第11回～第15回：田口） 第12回 近代日本における子どもの権利：明治憲法体制下から今日まで 第13回 国連・子どもの権利条約：国連子どもの権利条約の成立と内容 第14回 子どもの教育・福祉と人権：人権という観点からの日本における子どもの教育・福祉の状況の検討 第15回 人権教育の課題：さまざまな差別と子どもの権利擁護に向けた教育的な課題		
成績評価の方法	「レポート」：各担当者ごとに課題を出し、合計して評価する。出席状況によって受験資格を制限する。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	鹿児島学	担当者	田中 史朗, 島津 義秀, 浜畑 剛
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 (学期) 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 郷土鹿児島を地域経済、食、歴史の三分野から多角的に解析し、鹿児島の過去、現在、未来を見つめていきたい。  <b>【概要】</b> 経済のグローバル化が進展する中で、鹿児島の地域経済の現状と課題に言及するとともに、鹿児島の郷土史に焦点を当て、時代の変革の中で今、何が求められているのかを明らかにしたい。  <b>【到達目標】</b> 郷土鹿児島の理解を深め、世界、そして日本の中での鹿児島のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	島津義秀著『薩摩の秘伝』, 新潮新書		
授業スケジュール	第 1回 鹿児島学の講義内容の説明と鹿児島県の産業構造と地域経済 (田中) 第 2回 「時代の節目に薩摩が動く～薩人達の生き様に学ぶ～」平安編 (島津) 第 3回 「時代の節目に薩摩が動く～薩人達の生き様に学ぶ～」鎌倉編 (島津) 第 4回 「時代の節目に薩摩が動く～薩人達の生き様に学ぶ～」南北朝編 (島津) 第 5回 「時代の節目に薩摩が動く～薩人達の生き様に学ぶ～」室町編 (島津) 第 6回 「時代の節目に薩摩が動く～薩人達の生き様に学ぶ～」戦国編 (島津) 第 7回 全国比較でみる鹿児島の姿 (浜畑) 第 8回 人口減少時代の鹿児島 (浜畑) 第 9回 鹿児島の産業構造 (浜畑) 第 10回 鹿児島観光新時代 (浜畑) 第 11回 鹿児島県の観光業と地域経済 (田中) 第 12回 「時代の節目に薩摩が動く～薩人達の生き様に学ぶ～」安土桃山編 (島津) 第 13回 「時代の節目に薩摩が動く～薩人達の生き様に学ぶ～」江戸編 (島津) 第 14回 「時代の節目に薩摩が動く～薩人達の生き様に学ぶ～」幕末明治維新編 (島津) 第 15回 枕崎市のカツオ産業と地域経済 (田中)		
成績評価の方法	3人の担当者のレポートまたは試験の総得点を100%として評価する		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数制限をすることがある。意欲的に学習に取り組む者の受講を強く望む。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
	〔履修年次〕 1年 (学期) 前期集中 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【概要】</b> この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。3日間の夏期集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。  <b>【学習目標】</b> ①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成25年度実施概要 (平成26年度については未定。若干の変更の予定があります。)  日程 : 平成25年8月19日(月)～21日(水) 場所 : 鹿児島大学 定員 : 県内12大学等の学生 150人程度		
成績評価の方法	未定		

(注) 「かごしまカレッジ教育」または「日本語表現法」(日本語日本文学専攻のみ)の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p><b>【概要】</b> 地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p><b>【学習目標】</b></p> <p>①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地産する。</p> <p>②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	<p>平成25年度実施概要(平成26年度は未定。若干の変更の予定があります。)</p> <p>日程 : ①平成25年8月26日(月)～28日(水)</p> <p>場所 : ①鹿児島市、指宿市、いちき串木野市 ②霧島市竹子地区</p> <p>定員 : 県内12大学等の学生 150人程度</p>		
成績評価の方法	未定		

(注) 「かごしまカレッジ教育」または「日本語表現法」(日本語日本文学専攻のみ)の履修が条件となります。

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2～4単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p><b>【概要】</b> 公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定(事前指導のなかで指示する)		
授業スケジュール	<p>事前指導:主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修:主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導:研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定 (事前指導のなかで指示する)		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

(注) 県短独自分は2年生も履修可

## 2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語I (A)	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】映画『ラブ・アクチュアリー』</p> <p>【概要】イギリス映画『ラブ・アクチュアリー』（2003）を観ながら、英語のリスニング力を高めると共に、日常会話でよく使われる表現を学び、音読やロールプレイを通してスピーキング力を向上させる。文法事項も適宜再確認したい。</p> <p>【到達目標】映画鑑賞を通して、リスニング力・スピーキング力を向上させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	英語総合教材『ラブ・アクチュアリー』（松柏社, 2014）		
授業スケジュール	第1回 Unit 1: Love Actually is All Around 第2回 Unit 1 (つづき) & Unit 2: Agony of Being in Love 第3回 Unit 2 (つづき) 第4回 Unit 3: Feel Uncomfortable? 第5回 Unit 3 (つづき) & Unit 4: Have You Gone Completely Insane? 第6回 Unit 4 (つづき) 第7回 Unit 5: It's for You 第8回 Unit 5 (つづき) & Unit 6: You're Beautiful 第9回 Unit 6 (つづき) 第10回 Unit 7: All I Want for Christmas is You 第11回 Unit 7 (つづき) & Unit 8: The Time to Be with the People You Love 第12回 Unit 8 (つづき) 第13回 Unit 9: All I Want for Christmas is You 第14回 Unit 9 (つづき) & Unit 10: Let's Review!! 第15回 Unit 10 (つづき) & まとめ		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (50%) , 宿題および定期的におこなう小テスト (50%)		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力, 発音力, 文法力を総合的に鍛えることで, スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング, 文法, 読解を総合的に学習することで, バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習, 基本的, 発展的な文法事項の確認, 「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法) を意識した速読理解の練習などを通して, 総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において, 相手の情報や考えを理解でき, プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Braven Smillie, 土屋武久 著 『What's Happening USA アメリカ再発見』 金星堂 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 Reliving History 第3回 Yoga, Old but New 第4回 Local Currency 第5回 The Megachurch 第6回 One or Many? 第7回 NASCAR 第8回 Food and Cuisine 第9回 Slang 第10回 Medical Tourism 第11回 Marked for Life 第12回 Holidays 第13回 School at Home 第14回 Jackpot Justice 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) , 提出物 (10%) , 授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	太田 一郎
	〔履修年次〕 1 年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1 単位                      〔必修/選択〕 必修 (注)                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	<p>だいたい2回でテキスト1ユニットずつ進む予定です。また, ビデオと音読を組み合わせる授業を進めます。ビデオの進度は以下のとおり。</p> <p>1-2. ガイダンスおよび練習法(シャドーイングなど)の解説 3-4. A New Neighbour 5-6. To the Rescue 7-8. Dinner for Two 9-10. Change of a Dress 11-12. A Long Weekend 13. 復習 14. 復習 15. まとめ</p> <p>【注意】LL 教室を使つての授業なので, <u>遅刻は厳禁</u>です。</p>		
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 授業中の小テスト (30%)		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	塚崎 香織
	〔履修年次〕 1 年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1 単位                      〔必修/選択〕 必修                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初歩的な英文を読んで, 英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに, テーマごとに関連する語彙を習得する。また, リスニングの練習も同時に行い, リーディングとリスニングを関連づける。</p> <p>【概要】必要な情報を探して素早く英文を読む, 概要・要点を大まかに把握する, パラグラフの構造を理解する, わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して, 初歩的な英文の内容を把握できる。 初歩的な英文を聞いて, 内容が把握できる。 英語を読んだり聞いたりするのに必要な初歩的な語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Colin Joyce, Yasushi Mano / <i>Realise Britain</i> (金星堂) 特になし		
授業スケジュール	<p>第 1 回 A Fortunate Accident: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 2 回 Britain's Best Ride: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 3 回 The Meaning of Bond: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 4 回 The Changing High Street: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 5 回 Mild and Cloudy with a Chance of Rain: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 6 回 Expressive Expressions: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 7 回 A Woman of Some Importance: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 8 回 Shakespeare Lives On: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 9 回 British Food: Better Than Awful: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 10 回 A Complicated Country: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 11 回 The Quite Fab Four: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 12 回 A Vulgar Custom: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 13 回 The "Invention" of Sport: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 14 回 Changing Classes / The Little Planet That "Won" the War: 語彙・内容理解・リスニングの練習 第 15 回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)」		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 前半・鹿児島を英語で紹介 後半・オーストラリアの紹介を通して、基礎的英語運用能力を培う。</p> <p>【概要】 前半は、鹿児島の英文での紹介を基に、よりよい簡単な英語での紹介文を追加する。後半は、オーストラリアの文化、生活などを扱ったビデオ教材を基軸に、基礎的英語運用能力の養成を図る。テキストの中の基礎的文法事項に関しては、随時説明を行う。</p> <p>【到達目標】 鹿児島の英語での紹介、およびオーストラリアの文化紹介のテキストを中心に、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。なおコミュニケーション力をつけるのに必要な基礎的文法力の再確認も行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Kumiko T. Sato, Steve Lia, <i>Australia, Here We Come!</i> Asahi Press (2) 随時プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction (はじめに) 第2回 Street Life (街の生活) 第3回 Public Transport---Commuting (公共交通機関---通勤・通学) 第4回 University Life---The University of Sydney (大学生活---シドニー大学) 第5回 Australian Home (オーストラリアの家) 第6回 Supermarket---Coles (スーパーマーケット---コールス) 第7回 Daily Life (日常生活) 第8回 Taronga Zoo---Australian Animals (タロンガ動物園---オーストラリアの動物) 第9回 Leisure Time at the Park (海辺でのレジャー) 第10回 Education Programs in Taronga Zoo (タロンガ動物園体験プログラム) 第11回 Leisure Time at the Park (公園でのレジャー) 第12回 Australian Family (オーストラリアの家庭) 第13回 Discussion (ディスカッション) 第14回 Discussion (ディスカッション) 第15回 Summarization (まとめ)</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と授業の発言内容 (40%), レポート (60%) で評価する。		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 映画『ラブ・アクチュアリー』</p> <p>【概要】 イギリス映画『ラブ・アクチュアリー』(2003)を観ながら、英語のリスニング力を高めると共に、日常会話でよく使われる表現を学び、音読やロールプレイを通してスピーキング力を向上させる。文法事項も適宜再確認したい。</p> <p>【到達目標】 映画鑑賞を通して、リスニング力・スピーキング力を向上させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	英語総合教材『ラブ・アクチュアリー』(松柏社, 2014)		
授業スケジュール	<p>第1回 Unit 1: Love Actually is All Around 第2回 Unit 1 (つづき) &amp; Unit 2: Agony of Being in Love 第3回 Unit 2 (つづき) 第4回 Unit 3: Feel Uncomfortable? 第5回 Unit 3 (つづき) &amp; Unit 4: Have You Gone Completely Insane? 第6回 Unit 4 (つづき) 第7回 Unit 5: It's for You 第8回 Unit 5 (つづき) &amp; Unit 6: You're Beautiful 第9回 Unit 6 (つづき) 第10回 Unit 7: All I Want for Christmas is You 第11回 Unit 7 (つづき) &amp; Unit 8: The Time to Be with the People You Love 第12回 Unit 8 (つづき) 第13回 Unit 9: All I Want for Christmas is You 第14回 Unit 9 (つづき) &amp; Unit 10: Let's Review!! 第15回 Unit 10 (つづき) &amp; まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (50%), 宿題および定期的におこなう小テスト (50%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (D) ※火曜日 4限	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」（意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法）を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Braven Smillie、土屋武久 著 『What's Happening USA アメリカ再発見』 金星堂 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Reliving History 第 3回 Yoga, Old but New 第 4回 Local Currency 第 5回 The Megachurch 第 6回 One or Many? 第 7回 NASCAR 第 8回 Food and Cuisine 第 9回 Slang 第 10回 Medical Tourism 第 11回 Marked for Life 第 12回 Holidays 第 13回 School at Home 第 14回 Jackpot Justice 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）、提出物（10%）、授業への取組み態度（20%）で評価する。		

(注) 教職必修、経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)	担当者	太田 一郎
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】  (1) ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練、および会話表現等の学習  ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ、英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。  (2) シャドーイング、音読による訓練によるスピーキング力の養成  モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで、英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材（または副教材）を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】  日常場面で相手の考えを理解し、情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) 授業中に適宜指示		
授業スケジュール	<p>だいたい2回でテキスト1ユニットずつ進む予定です。また、ビデオと音読を組み合わせる授業を進めます。ビデオの進捗は以下の通り。</p> <p>1-2 ガイダンスおよび練習法(シャドーイングなど)の解説  3-4. A New Neighbour  5-6. To the Rescue  7-8. Dinner for Two  9-10. Change of a Dress  11-12. A Long Weekend  13. 復習  14. 復習  15. まとめ</p> <p>【注意】LL 教室を使っての授業なので、遅刻は厳禁です。</p>		
成績評価の方法	期末試験（70%）+授業中の小テスト（30%）		

授業科目	英語 I (D) ※火曜日 5限	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】特に基礎的な文法力修得に力点を置きながら、リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語の基礎力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」（意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法）を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのある文脈において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で情報や考えを表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	JACET リスニング研究会 著 『Power-Up English <Basic> 総合英語パワーアップ<基礎編>』 NANUN-DO (南雲堂) 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Personal Correspondence (現在形・現在進行形) 第 3回 Biography (過去形・過去進行形) 第 4回 Events & Festivals (未来形) 第 5回 Directions & Locations (前置詞) 第 6回 Occupations (代名詞) 第 7回 Instructions (命令文) 第 8回 Health & Physical Condition (疑問文) 第 9回 Service Requests (現在完了) 第 10回 Money (疑問詞を用いた疑問文) 第 11回 Public Signs (助動詞1) 第 12回 Sports (助動詞2) 第 13回 History (受動態) 第 14回 Sightseeing (比較) 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修、経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)	担当者	土持 かおり
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、リスニングのコツを学びながら、ナチュラルスピードの口語英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現やフレーズを身につけていくことです。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽で英語の音になじむことからスタートし、音声変化についての学習、リピーティングなどの発話練習で、英語の音声変化やリズムに慣れ、「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。</p> <p>授業の後半ではアメリカ旅行と留学を題材としたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話で使われる英語表現やフレーズを場面ごとに学習していきます。</p> <p>さらにコースの後半では応用編として、映画を利用したリスニング演習に取り組んでいきます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とする。</p>		
(1) テキスト	(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, <i>Viva! San Francisco</i> . 出版社: マクミラン・ランゲージハウス		
授業スケジュール	<毎回、LL教室を使用> 第 1回: オリエンテーション: 授業内容と進め方について 第 2回: Do You Have a Reservation, Ma'am?: ホテルでのチェックインに使う表現 第 3回: Would You Like Soup or Salad?: レストランでの食事の注文に使う表現 第 4回: Where's the Fitting Room?: ショッピングに使う表現 第 5回: Good to See You!: 挨拶に使う表現 第 6回: I Enjoyed My Stay: ホテルでのチェックアウトに使う表現 第 7回: You Are One of the Family Now: ホームステイ先での会話表現 第 8回: I Want to Help!: 申し出る・申し出を受ける表現 第 9回: When Do I Have to Return This?: 図書館での本の貸し出しに使う表現 第 10回: Would You Like to Join Us?: 人を誘う・誘いに応じる際の表現 第 11回: Let's Keep in Touch, OK?: 別々に使う表現 第 12回: 映画を利用したリスニング演習: その (1) 第 13回: 映画を利用したリスニング演習: その (2) 第 14回: 映画を利用したリスニング演習: その (3) 第 15回: まとめ		
成績評価の方法	授業への出席と取り組み状況 (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 教職必修、経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん、“Roma meravigliosa non era costruita durante una notte”(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、大学で比較人間学の当面諸問題について完璧なポーランド語で講義した者はいない!! 外国語を学ぶ具体的な目標(例えば、将来の仕事)や動機(例えば、素敵なお友達や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、インドネシア語も簡単さ)という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の75%以上理解し、身につけること(詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Richard R. Day 他, “Impact Issues I”, Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1) 又、必要に応じて習熟資料を配布する		
授業スケジュール	第1回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第2回 U20 Why Learning? (英和訳、読解等 ◇) 第3回 同題 (教官と共に コミュニケーション練習 ◎) 第4回 U4 Beauty Contest (◇) 第5回 (◎) 第6回 U5 Who Pays? (◇) 第7回 (◎) 第8回 U10 Fan Worship (◇) 第9回 (◎) 第10回 U8 Cyber Love (◇◎) 第11回 U6 Saying “I love you” (◇◎) 第12回 U7 Truth (◇◎) 第13回 U17 To Have or Have Not (◇◎) 第14回 St. Valentine’s Day (◇◎) 第15回 受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	James Scott
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Talking about one’s own ideas and feelings.</p> <p>【概要】 Students will share their ideas regarding a wide range of topics.</p> <p>【到達目標】 To improve students’skills in communicating their ideas and feelings in English.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Active Skills for Communication Intro by Chuck Sandy and Curtis Kelly. Publisher:Heinle(Cengage Learning)		
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 Students will choose the units from the book that they will study 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法	Class participation, Oral Examination		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。  <b>【概要】</b> ペアワーク・ゲームなどの方法で、読む・聞く・書く・話す実用的な英語を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 日常生活で必要とされる英語のリスニング力とスピーキング力を向上させていく。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『BY THE WAY...』 Strategies for Successful Conversation Michael Hensley, Bill Burns 約2,000円		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Good to Meet You 第3回 Unit 2: It Runs in the Family 第4回 Unit 3: School Daze 第5回 Unit 4: You Are What You Eat 第6回 Unit 5: Shop 'Till You Drop 第7回 Unit 6: [Review 1] TGIF 第8回 Unit 7: Friends 第9回 Unit 8: Road Trip 第10回 Unit 9: Blind Date 第11回 Unit 10: Job Hunting 第12回 Unit 11: Let's Catch a Flick 第13回 Unit 12: [Review 2] School's Out 第14回 Review 第15回 Review		
成績評価の方法	授業への参加状況40% 授業態度20% 会話テスト40%		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> The theme of this course is to provide students with a grounding in natural communicative English in a variety of situations.  <b>【概要】</b> By using a student centered oral communication text specifically designed for Japanese learners this class will get students motivated and help them progress where they need it most, listening and speaking.  <b>【到達目標】</b> A successful outcome for the completion of this course would be for students to overcome any reluctance they might have to use English to communicate in a variety of everyday situations.		
(1) テキスト (2) 参考文献	Outfront English Education Press		
授業スケジュール	第1回 Classroom language/ Personal information 第2回 Family and home. Describing one's home and community 第3回 Hobbies and preferences. Expressing opinions. Disagreeing politely. 第4回 Times and dates. Discussing schedules. 第5回 Shopping. Working with numbers. Dealing with numbers. 第6回 Routines. Discussing frequency of activities. 第7回 Mid term review. / self-study 第8回 Vacations. Discussing past experiences. 第9回 Locating buildings. Following / giving simple directions 第10回 Phone talk. Making requests. Taking leaving phone messages. 第11回 Inviting. Accepting and refusing invitations. 第12回 Ordering food in a restaurant. Talking about eating habits. 第13回 Health Describing the body. Illness. Offering suggestions. 第14回 Final review/ self-study. 第15回 まとめ		
成績評価の方法	Class participation 50% Written work 20% Final oral Presentation 30%		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 英語で鹿児島を紹介し、国際的なコミュニケーション力の養成。          Using English to introduce familiar aspects of life in Kagoshima and to enhance international communication skills.</p> <p><b>【概要】</b> 学生は日本とその文化、特に鹿児島での生活について学びたがっているアメリカ人 ペンパルとの会話をノートに書き留めていきます。          Students maintain notebooks as they develop a dialogue with an American pen pal who seeks to learn about Japan, its customs, and specifically life in Kagoshima.</p> <p><b>【到達目標】</b> 日常生活の様々な場面において、同世代のペンパルとのやりとりによって、意思疎通をスムーズに出来るようにする。情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。To practice non-academic English and basic writing skills by developing a sustained dialogue with an English speaker of a similar age and interests. Grammar is studied in the context of a cultural exchange.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無印良品ノート (21×14.5 cm) (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回: 紹介 Introduction 第2回~第6回: リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第7回: 小テスト(文法問題や内容把握等) 第8回~第14回: リーディング、ディスカッション、手紙の内容把握 第15回: 小テスト(文法問題や内容把握等)		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p><b>【概要】</b> リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。</p> <p><b>【到達目標】</b> 会話展開が予測可能な場面、または馴染みのあるコンテキストにおいて、相手の情報や考えを理解でき、つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)、不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Angela Buckingham & Lewis Lansford, <i>Passport 2, Second Edition</i> Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction, Unit 1A 第2回 Unit 1B 第3回 Unit 1C, Quiz/presentations 第4回 Unit 2A 第5回 Unit 2B 第6回 Unit 2C, Quiz/presentations 第7回 Unit 3A 第8回 Unit 3B 第9回 Unit 3C, Quiz/presentations 第10回 Unit 4A 第11回 Unit 4B 第12回 Unit 4C, Quiz/presentations 第13回 Unit 5A 第14回 Unit 5B 第15回 Unit 5C, Quiz/presentations		
成績評価の方法	出席&授業での参加の度合 (35%)、クイズ/授業での発表 (65%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。 <b>【概要】</b> ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。 <b>【到達目標】</b> 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『Marathon Mouth』 Lesley Koustaff, Brent Gaston & Paul Shimizu 約2,000円		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Help! 第3回 Unit 2: Brown Eyed Girl 第4回 Unit 3: Imagine 第5回 Unit 4: Let's Dance 第6回 Unit 5: Proud Mary 第7回 Unit 6: Under My Thumb 第8回 Unit 7: Permission to Fly 第9回 Unit 8: She's a Woman 第10回 Unit 9: After Midnight 第11回 Unit 10: 500 Miles 第12回 Unit 11: A Whiter Shade of Pale 第13回 Unit 12: Your Latest Trick 第14回 Unit 13: Never Been to Spain 第15回 Review		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> The theme of this course is to provide students with a base of key phrases that they can drill in class and practice at home to help them master simple, natural English.  <b>【概要】</b> With clear examples and visual reinforcement students will be able to use drills to improve the retention of key phrases used every day.  <b>【到達目標】</b> A successful outcome for the completion of this course would be for students to show a solid grounding in basic grammar and vocabulary that they can produce in a variety of everyday situations.		
(1) テキスト (2) 参考文献	Side by side Third edition 2A with workbook Longman		
授業スケジュール	第1回 Classroom language. Review of tenses 第2回 Like to. Time expressions. Indirect object pronouns. 第3回 Count/ Non count nouns 第4回 Buying food. Describing food. 第5回 Eating in a restaurant. 第6回 Future tense. Telling about the future. Probability. 第7回 Midterm review and mini test. 第8回 Possibility 第9回 Comparatives. Advice. Expressing opinions 第10回 Agreement and disagreement. 第11回 Describing people, places, things. Superlatives. 第12回 Imperatives. Getting around town. 第13回 Directions. Public transport. 第14回 Review. Self-study. 第15回 まとめ		
成績評価の方法	Classroom work 70% Final oral presentation 30%		

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 II [D]	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん, “Roma meravigliosa non era costruita durante una notte” (素晴らしいローマは一夜にしてならず) という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、大学で比較人間学の当面諸問題について完璧なポーランド語で講義した者はいない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、中国語も簡単さ) という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Richard R. Day 他, “Impact Issues 1”, Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1) 又、必要に応じて習熟資料を配布する		
授業スケジュール	第 1回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第 2回 U20 Why Learning? (英和訳、読解等 ◇) 第 3回 同題 (教官と共に コミュニケーション練習 ◎) 第 4回 U 4 Beauty Contest (◇) 第 5回 (◎) 第 6回 U 5 Who Pays? (◇) 第 7回 (◎) 第 8回 U10 Fan Worship (◇) 第 9回 (◎) 第 10回 U 8 Cyber Love (◇ ◎) 第 11回 U 6 Saying “I love you” (◇ ◎) 第 12回 U 7 Truth (◇ ◎) 第 13回 U17 To Have or Have Not (◇ ◎) 第 14回 St. Valentine’s Day (◇ ◎) 第 15回 受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

(注) 教職必修、経済専攻、経営情報専攻

授業科目	English II (D)	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 1 <sup>st</sup> year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.</p> <p>【概要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Talk Time (Student Book 2) by Susan Stempleski (Oxford University Press) (2)		
授業スケジュール	第 1回-第 7回 Key topics from the first half of the textbook Jobs/Weekend activities/Music/ Vacations 第 8回 Review Quiz 第 9回-第 14回 Key topics from later chapters of the textbook Clothes and Fashion/Cooking/ Places around Town 第 15回 Final Oral Review Practice		
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

(注) 教職必修、経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(A)	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1、2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 英語のコミュニケーション能力を向上する授業  <b>【概要】</b> 前期のつづきで、リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。  <b>【到達目標】</b> コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力の向上を向上させていく。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Angela Buckingham & Lewis Lansford, <i>Passport 2, Second Edition</i> Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction, Unit 6A 第2回 Unit 6B 第3回 Unit 6C, Quiz/presentations 第4回 Unit 7A 第5回 Unit 7B 第6回 Unit 7C, Quiz/presentations 第7回 Unit 8A 第8回 Unit 8B 第9回 Unit 8C, Quiz/presentations 第10回 Unit 9A 第11回 Unit 9B 第12回 Unit 9C, Quiz/presentations 第13回 Unit 10A 第14回 Unit 10B 第15回 Unit 10C, Quiz/presentations		
成績評価の方法	出席&授業での参加の度合（35%）、クイズ/授業での発表（65%）		

(注) 食物栄養専攻、生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(B)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	[履修年次] 1年、2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。  <b>【概要】</b> ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。  <b>【到達目標】</b> 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略（言い換え、繰り返し、強調等）をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『Listening and Vocabulary Training for the TOEIC TEXT—TOEICテスト：リスニング & グレキャプラー徹底演習』三修社		
授業スケジュール	第1回～第14回 ・Get Ready! 穴埋め形式での聴き取り ・Vocabulary Building : Step 1 Get Ready! のスクリプトに出てきた重要単語を学ぶ ・Vocabulary Building : Step 2 さらに TOEIC リスニングに頻出の重要単語を学ぶ ・Let's Try! TOEIC パート1～4の形式に完全準拠の本格的な聴き取り問題にチャレンジ。出題スクリプトは学んだ重要単語を含む内容。  第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 食物栄養専攻、生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	塚崎 香織
	[履修年次] 1 年 [学期] 後期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリスの暮らしと文化に関する読み物を通して、日英の文化の違いについて学ぶ。英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、各章のテーマに関連した語彙を習得する。リーディング、リスニング、ライティングに関連づけた活動を行う。</p> <p>【概要】主に、必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、英文の内容を把握できる。英文を聞いて、内容が把握できる。自分が伝えたいことを簡単な英文で表現できる。教科書のテーマごとに関連した語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Terry O'Brien, Miwa Uhara and Hiroshi Kimura / <i>Gateway to Britain</i> (南雲堂) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 Check In and Work Out: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 2 回 What Will the Weather Be Like?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 3 回 A London without Red Buses?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 4 回 Back to the Future: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 5 回 Shop-n'-Chat: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 6 回 More Than Just a Post Office: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 7 回 Off the Beaten Path: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 8 回 Pubs in Decline: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 9 回 Dining Out Diversity: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 10 回 Afternoon Tea: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 11 回 The Beatles Are Forever: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 12 回 Football: Sport or Business?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 13 回 The Royal Family or TV Melodrama?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 14 回 Preserving Britain: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1 年 [学期] 後期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】          (1) ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習          ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。          (2) シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成          モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。          【到達目標】          日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) 授業中に適宜指示		
授業スケジュール	だいたい2回でテキスト1ユニットずつ進む予定です。また、ビデオと音読を組み合わせることで授業を進めます。ビデオの進度は以下の通り。(前期の英語Ⅰのひとつレベルが上のテキストを使いますので、内容は少しだけ難しくなります。) 1-2 ガイダンスおよび練習法(シャドーイングなど)の解説 3-4 A Clean Sweep 5-6 A perfect Day 7-8 Not Working Out 9-10 A Dogs Tale 11-12 A Brief Encounter 13 復習 14 復習 15 まとめ 【注意】LL 教室を使っている授業なので、遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 授業中の小テスト (30%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(E)	担当者	ティムソン・デイビッド
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Developing oral communication skills and learning to express ideas and opinions in English.</p> <p>【概要】 アメリカ英語におけるスピーキングの修正とリスニング・アクティビティを主に行う。このコースでは、生徒が自信を持って自分の考えや意見をペア・アクティビティやグループ・アクティビティで表現できるように、興味深い革新的で幅広いトピックを取り上げる。ネイティブ・スピーカーの自然な会話の録音をリスニングの教材として使用するリスニング・アクティビティにより、リスニングスキルを向上させる。</p> <p>【到達目標】 4つのコミュニケイティブ・スキル (reading, writing, listening, speaking) を上達させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定		
授業スケジュール	第1回 Interests and Hobbies 第2回 Health 第3回 Holidays 第4回 Shopping 第5回 Movies 第6回 Sports 第7回 Travel 第8回 Hotel 第9回 Social Issues 第10回 Culture 第11回 Appearances 第12回 Work 第13回 Memories 第14回 Restaurant 第15回 まとめ ※トピックは変わる可能性がある。		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (80%) + 宿題, 授業中に行う小テストの成績 (20%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(F)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略 (言い換え, 繰り返し, 強調等) をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『TACTICS FOR LISTENING』 Second Edition Jack C. Richards 約2,000円		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit1: Small Talk 第3回 Unit2: Part-Time Jobs 第4回 Unit3: Successful Businesses 第5回 Unit4: Gadgets and Machines 第6回 Unit5: Character Traits 第7回 Unit6: Cooking 第8回 Unit7: Housing 第9回 Unit8: Apartment Problems 第10回 Unit9: Friendship 第11回 Unit10: Television 第12回 Unit11: Cities 第13回 Unit12: Urban Life 第14回 Unit13: Special Days 第15回 Review		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(G)	担当者	James Scott
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 Students will practice everyday conversation and the basic grammar needed to engage in those conversation.</p> <p>【到達目標】 To improve students' conversational skills.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Communicate by David Poul</p> <p>(2) Publisher:Compass</p>		
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回 The class will proceed at a pace matched to the students ability levels.</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
成績評価の方法	Class participation, oral examination		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(H)	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多様な題材を扱った英文を精読することで、英文を正確に速読する力を養う。</p> <p>【概要】 英文を読むとき、意味のまとまり（フレーズ）ごとに区切って、前から後ろへと英語の語順で読解していく方法を「フレーズ・リーディング」といいます。英文を「戻り読み」せず、「フレーズ・リーディング」することで、意味のまとまりを意識し、より正確にまたより迅速に英文を読解することができますようになります。授業では「フレーズ・リーディング」を基本的読解法と位置付け、身近な話題から時事問題までを扱った多種多様な英文を題材に、幅広い語彙力を養いながら多読、速読の技術を修得します。</p> <p>【到達目標】 多様なジャンルの英文を、より迅速により深く読めることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 田村朋子 他著 <i>Phrase Reading</i> センゲージラーニング 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 Extreme Ironing</p> <p>第3回 Food and Culture</p> <p>第4回 Life after Death?</p> <p>第5回 Addicted to the Mall</p> <p>第6回 The Working Poor</p> <p>第7回 A Child Hero</p> <p>第8回 Don't Be Fooled Again</p> <p>第9回 The Government Department of Dating and Marriage</p> <p>第10回 Undercover Marketing</p> <p>第11回 A Healthy Diet for Everyone</p> <p>第12回 Anger around the World</p> <p>第13回 Online Dating Goes Mainstream</p> <p>第14回 リーディング力UP講座</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (10%) で評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(A)	担当者	James Scott
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> テーマは、中級程度(レベルで言えば、TOEIC 500~650 英検2級)のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p><b>【概要】</b> このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能(スキル)を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p><b>【到達目標】</b> コミュニケーション能力の4つの要素(文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力)をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	第1回: Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明) 第2回: "Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1)) 第3回: "Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2)) 第4回: "Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1)) 第5回: "Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2)) 第6回: "What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1)) 第7回: "What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2)) 第8回: "Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1)) 第9回: "Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2)) 第10回: "In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1)) 第11回: "In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2)) 第12回: "Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1)) 第13回: "Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2)) 第14回: "Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3)) 第15回: まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + クラス活動への参加(30%)を基準に、総合的に評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> A Thorough Understanding and A Meaningful Conversation.(徹底した理解と意味のある会話)</p> <p><b>【概要】</b> 学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、完璧なウクライナ語や英語で専門的な討論に成功した者はいない!! 外国語を学ぶ具体的な目標(例えば、将来の仕事)や動機(例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、タガロ語やドイツ語も簡単さ)という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p><b>【到達目標】</b> 演習内容の75%以上理解し、身につけること(詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1) 又、必要に応じて習熟資料を配布する		
授業スケジュール	第1回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第2回 U20 Why Learning? (英和訳、読解等◇) 第3回 同題 (教官と共に コミュニケーション練習◎) 第4回 U4 Beauty Contest (◇) 第5回 (◎) 第6回 U5 Who Pays? (◇) 第7回 (◎) 第8回 U10 Fan Worship (◇) 第9回 (◎) 第10回 U8 Cyber Love (◇◎) 第11回 U6 Saying "I love you" (◇◎) 第12回 U7 Truth (◇◎) 第13回 U17 To Have or Have Not (◇◎) 第14回 St. Valentine's Day (◇◎) 第15回 受講生が選択したテーマの学習(X) 前期学習のまとめ等 ★参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(C)	担当者	James Scott
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、中級程度（レベルで言えば、TOEIC 500～650 英検2級）のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の4つの要素（<b>文法能力</b>、<b>社会言語能力</b>、<b>談話能力</b>、<b>方略的能力</b>）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回：Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第2回："Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1))</p> <p>第3回："Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2))</p> <p>第4回："Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1))</p> <p>第5回："Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2))</p> <p>第6回："What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1))</p> <p>第7回："What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2))</p> <p>第8回："Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1))</p> <p>第9回："Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2))</p> <p>第10回："In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1))</p> <p>第11回："In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2))</p> <p>第12回："Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1))</p> <p>第13回："Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2))</p> <p>第14回："Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3))</p> <p>第15回：まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + クラス活動への参加 (30%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ (D)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」にふれながら、リスニングとスピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。</p> <p>【概要】映画を使った英語学習には、(1) ストーリーを楽しみながら英語を学べる、(2) オーセンティックな(本物の)英語のシャワーを受けながら英語学習ができる、(3) 会話表現・フレーズとそれを使う場面・状況をセットで学習できる、などの利点があり、楽しみながら英語力を高めることのできる理想的教材だと言えます。</p> <p>授業では、映画『ゴースト』(サスペンス・ラブストーリー)を教材として使用し、毎回ストーリーを楽しみながら、ナチュラルスピードの英語の聞き取り演習に取り組むとともに、日常生活で使われる口語表現を学習していきます。さらに、日・英セリフの対比や、日本語セリフ作成演習で、口語表現力を高めていきます。</p> <p>また、この授業では各自「ポートフォリオ」(「学習ファイル」と「自己学習記録」)を毎回作成し、自分の取り組み具合をモニターしながら、自律的に英語力の向上を目指していきます。</p> <p>【到達目標】日常生活のなじみのある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる/自分の意思を表現できる英語力の習得を目標とします。</p>		
(1) テキスト	(1) 教師作成のプリントを毎回使用します。		
授業スケジュール	<p>&lt;毎回、LL教室を使用&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション：映画を使った英語学習 / 授業内容と進め方について</p> <p>第2回：The Loft：友人同士の会話(新居)</p> <p>第3回：Unchained Melody：同僚との会話(オフィス)</p> <p>第4回：Propose：恋人同士の会話(路上)</p> <p>第5回：Eternal Good-bye：友人同士の会話(自宅)</p> <p>第6回：Spiritual Adviser：初対面の相手との会話(店内)</p> <p>第7回：The Truth：初対面の相手との会話(店内)</p> <p>第8回：At Molly's Apartment：知人との会話(自宅)</p> <p>第9回：The Police Station：警察官との会話(警察)</p> <p>第10回：Rita Miller：顧客との会話(銀行)</p> <p>第11回：Revenge：友人との会話(自宅)</p> <p>第12回：The Penny：知人との会話(自宅)</p> <p>第13回：With All my Heart：知人との会話(自宅)</p> <p>第14回：Last Chance：恋人との会話</p> <p>第15回：まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への出席と取り組み状況 (20%) + 復習のための小テスト (30%) + ポートフォリオ作成 (10点) + 定期試験 (40%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(E)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> ビジネスで使える英語を学ぶ。  <b>【概要】</b> オフィスでの簡単な英会話から、電話の応対、FAX・電子メールのやり取りをアクティビティを通して学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 限定された、職場において必要とされる英語を理解し、日常の業務を適切に遂行できる英語力を養成する		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『GLOBAL LINKS 1』 English for International Business Keith Adams, Rafael Dovale 税込 2,982 円		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit1: Introductions in the Business World 第3回 Unit2: Describing Your Company 第4回 Unit3: Office Routines 第5回 Unit4: Business in Progress 第6回 Unit5: Describing Company History 第7回 Unit6: Making Telephone Arrangements 第8回 Unit7: Describing Locations 第9回 Unit8: Getting to a Meeting 第10回 Unit9: Overseas Business Travel 第11回 Unit10: Socializing 第12回 Unit11: Explaining Your Culture 第13回 Unit12: Comparing Workplaces and Products 第14回 Unit13: Executive Advice 第15回 Review		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 期末テスト 40%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(F)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> テーマは、英検2級取得を目指せるように、学生の語彙力を増やし、英文法を再確認させ、長文読解のコツを身に付けさせて、英語学習への意欲を高める。 <b>【概要】</b> 授業では、高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回1章ずつ進むので、予習が必要となる。担当者が解説を試み、間違った箇所をチェックさせることで、受講生の英語力のアップをはかり、学習意欲が高まるような工夫を凝らす。リスニング問題にも取り組めるようにLL教室を使用する。 <b>【到達目標】</b> 受講生が英検2級の取得を目指せるような英語力を身に付ける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 坂部俊行, 岡島徳昭, W.ノエル『英検2級 合格への道』南雲堂 適宜, プリントによる問題も配布する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション: 授業の進め方の説明, プリント学習 (受講生のレベルを確認) 第2回 Lesson 1: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第3回 Lesson 2: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の内容一致選択 第4回 Lesson 3: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第5回 Lesson 4: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択 第6回 Lesson 5: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の応答文選択 第7回 Lesson 6: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択 第8回 Lesson 7: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第9回 Lesson 8: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の内容一致選択 第10回 Lesson 9: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第11回 Lesson 10: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択 第12回 Lesson 11: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第13回 Lesson 12: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択 第14回 実践形式の練習 (その一) : 筆記とリスニング 第15回 実践形式の練習 (その二) +まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%), 予習を含む授業への取り組み (40%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語Ⅳ(G) (注)	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 4年生大学編入試験に対応できる英文読解力と語彙力の養成</p> <p>【概要】 「フィーリング」ではなく、構文と論理の組み立てを追いながら、英文を正確に読む練習をする。具体的には、実用英語技能検定試験2級の読解問題を正しく解ける力を養成することを目標とする。</p> <p>【到達目標】 構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 初回の授業で指示する。</p> <p>(2) <i>World in motion: Life in the 21st century</i>, Michael Hood, Takako, Mori, 金星堂  <i>Reading Fusion 1</i>, Andrew Bennet, Nan'un-do  <i>Thoughts and Feelings</i>, Jim Knudsen, Takaichi Okada, Nan'un-do  <i>Skills for Better Reading</i>, Yumiko Ishitani 他, Nan'un-do  <i>Reading Pass 2</i>, Andrew Bennett, Nan'un-do</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス  第2回 英文読解演習 (1)  第3回 英文読解演習 (2)  第4回 小テスト(1)  第5回 英文読解演習 (3)  第6回 英文読解演習 (4)  第7回 英文読解演習 (5)  第8回 英文読解演習 (6)  第9回 小テスト(2)  第10回 英文読解演習 (7)  第11回 英文読解演習 (8)  第12回 英文読解演習 (9)  第13回 英文読解演習 (10)  第14回 英文読解演習 (11)  第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験 (30%) + 課題 (60%) + 授業への参加状況 (10%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)	担当者	英語担当教員全員
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 通年 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】 ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2013年度の実績  日程：9月3日(火)～9月19日(木)  参加者：17名  研修費用：約30万円(授業料, 往復航空運賃, 宿泊費, 平日の朝・昼食費等)</p> <p>【到達目標】 英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前ガイダンス：  特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題(研修中の日記、研修後のレポート作成)の指示など。</p> <p>海外研修：  9月を予定(約2週間)。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にハワイ文化に関する授業(フラダンス)、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌・体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)	担当者	中国語担当教員全員
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2012年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日程：9月5日(水)～9月19日(水) [15日間]</li> <li>・参加者：6名(文教科日本語日本文学専攻3名、英語英文学専攻1名、商経学科経済専攻1名、経営情報専攻1名)</li> <li>・費用：約16万円(授業料、往復航空券、寮の滞在費、南京市内・市外の見学費用)</li> </ul> <p>※2013年度は未実施</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p><b>事前指導</b> 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明,</li> <li>[2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明,</li> <li>[3] 課題(レポート作成)の指示などです。</li> </ul> <p><b>海外研修</b> 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p><b>事後指導</b> 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(50%)、および中国での学習成果(50%)を基に成績を算出します。		

授業科目	ドイツ語Ⅰ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU(ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一)という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大衛正彦『異文化理解のための初級ドイツ語文法』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	第1回 ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット 第2回 発音と綴り字 第3～4回 第1課 第5～6回 第2課 第7～9回 第3課 第10～11回 第4課 第12～13回 第5課 第14回 復習と試験の説明 第15回 定期試験		
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内 宏
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択(注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】 ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れる」をモットーに、授業は元氣よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】 1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大藪正彦『異文化理解のための初級ドイツ語文法』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞典 第3版』三修社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習 第2～3回 第6課 第4～5回 第7課 第6～7回 第7課 第8～9回 第8課 第10～11回 第9課 第12～13回 第10課 第14回 復習と試験の説明 第15回 定期試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 80%、授業への参加状況 20%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 フランス語の基礎をじっくりと学びます。</p> <p>【概要】 フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は28カ国に及びますし、国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。その国際的通用性は欧米系の言語の中では英語に次ぐと言えるでしょう。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとは共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われています。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。</p> <p>【到達目標】 まずフランス語の発音をきちんとできるようにすることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えたいと思います。外国語はこまめな学習が大切です。語学に「魔法の杖」はありません！ こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>小笠原陽子『ピエールとユゴー』（白水社） 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業全体の説明、アルファベットの発音など 第2回～第3回 Leçon 1 第4回～第5回 Leçon 2 第6回～第7回 Leçon 3 第8回～第9回 Leçon 4 第10回～第11回 Leçon 5 第12回～第13回 Leçon 6 第14回～第15回 まとめ</p> <p>授業の最後には毎回小テストをします。</p>		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）		

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> フランス語の基礎をしっかりと学びます。</p> <p><b>【概要】</b> フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は28カ国に及びますし、国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。その国際的通用性は欧米系の言語の中では英語に次ぐと言えるでしょう。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとは共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われていています。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。</p> <p><b>【到達目標】</b> まずフランス語Ⅰで習った発音の基礎をしっかりと身につけるように努めましょう。街のお店の名前がフランス語であることに気づく程度にフランス語に慣れ親しんだらしめたものです。フランス語を楽しんで勉強できるようになることを、とりあえずの到達目標としておきましょう。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	小笠原陽子『ピエールとユゴー』（白水社） 適宜指示する		
授業スケジュール	第1回～第2回 Leçon 7 第3回～第4回 Leçon 8 第5回～第6回 Leçon 9 第7回～第8回 Leçon 10 第9回～第10回 Leçon 11 第11回～第12回 Leçon 12 第13回～第14回 Leçon 13 第15回 まとめ  授業の最後には毎回小テストをします。		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）		

授業科目	中国語Ⅰ(A)	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 中国語に親しむ</p> <p><b>【概要】</b> この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 遠藤光映監修『はじめての中国語 すくすく』朝日出版社 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習 第2回 発音（1）：単母音と声調の導入、練習 第3回 発音（2）：複母音の導入、練習 第4回 発音（3）：子音の導入、練習 第5回 挨拶ことば：発音の復習、初対面の挨拶と簡単な会話の導入、練習（教科書第1課） 第6回 自己紹介：自己紹介および所属を尋ね合う表現の導入、練習（教科書第2課） 第7回 復習（1）：第1～2課の復習 第8回 動詞述語文：動詞を使った表現の導入、練習（教科書第3課） 第9回 家族構成の言い方の導入、練習（教科書第3課） 第10回 ものの名称を尋ねる言い方：「这那」の導入、練習（教科書第4課） 第11回 数字、年齢を尋ねあう表現の導入、練習（教科書第5課） 第12回 復習（2）：第3～5課の復習と応用練習 第13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第14回 復習（3）：全体の復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%、期末試験：50%		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語 I (B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著《最新2訂版》『中国語はじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨ、声調、短母音 第2回 子音、複合母音、-n、-ng を伴う母音 第3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国音で読む 第4回 「あなたは中国人？」第1課 (1) 第5回 「あなたは中国人？」第1課 (2) 第6回 「これは何？」第2課 (1) 第7回 「これは何？」第2課 (2) 第8回 「あなたは何処へいくの？」第3課 (1) 第9回 「あなたは何処へいくの？」第3課 (2) 第10回 「このカバンいくら？」第4課 (1) 第11回 「このカバンいくら？」第4課 (2) 第12回 「夜は用事ある？」第5課 (1) 第13回 「夜は用事ある？」第5課 (2) 第14回 「ご飯食べた？」第6課 (1) 第15回 「ご飯食べた？」第6課 (2)</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻、英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語 I (C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著《最新2訂版》『中国語はじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨ、声調、短母音 第2回 子音、複合母音、-n、-ng を伴う母音 第3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国音で読む 第4回 「あなたは中国人？」第1課 (1) 第5回 「あなたは中国人？」第1課 (2) 第6回 「これは何？」第2課 (1) 第7回 「これは何？」第2課 (2) 第8回 「あなたは何処へいくの？」第3課 (1) 第9回 「あなたは何処へいくの？」第3課 (2) 第10回 「このカバンいくら？」第4課 (1) 第11回 「このカバンいくら？」第4課 (2) 第12回 「夜は用事ある？」第5課 (1) 第13回 「夜は用事ある？」第5課 (2) 第14回 「ご飯食べた？」第6課 (1) 第15回 「ご飯食べた？」第6課 (2)</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (D)	担当者	中筋 健吉																																								
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式																																								
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>																																										
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 杉野元子・南勇『チャレンジ!一年生の中国語』(朝日出版社)																																										
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>発音篇</td><td>1~2</td><td>中国語の声調、単母音</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>発音篇</td><td>3~4</td><td>中国語の子音(1)、(2)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>発音篇</td><td>5~7</td><td>複母音、鼻母音、声調の変化、r化、軽声</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>~第5回</td><td>本文篇 第1課</td><td>人称代名詞、動詞「是」、諸否疑問文、他。</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>~第7回</td><td>本文篇 第2課</td><td>指示代名詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、他。</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>~第9回</td><td>本文篇 第3課</td><td>形容詞述語文、所有の「有」、助動詞「想」「要」、他。</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>~第11回</td><td>本文篇 第4課</td><td>場所指示代名詞、存在の「有」「在」、方位詞、他。</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>~第13回</td><td>本文篇 第5課</td><td>数詞、数の聞き方、完了の「了」、二重目的語をとる動詞、他。</td></tr> <tr><td>第14回</td><td colspan="3">中国映画鑑賞</td></tr> <tr><td>第15回</td><td colspan="3">前期のまとめ</td></tr> </table> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>			第1回	発音篇	1~2	中国語の声調、単母音	第2回	発音篇	3~4	中国語の子音(1)、(2)	第3回	発音篇	5~7	複母音、鼻母音、声調の変化、r化、軽声	第4回	~第5回	本文篇 第1課	人称代名詞、動詞「是」、諸否疑問文、他。	第6回	~第7回	本文篇 第2課	指示代名詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、他。	第8回	~第9回	本文篇 第3課	形容詞述語文、所有の「有」、助動詞「想」「要」、他。	第10回	~第11回	本文篇 第4課	場所指示代名詞、存在の「有」「在」、方位詞、他。	第12回	~第13回	本文篇 第5課	数詞、数の聞き方、完了の「了」、二重目的語をとる動詞、他。	第14回	中国映画鑑賞			第15回	前期のまとめ		
第1回	発音篇	1~2	中国語の声調、単母音																																								
第2回	発音篇	3~4	中国語の子音(1)、(2)																																								
第3回	発音篇	5~7	複母音、鼻母音、声調の変化、r化、軽声																																								
第4回	~第5回	本文篇 第1課	人称代名詞、動詞「是」、諸否疑問文、他。																																								
第6回	~第7回	本文篇 第2課	指示代名詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、他。																																								
第8回	~第9回	本文篇 第3課	形容詞述語文、所有の「有」、助動詞「想」「要」、他。																																								
第10回	~第11回	本文篇 第4課	場所指示代名詞、存在の「有」「在」、方位詞、他。																																								
第12回	~第13回	本文篇 第5課	数詞、数の聞き方、完了の「了」、二重目的語をとる動詞、他。																																								
第14回	中国映画鑑賞																																										
第15回	前期のまとめ																																										
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)																																										

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語 I (E)	担当者	三木 夏華																														
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース</p> <p>【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ピンイン、声調記号が読めるようになる。</li> <li>2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。</li> </ol>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著 授業で紹介する。																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>発音、声調</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>発音、声調</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>人称代名詞、名前の言い方</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>“的”、“是”について</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>動詞述語文、連動文</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>指示代名詞、“有”構文</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>“在”構文、方位詞</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>助動詞、形容詞述語文</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>会話練習、ヒアリング</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td></tr> </table>			第1回	発音、声調	第2回	発音、声調	第3回	人称代名詞、名前の言い方	第4回	会話練習、ヒアリング	第5回	“的”、“是”について	第6回	会話練習、ヒアリング	第7回	動詞述語文、連動文	第8回	会話練習、ヒアリング	第9回	指示代名詞、“有”構文	第10回	会話練習、ヒアリング	第11回	“在”構文、方位詞	第12回	会話練習、ヒアリング	第13回	助動詞、形容詞述語文	第14回	会話練習、ヒアリング	第15回	まとめ
第1回	発音、声調																																
第2回	発音、声調																																
第3回	人称代名詞、名前の言い方																																
第4回	会話練習、ヒアリング																																
第5回	“的”、“是”について																																
第6回	会話練習、ヒアリング																																
第7回	動詞述語文、連動文																																
第8回	会話練習、ヒアリング																																
第9回	指示代名詞、“有”構文																																
第10回	会話練習、ヒアリング																																
第11回	“在”構文、方位詞																																
第12回	会話練習、ヒアリング																																
第13回	助動詞、形容詞述語文																																
第14回	会話練習、ヒアリング																																
第15回	まとめ																																
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%																																

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語 I (F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文 I</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。</p> <p>もちろん外国語ですから最初は発音から入り、それから徐々に単語を増やしていきます。そのほか、理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。</p> <p>中国を知ろう、中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき、中国語おはじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため、中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 発音1: 授業の進め方について</p> <p>第2回 発音2: 声調と母音</p> <p>第3回 発音3: 子音</p> <p>第4回 発音4: 発音のまとめ</p> <p>第5回 発音5: 表記の規則</p> <p>第6回 作文1: クラス名簿, あいさつ (1)</p> <p>第7回 作文2: クラス名簿, あいさつ (2)</p> <p>第8回 作文3: 数字, お金, 時刻 (1)</p> <p>第9回 作文4: 数字, お金, 時刻 (2)</p> <p>第10回 作文5: 数字, お金, 時刻 (3)</p> <p>第11回 作文6: 簡単な動詞の文 (1)</p> <p>第12回 作文7: 簡単な動詞の文 (2)</p> <p>第13回 作文8: 意思表示, 誘いかけ (1)</p> <p>第14回 作文9: 意思表示, 誘いかけ (2)</p> <p>第15回 作文10: まとめ</p>		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語 I (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 杉野元子・南勇『チャレンジ! 一年生の中国語』(朝日出版社)		
授業スケジュール	<p>第1回 発音篇 1~2 中国語の声調、単母音</p> <p>第2回 発音篇 3~4 中国語の子音(1)、(2)</p> <p>第3回 発音篇 5~7 複母音、鼻母音、声調の変化、r化、軽声</p> <p>第4回 ~第5回 本文篇 第1課 人称代名詞、動詞「是」、諸否疑問文、他。</p> <p>第6回 ~第7回 本文篇 第2課 指示代名詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、他。</p> <p>第8回 ~第9回 本文篇 第3課 形容詞述語文、所有の「有」、助動詞「想」「要」、他。</p> <p>第10回~第11回 本文篇 第4課 場所指示代名詞、存在の「有」「在」、方位詞、他。</p> <p>第12回~第13回 本文篇 第5課 数詞、数の聞き方、完了の「了」、二重目的語をとる動詞、他。</p> <p>第14回 中国映画鑑賞</p> <p>第15回 前期のまとめ</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅰ(H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注)                      [学期] 前期 [単位] 1単位                      [必修/選択] 選択 (注)                      [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 楽しい中国語会話  <b>【概要】</b> 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。  <b>【到達目標】</b> 中国語検定準四級、漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第1回 我是上海人 第2回 我叫王平 第3回 这里是南京路 第4回 现在几点了? 第5回 今天是星期几? 第6回 你家有几口人? 第7回 没关系 (映画) 第8回 香港的夏天热吗? (映画) 第9回 四川菜很好吃 第10回 我经常散步 第11回 牌价是多少? 第12回 汉语难不难? 第13回 我没吃蒜 第14回 我想去超市 第15回 まとめ		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年                      [学期] 後期 [単位] 1単位                      [必修/選択] 選択 (注)                      [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 中国語によるコミュニケーションに慣れる  <b>【概要】</b> この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。  <b>【到達目標】</b> 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 遠藤光映監修『はじめての中国語 すくすく』朝日出版社 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習 第2回 年月日・曜日の言い方の導入，練習（教科書第6課） 第3回 場所の尋ね方/言い方：「在」の導入，練習（教科書第7課） 第4回 誘いの表現「吧」の導入，練習（教科書第7課） 第5回 復習（1）第6～7課の復習 第6回 時刻の言い方の導入，練習（教科書第8課） 第7回 「電話をかけた方」の導入，練習（教科書第9課） 第8回 復習（2）：第8～9課の復習 第9回 買い物に用いられる表現の導入，練習（教科書第10課） 第10回 買い物に用いられる表現の応用練習（教科書第10課） 第11回 趣味を語る：「喜欢」の導入，練習（教科書第11課） 第12回 復習（3）：第10～11課の復習 第13回 形容詞述語文の導入，練習（教科書第12課） 第14回 復習（4）：全体の復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%、期末試験：50%		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	尾崎 孝宏
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著《最新2訂版》『中国語はじめの一步』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期試験の解説など</p> <p>第2回 「あなたは何人家族？」第7課(1)</p> <p>第3回 「あなたは何人家族？」第7課(2)</p> <p>第4回 「何時からバイト？」第8課(1)</p> <p>第5回 「何時からバイト？」第8課(2)</p> <p>第6回 「アメリカに行ったことある？」第9課(1)</p> <p>第7回 「アメリカに行ったことある？」第9課(2)</p> <p>第8回 「歌は上手？」第10課(1)</p> <p>第9回 「歌は上手？」第10課(2)</p> <p>第10回 「何しているの？」第11課(1)</p> <p>第11回 「何しているの？」第11課(2)</p> <p>第12回 「楽しい旅を！」第12課(1)</p> <p>第13回 「楽しい旅を！」第12課(2)</p> <p>第14回 自己紹介、決まり文句</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻、英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ(C)	担当者	尾崎 孝宏
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著《最新2訂版》『中国語はじめの一步』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期試験の解説など</p> <p>第2回 「あなたは何人家族？」第7課(1)</p> <p>第3回 「あなたは何人家族？」第7課(2)</p> <p>第4回 「何時からバイト？」第8課(1)</p> <p>第5回 「何時からバイト？」第8課(2)</p> <p>第6回 「アメリカに行ったことある？」第9課(1)</p> <p>第7回 「アメリカに行ったことある？」第9課(2)</p> <p>第8回 「歌は上手？」第10課(1)</p> <p>第9回 「歌は上手？」第10課(2)</p> <p>第10回 「何しているの？」第11課(1)</p> <p>第11回 「何しているの？」第11課(2)</p> <p>第12回 「楽しい旅を！」第12課(1)</p> <p>第13回 「楽しい旅を！」第12課(2)</p> <p>第14回 自己紹介、決まり文句</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ(D)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1単位 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 初級中国語の学習を行います。</p> <p><b>【概要】</b> 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p><b>【到達目標】</b> 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度の中国語能力習得を目指します。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 杉野元子・南勇『チャレンジ!一年生の中国語』(朝日出版社)		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 本文篇 第6課 時間の表現、変化の「了」、連動文、他。  第3回～第4回 本文篇 第7課 時刻の表現、前置詞「在」、他。  第5回～第6回 本文篇 第8課 お金の単位、動詞の連体修飾、他。  第7回～第8回 本文篇 第9課 可能を表す助動詞、動作の進行、他。  第9回～第10回 本文篇 第10課 方向補語、前置詞、時量補語、他  第11回～第12回 本文篇 第11課 比較、近未来の実現、経験、他。  第13回～第14回 本文篇 第12課 結果補語、受身表現、他。  第14回 本文篇 第13課 可能補語、使役、処置、仮定、他。  第15回 本文篇 第14課 存現文、取り立て強調の構文、禁止の「別」「不要」</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b>前期の中国語Ⅰに続く入門コース</p> <p><b>【概要】</b>前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。道の尋ね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。</p> <p><b>【到達目標】</b> 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著 授業で紹介する。		
授業スケジュール	<p>第1回 数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方  第2回 会話練習、ヒアリング  第3回 値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方  第4回 会話練習、ヒアリング  第5回 年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型  第6回 会話練習、ヒアリング  第7回 時刻の言い方、語気助詞の“了”  第8回 会話練習、ヒアリング  第9回 時間の長さの言い方、完了の“了”  第10回 会話練習、ヒアリング  第11回 前置詞、助動詞1  第12回 会話練習、ヒアリング  第13回 動詞の進行を表す表現、助動詞2  第14回 会話練習、ヒアリング  第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ (F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文Ⅱ</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。</p> <p>作文のほか、理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。</p> <p>中国を知ろう、中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき、中国語おぼえて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため、中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 作文1：連続動作、意向確認 (1)</p> <p>第2回 作文2：連続動作、意向確認 (2)</p> <p>第3回 作文3：なに？ どこ？ だれ？ (1)</p> <p>第4回 作文4：なに？ どこ？ だれ？ (2)</p> <p>第5回 作文5：モノ (1)</p> <p>第6回 作文6：モノ (2)</p> <p>第7回 作文7：場所 (1)</p> <p>第8回 作文8：場所 (2)</p> <p>第9回 作文9：状態 (1)</p> <p>第10回 作文10：状態 (2)</p> <p>第11回 作文11：態度、ある瞬間 (1)</p> <p>第12回 作文12：態度、ある瞬間 (2)</p> <p>第13回 作文13：1年間の復習 (1)</p> <p>第14回 作文14：1年間の復習 (2)</p> <p>第15回 作文15：まとめ</p>		
成績評価の方法	作文と小テスト50%、定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】</p> <p>中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度の中国語能力習得を目指します。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 杉野元子・南勇『チャレンジ!一年生の中国語』(朝日出版社)		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 本文篇 第6課 時間の表現、変化の「了」、連動文、他。</p> <p>第3回～第4回 本文篇 第7課 時刻の表現、前置詞「在」、他。</p> <p>第5回～第6回 本文篇 第8課 お金の単位、動詞の連体修飾、他。</p> <p>第7回～第8回 本文篇 第9課 可能を表す助動詞、動作の進行、他。</p> <p>第9回～第10回 本文篇 第10課 方向補語、前置詞、時量補語、他。</p> <p>第11回～第12回 本文篇 第11課 比較、近未来の実現、経験、他。</p> <p>第13回～第14回 本文篇 第12課 結果補語、受身表現、他。</p> <p>第14回 本文篇 第13課 可能補語、使役、処置、仮定、他。</p> <p>第15回 本文篇 第14課 存現文、取り立て強調の構文、禁止の「別」「不要」</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅱ(H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 楽しい中国語会話 <b>【概要】</b> 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 <b>【到達目標】</b> 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了 (中間テスト) 第8回 我不会打日文 (映画) 第9回 你知道号码吗? (映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 まとめ		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 中国語の体系を把握する <b>【概要】</b> この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。 <b>【到達目標】</b> 中国語検定試験4級を取得することを旨とすると同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布する (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習 第2回 前置詞「在」(～で～をする)の導入、練習 第3回 完了の「了」の導入、練習 第4回 時間量の言い方の導入、練習 第5回 文末詞「了」の導入、練習 第6回 場所の言い方の導入、練習 第7回 必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入、練習 第8回 能力を表す助動詞「能」の導入、練習 第9回 これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。 第10回 中国語で寸劇①：シナリオの作成 第11回 中国語で寸劇②：シナリオの修正 第12回 中国語で寸劇③：シナリオの決定、台本を読む練習 第13回 中国語で寸劇④：台本を読む練習、通し稽古 第14回 中国語で寸劇⑤：発表 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度 30%、発表評価：20%、筆記試験：50%		

(注) 生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語で小説を読む</p> <p>【概要】これまで学習した中国語を使って長文に挑戦します。 原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。授業はわたしが一方的に説明するのではなく、みなさんの発表に答える形で進めます。十分に予習をしてあらかじめ疑問点を用意しておいてください。質問を考える過程がみなさんの中国語理解を深めるはずですよ。</p> <p>【到達目標】中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 中国語の小説1：授業の進め方について 第2回 中国語の小説2：読解 (1) 第3回 中国語の小説3：読解 (2) 第4回 中国語の小説4：読解 (3) 第5回 中国語の小説5：読解 (4) 第6回 中国語の小説6：読解 (5) 第7回 中国語の小説7：読解 (6) 第8回 中国語の小説8：読解 (7) 第9回 中国語の小説9：読解 (8) 第10回 中国語の小説10：読解 (9) 第11回 中国語の小説11：読解 (10) 第12回 中国語の小説12：読解 (11) 第13回 中国語の小説13：読解 (12) 第14回 中国語の小説14：読解 (13) 第15回 中国語の小説15：まとめ		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

(注) 生活科学科を除く

### 3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ・健康論	担当者	西迫 貴美代
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本講義は、心身の基本的機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な三つのポイントである運動・栄養・休養の内容を中心に、ライフスタイルのあり方について学習することを主な目的とする。</p> <p>【概要】導入段階において、過去の健康にかかわる現象を題材とし、「変わらないもの」と「変わったもの」を浮き彫りにする内容を取り扱い、社会と個人の健康問題の関連についての関心を高め、様々な健康ブームの背景を探究する能力を獲得させたい。さらに毎回の講義では、日常生活を浮き彫りにするワークを取り入れ、自分に適した健康づくりやライフスタイルを形成するための知識と技能を身につけるための方法を提案する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)日常生活における健康の重要性について知識を深める</li> <li>2)生活習慣による健康阻害要因について理解する(社会的健康問題と個人的健康問題との関連)</li> <li>3)運動習慣と健康との関係について理解する</li> <li>4)運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成するためのポイントを理解する</li> <li>5)自ら健康管理をすることの重要性を理解し、その方法を身につける(運動・栄養・休養のバランス)</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	毎回、講義資料を配布する。また毎回の講義の参考文献を紹介する。興味関心をもった文献を是非読んでもらいたい。		
授業スケジュール	<p>第1回:オリエンテーション、体育・健康科学科目の意義と健康観について</p> <p>第2回:健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る)</p> <p>第3回:健康と休養(生活リズムと睡眠の取り方など)</p> <p>第4回:健康と運動1(運動の仕組みと運動の効果)</p> <p>第5回:健康と運動2(ダイエットと運動処方)</p> <p>第6回:健康と栄養(ダイエットと食事の仕方)</p> <p>第7回:ライフスタイルを考える</p> <p>第8回:まとめ</p>		
成績評価の方法	毎回のワークレポート提出 (50%1回-7回まで) +レポート1回 (10%) +筆記試験(8回目 40%)		

(注) 教職必修

(注) 食物栄養専攻を除く。7.5回

授業科目	生涯スポーツ実習 I ABCD	担当者	西迫 貴美代
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。(後期はラケット種目を履修する)</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識(わかる)ことと技能習得(できる)を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要がある、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する</li> <li>②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、</li> <li>③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる</li> <li>④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、</li> <li>④自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	各人の学習ノートを準備する。(毎回提出) なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性はある。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。その他適時資料を配布する。		
授業スケジュール	<p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第3回:Aアタックのタイミングの理解と習熟 2対2の簡易ゲーム</p> <p>第4回:2:2の簡易ゲームから3:3のゲームへ アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する)</p> <p>第5回:3:3の簡易ゲームから4:4のゲーム (攻撃の作戦を立てる チームでの練習計画を立て実施する)</p> <p>第6回:4:4の簡易ゲームから6:6のゲームへ (コート広さとアタックの守備との関係 防御の作戦を立てる)</p> <p>第7回:6:6のゲーム (簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える バレーボール大会実施)</p> <p>第8回:バスケットボールの歴史 試しのゲーム (シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する)</p> <p>第9回:バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する(シュート、ドリブル、パスなど) 半コートでのゲーム</p> <p>第10回:2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習(制限区域内での攻撃と防御について理解する)</p> <p>第11回:各チームで練習(3:3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す)</p> <p>第12回:2:2から3:3の練習 オールコートでのゲームの展開 5:5 にむけて(パスワーク・リターンパス・スクリーン)</p> <p>第13回:3:3の練習から5:5の練習へ(ポジションの確認 攻撃・守備の作戦を立てる)</p> <p>第14回:5:5ゲーム (バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割)</p> <p>第15回 まとめ(バスケットボール&amp;バレーボールのゲーム チーム戦)</p>		
成績評価の方法	毎回の学習ノートの提出+技術評価をもとに総合的に評価する		

授業科目	生涯スポーツ実習 I AB	担当者	中嶋 哲也
	[履修年次] 年 [学期] [単位] 単位 [必修/選択] [授業形態] 方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b>  <b>【概要】</b>  <b>【到達目標】</b>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

授業科目	生涯スポーツ実習 I C D	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> ラケットスポーツと健康づくり, 仲間づくり <b>【概要】</b> ラケットスポーツとして本授業ではテニスをとりあげ, ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。ペアまたはグループで練習することを主とし, お互いの技術レベルに応じて協力しながら動きや技術を習得する。このような学習課程の中で体力の必要性, 仲間との上手な協力関係, リーダーシップの重要性を学び, 実際の生活でも応用できるようになることを目指す。 <b>【到達目標】</b> ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方, ルールを覚える。ラケットスポーツを通した, 健康・体力づくり, 仲間づくりの方法を修得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて, 資料を添付する。		
授業スケジュール	第1回: グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットでのボール打ち。 第2回: ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとフォアハンドストローク。 第3回: ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとバックハンドストローク。 第4回: ボール投げとキャッチ。グループで正確な距離のコントロールの練習。 第5回: ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとフォアハンドボレー。 第6回: ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとバックハンドボレー。 第7回: ラケット打ちとキャッチ。グループで正確なボレー (方向) の練習。 第8回: ネットを挟んで短い距離でのボール出しとストローク・ボレー。 第9回: ネットを挟んで長い距離でのボール出しとストローク・ボレー。 第10回: ネットを挟んで短い距離での連続したストロークの練習。 第11回: ネットを挟んで長い距離での連続したストロークの練習。 第12回: サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で, 正確に打つこと。 第13回: 正式のコートより狭くしたコートでのダブルスのゲームに挑戦。 第14回: 正式のコートの広さでダブルスのゲームに挑戦する。 第15回: 授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度 (40%), 出席状況や授業への取り組み状況 (30%), グループにおける協力関係, リーダーシップ (30%) )		

(注) 教職必修

(注) 文学科

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ ABCD	担当者	西迫 貴美代
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 実習 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また本科目は、小学校から大学までカリキュラム内に教科として設定される、最後の機会となる。球技スポーツの技術認識と技能習得をめざすと共に、前期にラケット種目を中心に履修してきた経験との比較から自分のからだやうごきの特徴を知る。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要がある、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する ②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、④自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	各人の学習ノートを準備する。(毎回提出) なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性はある。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動こふさわしい服装を準備すること。その他適時資料を配布する。		
授業スケジュール	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する 第3回：Aアタックのタイミングの理解と習熟 2対2の簡易ゲーム 第4回：2：2の簡易ゲームから3：3のゲームへ アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する) 第5回：3：3の簡易ゲームから4：4のゲーム (攻撃の作戦を立てる チームでの練習計画を立て実施する) 第6回：4：4の簡易ゲームから6：6のゲームへ (コートの広さとアタックの守備との関係 防御の作戦を立てる ) 第7回：6：6のゲーム (簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える バレーボール大会実施) 第8回：バスケットボールの歴史 試しのゲーム (シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する) 第9回：バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する (シュート、ドリブル、パスなど) 半コートでのゲーム 第10回：2：0の練習 2：1の練習 2：2の練習 (制限区域内での攻撃と防御について理解する) 第11回：各チームで練習 (3：3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す) 第12回：2：2から3：3の練習 オールコートでのゲームの展開 5：5 にむけて (パスワーク・リターンパス・スクリーン) 第13回：3：3の練習から5：5の練習へ (ポジションの確認 攻撃・守備の作戦を立てる) 第14回：5：5ゲーム (バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割) 第15回 まとめ (バスケットボール&amp;バレーボールのゲーム チーム戦)</p>		
成績評価の方法	毎回の学習ノート提出+技術評価をもとに総合的に評価する		

(注) 教職必修 (注) 文学科, 生活科学科

科目	生涯スポーツ実習Ⅱ AB	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年                      [学期] 後期 [単位] 1単位                      [必修/選択] 必修 (注)                      [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> スポーツと体力・運動能力づくり/健康づくり</p> <p><b>【概要】</b> 前期の実習Ⅰを踏まえ、後期には前半7回と後半7回(まとめ:1回)で2種類の異なるスポーツを選択し、グループ学習を通して技術やゲームの進め方を学習する。卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボールなどの中から2種目選択し、ゲーム中心に進めていく。</p> <p><b>【到達目標】</b> 選択したスポーツの基礎的な技術の習得と試合の進め方、戦術、作戦の立て方、パートナーやチームの協力のあり方などを学習し、楽しくより高度にゲームを進められるようになることを目指す。勝敗よりも楽しさや協力の大切さに主眼を置き、練習の過程とグループ(ペア)の関与に目を向けられるようになること。当番の役割、リーダーシップの必要性、重要性を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて、資料は記付する。		
授業スケジュール	第1回: 1回目グループ編成。実習ノートと担当者の決定。セッティングの説明。 第2回: 準備運動。種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。 第3回: 準備運動。種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。 第4回: 準備運動。種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム、ミニゲーム。 第5回: 準備運動。種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム、ミニゲーム。 第6回: 準備運動。種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。 第7回: 準備運動。ダブルスゲームによる総当たりのゲーム。 第8回: 2回目のグループ編成。実習ノートと担当者の決定。セッティングの説明。 第9回: 準備運動。種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。 第10回: 準備運動。種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。 第11回: 準備運動。種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム、ミニゲーム。 第12回: 準備運動。種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム、ミニゲーム。 第13回: 準備運動。種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。 第14回: 準備運動。ダブルスによる総当たりのゲーム。 第15回: 授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度・試合の進め方 (40%) 出席状況や授業への取り組み状況 (30%) グループにおける協力関係、リーダーシップ (30%)		

(注) 教職必修

(注) 商経学科

授業科目	生涯スポーツ実習ⅡCD	担当者	岡田 猛
	[履修年次] 年 [学期] [単位] 単位 [必修/選択] [授業形態] 方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b>  <b>【概要】</b>  <b>【到達目標】</b>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
成績評価の方法			

## 4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシー I (A)	担当者	刈屋美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、表計算、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理 (1) 第2回 授業前アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理 (2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習 (1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習 (2) 第8回 MS-WORD によるワープロ実習 (3) 第9回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第10回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第11回 画像を利用した文書作り (1) 第12回 画像を利用した文書作り (2) 第13回 表計算ソフト Excel 第14回 プレゼンテーションソフト PowerPoint 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (B)	担当者	刈屋美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、表計算、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理 (1) 第2回 授業前アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理 (2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習 (1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習 (2) 第8回 MS-WORD によるワープロ実習 (3) 第9回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第10回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第11回 画像を利用した文書作り (1) 第12回 画像を利用した文書作り (2) 第13回 表計算ソフト Excel 第14回 プレゼンテーションソフト PowerPoint 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価		

(注) 教職必修, 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)	担当者	青山 究
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下Word) が使えるようになること</p> <p><b>【概要】</b> Word, Excel PowerPoint の各ソフトが使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Word を、実習を通して使えるようにする。</p> <p><b>【到達目標】</b> 高度な知識や能力を要求するわけではない。日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word を活用できるようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部編「30時間でマスター Word 2010」実教出版 情報リテラシー I (C), I I (C) 専用の USB フラッシュメモリを1個用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないがWordの入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Windows 7の基礎 第2回 Wordの起動と終了 第3回 日本語入力システムの設定 第4回 文字の入力 第5回 文章の入力 第6回 入力の訂正 (訂正, 挿入, 削除) 第7回 特殊な入力方法 (記号の入力2, 数式, 手書き入力) 第8回 いろいろな辞書の利用 (人名, 住所, 顔文字) 第9回 文の入力 (ページ設定, 文の入力, 改行) 第10回 文書の保存と読み込み, 印刷 (ページ設定, 余白の設定, 印刷レイアウト, 印刷) 第11回 複写・削除・移動 第12回 編集機能1 (右揃え, 中央揃え) 第13回 編集機能2 (印刷フォント, 下線, 表の作成, 均等割り付け) 第14回 表の編集 (行・列の挿入) 第15回 ビジュアルな文書 (ワードアート, クリップアート, ページ罫線)</p>		
成績評価の方法	期末実技試験 (60%) + 授業中に課せられる課題 (40%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)	担当者	遠矢 守
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p><b>【概要】</b> 現代人にとってコンピュータとインターネットなどは、情報の収集、分析 (解決), 情報の発信のための重要な道具となっている。本授業では、これらを利用した「情報活用技術」の基礎について実際にコンピュータを操作しながら学ぶことにする。コンピュータの仕組みや Windows の基本的事項の学習から始め、インターネット (メール, 情報検索) や応用ソフト (ワープロ, 表計算ソフト) に関して、これからの社会で生き抜く上で修得しておくべき基礎事項について学習し体得する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能の基礎を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の方針・目標, 受講上の注意), コンピュータの仕組みと簡単な操作 第2回 タッチタイピング, Windows の基本的操作, 保存メディア, ショートカットキー 第3回 日本語入力 (部分確定・文節の切り替え, 文字列の編集加工, 単語登録, 再変換など), 簡単なファイル処理 第4回 Word による文書作成1 (Word の基礎) 第5回 電子メールの仕組み, ファイル添付, メールに関する情報モラル 第6回 Web を利用した情報検索の方法1, ブラウザの効果的的操作方法 第7回 Web を利用した情報検索の方法2, 調査事項の文書化 第8回 ネット犯罪とセキュリティ 第9回 ペイント系ソフトの技法, 絵入り文書の作成など 第10回 Word による文書作成2 (図形描画ツールに関する技法) 第11回 Word による文書作成3 (表, インデント, 段組み, Word のショートカットキー) 第12回 Excel の基礎1 (簡単な縦横計算) 第13回 Excel の基礎2 (Word 文書への表やグラフの貼り付け) 第14回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)	担当者	永坂ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著) 『初心者のための Microsoft Word 2013』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)、保存</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 グラフィック機能の利用・・・ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入</p> <p>第13回 レポートの作成・・・レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第14回 サンプル文書作成・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目50%) + 授業ごとに実施する課題(30%)		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)	担当者	永坂ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著) 『初心者のための Microsoft Word 2013』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)、保存</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 グラフィック機能の利用・・・ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入</p> <p>第13回 レポートの作成・・・レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第14回 サンプル文書作成・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目50%) + 授業ごとに実施する課題(30%)		

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)	担当者	望月 正道
		〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>Ⅱでは、Ⅰで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とICTの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。また、ICT関連のニュースを理解し、中学生にもわかるように説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 電子メール : 日本語入力、漢字コード、文字エンコード、ネットワークセキュリティ</p> <p>第2回 文書作成 : MS Wordでレポート作成、著作権と「青空文庫」</p> <p>第3回 文書作成 : ふりがな、フォント、多言語文書、IVD/IVSによる異体字処理</p> <p>第4回 表計算ソフト : エクセルの基本</p> <p>第5回 表計算ソフト : 関数の利用、エクセルの限界（浮動小数点数）</p> <p>第6回 表計算ソフト : グラフの作成、ワープロ文書との連携</p> <p>第7回 表計算ソフト : 簡易データベースとして、テキストファイルの読み込み、CSVファイルの書き出し</p> <p>第8回 プレゼンテーション : プレゼンテーションソフトの利用法</p> <p>第9回 プレゼンテーション : プレゼンテーションソフトによらない方法</p> <p>第10回 Webによる情報発信 : ネットの仕組み、ドメイン、偽装サイトの構成から考えるWebの仕組み</p> <p>第11回 Webによる情報発信 : CSS、コンピュータでの色の扱い、アクセシビリティ</p> <p>第12回 オープンソース : オープンソースとは、主なオープンソースソフトウェア</p> <p>第13回 オープンソース : 政府・自治体・学校などでのオープンソース利用</p> <p>第14回 情報教育 : 学校教育のICT化、中学校でのICT利用</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポートの成績(50%)に、毎時紹介するICT関連ニュースやテキスト内容に関する筆記試験の成績(50%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)	担当者	望月 正道
		〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>Ⅱでは、Ⅰで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とICTの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。また、ICT関連のニュースを理解し、中学生にもわかるように説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 電子メール : 日本語入力、漢字コード、文字エンコード、ネットワークセキュリティ</p> <p>第2回 文書作成 : MS Wordでレポート作成、著作権と「青空文庫」</p> <p>第3回 文書作成 : ふりがな、フォント、多言語文書、IVD/IVSによる異体字処理</p> <p>第4回 表計算ソフト : エクセルの基本</p> <p>第5回 表計算ソフト : 関数の利用、エクセルの限界（浮動小数点数）</p> <p>第6回 表計算ソフト : グラフの作成、ワープロ文書との連携</p> <p>第7回 表計算ソフト : 簡易データベースとして、テキストファイルの読み込み、CSVファイルの書き出し</p> <p>第8回 プレゼンテーション : プレゼンテーションソフトの利用法</p> <p>第9回 プレゼンテーション : プレゼンテーションソフトによらない方法</p> <p>第10回 Webによる情報発信 : ネットの仕組み、ドメイン、偽装サイトの構成から考えるWebの仕組み</p> <p>第11回 Webによる情報発信 : CSS、コンピュータでの色の扱い、アクセシビリティ</p> <p>第12回 オープンソース : オープンソースとは、主なオープンソースソフトウェア</p> <p>第13回 オープンソース : 政府・自治体・学校などでのオープンソース利用</p> <p>第14回 情報教育 : 学校教育のICT化、中学校でのICT利用</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポートの成績(50%)に、毎時紹介するICT関連ニュースやテキスト内容に関する筆記試験の成績(50%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)	担当者	青山 究
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下Excel) が使えるようになること</p> <p><b>【概要】</b> Word, Excel PowerPoint の各ソフトが使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Excel を、実習を通して使えるようにする。</p> <p><b>【到達目標】</b> 高度な知識や能力を要求するわけではない。日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Excel を活用できようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部編「30時間でマスター Excel 2010」実教出版 この授業専用のUSBフラッシュメモリを用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないがExcelの入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Excelの基礎 第2回 データ入力の基礎 (数値データ、文字列データ、データの消去) 第3回 基本的なワークシートの編集 (セルの挿入・削除、移動・コピー、データの修正、連続データの入力、数式の入力) 第4回 ワークシートの書式設定 (列幅と行の高さ、表示形式、文字の配置とフォント、罫線・塗りつぶし) 第5回 グラフの作成 (グラフの用途と基本構成、棒グラフ、円グラフ) 第6回 グラフの変更 (系列、数値軸目盛、グラフの種類、データ系列、軸ラベル、凡例、フォント、データラベル) 第7回 オートSUMボタン (最大、最小、平均、データの個数) 第8回 関数の挿入 (順位づけ、四捨五入、判定、条件による集計、表の検索) 第9回 データベース機能 (並べ替え、フィルター、条件付き書式、テーブル) 第10回 データの集計 (ピボットテーブル、クロス集計、レポートフィルター) 第11回 順位付け、検索 第12回 文字列操作 第13回 データベース関数 第14回 条件付き集計 第15回 Wordとの連携</p>		
成績評価の方法	期末実技試験 (60%) + 授業中に課せられる課題 (40%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)	担当者	遠矢 守
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p><b>【概要】</b> 本科目は、情報リテラシーⅠから続くものでⅠと同じ授業方針で進める。 本科目Ⅱでは、Ⅰで学んだことをもとに、Ⅰより高度な Word や Excel のスキルの修得を目指す。さらに、デジタルプレゼンテーションやホームページ作成など情報発信に関するスキル修得を目指す。加えて、Word や Excel などオフィスソフトの機能を自分なりに拡張できるマクロプログラミング技法の基礎について紹介する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのためUSBメモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習 第2回 PowerPointによるデジタルプレゼンテーション1 (文字だけのプレゼンテーション、テキストアニメーション) 第3回 PowerPointによるデジタルプレゼンテーション2 (図・表・動画の活用、図やグラフのアニメーション) 第4回 PowerPointによるデジタルプレゼンテーション3 (効果的プレゼンテーションとは) 第5回 Excelによる縦横計算1 (関数の利用1) 第6回 Excelによる縦横計算2 (関数の利用2, Excelのショートカットキー) 第7回 Excelによる縦横計算3 (演習) 第8回 Excelによるグラフ作成、グラフ入り文書の作成1 第9回 Excelによるグラフ作成、グラフ入り文書の作成2 第10回 Excelによるデータベース処理1 第11回 Excelによるデータベース処理2 第12回 Excelによるデータベース処理3 第13回 ファイルの整理 (ファイルの圧縮解凍), OSの概念 第14回 マクロプログラミング入門 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 教職必修、生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (E)	担当者	刈屋美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両専攻を合せて初級（初心者）と中級（経験者）にクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など） 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方・・・ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方・・・スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方・・・画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り（1） 第11回 画像を利用したワープロ文書作り（2） 第12回 ファイルの応用的処理・・・圧縮・解凍 第13回 ファイルの応用的処理・・・その他のユーティリティソフト 第14回 インターネットの活用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (F)	担当者	刈屋美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両専攻を合せてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など） 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方・・・ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方・・・スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方・・・画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り（1） 第11回 画像を利用したワープロ文書作り（2） 第12回 ファイルの応用的処理・・・圧縮・解凍 第13回 ファイルの応用的処理・・・その他のユーティリティソフト 第14回 インターネットの活用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価		

(注) 経営情報専攻

## 5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論	担当者	木戸 裕子・竹本 寛秋
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では、1. 古典文学研究に必要な文献学、書誌学の初歩とくずし字の読み方、2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩、3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で、日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】日本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し、変体仮名(くずし字)の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方、論理的なレポートの書き方を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』新典社、『字典かみ』笠間書院(担当者:木戸)</p> <p>(2) プリント(担当者:竹本)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。</p> <p>第2回 古典文学を学ぶとは:仮名史について くずし字の読み方1</p> <p>第3回 文献学(写本と板本)について:くずし字の読み方2</p> <p>第4回 書誌学について:くずし字の読み方3</p> <p>第5回 くずし字小テスト:物語・日記・随筆 古典文学の分類について</p> <p>第6回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり1:くずし字の読み方4</p> <p>第7回 中国古典文学との関わり2:くずし字の読み方5</p> <p>第8回 総括1:前半のまとめ</p> <p>第9回 近代文学を学ぶとは:文学理論について</p> <p>第10回 「読む」ときに行われていること:解釈モデルについて</p> <p>第11回 「作者」とは何か:作者/作品/テキスト</p> <p>第12回 「語り」とは何か:テキスト論について</p> <p>第13回 「物語」とは何か:構造と物語</p> <p>第14回 論文の書き方(後半のまとめ)</p> <p>第15回 総括2:後半のまとめ</p>		
成績評価の方法	<p>毎時間提出するミニレポート(感想文等)20% 講義期間中の提出課題又は小テスト30% 試験50%の合計で評価する。</p>		

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第2回 音声学・音韻論(1):調音音声学、子音・母音・モーラおよび音素、音韻規則</p> <p>第3回 音声学・音韻論(2):連濁、枝分かれ制約</p> <p>第4回 形態論:派生、複合など単語を生み出す仕組み</p> <p>第5回 統語論:文の骨組みを作る仕組み</p> <p>第6回 意味論(1):単語の意味</p> <p>第7回 意味論(2):文と文の間の意味関係</p> <p>第8回 語用論(1):間接的言語行為と協調の原則</p> <p>第9回 語用論(2):会話の含意</p> <p>第10回 語用論(3):ポライトネスと敬語</p> <p>第11回 言語コミュニケーションと社会:対人関係と地域差</p> <p>第12回 言語獲得のメカニズム:生成文法と普遍文法、母語獲得、外国語獲得</p> <p>第13回 バイリンガリズム:言語習得の臨界期、コードスイッチング、加算・減算的バイリンガリズム</p> <p>第14回 これまでの復習</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>授業での発言や参加度:30%、小テスト30%、期末試験:40%</p>		

授業科目	日本語学概論	担当者	望月 正道
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】各研究分野について概観するが、特に、日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項と、それを書き表す文字・表記（アルファベットのみを用いる言語に比べて、複雑な文字体系を持つ日本語では、文字の問題は殊に重要である）について重点を置いて考察を行うこととする。なお、日本語の歴史については、別に「日本語史」の授業科目で扱う。</p> <p>この授業は「講義方式」であり、教室での90分の授業に対して180分の自学自習が義務づけられている。従って、各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、「学習課題」を考察してくること。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 玉村文郎〔編〕『日本語学を学ぶ人のために』世界思想社</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本語学とは : 国語/日本語と国語学/日本語学</p> <p>第2回 音声・音声・韻律1 : 音声器官, 国際音声字母, 子音 ※</p> <p>第3回 音声・音声・韻律2 : 子音のまとめ, 母音 ※</p> <p>第4回 音声・音声・韻律3 : 音韻 ※</p> <p>第5回 音声・音声・韻律4 : 韻律 ※</p> <p>第6回 文字・表記1 : 現代日本語の表記の特徴 ※</p> <p>第7回 文字・表記2 : 漢字</p> <p>第8回 語彙1 : 語彙の計量, 語構成, 語義</p> <p>第9回 語彙2, 表現1 : 語種・語の位相, 待遇表現</p> <p>第10回 文法1 : 形態, 構文</p> <p>第11回 文法2 : ヴォイス・アスペクト・テンス</p> <p>第12回 文章・文体 : 口語/文語・文章語, 書き言葉/話し言葉</p> <p>第13回 方言 : 国語(公用語)と方言, 新方言, 言語地理学</p> <p>第14回 言語生活 : 流行語, 若者言葉, 名付け</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※印=パソコン教室で実施。</p>		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本語教育概論	担当者	楊 虹
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語(外国語)習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。</li> <li>グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する</p> <p>(2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育: 少子高齢化, 定住外国人の増加, ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育: 帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 言語と社会: バイリンガル/マルチリンガル, 言語政策, 言語変種</p> <p>第5回 文化と日本語教育: カルチャーショック, ステレオタイプ, 高/低コンテキスト文化</p> <p>第6回 日本語教育とコミュニケーション教育: 文化相対主義 異文化トレーニング コミュニケーション・スタイル</p> <p>第7回 日本語教育と文法: 語順 日中対照 言語学</p> <p>第8回 第二言語としての日本語の習得: 誤用分析 言語転移 外国語学習の適性</p> <p>第9回 日本語教育法(1) コースデザインとニーズ分析, シラバス・デザイン, カリキュラム</p> <p>第10回 日本語教育法(2) 教授法: 直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第11回 日本語教育法(3) 教材分析・開発: 機能シラバス 構造シラバス 場面シラバス</p> <p>第12回 日本語教育法(4) 授業の計画と実施①初級レベルの場合: 導入 基本練習 応用練習</p> <p>第13回 日本語教育法(5) 授業の計画と実施②中級以上のレベルの場合: ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第14回 日本語教育法(6) 評価法: 熟達度テスト 到達度テスト</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト: 50%, 期末レポート: 50%		

授業科目	日本語史	担当者	望月 正道
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・文法など各分野にわたり、資料を読みながら、史的変遷を概観する。古典辞典いづれか1冊を毎回持参すること。</p> <p>テキストが分野別の記述になっているので、各自、歴史年表の上に投影してみる。特に、日本史が苦手だというひとは、政治史や文化史などの復習も必要である。</p> <p>開放科目としての受講など「日本語学概論」を履修していない場合は、テキストのうち日本語史で扱わない部分についてよく読んでおくこと。</p> <p>【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 山口仲美『日本語の歴史』岩波新書</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 時代区分と資料 : 音声資料, 古辞書, 古典文学作品</p> <p>第2回 漢字にめぐりあう(奈良時代) 1</p> <p>第3回 漢字にめぐりあう(奈良時代) 2</p> <p>第4回 文章をこころみる(平安時代) 1</p> <p>第5回 文章をこころみる(平安時代) 2</p> <p>第8回 男手・女手・草の仮名, あめつち・たみに・いろはうた</p> <p>第7回 うつりゆく古代語(鎌倉・室町時代) 1</p> <p>第8回 うつりゆく古代語(鎌倉・室町時代) 2</p> <p>第9回 近代語のいづき(江戸時代) 1</p> <p>第10回 近代語のいづき(江戸時代) 2</p> <p>第11回 近代語のいづき(江戸時代) 3</p> <p>第12回 言文一致をもとめる(明治時代以降) 1</p> <p>第13回 言文一致をもとめる(明治時代以降) 2</p> <p>第14回 言文一致をもとめる(明治時代以降) 3</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本文法論	担当者	望月 正道
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近代以降の主な文法学説について学び、日本語の文法について考察する。</p> <p>【概要】中学校の国語の時間に習った(はずの)「口語文法」は、多くの生徒にとって、退屈なだけで日常生活においてはほとんど役に立たない存在である。しかし、文法研究を一生の仕事とした人が少なからずいることを考えれば、意外に文法も面白いものかもしれない。</p> <p>また、日本語教育や外国語学習の場面では、より実態に近い(役に立つ)日本語文法理論をわきまえておくべきであろう。</p> <p>この講義では、毎年、日本語の文法について書かれた新書1冊を取り上げ、近代以降の主な文法学説についても概観しつつ、考察を加えていく。講義方式ではあるが、輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので、気軽に参加してほしい。</p> <p>【到達目標】日本語の文法について書かれた新書を理解し、文法に関して議論ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 原沢伊都夫『日本人のための日本語文法入門』講談社現代新書</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 学校文法の確認: 中学校国語「口語文法」の内容について再確認</p> <p>第2回 主な文法学説1: 大槻文彦/国語元年, 山田孝雄/陳述</p> <p>第3回 主な文法学説2: 松下大三郎/断句, 橋本進吉/文節</p> <p>第4回 主な文法学説3: 時枝誠記/文章論, 三上章/主語廃止論</p> <p>第5回 テキストについての検討(1):</p> <p>第6回 テキストについての検討(2):</p> <p>第7回 テキストについての検討(3):</p> <p>第8回 テキストについての検討(4):</p> <p>第9回 テキストについての検討(5):</p> <p>第10回 テキストについての検討(6):</p> <p>第11回 テキストについての検討(7):</p> <p>第12回 テキストについての検討(8):</p> <p>第13回 テキストについての検討(9):</p> <p>第14回 テキストについての検討(10):</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学講義	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】韓国語（朝鮮語）の概要を学ぶことをとおして、日本語をより深く理解する。</p> <p>【概要】日本では、6年以上勉強した英語と比較して「日本語は特殊だ」と思い込んでしまう人が多いように見受けられる。しかし、現代の英語は、例えば二人称代名詞が1つしかないなど、ある意味では西欧語の中でも「特殊」である。英語だけ（あるいは英語と中国語だけ）を見ていては、公平な判断ができない。そういうときに、文法構造や漢字の受容、敬語法などの面において、日本語によく似ている（が、微妙に違う）韓国語（朝鮮語）を知ると、目から鱗が落ちるはずだ。</p> <p>また、世間では「古代韓国語で万葉集を解説する」といったたぐいの本もある。が、実は古代の韓国語（朝鮮語）の姿はほとんどわかっていないのである。これら、日本語の歴史に関して考察する場合の韓国（朝鮮）資料の価値についても考える。</p> <p>なお、授業はK-Popsを視聴するなど楽しくすすめるつもりだが、ハングル字母のおおよその読み方は覚えてほしい。</p> <p>【到達目標】日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント。</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 「ハングル」とは：誕生日、構造</p> <p>第 2回 日本語と韓国語 1：口蓋音化、音節構造</p> <p>第 3回 日本語と韓国語 2：「清音/濁音」対「平音/激音/濃音」</p> <p>第 4回 日本語と韓国語 3：漢字音、固有語・漢字語・外来語</p> <p>第 5回 日本語と韓国語 4：品詞分類、助詞</p> <p>第 6回 日本語と韓国語 5：助動詞（語尾）、サ変動詞・形容動詞（<math>\text{ㄴ}</math>動詞・形容詞）、活用</p> <p>第 7回 日本語と韓国語 6：代名詞と指示語、コソアドの体系</p> <p>第 8回 日本語と韓国語 7：待遇表現（敬語、文体）</p> <p>第 9回 日本語と韓国語 8：擬声語・擬態語</p> <p>第 10回 日本語と韓国語 9：色彩形容詞</p> <p>第 11回 日本語と韓国語 10：数詞、助数詞</p> <p>第 12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 1：記紀歌謡・万葉集と郷歌</p> <p>第 13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 2：数詞</p> <p>第 14回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 3：トンデモ学説について</p> <p>第 15回 言語の起源・日本語の起源はどこまでわかっているか、まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（簡単なハングルの読み書き、日本語との類似点・相違点、日本語の起源とのかかわり等について出題する）の成績(80%)に、授業での発言や小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学講義 I	担当者	松尾 弘徳
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ</p> <p>【概要】「日本語学」という学問分野がどんなことを問題として取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講学生は毎回授業時までに予習課題を提出、授業時には学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜グループディスカッションや質疑応答も行います。</p> <p>【到達目標】</p> <p>普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場をしたいと思います。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。</p> <p>参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方の説明</p> <p>第 2回 ことばの性差</p> <p>第 3回 ことばの地域差</p> <p>第 4回 比喩とはなにか</p> <p>第 5回 比喩を考える</p> <p>第 6回 意味用法の変化と若者語</p> <p>第 7回 発音のしくみ</p> <p>第 8回 音韻と音声のちがひ</p> <p>第 9回 日本語の音を数える単位</p> <p>第 10回 鹿児島方言のアクセント</p> <p>第 11回 とりたて詞</p> <p>第 12回 テンス</p> <p>第 13回 ヴォイス</p> <p>第 14回 方言文法の変化</p> <p>第 15回 まとめと試験</p> <p>以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>		
成績評価の方法	<p>評価基準以下の通り。</p> <p>メールによる予習課題の提出：20%                      学期末試験：80%</p> <p>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		



授業科目	日本語学演習Ⅱ	担当者	望月 正道
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】奄美島唄を方言資料としてとらえ、日本語史の流れの中で考察する。</p> <p>【概要】奄美島唄は、奄美の方言を反映しているが、奄美方言は県本土方言とは大きく異なる体系をもち、琉球方言のうち北琉球方言に分類される。琉球方言の古典としては16～17世紀に成立した『おもろさうし』があるが、その詞章との比較を含めて、島唄歌詞の音韻・語彙・文法について、担当者を決めて検討していく。前期は、個人名が登場する歌を読む。</p> <p>【到達目標】島唄の歌詞を音読して、大意を説明し、奄美方言の特徴を説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 授業中に指示する。 (2) 授業中に指示する。		
授業スケジュール	第1回 導入：奄美島唄・奄美方言の紹介（教員が担当） 第2回 演習：教員が担当 第3回 "：学生による発表 第4回 "：" 第5回 "：" 第6回 "：" 第7回 "：" 第8回 "：" 第9回 "：" 第10回 "：" 第11回 "：" 第12回 "：" 第13回 "：" 第14回 "：" 第15回 まとめ		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に、それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学演習Ⅳ,Ⅵ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 演習Ⅳは1年, 演習Ⅵは2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の語用論に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】毎回、担当者がテキストの内容をまとめて発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第2回 語用論、社会言語学の分野の研究について 第3回 担当者による発表(2年生) 第4回 担当者による発表(2年生) 第5回 担当者による発表(2年生) 第6回 担当者による発表(2年生) 第7回 担当者による発表(2年生) 第8回 担当者による発表(1年生) 第9回 担当者による発表(1年生) 第10回 担当者による発表(1年生) 第11回 担当者による発表(1年生) 第12回 担当者による発表(1年生) 第13回 担当者による発表(1年生) 第14回 1年生の卒業研究の構想発表 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語学演習Ⅴ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】毎回，担当者がテキストの内容をまとめて発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら，語用論及び社会言語学の分野の研究に対する理解を深め，簡単な学術的レポートが作成できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 授業の概要を説明し，各回の担当を決める。 第 2回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 3回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 4回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 5回 レポート作成指導① 第 6回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 7回 レポート作成指導② 第 8回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 9回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 10回 レポート作成指導③ 第 11回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 12回 レポート作成指導④ 第 13回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 14回 レポートに基づく口頭発表 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語表現法	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】発表，面接，論文，エッセーなどの課題にグループで取り組みながら，ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示し，意見を的確に伝える方法を考察する。</p> <p>なお，表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。</p> <p>この授業は講義方式であるが，実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので，一部演習も織り込んでいく。その意味で，日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】簡単な口頭発表が適切にできる。また，原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術(新版)』講談社現代新書 (2) 1500ページ以上ある国語辞典いずれか1冊（電子辞書等でも可） 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック類（電子辞書でも当該機能を有すれば可）		
授業スケジュール	第 1回 導入：「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介，自己紹介 第 2回 地図：班分け，グループごとに動画を確認して意見交換，地図を口頭で説明し，略地図を書く 第 3回 漢字：地図の答え合わせ，難読語をどう調べるか，送り仮名，印刷標準字体・手書き文字の字形，漢字の課題 第 4回 ネット利用：課題の解答確認，ドメイン，電子メール利用の注意点，ネットで調べる，図書館資料を OPAC で調べる 第 5回 調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報，希望調査 第 6回 調査開始：班分けの発表，リーダー選出，図書館調査・ネット調査，本時の到達点を報告 第 7回 調査実施：引き続き課題についての調査を行う，本時までの到達点を報告 第 8回 図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方 第 9回 中間報告：口頭発表と質疑 第 10回 レポート：文形・文体，現代語表記と原稿のきまり，文章の構成 第 11回 レポート：第 1 回提出 第 12回 レポート：わかりやすく書くには 第 13回 レポート：補充調査 第 14回 レポート：第 2 回提出 第 15回 まとめ，表現の自由と人権		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に，グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)，随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習	担当者	望月 正道
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポートを作成し、口頭発表を行う。 この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 1500ページ以上ある国語辞典いづれか1冊（電子辞書等でも可） 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック類（電子辞書でも当該機能を有すれば可）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 参考文献：参考文献を読む</p> <p>第2回 参考文献：参考文献を引用する</p> <p>第3回 プレゼンテーション：何を使うか</p> <p>第4回 課題レポート1：作成</p> <p>第5回 課題レポート1：発表</p> <p>第6回 課題レポート1：討論</p> <p>第7回 課題レポート2：作成</p> <p>第8回 課題レポート2：発表</p> <p>第9回 課題レポート2：討論</p> <p>第10回 課題レポート3：作成</p> <p>第11回 課題レポート3：発表</p> <p>第12回 課題レポート3：討論</p> <p>第13回 試験レポート：資料収集</p> <p>第14回 試験レポート：テーマに関する討論</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験の成績(50%)に、グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)、随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。</p>		

授業科目	対照言語学	担当者	楊 虹
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】対照言語学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第2回 日英中の対照（1）：主語の立て方</p> <p>第3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示</p> <p>第4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形</p> <p>第5回 日英中の対照（4）：時に関する比較①</p> <p>第6回 日英中の対照（5）：時に関する比較②</p> <p>第7回 日英中の対照（6）：否定に関する比較</p> <p>第8回 日英中の対照（7）：接続に関する比較</p> <p>第9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較①</p> <p>第10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較②</p> <p>第11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較①</p> <p>第12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較②</p> <p>第13回 発表準備</p> <p>第14回 学生による発表</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>授業への参加度：50%、レポート：50%</p>		

授業科目	日本文学史・古典Ⅰ	担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕 1, 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 必修(注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代(奈良時代以前)から中古(平安時代)の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。</p> <p>時間の都合上、テキストのすべてを取り扱うことはできないが、教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう(平成25年度日本文学史・近代Ⅰ、Ⅱと同じ) (2) 授業中に提示する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：文学の発生 第2回 上代の文学その1：概観、古事記 第3回 上代の文学その2：日本書紀、風土記 第4回 上代の文学その3：万葉集1 第5回 上代の文学その4：万葉集2 第6回 上代の文学その5：万葉集3 第7回 上代の文学その6：上代の漢詩、説話 第8回 中古の文学その1：概観 古今集以前 第9回 中古の文学その2：和歌 三代集まで 第10回 中古の文学その3：和歌 八代集 第11回 中古の文学その4：和歌 私撰集 歌謡 第12回 中古の文学その5：源氏物語以前の歌物語 第13回 中古の文学その6：源氏物語以前の作り物語 第14回 中古の文学その7：源氏物語 第15回 まとめ		
成績評価の方法	毎回の感想(ミニレポート)30% 筆記試験70%		

(注) 教職必修

授業科目	日本文学史・古典Ⅱ	担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕 1, 2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 必修(注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古(平安時代)の和歌史・物語史から中世(鎌倉・室町時代)文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。</p> <p>時間の都合上、テキストのすべてを取り扱うことはできないが、教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう(平成25年度日本文学史・近代Ⅰ、Ⅱと同じ) (2) 授業中に提示する。		
授業スケジュール	第1回 中古の文学その1：源氏物語 第2回 中古の文学その2：源氏物語以降の物語 第3回 中古の文学その3：歴史物語 第4回 中古の文学その4：日記 第5回 中古の文学その5：随筆 第6回 中古の文学その6：漢詩文 第7回 中世の文学その1：概観 第8回 中世の文学その2：和歌、連歌 第9回 中世の文学その3：漢詩文 第10回 中世の文学その4：軍記 第11回 中世の文学その5：随筆 第12回 中世の文学その6：物語 第13回 中世の文学その7：説話 第14回 中世の文学その8：能・狂言 第15回 まとめ		
成績評価の方法	毎回の感想(ミニレポート)30% 筆記試験70%		

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義 I	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】和漢朗詠集～平安時代の和歌と漢詩～</p> <p>【概要】 平安時代の半ばに成立した『和漢朗詠集』は漢詩文の秀句と和歌を同一の部立てのもとに配列するという画期的な詞華集であった。本書は平安時代以降、多くの日本の文学作品に影響を与えたほか、書道の手本としても重んじられた。 本講義では、『和漢朗詠集』の作品を通して、和歌・和文世界と漢詩文世界の交流、日本の季節感など、現在に至る朗詠集の影響を考えたい。</p> <p>【到達目標】 『和漢朗詠集』に関する基本的な知識を身につける。日本古典文学における漢詩文の位置について考察する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料を配付する (2) 川口久雄 全訳注『和漢朗詠集』講談社学術文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 和漢朗詠集とは：撰者藤原公任とその時代 第2回 秋部1：七夕と十五夜 第3回 秋部2：秋の草花 第4回 秋部3：紅葉と秋の動物 第5回 冬部：霜、雪、冬の夜 第6回 春部1：立春、春の訪れ 第7回 春部2：春の花々 第8回 春部3：春の行事 第9回 夏部：夏の風物 第10回 平安人の旅への思い：行旅と山水 第11回 和漢の故事1：詠史、王昭君 第12回 和漢の故事2：妓女、恋 第13回 白楽天の影響1：閑居、懐旧 第14回 白楽天の影響2：交友、老人 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業の感想レポート（毎回）20% レポート80%		

授業科目	日本文学講読 I	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 1, 2年どちらでも履修可 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『萬葉集』巻十三、十四の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】 『萬葉集』の中でも、巻十三は他とは違って長歌を中心に雑歌、相聞、挽歌の三大部立てに添って並べられているのが特徴的な巻である。また、巻十四は東国地方に伝わる歌、すなわち東歌を集めたこれも特異な巻である。この二巻の作品を読むことで、上代人が歌に託した思いを読み取りたい。 本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。東歌についてその特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 伊藤博『萬葉集釋注（七）』集英社文庫ヘリテージシリーズ (2) 第1回目の授業で提示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 『萬葉集』について（编者、諸本、万葉仮名など） 第2回 巻十三、巻十四について。教員による模範演習 第3回 『萬葉集』巻十三輪読その1：雑歌1 第4回 その2：雑歌2 第5回 その3：相聞1 第6回 その4：相聞2 第7回 その5：問答歌 第8回 その6：挽歌1 第9回 その6：挽歌2 第10回 その7：挽歌3 第11回 巻十四輪読 その1：雑歌 第12回 その2：相聞1 第13回 その3：相聞2 第14回 その4：防人歌 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	輪読担当60%、レポート40%		

授業科目	日本文学講読Ⅱ	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。</p> <p>本講読では宮内庁書陵部蔵の御所本の影印（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>嵯峨本『伊勢物語』は近世初期の絵入り木活字本であり、これを使ってくずし字（変体仮名）の読み方も学習していきたい。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。</p> <p>基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 伊勢物語慶長十三年刊嵯峨本一種 和泉書院</p> <p>(2) 『伊勢物語 ビギナーズ・クラシックス』角川ソフィア文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など）</p> <p>第2回 初段：昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第3回 三段：二条後の物語その1 変体仮名の読み方2</p> <p>第4回 四段：二条後の物語その2 変体仮名の読み方3</p> <p>第5回 五段：二条後の物語その3 変体仮名の読み方4</p> <p>第6回 六段：二条後の物語その4 変体仮名の読み方小テスト</p> <p>第7回 六段：二条後の物語その5</p> <p>第8回 七・八段：東下りその1 浅間の山</p> <p>第9回 九段：東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第10回 九段：東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第11回 六九段：伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト</p> <p>第12回 六九段：伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第13回 一六段：男の友情</p> <p>第14回 八二段・八三段：惟喬親王</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%		

授業科目	日本文学講読Ⅲ	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本文学講読Ⅱに引き続き、中古文学の代表的作品である『源氏物語』の講読を通じて、平安時代の物語についての理解を深める。</p> <p>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』中から一巻を選び受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は昨年度に引き続き「薄雲」巻を読む。</p> <p>「薄雲」巻は光源氏が明石君との間に生まれた姫君を二条院に迎え取り将来の後候補として育てることを決意するとともに、生涯焦がれ続けた藤壺女院の崩御に遭遇するという光源氏の人生の転機を描く巻である。この巻を講読することで『源氏物語』の構成や物語の仕掛けを理解したい。今年度は昨年度の続き、テキスト25ページ、12丁表から読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成。登場人物について考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 渡瀬茂編『首書源氏物語14 薄雲・朝顔』和泉書院</p> <p>(2) 『源氏物語 ビギナーズ・クラシックス』角川ソフィア文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『源氏物語』とは</p> <p>第2回 「薄雲」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。</p> <p>第3回 「薄雲」輪読：その1</p> <p>第4回 : その2</p> <p>第5回 : その3</p> <p>第6回 : その4</p> <p>第7回 : その5</p> <p>第8回 人物論：藤壺と源氏の関わりについて。紫のゆかりとは。</p> <p>第9回 「薄雲」輪読：その6</p> <p>第10回 : その7</p> <p>第11回 : その8</p> <p>第12回 : その9</p> <p>第13回 : その10</p> <p>第14回 : その11</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%		

授業科目	日本文学演習Ⅰ、Ⅲ	担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕 1年生は演習Ⅰ、2年生は演習Ⅲ 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、前期の日本文学演習Ⅱの続きで『一条撰政集』を読みすすめる。新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の担当を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。『一条撰政集』の作者が活躍した平安時代前半の文学状況を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 新日本古典文学大系『平安私家集』岩波書店 『一条撰政集全釈』風間書房		
授業スケジュール	第1回 2年生によるオリエンテーション：『一条撰政集』について 第2回 2年生による模範演習：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方 第3回 一条撰政集を読む：1 第4回 一条撰政集を読む：2 第5回 一条撰政集を読む：3 第6回 一条撰政集を読む：4 第7回 一条撰政集を読む：5 第8回 一条撰政集を読む：6 第9回 一条撰政集を読む：7 第10回 一条撰政集を読む：8 第11回 一条撰政集を読む：9 第12回 一条撰政集を読む：10 第13回 一条撰政集を読む：11 第14回 一条撰政集を読む：12 第15回 まとめ		
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20% レポート 80% 日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20% 担当発表 80%		

授業科目	日本文学演習Ⅱ	担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『一条撰政集（いちじょうせつしゅう）』を読む。一条撰政藤原伊尹（ふじわらのこれまさ）は右大臣藤原師輔の長男として生まれ、自らも撰政太政大臣まで上り詰めた人物だが、歌集においては自身を大藏史生倉橋豊陰（くらはしのとよかぜ）という身分の低い男に仮託して、歌物語風にまとめている。本演習では、担当者が歌の配列などを参考にしながら、和歌及び詞書の解釈を行ない、全体の構成を読み解いていく。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。『一条撰政集』の作者が活躍した平安時代前半の文学状況を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 新日本古典文学大系『平安私家集』岩波書店 『一条撰政集全釈』風間書房 その他授業中に提示する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：演習の進め方について（辞書、索引の引き方、資料の探し方） 第2回 一条撰政集について：前年度の内容の確認 第3回 一条撰政集を読む：1 第4回 一条撰政集を読む：2 第5回 一条撰政集を読む：3 第6回 一条撰政集を読む：4 第7回 一条撰政集を読む：5 第8回 一条撰政集を読む：6 第9回 一条撰政集を読む：7 第10回 一条撰政集を読む：8 第11回 一条撰政集を読む：9 第12回 一条撰政集を読む：10 第13回 一条撰政集を読む：11 第14回 一条撰政集を読む：12 第15回 まとめ		
成績評価の方法	担当発表 80%、担当時以外の発言（質問、意見など） 20%		

(注) 教職必修

授業科目	日本文学史・近代Ⅱ (平成24年度入学生)	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年 (平成24年度入学生)	[学期] 後期	
	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、大正から現代に至る日本近代文学史の歴史の変遷を理解する。</p> <p><b>【概要】</b> 「日本文学史・近代」では、主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本近代文学史の基礎的な知識を説明できる。 日本の近代文学史・文学作品に関して問題意識を持ち、自身の考えを述べることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう (平成24年度日本文学史・古典Ⅰ、Ⅱと同じ)</p> <p>(2) 畑 有三他著『作品で綴る近代文学史』双文社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概論：大正・昭和以降の「文学」の問題 —メディアの変革と「文学」—</p> <p>第2回 大正の文学1：大正文壇と私小説 —白樺派、新思潮派—</p> <p>第3回 大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立 —菊池寛—</p> <p>第4回 昭和の文学1：新感覚派・前衛詩 —横光利一、萩原次次郎—</p> <p>第5回 昭和の文学2：主知主義文学 —梶井基次郎—</p> <p>第6回 昭和の文学3：プロレタリア文学 —小林多喜二—</p> <p>第7回 昭和の文学4：文芸復興の時代 —転向文学、日本浪漫派、四季派—</p> <p>第8回 昭和の文学5：戦争と文学 —火野葦平、石川達三—</p> <p>第9回 昭和の文学6：昭和二十年代の文学 —戦後文学の出発—</p> <p>第10回 昭和の文学7：昭和三十年代の文学 —第三の新人の登場—</p> <p>第11回 昭和の文学8：昭和四十年代の文学 —三島由紀夫の死—</p> <p>第12回 昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学 —村上龍、村上春樹—</p> <p>第13回 昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向 —塚本邦雄、岡井隆、寺山修司—</p> <p>第14回 現代の文学：現代文学のゆくえ —インターネットと表現の変容、—</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容 (40%)、筆記試験 (60%)		

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義Ⅱ	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年	[学期] 後期	
	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 「猫」から読む日本近代文学</p> <p><b>【概要】</b> 文学においては、作品を成立させるために不可欠な要素として様々な動物が登場する。本講義においては日本近代文学の作品においてどのように動物のイメージが利用されているか考察する。特に「猫」の形象に着目し、日本近代の文学・文化のなかにおけるイメージとしての「猫」の意味を明らかにするとともに、多様な視点で文学を読む方法について理解する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 「文学」を多様な角度から分析する方法を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：文学における「動物」のイメージの問題</p> <p>第2回 夏目漱石『吾輩は猫である』(1)</p> <p>第3回 夏目漱石『吾輩は猫である』(2)</p> <p>第4回 内田百閒『ノラヤ』(1)</p> <p>第5回 内田百閒『ノラヤ』(2)</p> <p>第6回 寺田寅彦と猫</p> <p>第7回 豊島与志雄と猫</p> <p>第8回 梶井基次郎『愛撫』</p> <p>第9回 萩原朔太郎『青猫』</p> <p>第10回 萩原朔太郎『猫町』(1)</p> <p>第11回 萩原朔太郎『猫町』(2)</p> <p>第12回 童話における「猫」の表象</p> <p>第13回 宮澤賢治作品における猫(1)</p> <p>第14回 宮澤賢治作品における猫(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)		

授業科目	日本文学講読Ⅳ(1年生), 日本文学講読Ⅴ(2年生)	担当者	丹羽雅治
	〔履修年次〕Ⅳは1年, Ⅴは2年 〔学期〕前期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕選択 〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】遊女の文学(1)</p> <p>【概要】古代から近世初期にかけての文学作品や歴史資料の中で、遊女およびそれに類するものがどのように描かれているのかを探る。</p> <p>【到達目標】遊女の実像と虚像を正しく把握する。 歴史的に遊女像がどのように変化してきたかを正しく把握する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 佐藤要人監修『図説 浮世絵に見る江戸吉原』(河出書房新社、2007年)</p> <p>(2) 『新版 色道大鏡』(八木書店、2006年) そのほかは適宜授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入</p> <p>第2回 近世文学・文化の特徴</p> <p>第3回～第4回 古代の遊女</p> <p>第5回 中世の遊女</p> <p>第6回～第7回 遊廓の成立と近世の遊女</p> <p>第8回～第10回 遊女評判記の中の遊女</p> <p>第11回～第14回 西鶴浮世草子の中の遊女</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	小レポート(20%)、筆記試験(80%)		

授業科目	日本文学講読Ⅴ(1年生), 日本文学講読Ⅵ(2年生)	担当者	丹羽雅治
	〔履修年次〕Ⅴは1年・Ⅵは2年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕選択 〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】遊女の文学(2)</p> <p>【概要】近世中後期における文学作品の中で遊女がどのように描かれるのかを探る。</p> <p>【到達目標】遊女の実像と虚像を正しく把握する。 歴史的に遊女像がどのように変化してきたかを正しく把握する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 『洒落本大成』(中央公論社)、『日本古典文学大系 黄表紙・洒落本集』(岩波書店)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 上田秋成『世間妾形気』の中の遊女</p> <p>第3回～第5回 洒落本『両巴唇言』の鑑賞</p> <p>第6回～第9回 洒落本『遊子方言』の鑑賞</p> <p>第10回～第15回 山東京伝の洒落本『傾城買四十八手』の鑑賞</p>		
成績評価の方法	小レポート(20%)、筆記試験(80%)		

授業科目	日本文学講読VI	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 梶井基次郎を読み、文学テクストを読む方法論を身につける</p> <p><b>【概要】</b> 梶井基次郎の代表的な作品を取り上げ、検討する。『檸檬』などは高校の教科書などで読んだことがある学生も多いと思うが、文学研究においては、テクストを多様な角度から検討して論点を引き出し、論理的に考察する必要がある。論点を取り出す方法、論理的な考察の方法、生産的な議論の方法を身につけるために、学生相互のディスカッションから梶井基次郎のテクストを検討する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 文学テクストを多様な視点から読むことができる。 自分の考えをまとめて発表でき、ディスカッションができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 梶井基次郎著『檸檬』新潮文庫 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：梶井基次郎について 第2回 文学テクストを読む様々な方法について、ディスカッションの方法について 第3回 『檸檬』(1) 第4回 『檸檬』(2) 第5回 『檸檬』(3) 第6回 『檸檬』(4) 第7回 『桜の樹の下には』(1) 第8回 『桜の樹の下には』(2) 第9回 『Kの昇天』(1) 第10回 『Kの昇天』(2) 第11回 『Kの昇天』(3) 第12回 『冬の蠅』(1) 第13回 『冬の蠅』(2) 第14回 『冬の蠅』(3) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	ディスカッションでの発言・参加 (40%) , 毎回のミニレポート (30%) , レポート (30%)		

授業科目	日本文学講読VII	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 堀辰雄を読み、研究的な観点から文学テクストを読む実践を行う</p> <p><b>【概要】</b> 堀辰雄の作品『美しい村』『風立ちぬ』を講読する。授業では作品を様々な角度から読み解くために、担当者を決め、物語の構造、文章技巧、時代背景、土地の形象、病気のイメージ、海外文学との関係などについて調査をし、発表を行う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 文学研究に必要となる、テクスト読解の方法を実践できる。 テクストを基にした妥当な読みを提示できる。 テクストの読みを広げるために、様々な事柄に関する調査を行い、報告にまとめることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 堀辰雄『風立ちぬ・美しい村』新潮文庫 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：授業の進め方、堀辰雄について 第2回 テクスト読解の基礎：「解釈」の理論的基礎 第3回 発表テーマ、担当者の決定 第4回 『美しい村』(1) 第5回 『美しい村』(2) 第6回 『美しい村』(3) 第7回 『美しい村』(4) 第8回 『美しい村』(5) 第9回 前半のまとめ 第10回 『風立ちぬ』(1) 第11回 『風立ちぬ』(2) 第12回 『風立ちぬ』(3) 第13回 『風立ちぬ』(4) 第14回 『風立ちぬ』(5) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	発表 (40%) , ディスカッションでの発言・参加 (30%) , レポート (30%)		

授業科目	日本文学講読Ⅸ(旧カリキュラム)	担当者	橋口晋作
	〔履修年次〕 2 年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1 単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 森鴎外を対象として、明治時代の擬古文で書かれた作品を読み、鑑賞して行く。</p> <p>【概要】 森鴎外の「舞姫」・「文づかひ」を取り上げ、鴎外が試みた文体について理解を深める。また、担当者と受講生でディスカッションをしながら、「舞姫」・「文づかひ」の作品世界についても、多様な角度から検討して行く。</p> <p>【到達目標】 本講読の到達目標の第1は明治時代の擬古文についての理解を深めることである。2番目は自分の考えをまとめて発表し、ディスカッションに参加する力をつけることである。最後に、他の受講生の意見などを聞き、多様な見方があることを理解し、更に自分の考えを深めて行くことである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	森鴎外『舞姫・うたかたの記他三篇』岩波文庫 新日本古典文学大系『森鴎外』 岩波書店		
授業スケジュール	第 1回 日本文学講読Ⅸの進め方、日本近代文学の始まるころ 第 2回 森鴎外の留学とドイツ記念三部作 第 3回 「舞姫」の検討と鑑賞 1 第 4回 同 上 2 第 5回 同 上 3 第 6回 同 上 4 第 7回 同 上 5 第 8回 同 上 6 第 9回 「文づかひ」の検討と鑑賞1 第10回 同 上 2 第11回 同 上 3 第12回 同 上 4 第13回 同 上 5 第14回 同 上 6 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (50%) + 発表 (20%) + 小論文 (30%)		

授業科目	日本文学演習Ⅳ, Ⅵ	担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕 Ⅳは1年, Ⅵは2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】 明治から昭和にかけての近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】 文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。 様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。 自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 石井和夫他編著『近代文学読本』双文社 (2) 適宜、授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定 第 2回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第 3回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について 第 4回 口頭発表 (1) 第 5回 口頭発表 (2) 第 6回 口頭発表 (3) 第 7回 口頭発表 (4) 第 8回 口頭発表 (5) 第 9回 前半のまとめ 第10回 口頭発表 (6) 第11回 口頭発表 (7) 第12回 口頭発表 (8) 第13回 口頭発表 (9) 第14回 口頭発表 (10) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	口頭発表等 (70%) , 討議での発言・参加 (30%)		

授業科目	日本文学演習Ⅴ	担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 日本近現代における文学作品を対象として、論文作成の方法を身につける</p> <p><b>【概要】</b> 明治以降の日本近代文学作品について、論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し、論点を発見して論理的な考察を行い、他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために、さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本近代文学の作品について、選択したテキストから論点を発見し、論として発展させることができる。 様々な文学理論を理解し、自己の発表に生かすことができる。 発表をもとに、ディスカッションすることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：授業の進め方、研究論文を作成する意義 第 2回 対象となる作品の決定、文学理論について 第 3回 発表資料の作成、発表の方法、ディスカッションの方法について 第 4回 口頭発表 (1) 第 5回 口頭発表 (2) 第 6回 口頭発表 (3) 第 7回 口頭発表 (4) 第 8回 口頭発表 (5) 第 9回 前半のまとめ 第 10回 口頭発表 (6) 第 11回 口頭発表 (7) 第 12回 口頭発表 (8) 第 13回 口頭発表 (9) 第 14回 論文作成の方法について 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	口頭発表、ディスカッションでの発言 (40%)、レポート (60%)		

授業科目	南九州の文学Ⅰ(旧カリキュラム)	担当者	橋口晋作
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 鹿児島県を中心とする地域の古典文学を講じ、鑑賞する。</p> <p><b>【概要】</b> 鹿児島県を中心とする地域の古典文学を大きく中世以前と近世とに分け、それぞれの時代の韻文、散文、劇文学の順に講じ、鑑賞して行く。</p> <p><b>【到達目標】</b> 武の国と見なされて来た南九州にも都で行われていた文学が伝わり、享受されていて、武一辺倒ではなかったことを理解し、郷里を見直してもらう。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 石田忠彦編『鹿児島 文学の舞台』花書院		
授業スケジュール	第 1回 上代 和歌                      万葉集から 第 2回 中古 和歌                      歌枕を中心に 第 3回 中世 和歌                      称名墓志による南九州の歌人 (1) 第 4回 同 上                              同 上                              (2) 第 5回 中世 連歌                      南九州の連歌の作者・作品 第 6回 上代 散文                      古事記から 第 7回 中世 散文                      中世説話から 第 8回 中世 劇文学                      能「鳥追舟」を鑑賞する (1) 第 9回 同 上                              同 上                              (2) 第 10回 中世・近世 漢詩                      南九州の漢詩史 第 11回 近世 和歌                      近世南九州の歌集、歌人 第 12回 近世 俳諧                      近世南九州の俳人 第 13回 近世 散文                      近世の南九州の物語を鑑賞する 第 14回 近世 劇文学                      近松作品を中心に 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業の途中で実施する小論文・レポート (40%)		

授業科目	中国文学史Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。今でこそ文学は娯楽に過ぎませんが、昔の中国においては社会人として生きていくために必要な技能であり、その能力が人生を左右することもありました。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>理解度を確認するため小論文形式のテストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義を理解すると同時に、講義内容を文章でまとめる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 中国文学史1：授業の進め方について</p> <p>第2回 中国文学史2：詩経 (1)</p> <p>第3回 中国文学史3：詩経 (2)，楚辞 (1)</p> <p>第4回 中国文学史4：楚辞 (2)</p> <p>第5回 中国文学史5：諸子 (1)</p> <p>第6回 中国文学史6：諸子 (2)，辞賦 (1)</p> <p>第7回 中国文学史7：辞賦 (2)</p> <p>第8回 中国文学史8：楽府 (1)</p> <p>第9回 中国文学史9：楽府 (2)，五言詩 (1)</p> <p>第10回 中国文学史10：五言詩 (2)</p> <p>第11回 中国文学史11：志怪小説 (1)</p> <p>第12回 中国文学史12：志怪小説 (2)</p> <p>第13回 中国文学史13：近体詩 (1)</p> <p>第14回 中国文学史14：近体詩 (2)</p> <p>第15回 中国文学史15：まとめ</p>		
成績評価の方法	小テスト50%，定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文化の活用</p> <p>【概要】日本のなかで中国文化がどのような形で根づいてきたかを説明します。三国志をはじめ、中国文化は日本人にとって今でも価値を持ちつづけています。不思議となくならないこの価値について、伝統的な漢詩文のほか書画・仏教、そしてサブカルチャーまで見渡し、日本人の価値観の一部としての中国文化を再確認します。</p> <p>理解度を確認するため小論文形式のテストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】日本人が無意識に利用している中国文化を再認識すると同時に、講義内容を文章でまとめる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 中国文化の活用1：授業の進め方について</p> <p>第2回 中国文化の活用2：文字と文章 (1)</p> <p>第3回 中国文化の活用3：文字と文章 (2)</p> <p>第4回 中国文化の活用4：文学とかな (1)</p> <p>第5回 中国文化の活用5：文学とかな (2)</p> <p>第6回 中国文化の活用6：書 (1)</p> <p>第7回 中国文化の活用7：書 (2)</p> <p>第8回 中国文化の活用8：画 (1)</p> <p>第9回 中国文化の活用9：画 (2)</p> <p>第10回 中国文化の活用10：仏教 (1)</p> <p>第11回 中国文化の活用11：仏教 (2)</p> <p>第12回 中国文化の活用12：文学 (1)</p> <p>第13回 中国文化の活用13：文学 (2)</p> <p>第14回 中国文化の活用14：文学 (3)</p> <p>第15回 中国文化の活用15：まとめ</p>		
成績評価の方法	小テスト50%，定期試験50%		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文(白文)を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。昔の中国文化についてもそのつど紹介します。理解度を確認するため小テストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 漢文の文法1: 授業の進め方について 第2回 漢文の文法2: 基本文型 (1) 第3回 漢文の文法3: 基本文型 (2) 第4回 漢文の文法4: 基本文型 (3) 第5回 漢文の文法5: 基本文型 (4) 第6回 漢文の文法6: 基本文型 (5) 第7回 漢文の文法7: 基本文型 (6) 第8回 漢文の文法8: 副詞 第9回 漢文の文法9: 基本文型の連続 第10回 漢文の文法10: フレーズ (1) 第11回 漢文の文法11: フレーズ (2) 第12回 漢文の文法12: フレーズ (3) 第13回 漢文の文法13: フレーズ (4) 第14回 漢文の文法14: フレーズ (5) 第15回 漢文の文法15: まとめ		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っていると役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。理解度を確認するため小テストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 漢文学の基礎1: 授業の進め方について 第2回 漢文学の基礎2: 漢字 (1) 第3回 漢文学の基礎3: 漢字 (2) 第4回 漢文学の基礎4: 漢字 (3) 第5回 漢文学の基礎5: 漢字 (4) 第6回 漢文学の基礎6: 漢字 (5) 第7回 漢文学の基礎7: 漢文 (1) 第8回 漢文学の基礎8: 漢文 (2) 第9回 漢文学の基礎9: 漢文 (3) 第10回 漢文学の基礎10: 漢文学 (1) 第11回 漢文学の基礎11: 漢文学 (2) 第12回 漢文学の基礎12: 中国文学 (1) 第13回 漢文学の基礎13: 中国文学 (2) 第14回 漢文学の基礎14: 中国文学 (3) 第15回 漢文学の基礎15: まとめ		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢作文</p> <p>【概要】漢文を作ります。日本語を漢文に翻訳する形で漢作文の練習をします。これまで漢文は返り点や送り仮名に従って読むだけでしたが、この授業からは作り手になります。さらに作り手の立場で中国文学の作品を読むことで、漢文の表現技術を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】漢文が自由に作れるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 漢作文1：授業の進め方について 第2回 漢作文2：漢作文の技術 第3回 漢作文3：漢作文(1) 第4回 漢作文4：中国文学(1) 第5回 漢作文5：漢作文(2) 第6回 漢作文6：中国文学(2) 第7回 漢作文7：漢作文(3) 第8回 漢作文8：中国文学(3) 第9回 漢作文9：漢作文(4) 第10回 漢作文10：中国文学(4) 第11回 漢作文11：漢作文(5) 第12回 漢作文12：中国文学(5) 第13回 漢作文13：漢作文(6) 第14回 漢作文14：中国文学(6) 第15回 漢作文15：まとめ		
成績評価の方法	予習と質疑応答100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学に関する報告書作成とプレゼンテーション、口頭試問</p> <p>【概要】中国文学に関する文献を素材にして、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。発表は文章による報告書、説得を重視するプレゼンテーション、質問への対応にしばられた口頭試問からなり、総合的な表現力向上を図ります。</p> <p>どのステップも社会人に必要な技術であることを常に意識して演習を進めます。</p> <p>【到達目標】中国文学に限らず、社会人一般に求められている企画力の充実を目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 企画力1：授業の進め方について 第2回 企画力2：文献を利用した企画(1) 第3回 企画力3：文献を利用した企画(2) 第4回 企画力4：文献を利用した企画(3) 第5回 企画力5：文献を利用した企画(4) 第6回 企画力6：石碑調査の企画(1) 第7回 企画力7：石碑調査の企画(2) 第8回 企画力8：石碑調査の企画(3) 第9回 企画力9：石碑調査の企画(4) 第10回 企画力10：石碑調査の企画(5) 第11回 企画力11：論文の読み方 第12回 企画力12：研究の企画(1) 第13回 企画力13：研究の企画(2) 第14回 企画力14：研究の企画(3) 第15回 企画力15：まとめ		
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅲ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文輪読</p> <p>【概要】中国文学の論文を全員で読みます。発表担当者を決めて、卒業論文作成に向けて関心のある論文を用意してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、論文の書き方を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 授業中に指示します。		
授業スケジュール	第1回 中国文学の論文輪読1：授業の進め方について 第2回 中国文学の論文輪読2：論文(1) 第3回 中国文学の論文輪読3：論文(2) 第4回 中国文学の論文輪読4：論文(3) 第5回 中国文学の論文輪読5：論文(4) 第6回 中国文学の論文輪読6：論文(5) 第7回 中国文学の論文輪読7：論文(6) 第8回 中国文学の論文輪読8：論文(7) 第9回 中国文学の論文輪読9：論文(8) 第10回 中国文学の論文輪読10：論文(9) 第11回 中国文学の論文輪読11：論文(10) 第12回 中国文学の論文輪読12：論文(11) 第13回 中国文学の論文輪読13：論文(12) 第14回 中国文学の論文輪読14：論文(13) 第15回 中国文学の論文輪読15：まとめ		
成績評価の方法	予習と質疑応答100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	卒業研究Ⅰ、Ⅱ	担当者	専攻教員全員
	[履修年次] 2年 [単位] 各1単位	[学期] 前期、後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。</p> <p>1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。</p> <p>教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書		
授業スケジュール	I 第1回 オリエンテーション：卒業論文の進め方 II 第1回 論文作成：その1 第2回 論文作成：その1 第2回 論文作成：その2 第3回 論文作成：その2 第3回 論文作成：その3 第4回 論文作成：その3 第4回 論文作成：その4 第5回 論文作成：その4 第5回 論文作成：その5 第6回 論文作成：その5 第6回 論文作成：その6 第7回 論文作成：その6 第7回 論文作成：その7 第8回 論文作成：その7 第8回 論文作成：その8 第9回 論文作成：その8 第9回 論文作成：その9 第10回 論文作成：その9 第10回 論文作成：その10 第11回 論文作成：その10 第11回 論文作成：その11 第12回 論文作成：その11 第12回 発表準備：その1 第13回 論文作成：その12 第13回 発表準備：その2 第14回 論文作成：その13 第14回 発表準備：その3 第15回 まとめ 第15回 まとめ		
成績評価の方法	I：中間報告100% II：卒業論文75%、口頭発表25%		

授業科目	英文学史	担当者	轟義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂 (2) サブテキストは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：講義方式の説明、文学史の科目に潜む問題点の探究 第2回 18世紀の小説（その一）：18世紀の小説とその周辺に関する諸問題 第3回 18世紀の小説（その二）：18世紀の小説におけるH. フィールドディング、L. スターン、T. スモレットの役割 第4回 18世紀の小説（その三）：18世紀後半のゴシック小説 第5回 18世紀の小説（その四）：J. オースティンの小説 第6回 18世紀の小説に関する小テスト、19世紀の小説（その一）：19世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴 第7回 19世紀の小説（その二）：C. ディケンズの小説 第8回 19世紀の小説（その三）：W. M. サッカレーの小説、ブロンテ姉妹の小説 第9回 19世紀の小説（その四）：ダーウィニズムの影響、19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説 第10回 19世紀の小説に関する小テスト、20世紀の小説（その一）：20世紀小説の特徴 第11回 20世紀の小説（その二）：V. ウルフの小説、H. ジェイムズの小説、E. M. フォスターの小説 第12回 20世紀の小説（その三）：D. H. ロレンスの小説 第13回 20世紀の小説（その四）：H. G. ウェルズの小説 第14回 20世紀の小説に関する小テスト、映像課題に関する発表会 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、講義中の小テスト/授業への取り組み（30%）、課題レポート(10%)		

授業科目	米文学史	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Henry David Thoreau's <u>Walden</u>. 「ウォールデン 森の生活」</p> <p>【概要】The course will include lectures and group presentations. Students will write short, creative essays and make presentations. Quizzes will test comprehension of reading and lecture content.</p> <p>【到達目標】The course uses creative writing as a tool of literary analysis to raise consciousness of the literary, social, and cultural history of the United States.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>Walden</u> , Henry David Thoreau (IBC, 2007) (リライト: マイケル・ブレース) (2) なし		
授業スケジュール	第1回 Introduction. 第2回～第4回 第5回～第7回 Writing workshop. (Quiz 10%) 第8回 Presentations. (10%) 第9回 Review (Quiz 10%). 第10回 Historical background. 第11回 Reading, discussion 第12回 Reading, discussion 第13回 Presentations (10%). 第14回 Review (Quiz 10%) 第15回 Discussion of quiz results and general review		
成績評価の方法	授業への参加(50%)；小テスト、発表、詩(50%)。		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】広い視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第 1回 文化・異文化とは？ 第 2回 コミュニケーションとは？ 第 3回 言語・非言語コミュニケーション1 第 4回 言語・非言語コミュニケーション2 第 5回 言語・非言語コミュニケーション3 第 6回 ステレオタイプと偏見 第 7回 オリエンタリズム 第 8回 価値観 第 9回 グローバリゼーションと文化・文明の衝突 第 10回 ディアスポラ 第 11回 カルチャーショックと異文化適応 第 12回 翻訳と通訳 第 13回 異文化コミュニケーションの方法1 第 14回 異文化コミュニケーションの方法2 第 15回 多文化共生		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , 筆記試験 (70%)		

授業科目	書道 I	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楷書・行書・かなの特徴と書法</p> <p>【概要】 書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。 本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。</p> <p>【到達目標】 楷書・行書・かなの書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典 I, II, III』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第 1回 書について (書体の特徴とその変遷) 第 2回 楷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第 3回 " " 第 4回 " " 第 5回 " (細字の書き方) 第 6回 " " 第 7回 行書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第 8回 " " 第 9回 " " 第 10回 " (細字の書き方) 第 11回 " " 第 12回 かなの特徴と書き方 (いろは単体) 第 13回 " " 第 14回 " (連綿とその応用) 第 15回 " "		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

(注) 教職必修

授業科目	<b>書道Ⅱ</b>	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 楷書・行書の古典学習及び草書の特徴と書法</p> <p><b>【概要】</b> 本講座では、楷書・行書と草書の学習に終始する。書の基本となる書体は楷書であり、日常生活において最も多用される文字は行書である。それらの古典を学ぶことにより、運筆の要領を習得し、文字造形の特徴を把握することに努める。草書は芸術性が重視される書体で、日常ではその文字がほとんど目にしないが、書の知識を広げ、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。</p> <p><b>【到達目標】</b> 楷書・行書の古典の特徴を把握し、草書の特徴と書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊		
授業スケジュール	第1回 楷書の古典 (九成宮醜泉銘) 第2回 " " 第3回 " (始平公造像記) 第4回 " " 第5回 行書の古典 (蘭亭叙) 第6回 " " 第7回 " (苕溪詩卷) 第8回 " (呉昌碩詩稿) 第9回 " (風信帖) 第10回 " " 第11回 草書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第12回 " " 第13回 草書の古典 (書譜) 第14回 " " 第15回 " (擬山園帖)		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

(注) 教職必修

授業科目	<b>書道Ⅲ</b>	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 隷書・篆書の特徴と書法</p> <p><b>【概要】</b> 書道Ⅲでは隷書と篆書を中心に学習する。隷書は今から1800年前の漢時代に生まれた書体であるが、その文字は現代でも紙幣等に使用されて生きている。隷書の技法を学び、造形のおもしろさを実感してもらう。篆書は中国最古の文字。金文と小篆のユニークな字形や筆法を学習する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 隷書・篆書の特徴とその書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 隷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第2回 " " 第3回 " " 第4回 隷書の古典 (曹全碑の臨書) 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " (礼器碑の臨書) 第8回 " " 第9回 篆書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第10回 " " 第11回 篆書の古典 (散氏盤の臨書) 第12回 " " 第13回 " (石鼓文の臨書) 第14回 " " 第15回 " (趙之謙篆書対聯)		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

授業科目	書道Ⅳ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年                      [学期] 後期 [単位] 1単位                      [必修/選択] 選択                      [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> かなの古典学習と作品制作</p> <p><b>【概要】</b> 日本の書を代表するかな（古筆）の学習を通して、その芸術性と文字の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追求したい。後半は書道学習の集大成として創作にチャレンジする。自用印を刻し、創作作品に押印して総仕上げとする。書の楽しさと魅力を味わってもらうことも目的である。</p> <p><b>【到達目標】</b> かなの古典を習得することと創作作品が書けるようになること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 かなの古典（高野切第1種） 第2回                      "                      " 第3回                      "（高野切第3種） 第4回                      "                      " 第5回                      "（寸松庵色紙） 第6回                      "                      " 第7回 作品制作（篆刻—自用印） 第8回                      "                      " 第9回                      "                      " 第10回                      "                      " 第11回                      "（漢字作品—4字熟語） 第12回                      "                      " 第13回                      "                      " 第14回                      "（調和体作品） 第15回                      "                      "		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

## 6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	スタディスキルズ	担当者	久木田 美枝子・轟 義昭・中谷彩一郎・遠峯伸一郎
	[履修年次] 1年 [必修/選択] 必修	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式 (一部演習)	[単位] 2単位
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成</p> <p>【概要】大学での専門的「勉強」は、受動的に知識を吸収するだけでは不十分で、あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力）、それについて論理的に議論を展開し、自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では、その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術－「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」－を段階的に学んでいき、あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。</p> <p>【到達目標】与えられたテーマについて自らの意見を持ち、その意見を論理的に展開できるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 学習技術研究会『知へのステップ 第3版－大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版		
授業スケジュール	第1回 イントロ：「生徒」から「学生」へ 第2回 「聴く」と「読む」：積極的な聞き手と読み手になるために 第3回 「深く読む」：論旨や要点を整理して分析的に進む 第4回 「調べる」と「整理する」：大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方 第5回 「まとめる」と「書く」(その一)：レポート作成のための効果的なアカデミック・ライティング 第6回 「まとめる」と「書く」(その二)：パソコンによるライティング・スキル (レポート作成術) 第7回 「表現する」と「伝える」：自分の意見をわかりやすく表現して伝える (その一) 第8回 「表現する」と「伝える」：自分の意見をわかりやすく表現して伝える (その二) 第9回 学習で修得した基本的な技術の確認 第10回 レポート作成の第一歩 (テーマの設定から最後の主張に至る展開術) 第11回 レポート作成の実践 (その一) 第12回 レポート作成の実践 (その二) 第13回 レポート作成の実践 (その三) 第14回 発表用スライドの作成：パワーポイントの活用 第15回 プレゼンテーション		
成績評価の方法	レポート (60%)、プレゼンテーション (10%)、授業時の取り組み (30%)		

授業科目	言語学概論	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第2回 音声学・音韻論 (1)：調音音声学、子音・母音・モーラおよび音素、音韻規則 第3回 音声学・音韻論 (2)：連濁、枝分かれ制約 第4回 形態論：派生、複合など単語を生み出す仕組み 第5回 統語論：文の骨組みを作る仕組み 第6回 意味論 (1)：単語の意味 第7回 意味論 (2)：文と文の間の意味関係 第8回 語用論 (1)：間接的言語行為と協調の原則 第9回 語用論 (2)：会話の含意 第10回 語用論 (3)：ポライトネスと敬語 第11回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第12回 言語獲得のメカニズム：生成文法と普遍文法、母語獲得、外国語獲得 第13回 バイリンガリズム：言語習得の臨界期、コードスイッチング、加算・減算的バイリンガリズム 第14回 これまでの復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言や参加度：30%、小テスト30%、期末試験：40%		

授業科目	比較文学	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学とは何か</p> <p>【概要】比較文学は現在も発展しつづけている新しい研究分野であり、その定義も一様ではない。本講義では「比較」という手法を通して、文学作品を考える新たな視点を発見することを目標とする。本年度はシェイクスピア『ロミオとジュリエット』を軸として、材源や後世の作品との影響関係、翻訳、テーマに基づく対比、芸術等とのジャンルを越えた比較など、さまざまな角度から『ロミオとジュリエット』の変容をみていくことにしたい。</p> <p>【到達目標】比較文学の研究手法を学び、多角的な視点からテキストを分析できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	シェイクスピア (河合祥一郎訳) 『新訳 ロミオとジュリエット』 (角川文庫, 2005)		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン：比較文学とは？ 第 2回 概説1：『ロミオとジュリエット』分析 第 3回 概説2：『ロミオとジュリエット』分析 (つづき) 第 4回 影響の研究：材源研究 第 5回 影響の研究：後世の文学 (ケラー「村のロメオとユリア」など) 第 6回 上演と翻訳：英国と日本における『ロミオとジュリエット』上演史と邦訳の変遷 第 7回 パロディ：井上ひさし『天保十二年のシェイクスピア』, トム・ストップパード『恋に落ちたシェイクスピア』 第 8回 対比研究：『ロミオとジュリエット』と「ピラムスとティスベ」 (オウィディウス『変身物語』) など 第 9回 対比研究：『ロミオとジュリエット』と近松半二『妹背山婦女庭訓』 第 10回 文学と芸術1：美術と音楽 第 11回 文学と芸術2：バレエ プロコフィエフ『ロメオとジュリエット』 第 12回 文学と芸術3：オペラとミュージカル グノー『ロメオとジュリエット』, 映画『ウェスト・サイド・ストーリー』 第 13回 文学と芸術4：映画化作品 『ロミオとジュリエット』, 『ロミオ+ジュリエット』 第 14回 文学と芸術5：漫画とアニメ 美内すずえ『ガラスの仮面』, アニメ『ロミオ×ジュリエット』 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%), 4,000字のレポート (70%)		

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 (注) [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Oral communication</p> <p>【概要】 Students practice asking and answering questions on a variety of topics. Common errors are studied systematically. Original dialogues are rehearsed and performed to increase retention. To practice pronunciation, we perform a song together for students in other sections of Oral Communication I.</p> <p>【到達目標】 The aim is to increase fluency in English. Students will be made familiar with ways of asking and responding to questions posed about new information.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『日本人にありがちな英語の落とし穴』 (デイビッド・バーカー、Back to Basics, 2010) (2) Song lyrics, short texts distributed in class		
授業スケジュール	第1～2回 Topics 1 and 2 第3～4回 Topics 3 and 4 第5～6回 Topics 5 and 6 第7～8回 Topics 7 and 8 第9～10回 Topics 9 and 10 第11～12回 Topics 11 and 12 第13～14回 Topics 13 and 14 第15～16回 Topics 15 and 16	第17～18回 Topics 17 and 18 第19～20回 Topics 19 and 20 第21～22回 Topics 21 and 22 第23～24回 Topics 23 and 24 第25～26回 Topics 25 and 26 第27～28回 Topics 25 and 26 第29回 Topic 27 第30回 実践	
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a practical course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of basic language patterns and strategies for everyday conversation. Pair practice will be an integral part of classroom practice.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students comprehend and communicate in English more spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Tom Kenny &amp; Linda Woo, <i>Nice Talking with You I</i>, Cambridge University Press David Barker, <i>An A-Z of Common English Errors for Japanese Learners</i>, Back to Basics Press</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1週 Introduction 第2週 Unit 1 A・B 第3週 Unit 1 C・D 第4週 Unit 2 A・B 第5週 Unit 2 C・D, evaluation 第6週 Unit 3 A・B 第7週 Unit 3 C・D 第8週 Unit 4 A・B 第9週 Unit 4 C・D, evaluation 第10週 Unit 5 A・B 第11週 Unit 5 C・D 第12週 Unit 6 A・B 第13週 Unit 6 C・D, evaluation 第14週 Review 1-6 第15週 まとめ/オーラル・レポート</p>		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合(30%)、Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表(70%)		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーション I (C)	担当者	ジョン デグルシー
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p><u>Course Description.</u> Students will exchange information on a variety of interesting topics while learning not to repeat common mistakes that some Japanese students make. Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.</p>		
使用教材 (1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) <u>Smart Choice 3</u>, by Ken Wilson (2) <u>Common English Errors for Japanese Learners</u>, by David Barker</p>		
授業スケジュール	<p>Weeks 1: Introduction Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through both texts, aiming to complete 9 units from <u>Common Errors</u> and 10 chapters from <u>Smart Choice 3</u> in the first semester. A short review quiz will follow after each two chapters of Smart Choice. Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview</p>		
成績評価の方法	Attendance and participation (40%); short quizzes, written and listening (30%); final oral interview (30%)		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	フィリップ・アダメック																																
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 (注) 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式																																		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Oral communication</p> <p>【概要】 Students ask and answer questions on a variety of topics. Common errors are studied systematically, following from OCI classes. Original dialogues are rehearsed and performed to increase retention.</p> <p>【到達目標】 The aim is to increase fluency in English and bring students to think critically about their own study of language. Elements to be practiced will include direct and indirect speech, question formation, and stating personal views.</p>																																		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『日本人にありがちな英語の落とし穴』 (デイビッド・バーカー、Back to Basics, 2010) (2) なし																																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1～2回</td> <td>Introduction</td> <td>第17～18回</td> <td>Topic 6</td> </tr> <tr> <td>第3～4回</td> <td>Introduction</td> <td>第19～20回</td> <td>Review and role play</td> </tr> <tr> <td>第5～6回</td> <td>Topic 1</td> <td>第21～22回</td> <td>Topic 7</td> </tr> <tr> <td>第7～8回</td> <td>Topic 2</td> <td>第23～24回</td> <td>Topic 8</td> </tr> <tr> <td>第9～10回</td> <td>Topic 3</td> <td>第25～26回</td> <td>Topic 9</td> </tr> <tr> <td>第11～12回</td> <td>Review and role play</td> <td>第27～28回</td> <td>Topic 10</td> </tr> <tr> <td>第13～14回</td> <td>Topic 4</td> <td>第29回</td> <td>Topic 11</td> </tr> <tr> <td>第15～16回</td> <td>Topic 5</td> <td>第30回</td> <td>Review and role play</td> </tr> </table>			第1～2回	Introduction	第17～18回	Topic 6	第3～4回	Introduction	第19～20回	Review and role play	第5～6回	Topic 1	第21～22回	Topic 7	第7～8回	Topic 2	第23～24回	Topic 8	第9～10回	Topic 3	第25～26回	Topic 9	第11～12回	Review and role play	第27～28回	Topic 10	第13～14回	Topic 4	第29回	Topic 11	第15～16回	Topic 5	第30回	Review and role play
第1～2回	Introduction	第17～18回	Topic 6																																
第3～4回	Introduction	第19～20回	Review and role play																																
第5～6回	Topic 1	第21～22回	Topic 7																																
第7～8回	Topic 2	第23～24回	Topic 8																																
第9～10回	Topic 3	第25～26回	Topic 9																																
第11～12回	Review and role play	第27～28回	Topic 10																																
第13～14回	Topic 4	第29回	Topic 11																																
第15～16回	Topic 5	第30回	Review and role play																																
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)																																		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 (注) 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to further improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice will be an integral part of classroom work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further comprehend and communicate in English spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Tom Kenny & Linda Woo, <i>Nice Talking with You 1</i> , Cambridge University Press David Barker, <i>An A-Z of Common English Errors for Japanese Learners</i> , Back to Basics Press (2)		
授業スケジュール	第1週 Introduction 第2週 Unit 7 A-B 第3週 Unit 7 C-D 第4週 Unit 8 A-B 第5週 Unit 8 C-D, evaluation 第6週 Unit 9 A-B 第7週 Unit 9 C-D 第8週 Unit 10 A-B 第9週 Unit 10 C-D, evaluation 第10週 Unit 11 A-B 第11週 Unit 11 C-D 第12週 Unit 12 A-B 第13週 Unit 12 C-D, evaluation 第14週 Review 7-12 第15週 まとめ/オーラル・レポート		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (30%)、 Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーション II	担当者	ジョン デグルシー
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 (注) 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 必修                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<u>Course Description.</u> Students will exchange information on a variety of interesting topics while learning not to repeat common mistakes that some Japanese students make. Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.		
使用教材 (1) テキスト (2) 参考文献	Smart Choice 3, by Ken Wilson Common English Errors for Japanese Learners, by David Barker		
授業スケジュール	Weeks 1: Introduction Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through the text, aiming to complete 9 units from <u>Common Errors</u> and 10 chapters from <u>Smart Choice 3</u> in the second semester. A short review test will follow each two chapters. Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview		
成績評価の方法	Attendance and participation (40%); short quizzes, written and listening (30%); final oral interview (30%)		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 必修                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Oral communication 【概要】 Students complete textbooks exercises and practice asking and answering questions relating to the conversation topics. 【到達目標】 The aim is to increase fluency by practicing vocabulary and notions that are important to today's students and citizens. We will integrate brainstorming, reading, listening, writing, and role playing in accordance with Greg Goodmacher's outline.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Stimulating Conversation, Greg Goodmacher (Intercom Press, 2008). (2) なし		
授業スケジュール	第1回 イン트로ダクション 第2回 リーディングとディスカッション Unit 1                      第9回 リーディングとディスカッション Unit 8 第3回 リーディングとディスカッション Unit 2                      第10回 リーディングとディスカッション Unit 9 第4回 リーディングとディスカッション Unit 3                      第11回 リーディングとディスカッション Unit 10 第5回 リーディングとディスカッション Unit 4                      第12回 リーディングとディスカッション Unit 11 第6回 リーディングとディスカッション Unit 5                      第13回 リーディングとディスカッション Unit 12 第7回 リーディングとディスカッション Unit 6                      第14回 実践 (面接) 第8回 リーディングとディスカッション Unit 7                      第15回 実践		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の割合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course aimed at developing the students' vocabulary and ability to communicate their ideas spontaneously and independently.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on speaking and vocabulary work, centered around discussions of timely themes .</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become spontaneous in understanding and expressing themselves in English. They should become able to carry on a discussion with confidence.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Barry Ward, <i>Impact Issues 3</i> , Pearson Longman (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Topic 1 第3回 Topic 2 第4回 Topic 3 第5回 Topic 4 第6回 Topic 5 第7回 Topic 6 第8回 Topic 7 第9回 Topic 8 第10回 Topic 9 第11回 Topic 10 第12回 Topic 11 第13回 Topic 12 第14回 Topic 13 第15回 まとめ/オーラル・プレゼンテーション		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (30%)、 Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

授業科目	Oral CommunicationⅢ	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 2 <sup>nd</sup> Year [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations.</p> <p>【概要】 Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Identity J. Shaules et al Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第1回-第6回 Key topics from the first half of the textbook based on students own interests 第7回 Review Quiz of first half of semester 第8回-第14回 Key topics from the units in the second half of the textbook 第15回 Final Quiz		
成績評価の方法	Participation in class 30% Vocabulary and short quizzes 30% Mid Term Quiz 20% Final Quiz 20%		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an advanced course aimed at polishing the students' listening and speaking ability.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on (1) a study of English idiomatic expressions using natural dialogs, conversation practice, and listening practice; and (2) speech work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become confident in expressing their ideas in a more formal way through speeches.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction & Speech lesson 1 第2回 Speech lesson 2 第3回 Speech lesson 3 第4回 Speech assignment #1 第5回 Idioms, Unit 1 第6回 Idioms, Unit 2 第7回 Idioms, Unit 3 第8回 Idioms, Unit 4 第9回 Speech assignment #2 第10回 Idioms, Unit 5 第11回 Idioms, Unit 6 第12回 Idioms, Unit 7 第13回 Idioms, Unit 8 第14回 Speech assignment #3 第15回 まとめ/オーラル・プレゼンテーション		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (30%)、 Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

授業科目	Oral CommunicationⅣ	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 2nd Year [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English.</p> <p>【概要】 Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第1回-第4回 Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap 第5回-第6回 World Music and expressing opinions about it 第7回 Review Quiz 第8回-第11回 Health, Diets and the Pressures of the Mass Media 第12回-第14回 Travel and plans for the future 第15回 Final Quiz		
成績評価の方法	Participation in class 30% Vocabulary and short quizzes 30% Mid Term Quiz 20% Final Quiz 20%		

授業科目	LL演習Ⅰ	担当者	久木田美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、1年前期では、自然な英語をそのまま聴き取る基礎的力の養成に力点を置きながら、簡単な英語でのプレゼンテーション能力を培う。LL教室使用</p> <p>【概要】21世紀に入って、意外な変容を呈しているアメリカ社会・文化の様々な側面を紹介したテキストを軸に、国際交流の基礎となる異文化理解を狙いとし、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】自然な英語の聴解力とともに、簡単な英語でのプレゼンテーションに慣れる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Akira Morita 他著, <i>Kaleidoscope U.S.A.</i>, 成美堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 500</i>, 松柏社</p> <p>(2) John Lander 著, <i>American Voyager</i>, 朝日出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction 第2回 Hot Dogs Firefighter 第3回 Firefighter The Sounds of Bluegrass 第4回 The Sounds of Bluegrass Harlem Reborn 第5回 Harlem Reborn 第6回 Islam in America 第7回 UFO Fever 第8回 The Teddy Bear 第9回 At-Home Dads 第10回 Big Wave Rider 第11回 Historic Route 66 第12回 Cheerleader 第13回 Pets in America 第14回 Native American Olympics 第15回 Summarization</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅱ	担当者	久木田美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式	[単位] 1単位	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、1年後期では、中級程度の自然な英語をそのまま聴き取る力の養成に力点を置きながら、簡単な英語でのプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>【概要】NHK 衛星放送の What's on Japan と News Today 30 Minutes から採択し、日本社会及び近隣諸国の最近の動向を簡潔にまとめたテキストを軸に、バランスのとれた中級程度の英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】自然な英語の聴解力とともに、簡単な英語でのプレゼンテーションに慣れるとともに、数々のトピックに関して自分の考えを英語で表現する能力をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Tatsuroh Yamasaki 他著, <i>What's on Japan 7</i>, 金星堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 600</i>, 松柏社</p> <p>(2) Steve Lia 他著, <i>Australia, Here We Come!</i>, 朝日出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction 第2回 Recruitment Rethink 第3回 Less Is More 第4回 Rising Above Disaster 第5回 Unfolding Opportunities 第6回 Proactive Protection 第7回 Inner Vision 第8回 Noteworthy Trend 第9回 Catching Consumers 第10回 Toward Alternatives 第11回 Her True Colors 第12回 Clean Cut Vegetables 第13回 Dining and Signing 第14回 High-tech Helpers 第15回 Summarization</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅲ	担当者	久木田美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、2年前期では、多様性のある自然な英語の聴解力の養成に力点を置きながら、より高度な英語でのプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>【概要】前半は、海外で活躍する人々にインタビューした録音素材を基に、話の内容を速解し自分の英語で要約を書いた後、英語でディスカッションする。</p> <p>後半は、ABC放送のテレビニュース番組 "World News Today" を録画したテキストを基に、揺れ動くアメリカと世界の「現在」を学びながら、バランスのとれた高度な総合的英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】比較的速い自然な英語の聴解力とともに、高度な英語でのプレゼンテーションに慣れるとともに、数々のトピックに関して自分の考えを英語で表現する能力をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Shigeru Yamane 他著, <i>ABC World News 15</i>, 金星堂</p> <p>(2) 随時プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction 第2回 Modern Family 第3回 Extreme Weather 第4回 The Comeback: Returning Home 第5回 Solving a Mystery: Amelia Earhart 第6回 Washington Watchdog: The Pennies 第7回 Arctic Adventure 第8回 Tapping for Tuition 第9回 A Papal Visit to Cuba 第10回 American Pilots in Demand in China 第11回 Healthy Living: Getting Enough Sleep 第12回 Hybrid Hype? 第13回 Undercover Grandma: Medicare Fraud 第14回 Dangers Exposed: On the Runway 第15回 Summarization</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と授業の発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	コミュニケーション概論	担当者	久木田美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】多文化共生の現代国際社会における、国際理解と英語コミュニケーションについて考察し、望ましい積極的異文化受容の基本的姿勢についても考察する。</p> <p>【概要】 前半…現代の国際社会に必要とされている基本的異文化コミュニケーション理論を概説する 後半…世界各地から日本にやってきた留学生が、それぞれの文化的背景をもちながら、どのように現代日本と係わっているかを扱ったビデオを基に、これからの国際的日本人としてどのような点が重要かも考えていきたい。</p> <p>【到達目標】積極的異文化受容の基本的姿勢を培うと同時に、基本的な異文化コミュニケーションの基本的姿勢をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) David K. Groff 他著, <i>The "I" in Identity</i>, 南雲堂</p> <p>(2) 八木京子他著, 『異文化トレーニング』, 三修社 八木京子他著, 『異文化コミュニケーション ワークブック』, 三修社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに 第2回 英語の国際化と多様性 Unit 1 Australia--Dealing with Cultural Differences 第3回 " " Unit 2 The United States--Overcoming Prejudice 第4回 TESOL 教育とバイリンガル教育 Unit 3 The United States--Religion and Identity 第5回 " " Unit 4 India--Coexistence in a Multicultural Nation 第6回 「学校英語」と英語コミュニケーション Unit 5 Russia--Living as a Stranger 第7回 ハイ&amp;ローコンテクストカルチャー Unit 6 Malaysia--Dealing with Unfairness 第8回 " " Unit 7 The United States--Racial Tension in the Heartland 第9回 D. I. E. メソッド Unit 8 The United States--Growing through Hardship 第10回 " " Unit 9 Korea--Japan's Closest Neighbor 第11回 異文化への適応体験の諸相 Unit 10 Brazil--From Many Cultures, One Nation 第12回 " " Unit 11 The United States--Searching for Identity 第13回 異文化感受性モデル Unit 12 Hong Kong--The 'Fragrant Harbor' and National Identity 第14回 " " Unit 13 Introducing Japanese Culture--Kimono 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と授業の発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	ビジネス 英語	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Success in Business and A Right Communication Style ビジネスの成果と正しいコミュニケーション能力</p> <p>【概要】 学生の皆さん、“Roma meravigliosa non era costruita durante una notte”(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、国際会議で経済発展について完璧なフランス語やギリシア語で講演した者はいない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、ドイツ語も簡単さ) という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	城 由紀子他、”Business Talk”(やさしいオフィス英語、成美堂。(ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082 又、必要に応じて習熟資料を配布する		
授業スケジュール	第 1回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。 第 2回 Unit 2. Application Letter.( 英和訳、読解等 ◇ ) 第 3回 同題 ( 教官と共に内容まとめとコミュニケーション練習 ◎ ) 第 4回 Unit 4. A Job Interview. ( ◇ ◎ ) 第 5回 Unit 5. Job Offer. ( ◇ ◎ ) 第 6回 Unit 7. Preparing to Work ( ◇ ) 第 7回 同 ( ◎ ) 第 8回 Unit 9. Taking A Message. ( ◇ ◎ ) 第 9回 Unit 11. Visiting A Client ( ◇ and ◎ ) 第 10回 Unit 13. Greeting A Visitor at Narita Airport ( ◇ ) 第 11回 同 ( ◎ ) 第 12回 Unit 16. Entertaining a Visitor to Kyoto ( ◇ and ◎ ) 第 13回 Unit 21. The First Business Trip. ( ◇ ◎ ) 第 14回 St. Valentine’s Day ( ◇ ◎ ) 第 15回 受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計		

授業科目	通訳入門	担当者	久木田美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代の国際化社会に必要とされる通訳の世界について、歴史と現状、将来の展望について概説し、高められた英語運用能力を前提としながら、英日・日英逐次通訳及び同時通訳等の理論と手法を習得する。</p> <p>【概要】 通訳理論を概説した後、プロ通訳養成の手法を取り入れ、様々な状況で、具体的な通訳訓練法：リスニング、音読、リピーティング、シャドーイング、スラッシュ・リーディング、スラッシュ・リスニング、順送り訳、メモ取り/メモ化、サイト・トランスレーション、同時サイトトランスレーション、メモリーレッスン、リプロダクション、サマライゼーション、同時通訳、逐次通訳、要約通訳などの手法を習得する。</p> <p>【到達目標】 高められた英語運用能力を、実践的な通訳手法に反映させ、「より自然な英語」及び「より自然な日本語」の表現を体得すると同時に、ボランティア通訳などの可能性も探る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 日本通訳協会編、『英語通訳への道』、大修館書店 (2) 柴田バネッサ監修、『通訳トレーニング入門』、アルク		
授業スケジュール	第 1回 はじめに 第 2回 通訳の現場から 第 3回 通訳の世界・歴史と現状、将来展望 第 4回 通訳への基礎訓練 第 5回 通訳技術の訓練 第 6回 茶道のいろは 第 7回 留守番電話に入った伝言 第 8回 特別ゲストを迎えて 第 9回 ビジネスの国際化が進む中… 第 10回 英語で日本を紹介する 第 11回 今日のプレゼンテーションは… 第 12回 英語習得の必要性、外国人学生と英語の習得 第 13回 ニュースの通訳に挑戦 第 14回 // 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と授業の発言内容 (50%)、レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学概論	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 講義 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語学の諸分野(音声学・音韻論, 形態論, 意味論, 統語論, 語用論)の入門</p> <p>【概要】 英語を題材に, 音声学・音韻論, 形態論, 意味論, 統語論, 語用論の各分野を概観する。</p> <p>【到達目標】 音声学・音韻論, 形態論, 統語論, 意味論, 語用論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して, 授業で扱っていない例を分析できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 池上嘉彦『英語の感覚・日本語の感覚(ことばの意味)のしくみ』NHKブックス その他参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス, 英語学とは何か</p> <p>第2回 音声学・音韻論(1) 英語の音</p> <p>第3回 音声学・音韻論(2) 音素と異音</p> <p>第4回 音声学・音韻論(3) 語のアクセント位置</p> <p>第5回 意味論(1) 上位語・下位語, 同義・類義・反義</p> <p>第6回 意味論(2) 比喻</p> <p>第7回 意味論(3) 文脈と文法の関係 語題化, be動詞を軸にした倒置</p> <p>第8回 意味論小テスト, 形態論(1) 語の語尾変化と接辞-屈折と派生</p> <p>第9回 形態論(2) 複数の語を合わせて1つの語を作る-複合語と句の違い, 内心複合語と外心複合語</p> <p>第10回 形態論(3) 語形を変化させずに品詞を変化させる-転換, その他の語形成過程について</p> <p>第11回 形態論小テスト, 統語論(1) 構造的多義</p> <p>第12回 統語論(2) 樹形図と構成素構造</p> <p>第13回 統語論(3) 句構造規則</p> <p>第14回 統語論小テスト, 語用論 理解される意味と文字通りの意味の乖離</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験(35%) + 小テスト(55%) + 宿題と授業への参加状況(10%)		

(注) 教職必修

授業科目	英文法	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択(注) 〔授業形態〕 講義 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語の記述文法</p> <p>【概要】 時制, 相, 名詞, 冠詞, 不定詞, 動名詞, 前置詞の各分野について記述文法を詳しく学ぶ。</p> <p>【到達目標】 英文法の学習を通して英語を分析的に見る力を養い, 英語の読解力・表現力を向上させることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) Murphy, R. and W. R. Smalzer, <i>Grammar in Use: Intermediate</i>, Cambridge University Press, 久野章・高見健一, 『謎解きの英文法』, くろしお出版。その他の参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス, 英文法を学ぶ意義-「なぜ」を説明できるために</p> <p>第2回 時制・相(1) 現在形と現在進行形を理解する</p> <p>第3回 時制・相(2) 過去形と現在完了形を理解する</p> <p>第4回 時制・相(3) 現在完了進行形を理解する</p> <p>第5回 ささまざまな未来の表現を理解する</p> <p>第6回 小テスト1, 名詞・冠詞(1) 名詞における可算・不可算の区別を理解する</p> <p>第7回 名詞・冠詞(2) 定冠詞と不定冠詞の用法を理解する</p> <p>第8回 名詞・冠詞(3) 総称表現を理解する</p> <p>第9回 名詞・冠詞(4) 名詞・冠詞総合演習</p> <p>第10回 小テスト2, 前置詞の使い分けを理解する</p> <p>第11回 前置詞における意味の比喩的拡張を理解する</p> <p>第12回 準動詞(1) 不定詞と動名詞の使い分けを理解する</p> <p>第13回 準動詞(2) 動詞+目的語+to 不定詞構文を理解する</p> <p>第14回 小テスト3</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験(40%) + 小テスト(50%) + 授業への参加状況(10%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語史	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 2年                   〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                   〔必修/選択〕 選択           〔授業形態〕 講義 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の歴史を概観する。古英語と中英語に触れる。</p> <p>【概要】インドヨーロッパ祖語に端を発する英語の歴史を概観する。古英語と中英語のテキストを読み言語変化の実際に触れる。</p> <p>【到達目標】英語の歴史について基礎的な知識を身につける。古英語および中英語を読むことを通し、英語がその歴史の中でどのように変化したか学ぶ。言語が変わりうるものであること、そしてどのようなきっかけで変化が起きるのかを学び、英語を含む言語一般に対する理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 児馬修、『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房(第1章から第9章)、寺澤盾、『英語の歴史』中公新書1971、宇賀治正朋、『現代の英語学シリーズ8 英語史』、開拓社。その他の参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、言語の変化 第2回 英語の遠い先祖—インドヨーロッパ祖語 第3回 ブリテン島とケルト人 第4回 アングロ・サクソンのブリテン島侵入 第5回 古英語 第6回 デーン人の侵攻 第7回 ノルマン征服 第8回 中英語 第9回 近代英語 第10回 現代英語 第11回 古英語を読む(1) 第12回 古英語を読む(2) 第13回 中英語を読む 第14回 変化し続ける英語—現代英語に見られる変化 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験(70%) + 授業への参加状況と宿題(30%)		

授業科目	英語音声学	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 1年                   〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                   〔必修/選択〕 選択(注)       〔授業形態〕 講義 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の発音技能を高める。英語の音声に見られる特徴を学習する。</p> <p>【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら英語の音声が作られるしくみを学習する。学習した内容を実践し英語の発音技能を向上させる。英語の音声を支配する規則性のうち基礎的なものを学習する。</p> <p>【到達目標】日本語と比較し、英語の音声がどのように作られるか理解し、英語の発音技能とリスニング能力を高める。英語の音声に見られる規則性のうち基礎的なものを学ぶことで、英語の音声現象が恣意的ですべて暗記しなくてはならないようなものではなく、ルールに則り整然としたものであることを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 杉森幹彦ほか『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂。(1800円) (2) 参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、英語らしい発音のために大切なこと 第2回 英語のアクセント(単語・句) 第3回 英語のリズム(内容語と機能語) 第4回 紛らわしい母音(1) 第5回 紛らわしい母音(2) 第6回 紛らわしい子音(1) 第7回 紛らわしい子音(2) 第8回 紛らわしい子音(3) 第9回 つながって聞こえる音(連結) 第10回 変化して聞こえる音(同化) 第11回 聞こえなくなる音(1)(単語間の脱落) 第12回 聞こえなくなる音(2)(単語内の脱落・短縮形) 第13回 英語のイントネーション(1) 第14回 英語のイントネーション(2) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験(40%) + 音声課題(40%) + 授業への参加状況と宿題(20%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語表現法 I	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a basic English writing course focused on the fundamentals of effective sentence and paragraph writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper paragraph organization, including central idea, topic sentence, supporting sentences, and paragraph conclusion. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. Practice of important grammar points will be integrated into the lessons. Unit composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Savage & Shafiei, <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i> , Oxford University Press (2) <i>Test It Fix It Pre-intermediate English Grammar</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1A (begin discussing paragraph organization) 第3回 Unit 1B, Grammar 1 第4回 Unit 1C, Grammar 2 第5回 Unit 1D, Grammar Quiz 1-2, Grammar 3 第6回 Unit 1 Composition assignment, first draft, Grammar 4 第7回 Unit 1 Composition assignment, second draft, Grammar Quiz 3-4, Grammar 5 第8回 Unit 2A, Grammar 6 第9回 Unit 2B, Grammar Quiz 5-6, Grammar 7 第10回 Unit 2 Composition assignment, first draft, Grammar 8 第11回 Unit 2 Composition assignment, second draft, Grammar Quiz 7-8, Grammar 9 第12回 Unit 3A, Grammar 10 第13回 Unit 3B, Grammar Quiz 9-10 第14回 Unit 3 composition assignment, first draft 第15回 Unit 3 composition assignment, second draft		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 60%, quiz scores 30%, attendance (出席) 10%.		

授業科目	Eigo Hyogen Ho I	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1 <sup>st</sup> year [単位] 1単位	[学期] Spring 2014 [必修/選択] Required	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences in various rhetorical modes. Students will be required to work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class writing assignments in addition to in-class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i> by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第1回 Class Orientation 第2回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第3回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第4回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第5回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第6回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第7回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第8回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第9回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第10回 Unit 3, Example paragraph 第11回 Unit 3, Example paragraph 第12回 Unit 3, Example paragraph 第13回 Unit 3, Example paragraph 第14回 Example paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第15回 Example paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft		
成績評価の方法	Students essays 90%, Attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a continuation of a paragraph writing course. The course will emphasize the organizational principles of good paragraph writing and the step-by-step thinking and writing process.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Students will gradually progress toward multi-paragraph essays.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further master the organizational principles of English writing and polish their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Savage & Shafiei, <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i> , Oxford University Press <i>Test It Fix It Pre-intermediate English Grammar</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Review, Grammar 11 第2回 Unit 4A, Grammar 12 第3回 Unit 4B, Grammar Quiz 11-12, Grammar 13 第4回 Unit 4 composition assignment, first draft, Grammar 14 第5回 Unit 4 composition assignment, second draft, Grammar Quiz 13-14, Grammar 15 第6回 Discussion of essay writing 第7回 Unit 5A, Grammar 16 第8回 Unit 5B, Grammar Quiz 15-16 第9回 Unit 5 composition assignment, first draft, Grammar 17 第10回 Unit 5 composition assignment, second draft, Grammar 18 第11回 Unit 6A, Grammar Quiz 17-18, Grammar 19 第12回 Unit 6B 第13回 Unit 6 composition assignment, first draft, Grammar 20 第14回 Unit 6 composition assignment, second draft 第15回 まとめ、Grammar Quiz 19-20		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 60%, quiz scores 30%, attendance (出席) 10%.		

授業科目	Eigo Hyogen Ho II	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1 <sup>st</sup> year [単位] 1単位	[学期] Fall 2014 [必修/選択] Required	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 1 The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Unit 4, Process paragraph 第2回 Unit 4, Process paragraph 第3回 Unit 4, Process paragraph 第4回 Process paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第5回 Process paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第6回 Unit 5, Opinion paragraph 第7回 Unit 5, Opinion paragraph 第8回 Unit 5, Opinion paragraph 第9回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第10回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第11回 Unit 6, Narrative paragraph 第12回 Unit 6, Narrative paragraph 第13回 Unit 6, Narrative paragraph 第14回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第15回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft		
成績評価の方法	Student essays 90%, Attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of effective multi-paragraph essay writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper essay organization and the step-by-step thinking and writing process. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. This will include grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English multi-paragraph essay writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction, discussion of the five-paragraph essay 第2回 Continue discussion of the five-paragraph essay and classification writing 第3回 Classification essay, first draft 第4回 Classification essay, second draft 第5回 Discuss cause and effect writing 第6回 Cause and Effect essay, first draft 第7回 Cause and Effect essay, second draft 第8回 Grammar work 第9回 Grammar work 第10回 Grammar work 第11回 Grammar work 第12回 Discuss argumentative writing 第13回 Argumentative essay, first draft 第14回 Argumentative essay, second draft 第15回 まとめ/Evaluative composition		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, attendance (出席) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen HoⅢ	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 2 <sup>nd</sup> year [単位] 1単位	[学期] Spring 2014 [必修/選択] Required	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo Hyogen Ho III is a writing course which teaches students how to write multi-paragraph essays in different rhetorical modes. Students will be required to learn the organization of writing multiple paragraph essays. They will be required to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will also be required to complete various grammatical exercises throughout the semester. To successfully complete the course, students must complete weekly writing assignments and do three in-class essays.</p> <p>【概要】 Students will study different rhetorical modes and complete writing assignments reflecting the material studied.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop students writing skills above the paragraph level.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Students will receive prints covering the points taught in the lesson (2)		
授業スケジュール	第1回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第2回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第3回 Unit 3, Cause and Effect Essay 第4回 Cause and Effect in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第5回 Cause and Effect in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第6回 Unit 4, Argumentative Essay 第7回 Unit 4, Argumentative Essay 第8回 Unit 4, Argumentative Essay 第9回 Argumentative in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第10回 Argumentative in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第11回 Unit 5, Classification Essay 第12回 Unit 5, Classification Essay 第13回 Unit 5, Classification Essay 第14回 Classification in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第15回 Classification in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft		
成績評価の方法	Three in-class essays 90%, attendance 10%		

授業科目	講読演習 I	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 1年      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位      〔必修/選択〕 選択必修      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語で書かれた文献を読むことを通して、語用論の基礎を学習する。</p> <p>【概要】 ポライトネスに関する文献を精読する。</p> <p>【到達目標】 英語の論文を読む力を高める。ポライトネス理論を理解し、英語の実例を分析する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) <i>Women, Men and Politeness</i>, Holmes, Janet (著), 渡辺和幸 (注釈), 英潮社。(1800円)</p> <p>(2) 参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 1 What a lovely tie! Compliments and positive politeness strategies</p> <p>第3回 1 What a lovely tie! Compliments and positive politeness strategies</p> <p>第4回 1 What a lovely tie! Compliments and positive politeness strategies</p> <p>第5回 1 What a lovely tie! Compliments and positive politeness strategies</p> <p>第6回 1 What a lovely tie! Compliments and positive politeness strategies</p> <p>第7回 1 What a lovely tie! Compliments and positive politeness strategies</p> <p>第8回 ポジティブポライトネスのまとめ</p> <p>第9回 2 Sorry! Apologies and negative politeness strategies</p> <p>第10回 2 Sorry! Apologies and negative politeness strategies</p> <p>第11回 2 Sorry! Apologies and negative politeness strategies</p> <p>第12回 2 Sorry! Apologies and negative politeness strategies</p> <p>第13回 2 Sorry! Apologies and negative politeness strategies</p> <p>第14回 2 Sorry! Apologies and negative politeness strategies</p> <p>第15回 ネガティブポライトネスのまとめ</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 試験 (80%)		

授業科目	基礎演習 I	担当者	久木田美枝子
	〔履修年次〕 1年      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位      〔必修/選択〕 選択      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を科学的に考察する基礎的姿勢を培うために、「ことばの不思議」について考察する。更に現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を初心者向きに平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい興味を持てる分野をみつけられるようにする。</p> <p>【概要】 英語を母語とする子供がどのような過程を経て大人の言語知識をもつようになるかを考察し、第二言語の獲得過程に影響を与える種々の要因、第一言語の影響等を考察し、英語教育との関連についても検討していきたい。なお、小学校英語教育及び通訳理論を取り入れた英語教育についても、様々な角度から考察していく。</p> <p>【到達目標】 「ことばの不思議」について、科学的に考えられる土台を形成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Steven Brown &amp; Jenifer Larson-Hall, <i>Second Language Acquisition</i>, The University of Michigan Press. 中森誉之著、『外国語まどこに記憶されるのか』, 開拓社</p> <p>(2) ジグリッド塩谷著、『アメリカの子供は英語をどう覚えるか』, はまの出版 随時プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 Introduction</p> <p>第3回～第4回 English Acquisition as Mother Tongue</p> <p>第5回～第6回 English Acquisition as Second Language</p> <p>第7回～第14回 Careful reading: Foundations of Bilingual Education and Bilingualism</p> <p>第15回 Summarisation</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と授業の発言内容 (40%), レポート (60%) で評価する。		

授業科目	基礎演習 I	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 1 年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の言語事実を観察する。英語学の基礎的な知識を習得する。</p> <p>【概要】意味論と対照研究の題材で試験的な研究を行い、英語学の研究方法を学ぶ。論文を読むことを通して、語彙意味論、音声学・音韻論の基礎的な知識を身につける。</p> <p>【到達目標】英語学のさまざまな分野に触れる。卒業研究のテーマを設定する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 岸本秀樹・影山太郎 (2011) 「存在と所有の表現」『日英対照 名詞の意味と構文』影山太郎 (編), 大修館書店, 東京。 田中伸一 (2012) 「音のいちゃつきと仲たがい」『言語科学の世界へ ことばの不思議を体験する 45 題』 東京大学言語情報科学専攻 (編), 東京大学出版会。</p> <p>(2) 参考文献 3 冊時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 第 2 回 事例研究－共感覚のメタファー (1) データの分類 第 3 回 事例研究－共感覚のメタファー (2) 分析 第 4 回 事例研究－共感覚のメタファー (3) 事実報告の作成 第 5 回 事例研究－日英対照 (1) 先行研究の解題 第 6 回 事例研究－日英対照 (2) 事実の収集 第 7 回 事例研究－日英対照 (3) 先行研究の問題点解明 第 8 回 論文を読む－岸本・影山 (2011) (1) 例文の理解 第 9 回 論文を読む－岸本・影山 (2011) (2) 例文の趣旨を確認 第 10 回 論文を読む－岸本・影山 (2011) (3) 全体の論旨を確認 第 11 回 論文を読む－田中 (2012) (1) 例文の理解 第 12 回 論文を読む－田中 (2012) (2) 例文の趣旨を確認 第 13 回 論文を読む－田中 (2012) (3) 全体の論旨を確認 第 14 回 まとめ 第 15 回 卒業論文のテーマについて受講者によるプレゼンテーション</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + プレゼンテーション, レポート (80%)		

授業科目	英語学演習	担当者	久木田美枝子
	〔履修年次〕 2 年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見ができるようにする。</p> <p>【概要】言語獲得理論及びバイリンガル理論などを、特に、第一言語獲得理については、英語を母語とする子供がどのような過程を経て大人の言語知識をもつようになるかを考察し、第二言語獲得理論については、第二言語の獲得過程に影響を与える種々の要因、第一言語の影響等を考察し、英語教育との関連についても検討していきたい。なお、小学校英語教育及び通訳理論を取り入れた英語教育についても、様々な角度から考察していく。</p> <p>【到達目標】現代の英語学及び英語教育に関する事象について、各自が科学的論理的考察ができることを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Steven Brown &amp; Jenifer Larson-Hall, „<i>Second Language Acquisition</i>, The University of Michigan Press. 中森誉之著, 『外国語まどこに記憶されるのか』, 開拓社</p> <p>(2) ジグリッド塩谷著, 『アメリカの子供は英語をどう覚えるか』, はまの出版</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回～第 2 回 Introduction 第 3 回～第 4 回 English Acquisition as Mother Tongue 第 5 回～第 6 回 English Acquisition as Second Language 第 7 回～第 14 回 Careful reading: Foundations of Bilingual Education and Bilingualism 第 15 回 Summarisation</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と授業の発言内容 (50%), レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学演習	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語事実を収集する方法を学ぶ。論文における英語表現を学ぶ。</p> <p>【概要】 卒業研究のテーマが設定されていることを前提に、資料収集の方法を学ぶ。基礎演習Ⅰに引き続き、論文の読み方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 資料収集方法と論文の読み方を学び、卒業研究に応用できるようになる。各自が卒業研究に関係する先行研究を概観し、卒業研究の一部としてまとめる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 卒業研究の中間発表 第2回 資料の収集 第3回 資料収集の実際 (1) コーパスの利用 (基本) 第4回 資料収集の実際 (2) コーパスの利用 (応用) 第5回 収集した資料についてプレゼンテーションとレポート作成 第6回 論文を読むーSmith, C. S. (1972) "On Causative Verbs and Derived Nominals in English" 第7回 論文を読むーSmith (1972) 続き 第8回 論文を読むーWilliams, J. (1976) "Synaesthetic Adjectives: A Possible Law of Semantic Change" 第9回 論文を読むーWilliams (1976) 続き 第10回 論文を読むーWilliams (1976) 続き 第11回 論文を読むーTrudgill, P. (1983) "Acts of Conflicting Identity: The Sociolinguistics of British Pop-song Pronunciation" 第12回 論文を読むーTrudgill (1983) 続き 第13回 論文を読むーTrudgill (1983) 続き 第14回 卒業研究の概要 プレゼンテーション 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + プレゼンテーションとレポート (80%)		

授業科目	英文学概論	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 イギリス文学作品を読んで、基本的な事項を学習し、問題点を探究する。</p> <p>【概要】 第1回目で講義概要の説明し、イギリス文学に関する認知度を確認する。第2回目から「詩」「演劇」「小説」という文学のジャンルについて、具体的に作品を取り上げながら鑑賞し、問題点を探究していく。また文学と映像という視点からも作品を取り上げて解説する。問題点の探究においては、受講生との対話形式を取り入れるので、前もってテキストをしっかりと読んでおくことが求められる。</p> <p>【到達目標】 「詩」「劇」「小説」の作品を読み、作品に潜む問題点を考える能力を身に付ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 榎井迪夫訳『完訳 カンタベリー物語』(上) 岩波文庫 W.シェイクスピア作 小田島雄志訳『リア王』 白水Uブックス エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子訳『嵐が丘』 新潮文庫		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、取り扱う作品の説明 第2回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その一)：G. チョーサー『カンタベリー物語』 第3回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その二)：G. チョーサー『カンタベリー物語』 第4回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その三)：G. チョーサー『カンタベリー物語』 第5回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その四)：G. チョーサー『カンタベリー物語』 第6回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その一)：W. シェイクスピア『リア王』 第7回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その二)：W. シェイクスピア『リア王』 第8回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その三)：W. シェイクスピア『リア王』 第9回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その四)：W. シェイクスピア『リア王』 第10回 比較文学に基づく作品の鑑賞 (文学と映像)：『リア王』と黒澤明監督の映画『乱』 第11回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その一)：『嵐が丘』における愛と復讐 第12回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その二)：『嵐が丘』における愛と復讐 第13回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その三)：『嵐が丘』における愛と復讐 第14回 大衆文化のなかの『嵐が丘』(文学と映像) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、課題提出・予習を含む授業への取り組み (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義方式の説明、文学史の科目に潜む問題点の探究</p> <p>第2回 18世紀の小説（その一）：18世紀の小説とその周辺に関する諸問題</p> <p>第3回 18世紀の小説（その二）：18世紀の小説におけるH. フィールドイング, L. スターン, T. スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説（その三）：18世紀後半のゴシック小説</p> <p>第5回 18世紀の小説（その四）：J. オースティンの小説</p> <p>第6回 18世紀の小説に関する小テスト, 19世紀の小説（その一）：19世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴</p> <p>第7回 19世紀の小説（その二）：C. ディケンズの小説</p> <p>第8回 19世紀の小説（その三）：W. M. サッカレーの小説, プロンテ姉妹の小説</p> <p>第9回 19世紀の小説（その四）：ダーウィニズムの影響, 19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説</p> <p>第10回 19世紀の小説に関する小テスト, 20世紀の小説（その一）：20世紀小説の特徴</p> <p>第11回 20世紀の小説（その二）：V. ウルフの小説, H. ジェイムズの小説, E. M. フォスターの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説（その三）：D. H. ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説（その四）：H. G. ウェルズの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説に関する小テスト, 映像課題に関する発表会</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、講義中の小テスト/授業への取り組み（30%）、課題レポート(10%)		

授業科目	米文学史	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Henry David Thoreau's <i>Walden</i>. 「ウォールデン 森の生活」</p> <p>【概要】The course will include lectures and group presentations. Students will write short, creative essays and make presentations. Quizzes will test comprehension of reading and lecture content.</p> <p>【到達目標】The course uses creative writing as a tool of literary analysis to raise consciousness of the literary, social, and cultural history of the United States.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) <i>Walden</i>, Henry David Thoreau (IBC, 2007) (リライト: マイケル・ブレース)</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction.</p> <p>第2回～第4回</p> <p>第5回～第7回 Writing workshop. (Quiz 10%)</p> <p>第8回 Presentations. (10%)</p> <p>第9回 Review (Quiz 10%).</p> <p>第10回 Historical background.</p> <p>第11回 Reading, discussion</p> <p>第12回 Reading, discussion</p> <p>第13回 Presentations (10%).</p> <p>第14回 Review (Quiz 10%)</p> <p>第15回 Discussion of quiz results and general review</p>		
成績評価の方法	授業への参加(50%); 小テスト、発表、詩(50%)。		

(注) 教職必修

授業科目	英米文学講読Ⅰ	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 (〔学期〕 前期) 〔単位〕 1単位 (〔必修/選択〕 選択 (〔授業形態〕 演習方式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アメリカ文学を読むことを通して文学批評の意義を知る</p> <p>【概要】 1993年にノーベル賞を受賞したトニ・モリスンの代表作『ピラヴィド』を多角的に読解することで原文を読む意義、また文学作品の読みの可能性について学ぶ。合わせてアメリカ文学の「正典(カノン)」として引き合いに出される作家やマイノリティ作家の文章を文学史に沿って概観することで、現代作家モリスンを理解するのに必要な歴史的背景を確認し、バランスのとれたアメリカ文学の知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 各英文のエッセンスを正確に理解し読解することができる。アメリカ文学の特徴を自分の言葉で説明することができる。文学批評について基礎的な知識をもつ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	適宜プリントを配布します。 授業内で紹介します。		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン：アメリカ文学とは何か 第2回 先住民の文学と17世紀アメリカ文学(ブラッドフォード) 第3回 18世紀アメリカ文学(フランクリン) 第4回 19世紀アメリカ文学(1) (ポー) 第5回 19世紀アメリカ文学(2) (アメリカン・ルネッサンス) 第6回 20世紀アメリカ文学(1) (ハーレム・ルネッサンス) 第7回 20世紀アメリカ文学(2) (カポーティとメイラー) 第8回 Toni Morrison <i>Beloved</i> Part I を読む (INTROクシヨン：奴隷制時代のアメリカ) 第9回 Toni Morrison <i>Beloved</i> Part I を読む 第10回 Toni Morrison <i>Beloved</i> Part I を読む 第11回 Toni Morrison <i>Beloved</i> Part II を読む 第12回 Toni Morrison <i>Beloved</i> Part II を読む 第13回 Toni Morrison <i>Beloved</i> Part III を読む 第14回 Toni Morrison <i>Beloved</i> Part III を読む 第15回 まとめ		
成績評価の方法	期末試験 60%、授業参加状況(予習の状況および提出物) 40%		

授業科目	英米文学講読Ⅱ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1, 2年 (〔学期〕 後期) 〔単位〕 1単位 (〔必修/選択〕 選択 (〔授業形態〕 演習方式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 シェイクスピア『マクベス』講読</p> <p>【概要】 『マクベス』を真正面から読めば、「主人公が、魔女たちと妻の教唆によって、内なる「悪」と「野心」に目覚め、身の丈に合わない王位を不当な手段でわがものにした末に破滅するまでを描いた悲劇である」と要約だろう。しかし、今回は、少し斜に構えた角度から、この作品を読んでみたい。第一に、シェイクスピア屈指の「女をめぐる劇」としての『マクベス』。第二に、シェイクスピア屈指の「子どもをめぐる劇」としての『マクベス』。第三に、シェイクスピア屈指の「ミッドライフ・クライシス(中年の危機)をめぐる劇」としての『マクベス』。</p> <p>【到達目標】 シェイクスピアの歴史的背景、伝記、作品の概要を説明することができる。『マクベス』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。『マクベス』から任意のパスセージを、作品の主題との関連、修辞などの表現形式の両面から分析、評釈することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大場建治(編注)『マクベス』(対訳・注解研究社シェイクスピア選集9) (2) 河合祥一郎・小林章夫(編)『シェイクスピア・ハンドブック』(三省堂) G.L.ブルック『シェイクスピアの英語』(松柏社)		
授業スケジュール	第1回 シェイクスピアとその時代(1) 世界の拡大 第2回 シェイクスピアとその時代(2) ルネサンス観の多様性 第3回 シェイクスピアとその時代(3) 人文主義 第4回 シェイクスピアとその時代(4) 宗教改革と国民国家の形成 第5回 シェイクスピアとその時代(5) ストラットフォードからロンドンへ 第6回 シェイクスピアとその時代(6) 役者・詩人・劇作家・興行資本家 第7回 インターミッション(映像資料鑑賞) 第8回 『マクベス』1.1~1.6 第9回 『マクベス』1.7~2.3 第10回 『マクベス』2.3(続き)~3.1 第11回 『マクベス』3.1(続き)~3.4 第12回 『マクベス』3.5~4.1 第13回 『マクベス』4.2~4.3 第14回 『マクベス』5.1~5.9 第15回 まとめとふりかえり		
成績評価の方法	授業参加状況(予習の状況および授業時間中の発表と発言) 30% 学期末試験 70%		

授業科目	英米文学講読Ⅲ	担当者	轟 義昭
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して、C.ディケンズの『オリヴァー・ツイスト』と『クリスマス・キャロル』を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈(Notes)が詳しいので、文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業は速読形式で進め、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。両作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス Charles Dickens, <i>The Christmas Carol</i> (ペンギンリーダーズ) 英潮社フェニックス		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、イギリス文学作品への知識の確認、映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞 第2回 映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞(続き)と解説、テキストの第1章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第3回 第2章～第5章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第4回 第6章～第8章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第5回 第9章～第11章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第6回 第12章～第16章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第7回 第17章～第21章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第8回 映像作品『クリスマス・キャロル』の鑑賞 第9回 映像作品『クリスマス・キャロル』の鑑賞(続き)と解説、テキストの第1章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第10回 第2章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第11回 第3章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第12回 第4章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第13回 第5章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第14回 C.ディケンズの作品研究 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート(60%)、予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容(40%)		

授業科目	講読演習Ⅱ	担当者	轟 義昭
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して、J.オースティンの『分別と多感』を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈(Notes)が詳しいので、文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業はテキストを読んで日本語に訳す精読方式ですすめていく。またプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i> (ペンギンリーダーズ) 英潮社フェニックス		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、映像作品『ある晴れた日に』の鑑賞 第2回 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞(続き)と解説、テキストの第1章を読む(その一) 第3回 第1章を読む(その二)、プリントによる問題点の確認 第4回 第2章～第3章を読む(その一) 第5回 第2章～第3章を読む(その二) 第6回 第2章～第3章を読む(その三)、プリントによる問題点の確認 第7回 第4章を読む(その一) 第8回 第4章を読む(その二)、プリントによる問題点の確認 第9回 第5章を読む(その一) 第10回 第5章を読む(その二)、プリントによる問題点の確認 第11回 第6章を読む(その一) 第12回 第6章を読む(その二)、プリントによる問題点の確認 第13回 第7章を読む(その一) 第14回 第7章を読む(その二)、プリントによる問題点の確認 第15回 まとめ(プレゼンテーション)		
成績評価の方法	レポート及びプレゼンテーション(60%)、予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容(40%)		

授業科目	基礎演習Ⅱ	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 E.M.フォスターの作品研究と H.ジェイムズの作品研究</p> <p>【概要】 E.M.フォスターの『眺めのいい部屋』を読み、階級意識に焦点をあてながら、異なる文化間の人間関係を考察する。また H.ジェイムズの『ある貴婦人の肖像』を読み、アメリカとヨーロッパの価値観の相違のなかで、主人公（アメリカ女性）の良心的な生き方を考察する。授業は担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。両作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】 各人が問題点を探し出し、各人がそれに対する見解・意見を導き出せるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) E.M.フォスターの『眺めのいい部屋』と H.ジェイムズの『ある貴婦人の肖像』はプリント (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 映画『眺めのいい部屋』の鑑賞 第2回 映画『眺めのいい部屋』の鑑賞（続き）と解説 第3回 テキスト第1章～第4章 At the Bertolini～“He Murdered his Wife”を読む：プリントによる問題点の確認 第4回 第5章～第8章 “Be Brave and Love”～“The Right People for the House”を読む：プリントによる問題点の確認 第5回 第9章～第12章 “A Letter from Charlotte”～“Charlotte Arrives”を読む：プリントによる問題点の確認 第6回 第13章～第17章 “Tennis on Sunday”～“At the Bertolini”を読む：プリントによる問題点の確認 第7回 E.M.フォスターの作品研究（その一） 第8回 E.M.フォスターの作品研究（その二） 第9回 映像作品『ある貴婦人の肖像』の鑑賞 第10回 映像作品『ある貴婦人の肖像』の鑑賞（続き）と解説 第11回 テキストの第1章～第6章を読む：プリントによる問題点の確認 第12回 第7章～第11章を読む：プリントによる問題点の確認 第13回 第12章～第15章を読む：プリントによる問題点の確認 第14回 H.ジェイムズの作品研究（その一） 第15回 H.ジェイムズの作品研究（その二）		
成績評価の方法	プレゼンテーション＋作品研究の発表（70%）、授業への取り組み（30%）		

授業科目	基礎演習Ⅱ	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学術論文を英語で書く</p> <p>【概要】 指導教官との話し合いによる卒業論文のテーマの絞り込み、毎週リサーチとライティングを行います。英語の論文のスタイルに合った卒業論文のテーマ、構成、計画を学期末までに決定します。</p> <p>【到達目標】 受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創造的かつ自主的に学習する習慣を身に付けることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール： 第1週-第3週：授業とテキストの紹介 第4週-第10週：リサーチ方法について 第11週-第30週：リサーチの実践		
成績評価の方法	出席（30%）、授業内での発言（20%）、総まとめ（30%）、作品集（20%）。		

授業科目	英米文学演習	担当者	轟義昭
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> J.オースティンの作品研究 <b>【概要】</b> セミナーではジェーン・オースティンの作品研究を行う。ペンギンリーダーズのテキストを利用して『エマ』の作品を読み、ヒロインの成長に焦点を当てながら、作者の結婚観と風刺を考察する。また、その映画を鑑賞して、テキストと映像作品の相違点を考える。授業は担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。 <b>【到達目標】</b> 作者の結婚観と風刺を理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Jane Austen 著『エマ』(ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 セミナーの運営方法と説明, 映画『エマ』の鑑賞 第2回 映画『エマ』の鑑賞(続き)と作品の解説 第3回 第1章を読む: An Offer of Marriage (プリントによる問題点の確認) 第4回 第2章を読む: A Second Offer (プリントによる問題点の確認) 第5回 第3章を読む: Mr Elton's Choice (プリントによる問題点の確認) 第6回 第4章を読む: Frank Charchill Appears (プリントによる問題点の確認) 第7回 第5章を読む: Mrs Elton Comes to Highbury (プリントによる問題点の確認) 第8回 第6章を読む: The Ball at the Crown Inn (プリントによる問題点の確認) 第9回 第7章を読む: The Trip to Box Hill (プリントによる問題点の確認) 第10回 第8章を読む: A Secret Engagement (プリントによる問題点の確認) 第11回 第9章を読む: The Weddings (プリントによる問題点の確認) 第12回 オースティン作品の映画鑑賞(その一):『プライドと偏見』 第13回 オースティン作品の映画鑑賞(その二):『プライドと偏見』 第14回 プレゼンテーション:『エマ』に関する課題発表会 第15回 ジェーン・オースティンの作品に関する研究発表会		
成績評価の方法	プレゼンテーション+作品研究の発表(70%), 授業への取り組み(30%)		

授業科目	英米文学演習	担当者	フィリップ・アダメック
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 学術論文を英語で書く <b>【概要】</b> 自分で選んだ題材に、前期習得したライティング技術を応用します。指導者との話し合いによって卒業論文のテーマを絞り込み、毎週リサーチとライティングを行います。受講者は教務課によって定められた、卒業論文の最終期限までにいくつかの下書きを提出し、推敲を重ねます。 <b>【到達目標】</b> 受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創造的で自主的な学習スキルを演習することを目標とします。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	<b>スケジュール:</b> 第1週-第3週: 授業とテキストの紹介 第4週-第10週: リサーチ方法について 第11週-第15週: リサーチの実践		
成績評価の方法	出席(30%)、授業内での発言(20%)、総まとめ(30%)、作品集(20%)。		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】広い視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第 1回 文化・異文化とは？ 第 2回 コミュニケーションとは？ 第 3回 言語・非言語コミュニケーション1 第 4回 言語・非言語コミュニケーション2 第 5回 言語・非言語コミュニケーション3 第 6回 ステレオタイプと偏見 第 7回 オリエンタリズム 第 8回 価値観 第 9回 グローバリゼーションと文化・文明の衝突 第 10回 ディアスポラ 第 11回 カルチャーショックと異文化適応 第 12回 翻訳と通訳 第 13回 異文化コミュニケーションの方法1 第 14回 異文化コミュニケーションの方法2 第 15回 多文化共生		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , 筆記試験 (70%)		

(注) 英語英文学専攻は教職必修

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン・トレマコ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>We will embark on a different approach this year. Instead of following a textbook, we will endeavour to extend the project theme we have carried out in previous years; it will no longer simply supplement the textbook, it will act as a replacement and form the core element of the course with a view to making a presentation at the conclusion of the term. The project theme has proved very successful in not only motivating the students throughout the year, but also in improving their communicative competence. The theme of the project will be decided upon by the students: it will be chosen according to the aptitude and number of students. The themes available will include: Music (classical and modern); Food; Education; Literature; History; Geography.</p> <p>【概要】 Utilizing the four basic skills, students will explore a number of British cultural features ranging from its history, education system and modern Britain.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	All materials provided by the teacher		
授業スケジュール	第 1回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース, 授業についての説明 第 2回 Choosing the Project theme 第 3回 - 13回 Planning and implementation of Project 第 14回 Final Examination (presentation) 第 15回 Course Review * NB: The above is a guide only, the pace, range and choice of topics may well differ from those set out above depending on the characteristics of the class.		
成績評価の方法	A willingness to participate in class is more important than test results. Evaluation will be on class participation, 'group' assignments. There will also be an examination at the end of the course. Assessment criteria: <b>Group work 40%, Class participation 20% and Final Presentation Test 40%</b> . 授業に積極的に参加することが、テスト結果より重視される。評価は、グループテストや宿題のような授業態度により決定される。また、このコースの最後に試験も行う。 最終テスト= 40% グループワーク & 小テスト= 40% 授業出席&貢献 (予習課題発表や、授業中の発言・質問等含む) = 20%		

授業科目	アメリカ事情	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> On the culture of the American Pacific Northwest (Seattle and Portland).</p> <p><b>【概要】</b> In this class, we discuss culture of the American Pacific Northwest by examining independent newsweeklies from Seattle and Portland. These will help us to discuss the following questions: What do Pacific NW Americans write about? What do they do for fun? What do they criticize? What do they sell? What is their mentality? What kinds of events happen in their cities?</p> <p><b>【到達目標】</b> The aims of the course are to raise awareness of various political and cultural aspects of a particular region of the United States. Students will work in groups to research and make short presentations on topics related to the culture of the American Pacific Northwest.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <i>The Portland Mercury</i> , Vol. 13, no. 12 (August 9-15) <i>The Portland Mercury</i> , Vol. 13, no. 15 (August 30-September 5) <i>The Portland Mercury</i> , Vol. 13, no. 16 (September 6-12) <i>Willamette Week</i> (Portland), Vol. 39, no. 44 (September 5-11) <i>Eugene Weekly</i> , Vol. 31, no. 35 (September 6-12) <i>The Stranger</i> (Seattle), Vol. 12, no. 2 (September 12-18) (2) Online resources.		
授業スケジュール	第1回 Introduction. The American Pacific Northwest. 第2回 Newsweeklies. 第3回 Strong women, fast bikes, and beer: the iconography of the American Pacific Northwest. 第4回 Locavorism. ("Eat locally.") 第5回 New Age Spiritualism. 第6回 "Portlandia." 第7回 Mentalities: conservative, liberal. 第8回 Youth culture. 第9回 The new American bike culture. 第10回 Research workshop. 第11回 Research workshop. 第12回 Research workshop. 第13回 Research workshop. 第14回 Presentation Day. 第15回 Presentation feedback and course review.		
成績評価の方法	授業への参加 class presence and participation (50%); student-conducted class meeting (50%).		

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ヨーロッパ統合にいたる文化史</p> <p><b>【概要】</b> 現在、ヨーロッパは EU 加盟国の増加やリスボン条約の発効によって、ますます統合の度合いを強めつつある。一方、経済危機など、さまざまな問題も表面化してきている。本講義では、ヨーロッパの長い統合と分裂の歴史について、文化・文明を中心に概観する。なお、参考文献に挙げた2冊ほどどちらもヨーロッパの歴史を概観するのによい。</p> <p><b>【到達目標】</b> ヨーロッパ統合に到る歴史と理念について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布 ジャック・ル・ゴフ (前田耕作監訳・川崎万里訳) 『子どもたちに語るヨーロッパ史』 (ちくま学芸文庫, 2009) マンフレッド・マイ (小糸純次訳) 『50のドラマで知るヨーロッパの歴史: 戦争と和解、そして統合へ』 (ミネルヴァ書房, 2010)		
授業スケジュール	第1回 ギリシア: ヨーロッパの基層 第2回 ローマ: ヨーロッパ統合の先駆 第3回 カロリング・ルネサンス: ローマ文化とキリスト教文化の融合 第4回 ビザンツ文化: 東のローマ 第5回 中世の文化: ロマネスクとゴシック, 大学 第6回 ルネサンス: 人文主義 第7回 大航海時代: ヨーロッパ世界の拡大 第8回 宗教改革: カトリックとプロテスタント 第9回 近代ヨーロッパの成立: 主権国家の形成, 啓蒙主義 第10回 17~18世紀の文化: バロックとロココ, 科学革命 第11回 産業革命と市民革命: ヨーロッパの再編 第12回 19世紀の文化: ロマン主義, 写実主義, 自然主義 第13回 20世紀前半: 二つの世界大戦とヨーロッパ 第14回 戦後世界から21世紀へ: ヨーロッパ世界の「再統合」 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (20%), 筆記試験 (80%)		

授業科目	講読演習Ⅲ	担当者	中谷 彩一郎
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択必修 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文化とは何か</p> <p>【概要】ファッションをキーワードに14世紀から19世紀のイギリスの文学作品、雑誌記事、風刺、肖像画などを読み解くことで、それぞれのファッションが表す時代時代の価値観や特質を比較したり、時にはフランスのファッションと比較したりしながら、比較文化的な物の見方を学んでいく。輪読形式を取るため、予習は必須である。</p> <p>【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Yuko Hosokawa with Keith Adams, <i>Fashionable England</i> (開文社, 2010)		
授業スケジュール	第1回 Chapter 1: The Troubled Kings 第2回 Chapter 2: <i>The Spectator</i> Speaks to Decent Citizens 第3回 Chapter 3: <i>The Spectator</i> Fights a Fashion War 第4回 Chapter 4: <i>Pamela</i> and Anglomania 第5回 Chapter 5: Hogarth, an Iconoclast 第6回 Chapter 6: Hogarth's Aesthetic Reconstruction 第7回 Chapter 7: A New English Tradition 第8回 Chapter 8: <i>Mary Graham</i> – A Sensation 第9回 Chapter 9: A Costume Battle 第10回 Chapter 10: Women and Men in English Nature 第11回 Chapter 11: The Dandy 第12回 Chapter 12: Worth, an Entrepreneur 第13回 Chapter 13: Tissot in the Age of Worth 第14回 Chapter 14: The Art of Surface 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (60%), 筆記試験 (40%)		

授業科目	基礎演習Ⅲ	担当者	中谷 彩一郎
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択必修 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文学作品成立の背後にあるもの</p> <p>【概要】本演習では文学作品そのものではなく、その成立の背後にあるさまざまな問題（伝える媒体、読書方法、著作権、印税など）をテーマに、文学作品の流通・受容や作家の置かれた経済的・社会的環境について、ヨーロッパとアジアの事例を比較しながら学ぶ。割り当てられた担当箇所について発表してもらい、討論する形式を取る。毎回全員に意見を求めるので、他の参加者もあらかじめテキストを読み、疑問点等を考えてくること。複数回発表する中で、次のことが徐々にできるようになるよう訓練する。</p> <p>(1) 担当箇所をまとめたハンドアウトの作成・発表  (2) (1)に加え、自らの意見や疑問点を述べられるようになる。また、参加者全員が自発的に議論できるようになる。</p> <p>【到達目標】比較文化の研究方法を学ぶと同時に、自発的に自分の意見が言えるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	宮下志朗『文学のエコロジー』（放送大学教育振興会、2013）		
授業スケジュール	第1回 発表の仕方と見本 1：口承文学と写本 第2回 発表と討論 2：中世の読書とその変容 第3回 発表と討論 3：中世文学とパトロン：謹呈と恩赦 第4回 発表と討論 4：ルネサンス人の読書のエコロジー 第5回 発表と討論 5：著作権前史 第6回 発表と討論 6：アジア漢字圏における本と読書（1）：明末における白話小説の成立 第7回 発表と討論 7：アジア漢字圏における本と読書（2）：明清時代における文学作品の出版と流通 第8回 発表と討論 8：読み書きの民主化：識字率について 第9回 発表と討論 9：バルザックのメディア戦記 第10回 発表と討論 10：文学と金銭：フローベールのジレンマ 第11回 発表と討論 11：「文芸家協会」「アカデミー」「文学賞」 第12回 発表と討論 12：近代中国における文学出版の環境 第13回 発表と討論 13：「手紙と著作権」再考、そしてインターネットの世紀へ 第14回 発表と討論 14：出版の経済学 第15回 発表と討論、まとめ 15：文学のこれから、出版のこれから		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%), 演習全体への積極的な参加態度 (40%)		

授業科目	比較文化演習	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択必修                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文化・異文化接触</p> <p>【概要】 本演習では基礎演習で学んだことを踏まえて、「宗教と文明」「人種と民族とジェンダー」「言語と文化」をテーマにした異文化接触に関する難しめのテキストをじっくりと読む。毎回担当者を決めて、読んだ資料について発表してもらい、討論する形式を取る。毎回全員に意見を求めるので、他の参加者も資料をあらかじめ読み、疑問点等を考えてくること。 発表では担当箇所をただハンドアウトにまとめるだけでなく、自分なりに補足資料を提示したり、補足説明を加えたりする一方、自らの意見や疑問点を述べ、さらにはテキストを批判的に読むクリティカル・リーディングができるようになることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 比較文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	工藤庸子『異文化の交流と共存』（放送大学教育振興会、2009）		
授業スケジュール	第 1回 「キリスト教文明 v.s. イスラム？」 第 2回 「アメリカのイスラム：マルコム X の旅」 第 3回 「ムスリム同胞団：スエズ運河のほとりで生まれたイスラム復興運動」 第 4回 「政教分離と共和国」 第 5回 「寛容と不寛容のプロテスタンティズム」 第 6回 「奴隷貿易・奴隷制というトラウマ」 第 7回 「傷と記憶と歴史」 第 8回 「フランス人海軍士官の見た明治の長崎」 第 9回 「西洋の衝撃/イランのジャラルール・アーレ=アフマドの『西洋かぶれ』を例として」 第 10回 「トルコの苦悩/民主主義、民族主義、世俗主義」 第 11回 「多文化（=他文化）の表象としての移民へのまなざし」 第 12回 「ディアスポラな英語の増殖」 第 13回 「多言語・多文化の国家 中国」 第 14回 「ケベックの試み」 第 15回 「多文化共生社会を求めて」		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、演習全体への積極的な参加態度（40%）		

授業科目	対照言語学	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照（6）：否定に関する比較 第 8回 日英中の対照（7）：接続に関する比較 第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第 10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第 11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第 12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第 13回 発表 第 14回 学生による発表 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、レポート：50%		

授業科目	日本語学概論	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】各研究分野について概観するが、特に、日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項と、それを書き表す文字・表記（アルファベットのみを用いる言語に比べて、複雑な文字体系を持つ日本語では、文字の問題は殊に重要である）について重点を置いて考察を行うこととする。なお、日本語の歴史については、別に「日本語史」の授業科目で扱う。</p> <p>この授業は「講義方式」であり、教室での90分の授業に対して180分の自学自習が義務づけられている。従って、各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、「学習課題」を考察してくること。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 玉村文郎〔編〕『日本語学を学ぶ人のために』世界思想社 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第1回 日本語学とは : 国語/日本語と国語学/日本語学 第2回 音声・音声・韻律1 : 音声器官, 国際音声字母, 子音 ※ 第3回 音声・音声・韻律2 : 子音のまとめ, 母音 ※ 第4回 音声・音声・韻律3 : 音韻 ※ 第5回 音声・音声・韻律4 : 韻律 ※ 第6回 文字・表記1 : 現代日本語の表記の特徴 ※ 第7回 文字・表記2 : 漢字 第8回 語彙1 : 語彙の計量, 語構成, 語義 第9回 語彙2, 表現1 : 語種・語の位相, 待遇表現 第10回 文法1 : 形態, 構文 第11回 文法2 : ヴォイス・アスペクト・テンス 第12回 文章・文体 : 口語/文語・文章語, 書き言葉/話し言葉 第13回 方言 : 国語(公用語)と方言, 新方言, 言語地理学 第14回 言語生活 : 流行語, 若者言葉, 名付け 第15回 まとめ ※印=パソコン教室で実施。		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本文学史 I	担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典 I は上代(奈良時代以前)から中古(平安時代)の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。</p> <p>時間の都合上、テキストのすべてを取り扱うことはできないが、教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう(平成25年度日本文学史・近代I、IIと同じ) (2) 授業中に提示する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション: 文学の発生 第2回 上代の文学その1: 概観、古事記 第3回 上代の文学その2: 日本書紀、風土記 第4回 上代の文学その3: 万葉集1 第5回 上代の文学その4: 万葉集2 第6回 上代の文学その5: 万葉集3 第7回 上代の文学その6: 上代の漢詩、説話 第8回 中古の文学その1: 概観 古今集以前 第9回 中古の文学その2: 和歌 三代集まで 第10回 中古の文学その3: 和歌 八代集 第11回 中古の文学その4: 和歌 私撰集 歌謡 第12回 中古の文学その5: 源氏物語以前の歌物語 第13回 中古の文学その6: 源氏物語以前の作り物語 第14回 中古の文学その7: 源氏物語 第15回 まとめ		
成績評価の方法	毎回の感想(ミニレポート) 30% 筆記試験70%		

授業科目	日本文学史Ⅱ	担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕 1, 2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上代から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。</p> <p>時間の都合上、テキストのすべてを取り扱うことはできないが、教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておきたい。</p> <p>【到達目標】 中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう（平成25年度日本文学史・近代Ⅰ、Ⅱと同じ）</p> <p>(2) 授業中に提示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 中古の文学その1：源氏物語</p> <p>第2回 中古の文学その2：源氏物語以降の物語</p> <p>第3回 中古の文学その3：歴史物語</p> <p>第4回 中古の文学その4：日記</p> <p>第5回 中古の文学その5：随筆</p> <p>第6回 中古の文学その6：漢詩文</p> <p>第7回 中世の文学その1：概観</p> <p>第8回 中世の文学その2：和歌、連歌</p> <p>第9回 中世の文学その3：漢詩文</p> <p>第10回 中世の文学その4：軍記</p> <p>第11回 中世の文学その5：随筆</p> <p>第12回 中世の文学その6：物語</p> <p>第13回 中世の文学その7：説話</p> <p>第14回 中世の文学その8：能・狂言</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験70%		

授業科目	日本語教育概論	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。</li> <li>・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する</p> <p>(2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 言語と社会：バイリンガル/マルチリンガル、言語政策、言語変種</p> <p>第5回 文化と日本語教育：カルチャーショック、ステレオタイプ、高/低コンテクスト文化</p> <p>第6回 日本語教育とコミュニケーション教育：文化相対主義 異文化トレーニング コミュニケーション・スタイル</p> <p>第7回 日本語教育と文法：語順 日中対照 言語学</p> <p>第8回 第二言語としての日本語の習得：誤用分析 言語転移 外国語学習の適性</p> <p>第9回 日本語教育法（1）コースデザインとニーズ分析、シラバス・デザイン、カリキュラム</p> <p>第10回 日本語教育法（2）教授法：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第11回 日本語教育法（3）教材分析・開発：機能シラバス 構造シラバス 場面シラバス</p> <p>第12回 日本語教育法（4）授業の計画と実施①初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第13回 日本語教育法（5）授業の計画と実施②中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第14回 日本語教育法（6）評価法：熟達度テスト 到達度テスト</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%、期末レポート：50%		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタの SPS と日系ブラジル人</p> <p>【概要】 グローバル化が加速する 21 世紀の世界経済について、その制度的な枠組みを WTO, FTA, EPA を中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】 21 世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	第 1 回 21 世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第 2 回 WTO の仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド 第 3 回 FTA とバラッサの 5 段階説：EU 第 4 回 進展する FTA と EPA の限界：東アジア共同体か、TPP か、NAFTA、メルコスル。日本の EPA 戦略の意義と限界 第 5 回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国 1）：広汽トヨタにおける SPS とリーマン化の進展 第 6 回 同上（中国 2）：SPS と労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ 第 7 回 同上（中国 3）：サプライヤーパーク内専用道開拓：JIT から JIS への進化と負担転嫁 第 8 回 同上（中国 4）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第 9 回 同上（中国 5）：中国金型産業の発展と限界 第 10 回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式 SPS 第 11 回 同上（台湾）：国瑞汽車における AGV 牽引同期台車式 SPS 第 12 回 同上（インドネシア）：TMMIN におけるハンガー式 SPS 第 13 回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第 14 回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】 国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 原林久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的、方法 第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何か違うのか 第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7 回 国際関係のなりたち 4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12 回 国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題 第 13 回 国際社会における諸問題 4：対テロ 第 14 回 国際社会における諸問題 5：グローバルガバナンス 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

授業科目	検定対策講座Ⅰ	担当者	轟義昭
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文法力・語彙力の強化と長文読解力の養成</p> <p>【概要】授業の目的は、検定対策として、英文読解力を向上させ、英文法の基礎知識を再確認させることにある。速読によって250語程度の英文を読んで内容を理解する能力を習得させる一方で、問題を解いて高校で習った文法事項を復習させる。また、一定の時間内に英検2級の問題（プリント学習）を解く感覚を身に付けさせる。</p> <p>【到達目標】実用英語技能検定2級に合格できるように、英語のリーディング力と語彙・文法を身に付ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 坂部俊行・岡島徳昭・W.ノエル『英検2級 合格への道』南雲堂 適宜、プリントによる問題も配布する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、プリント学習（受講生のレベルを確認） 第2回 『英検2級 合格への道』Lesson 1：短文、会話文、説明文、Eメール 第3回 Lesson 2：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第4回 Lesson 3：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第5回 Lesson 4：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第6回 Lesson 5：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第7回 Lesson 6：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第8回 Lesson 7：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第9回 Lesson 8：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第10回 Lesson 9：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第11回 Lesson 10：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第12回 Lesson 11：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第13回 Lesson 12：短文、会話文、説明文、Eメール、プリント学習 第14回 実践形式の練習（その一）：筆記とリスニング、プリント学習 第15回 実践形式の練習（その二）＋まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80%）、予習を含む授業への取り組み（20%）で評価する。		

授業科目	検定対策講座Ⅱ	担当者	土持かおり
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】TOEICの出題傾向を探り、戦略的に又段階的に各パートの対処法を習得するとともに、リスニング力、文法力、速読力をレベルアップするためのトレーニング。</p> <p>【概要】TOEICは今やグローバルな実用的英語運用能力を測るテストとして社会的にも評価されています。TOEICで測られる能力とは、「英語力+戦略力（ストラテジー）です。つまり、TOEICでスコアアップを目指すには、TOEICで求められる英語力だけでなく、問題を解くためのストラテジーも獲得していくことが効率的です。授業では、TOEICのリスニング・リーディングパートの各セクションの演習問題を解きながら英語力を養成するとともに、テスト攻略法や自宅でもできる効率の上がる学習法を学んでいきます。自己目標の点数の獲得を確実なものにしていくためには、授業だけでなく課外での継続した自己学習（予習・復習・課題）が求められます。厳しい道のりですが、あせらず、あきらめず、こつこつと学習すれば必ず目標点数に近づきます。一緒にがんばりましょう！</p> <p>なおコース期間中に実施予定のTOEIC・IPテストを受験することを強く勧めます。</p> <p>【到達目標】コース終了時までにTOEIC500点（できたら550点）以上を取ることを目標とします。</p>		
(1) テキスト	(1) 宮崎充保、Miada Broukal 著、『Intensive Training for the TOEIC Test Student Book』出版社：成美堂		
授業スケジュール	第1回：Preliminary Lesson —TOEICとは？／授業・テキストの進め方／Pre-TOEIC Test にチャレンジ 第2回：前回のPre-TOEIC Test 解説 / Part 1の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第3回：Part 2 攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第4回：Lesson 1 ミニテストの解説 / Part 2の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第5回：Part 3 の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第6回：Lesson 2 ミニテストの解説 / Part 3の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第7回：Part 4の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第8回：Lesson 3 ミニテストの解説 / Part 4の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第9回：Part 5の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第10回：Lesson 4 ミニテストの解説 / Part 5の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第11回：Part 6の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第12回：Lesson 5 ミニテストの解説 / Part 7の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第13回：Lesson 6のミニテストの解説 / Part 7の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第14回：Lesson 7のミニテストの解説 / Part 7の攻略法 / TOEIC 英単語熟語確認テスト 第15回：まとめ		
成績評価の方法	毎回の小テスト（30%）＋各パートのミニテストの提出（30%）＋定期試験（40%）		

授業科目	卒業研究	担当者	久木田美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見をし、卒業論文の作成にあたる。</p> <p>【概要】基礎演習Ⅰ、英語学演習の受講者を対象とし、新言語学/英語学/英語教育のなかで、各自研究テーマを決めて個別指導を受けながら、卒業論文の作成にあたる。</p> <p>【到達目標】英語での卒業論文を作成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 随時プリント (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回～第2回 Introduction 第3回～第4回 Basic understanding about English linguistics for finding the theme 第5回～第7回 Tutorial for writing the paper (content) 第8回～第9回 Midterm presentation 第10回～第14回 Tutorial for writing the paper (writing) 第15回 Reading paper		
成績評価の方法	卒業論文(80%), プレゼンテーション(20%)で評価する。		

授業科目	卒業研究	担当者	轟義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】各人がテーマを設定して研究を進めていく。</p> <p>【概要】映像文学という視点に立って、各人が、興味のある英米文学作品に関連した映画、外国文化等に関連した映画のなかで、テーマを設定して研究を進めていく。</p> <p>*卒業研究論文は日本語で作成してもよい。この場合、350語程度の英語の要約(summary)を添付することとする。勿論、英語での作成が望ましい。</p> <p>【到達目標】各人のテーマで、「課題探求・解決能力」の集大成として、卒業研究論文を完成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 随時プリント (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：卒業論文とは何かの説明、卒業論文作成のスケジュール等の確認 第2回 テーマの選定と絞り込みの指導：過去の事例の紹介 第3回 文献収集の指導：図書館での文献収集およびインターネット検索による文献収集 第4回 テーマの確認、卒業論文の書き方(論の展開の仕方)の指導 第5回 「はじめに」の書き方の指導 第6回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その一) 第7回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その二) 第8回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その三) 第9回 中間発表(その一) 第10回 中間発表(その二) 第11回 個別指導：提出論文の添削・推敲(その一) 第12回 個別指導：提出論文の添削・推敲(その二) 第13回 個別指導：提出論文の添削・推敲(その三) 第14回 提出前の最終指導：レイアウト、目次、参考文献などの確認、英語でのSummary作成の指導 第15回 パワーポイントを用いたプレゼンテーションの練習		
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物(80%), プレゼンテーション(20%)		

授業科目	卒業研究	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 卒業研究の執筆を通し、基礎演習Ⅰ、英語学演習での研究成果をまとめる。</p> <p>【概要】 基礎演習Ⅰと英語学演習Ⅰを通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。</p> <p>【到達目標】 卒業研究を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 初回の授業で指示する。</p> <p>(2) 参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 先行研究と資料の発表およびディスカッション(1)</p> <p>第3回 先行研究と資料の発表およびディスカッション(2)</p> <p>第4回 個別指導 (1)</p> <p>第5回 個別指導(2)</p> <p>第6回 個別指導 (3)</p> <p>第7回 中間発表とディスカッション (1)</p> <p>第8回 中間発表とディスカッション (2)</p> <p>第9回 中間発表とディスカッション (3)</p> <p>第10回 個別指導 (4)</p> <p>第11回 個別指導 (5)</p> <p>第12回 個別指導 (6)</p> <p>第13回 個別指導 (7)</p> <p>第14回 プレゼンテーション資料の作成 (1)</p> <p>第15回 プレゼンテーション資料の作成 (2)</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み (10%) + 卒業研究 (90%)		

授業科目	卒業研究	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文学・比較文化</p> <p>【概要】 比較文化演習で学んだことを踏まえて卒業研究作成を進める。演習では受講者各人の卒業研究と内容あるいは方法的に関係のある資料を割り当てて発表してもらい、討論する一方で、各人の研究の進捗状況を定期的に発表し、お互いに講評し合いながら卒業論文を書き直していく。</p> <p>【到達目標】 卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	<p>第 1回 卒業論文中間発表1</p> <p>第 2回 卒業論文中間発表1 (つづき)</p> <p>第 3回 講評・卒業論文作成の注意点1</p> <p>第 4回 発表と討論1</p> <p>第 5回 発表と討論2</p> <p>第 6回 中間発表2</p> <p>第 7回 中間発表2 (つづき)</p> <p>第 8回 講評・卒業論文作成の注意点2</p> <p>第 9回 発表と討論3</p> <p>第10回 発表と討論4</p> <p>第11回 中間発表3</p> <p>第12回 中間発表3 (つづき)</p> <p>第13回 パワーポイントを使った発表の仕方1</p> <p>第14回 パワーポイントを使った発表の仕方2</p> <p>第15回 卒業研究発表会の練習</p>		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%) , 討論への積極的な参加態度 (40%)		

授業科目	卒業研究	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年                      [学期] 後期 [単位] 2単位                      [必修/選択] 必修    [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> アメリカとヨーロッパの文化と文学について <b>【概要】</b> 本、インタビュー、インターネット等の方法を用いて、卒業論文の作成、推敲をします。卒業研究発表会に向けての準備もします。 <b>【到達目標】</b> 英語での学术论文の執筆を教授し、情報の寄せ集めであるレポートと卒業論文の違いを明確にすることが目標です。特定のトピックにおける事実を述べるレポートとは異なり、卒業論文ではすでに報告されている事実や考えに基づき、自分の意見を明確に述べることを求められます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール: 第1週: 授業紹介 第2～第15週: リサーチ、ライティング、校正演習		
成績評価の方法	出席(60%)、授業内での発言(40%)。		

## 7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論	担当者	倉元 綾子・多々良 尊子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 中学・高校における技術・家庭の学習内容をふまえ、さらに生活科学への展開を図る。生活科学の対象、目的、研究方法を学び、個人・家族の生活の現状と課題について理解を深める。前半は、生活の機能、生活にかかわる政策、世界の家政学、家政学・生活学の歴史などに焦点をあて、生活科学の基本を学ぶ。後半は、生活のしくみをどのようにとらえるのか、具体的な事例に基づいて解説する。それにより、生活全体をグローバルに俯瞰するだけでなく、逆に個人として見つめ、生活科学の構造を理解する。第1回～第7回は倉元が、第8回～第15回は多々良が担当する。</p> <p>【到達目標】 生活科学とは何かを理解し、生活を科学的な視点で把握し、生活にかかわる課題に主体的に関与できるようにする。それにより、各自が生活科学科で勉学する意義を探究して欲しい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) パウエル、キャシディ著、倉元綾子、黒川衣代監訳『家族生活教育：人の一生と家族』南方新社 ヴァンセンティ著、倉元綾子訳『アメリカ・ホーム・エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社 ステイジ、ヴァンセンティ編著、倉元綾子監訳『家政学再考』近代文芸社 西村敬子、加藤祥子、早瀬和利『生活を科学する』開隆堂出版		
授業スケジュール	第1回～第2回 生活とは何か、私たちの生活はどうなっているか（個人・家族の生活の現状） 第3回～第4回 生活科学/家政学の対象、目的、体系・領域 第5回～第7回 生活科学/家政学の歴史と未来（生活課題ととりくむ） 第8回～第9回 生活の基本となる人間関係：家族で生活すること、地域・社会の一員であること、公助・互助・自助 第10回～第11回 生活を環境としてとらえる：＜人体－衣服－住居－社会＞のつながりと相互作用 第12回～第13回 生活をデザインする：もののデザイン、生き方のデザイン、社会のデザイン 第14回 生活科学は社会的な課題にどのようにアプローチするか 第15回 まとめ		
成績評価の方法	倉元担当分（50％）：ワークシート、レポート（第7回までに提示） 多々良担当分（50％）：単元ごとのレポート（4回実施）		

授業科目	生活経営学	担当者	多々良 尊子
	〔履修年次〕 食栄専攻は2年、生活専攻は1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活の実態と課題を把握し、主体的な生活経営力を身につける。</p> <p>【概要】 生活の価値・規範とは何かを考える。それに基づき、生活者自身の意思で、様々な生活資源を管理し、それぞれが思い描くライフスタイルを具体化し、社会参加していくプロセスを学ぶ。生活に必要なものやサービス、金銭、時間、人の能力やエネルギー、人間関係など様々な資源をマネジメント（経営）していく力を育成する。</p> <p>【到達目標】 将来の生活像を描き、生き方を選択し実現していくことを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 日本家政学会生活経営部会（編）『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 大藪千穂『仕事・所得と資産選択』日本放送出版協会		
授業スケジュール	第1回 生活の価値・規範とは何か 第2回 生活経営の主体、生活の単位、生活経営力とは何か 第3回 生活のリスクとマネジメント 第4回 マネジメントするもの (1) 生活者自身の健康・知識・経験・生活技術など 第5回 マネジメントするもの (2) 人間関係、家族、親戚、友人、知人、地域 第6回 マネジメントするもの (3) ものやサービス、資産・収入、時間、情報 第7回 家計(1) 家計調査と家計の変化、収入と支出 第8回 家計(2) ライフサイクルの変化、貯蓄と負債 第9回 家計(3) 家計簿、家計診断 第10回 生活経営の組織 (1) 家族 第11回 生活経営の組織 (2) 地域 第12回 生活の社会化と社会保障制度 第13回 ワークライフバランス：働くこと、結婚すること、社会参加すること 第14回 自己実現のための生活設計 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（50％）および授業時間内の課題（50％）		

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	人間関係論	担当者	石川満佐育
	[履修年次] 生活1年, 食栄2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(生活1年) / 選択(食栄) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ&amp;概要】</b> 人間関係についての基礎的ダイナミズムを理解することは、人との関わりが不可欠な現代社会においてよりよい生活するためには重要であると考えられる。講義では1) 人間関係における基礎知識の習得, 2) 社会的スキルの理解, 習得, 3) 家族関係の理解の3テーマを主題に、発達心理学, 社会心理学, 臨床心理学の視点からアプローチする。講義中では、理解を深めるために適宜、心理検査やワークを取り入れる。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①対人関係の心理についての知識を習得し、自己や他者を心理学的な視点から理解する。 ②豊かな人間関係を築くためには、何が必要かを主体的に考え、自己の対人関係スキルの向上を目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 グループワーク①: クラス開き 第3回 グループワーク②: 構成的グループエンカウンターⅠ 第4回 グループワーク③: 構成的グループエンカウンターⅡ 第5回 人間関係に関する基礎知識①: さまざまな人間関係Ⅰ 第6回 人間関係に関する基礎知識②: さまざまな人間関係Ⅱ 第7回 人間関係に関する基礎知識③: 対人コミュニケーション 第8回 社会的スキル・トレーニング① 社会的スキルとは? 第9回 社会的スキル・トレーニング② SST の実際 第10回 グループ討議: コミュニケーション能力の育成Ⅰ 第11回 グループ討議: コミュニケーション能力の育成Ⅱ 第12回 グループ討議: コミュニケーション能力の育成Ⅲ 第13回 グループ発表 第14回 グループ発表 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	「レポート (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)」		

授業科目	社会福祉論	担当者	古瀬 徹
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 社会福祉の問題を広く政治や経済の動向の中で考える。</p> <p><b>【概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉を形成する基本的な思想を理解する。</li> <li>2. 日本の社会福祉をより広い概念の中でとらえなおす。</li> <li>3. 経済活動との関連で社会福祉制度の実際を分析する。</li> <li>4. 国際的な視野から日本の社会福祉の方向を探る。</li> </ol> <p><b>【到達目標】</b> 日本の社会福祉の大枠を理解し、市民的な視点から社会福祉政策の方向を探る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>ブログ「現代社会と福祉」においてそのつど掲載します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本社会と社会福祉 第2回 社会福祉の基盤としての人権 第3回 ソーシャルポリシーの概念 (社会福祉・社会保障) 第4回 財政構造 第5回 社会保障給付費 第6回 医療問題と介護問題 第7回 年金問題 第8回 都市・住宅問題 第9回 ドイツ社会と社会政策 第10回 北欧型社会と社会政策 第11回 市場型社会の社会政策 第12回 音楽ケア (言語と音楽) 第13回 園芸ケア (環境と人間) 第14回 国際社会と日本 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業での発言や態度 (50%) , レポート (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修 (食物栄養専攻のみ)

## 8 食物栄養専攻専門科目

授業科目	食品学Ⅰ	担当者	釜田 忠
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中の成分について、物理化学的な性質、成分の反応、栄養的特性、食品の物性ならびに食品成分より見た食品の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品中には様々な成分が含まれている。本講義では、健康な日常生活を営むために必要不可欠な栄養素である、タンパク質、脂質、炭水化物、食物繊維、ビタミンについて、化学構造を含めた基礎的な化学と特徴について理解することに始まり、これらの成分の変化、各種反応、栄養的效果について学習していく。</p> <p>【到達目標】栄養士に必要とされる基礎的な知識である食品中に含まれている各種成分の特徴、性質、栄養効果について基本的な知識を理解することを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅰ 食品の化学・物性と機能性」南江堂 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅱ 食品の分類と利用法」南江堂</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回：イントロダクション ・食品の分類</p> <p>第2回：水分 ・水の物理化学的特性 水の生理作用 食品中の水の状態と水分活性</p> <p>第3回：炭水化物1 ・糖類の分類と化学的特性</p> <p>第4回：炭水化物2 ・オリゴ糖・多糖類の化学と特性</p> <p>第5回：炭水化物3 ・炭水化物の栄養効果 食物繊維の特性ならびに栄養効果</p> <p>第6回：タンパク質1 ・タンパク質に分類 アミノ酸の化学と性質</p> <p>第7回：タンパク質2 ・タンパク質の化学と特性 タンパク質の変性</p> <p>第8回：タンパク質3 ・タンパク質の栄養効果・機能</p> <p>第9回：脂質1 ・脂質の分類 脂肪酸の化学と性質</p> <p>第10回：脂質2 ・脂質の変化・反応 (自動酸化など)</p> <p>第11回：脂質3 ・脂質の栄養効果</p> <p>第12回：ビタミン1 ・ビタミンの歴史 脂溶性ビタミンの化学と生理機能</p> <p>第13回：ビタミン2 ・水溶性ビタミンの化学と生理機能1</p> <p>第14回：ビタミン3 ・水溶性ビタミンの化学と生理機能2</p> <p>第15回：まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品学Ⅱ	担当者	釜田 忠
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中の成分について、物理化学的な性質、成分の反応、栄養的特性、食品の物性ならびに食品成分より見た食品の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品中に含まれる成分であるミネラルについての化学・栄養効果、食品中の嗜好成分 (色素、呈味成分、香気成分) について物理化学的な性質、食品中での変化・反応、栄養効果について学ぶとともに、食品中の有害物質、食品の物性について学習する。植物性食品 (穀類、野菜類、果実類など)、動物性食品 (畜肉類、魚介類、乳製品、卵など) の特性について学習する。</p> <p>【到達目標】食品中の成分の特性、栄養効果について理解するとともに、植物性食品、動物性食品の特性を理解することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅰ 食品の化学・物性と機能性」南江堂 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅱ 食品の分類と利用法」南江堂</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回：ミネラル1 ・ミネラルの栄養効果と機能1</p> <p>第2回：ミネラル2 ・ミネラルの栄養効果と機能2</p> <p>第3回：ミネラル3 ・ミネラルの栄養効果と機能3</p> <p>第4回：食品色素1 ・クロロフィル, ミオグロビンの化学的性質と食品中での変化・反応</p> <p>第5回：食品色素2 ・カロテノイド, フラボノイドの化学的性質と変化</p> <p>第6回：食品色素3 ・酵素的褐変反応, 非酵素的褐変反応</p> <p>第7回：呈味成分 ・呈味成分の特性</p> <p>第8回：香気成分 ・食品中の香気成分の特性</p> <p>第9回：食品中の有害物質</p> <p>第10回：食品の物性 ・コロイドの化学, 弾性, 粘弾性</p> <p>第11回：植物性食品1 ・穀類とイモ類の特性</p> <p>第12回：植物性食品2 ・野菜類と果実類</p> <p>第13回：動物性食品1 ・畜肉類と魚介類</p> <p>第14回：動物性食品2 ・牛乳と乳製品</p> <p>第15回：まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品学実験	担当者	釜田 忠
	〔履修年次〕 1年      〔学期〕 前期 〔単位〕 1 単位      〔必修/選択〕 選択 (注)      〔授業形態〕 実験 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中に含まれる成分について実験を通して、これら成分の物理化学的性質を学ぶ。</p> <p>【概要】化学実験では多種多様な薬品、実験器具を使用するため正確な操作を誤ると大きな事故につながる危険性を常にはらんでいる。本実験では講義で学んだ食品成分の性質について実験を通して理解を深めていく。同時に、化学実験に対する取り組み、各種薬品、器具等の正確な操作法、安全対策など化学実験に必要とされる基礎的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】食品中に含まれる各種成分の性質・特性について基本的な知識を習得するとともに、化学実験についての基礎的知識を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス      ・実験概要の説明</p> <p>第2回：実験の基本操作1      ・各種実験器具の操作法</p> <p>第3回：実験の基本操作2      ・天秤、顕微鏡の取り扱い方</p> <p>第4回：試薬作成      ・実験で使用する試薬作成と各種薬品の取り扱い方</p> <p>第5回：滴定      ・0.1 規定水酸化ナトリウムの作成・評定、市販食酢中の酢酸の定量</p> <p>第6回：糖質1      ・単糖類と二糖類の定性実験</p> <p>第7回：タンパク質1      ・アミノ酸、タンパク質の定性実験</p> <p>第8回：無機質      ・煮干し、きな粉に含まれるカルシウム、リン、鉄の検出</p> <p>第9回：糖質2      ・多糖類に関する定性実験</p> <p>第10回：糖質3      ・市販果汁中の還元糖の定量（ベルトラン法）</p> <p>第11回：油脂      ・油脂の定性実験、ケンカ価、ヨウ素価</p> <p>第12回：タンパク質2      ・酵素によるタンパク質の消化実験</p> <p>第13回：牛乳      ・市販牛乳中のカゼインと乳糖の定量</p> <p>第14回：実験の総括</p>		
成績評価の方法	実験レポート (70%) + 実験への取組姿勢 (30%)		

(注) 栄養士必修 教職必修

	食品衛生学	担当者	村山恵美子
	〔履修年次〕 1年      〔学期〕 前期 〔単位〕 2 単位      〔必修/選択〕 選択 (注)      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の安全について、その問題点と注意点、予防策と解決策を学び、衛生観念を身につける。</p> <p>【概要】近年、食中毒の大規模化、輸入野菜中の残留農薬、新しい感染症や食品汚染物質の増加、偽称表示等、食品の安全性を脅かす多くの問題が生じている。これらに対処するため、法律や規格の制定や改正が行われているが、全面解決に至っていないのが現状である。この講義では、その原因となる微生物や自然毒、化学物質、食品添加物等に対する認識を深め、健康かつ安心・安全な食生活を営めるよう、食中毒や食品の変質、変敗の予防法、食品衛生行政、食品衛生管理等を学ぶ。</p> <p>【到達目標】日常の生活の中で、衛生に関心を持つようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小栗重行他著「イラスト食品の安全性」東京教学社 (2) 中村好志・西島基弘編著「食品安全学」同文書院、細貝祐太郎他編「新訂原色食品衛生図鑑第2版」建帛社		
授業スケジュール	<p>第1回 食品の変質（微生物学の基礎、食品の腐敗・変質・油脂の酸敗の予防）</p> <p>第2回 食中毒総論（食中毒の定義、種類と発生状況等）</p> <p>第3回 細菌性食中毒（サルモネラ属、腸炎ビブリオ、腸管出血性大腸菌、カンピロバクター等）</p> <p>第4回 細菌性食中毒（黄色ブドウ球菌、ボツリヌス菌等）</p> <p>第5回 ウィルス性、原虫性食中毒（ノロウィルス、その他のウィルス、クリプトスポリジウム等）</p> <p>第6回 自然毒食中毒（動物性、植物性）</p> <p>第7回 食品による感染症（消化器系感染症、人獣共通感染症）</p> <p>第8回 食品から感染する寄生虫症（魚介類、獣肉類、飲料水、野菜類）</p> <p>第9回 化学性食中毒と食品汚染化学物質（農薬、カビ毒、動物用医薬品、その他の汚染物質）</p> <p>第10回 食品衛生管理（HACCP、食品工場・給食施設における一般衛生管理、家庭における衛生管理）</p> <p>第11回 食品の器具と容器包装（プラスチック、金属、ゴム、紙等）</p> <p>第12回 食品添加物（概要、表示方法、安全性評価等）</p> <p>第13回 食品添加物（種類と用途）</p> <p>第14回 その他の食品の安全性問題（有機栽培、遺伝子組み換え、放射線照射等）</p> <p>第15回 食品衛生行政と法規（衛生行政の対象、関連法規、表示、食品衛生監視員、コーデックス）</p>		
成績評価の方法	筆記試験（90%）、授業中の小テスト（10%）		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	食品衛生学実験	担当者	釜田 忠
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実験方式		
テーマ及び概要	<p>【【テーマ】 日常の食生活から食品の安全性を確保するために必要な知識を実験を通して認識する。</p> <p>【概要】 本実験は微生物実験と化学実験から構成される。微生物実験では、身の回りのあらゆる環境に病原性微生物を始め多くの微生物が存在することを確認することによって、消毒、滅菌等の意義を理解し、食品の安全性の確保のために必要な衛生観念を理解する。</p> <p>一方、化学実験では、食品添加物の使用実態、鮮度判定、水質検査などを通して、日常の食生活に潜む問題点を認識し、安全な食生活について理解する。</p> <p>【到達目標】 身の回りに潜む危険から、安心・安全な食生活を営むために不可欠な衛生に関する知識を習得することを目的とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス1</p> <p>第2回：微生物基礎実験1</p> <p>第3回：微生物基礎実験2</p> <p>第4回：微生物基礎実験3</p> <p>第5回：布巾・まな板の衛生検査</p> <p>第6回：大腸菌群の定量実験</p> <p>第7回：サルモネラ菌</p> <p>第8回：ブドウ球菌</p> <p>第9回：耐熱性・紫外線抵抗試験</p> <p>第10回：ガイダンス2</p> <p>第11回：合成着色料の検出</p> <p>第12回：発色剤の定量</p> <p>第13回：タンパク質の変敗試験</p> <p>第14回：水質検査</p> <p>第15回：実験の総括</p>		
成績評価の方法	実験レポート (70%) + 実験への取り組み (30%)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>微生物実験の概要説明と実験器具の洗浄ならびに実験室の清掃</li> <li>器具の滅菌と培地作成 (斜面培地, 高層培地, 平板培地)</li> <li>菌 (4種類) の接取・培養, グラム染色による菌の観察</li> <li>菌の形態観察</li> <li>洗い落とし法, 拭取り法による総菌数, 大腸菌の確認</li> <li>最数法による大腸菌の定量</li> <li>市販ひき肉, 鶏肉からサルモネラ菌の検出</li> <li>おにぎり中のブドウ球菌の検出, ブドウ球菌の人体付着検査</li> <li>加熱, 紫外線の殺菌効果の測定</li> <li>化学実験の概要説明, 実験器具の洗浄, 微生物実験に使用した器具の後片付け</li> <li>合成タール試験法による市販食品中に含まれる合成着色料の検出</li> <li>市販ハム中の発色剤 (亜硝酸) の検出ならびに定量</li> <li>市販魚肉中の揮発性塩基窒素の測定による鮮度判定</li> <li>家庭用飲料水の理化学試験 (平常試験)</li> </ul>		

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品加工学	担当者	釜田 忠
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義・実習方式		
テーマ及び概要	<p>【【テーマ】 食品保存, 加工についての概念, 基本的な知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 「食品加工」は食品の加工, 保藏, 包装・表示など加工食品だけでなく保藏食品, 包装食品を作ることである。生活様式の変化に伴い, 多種多様な食品が生産利用され, 需要が高まってきていると同時に安全性の問題など新たな問題も生じ, 加工食品に対する正しい知識が求められている。本講義では食品の特性を理解したうえで, 加工食品の原理や食品保藏に関する基礎的知識を理解し習得する。</p> <p>【到達目標】 食品加工の基本的知識を理解し, 日常の食生活で加工食品を上手に取り入れることによって食生活の改善に役立てる事を到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 露木英男・田島 眞編「食品加工学—加工から保藏まで—」共立出版 (2) プリント		
授業スケジュール	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：食品加工の原理</p> <p>第3回：食品保藏の原理1</p> <p>第4回：食品保藏の原理2</p> <p>第5回：食品保藏の原理3</p> <p>第6回：食品の加工1</p> <p>第7回：食品の加工2</p> <p>第8回：食品の加工3</p> <p>第9回：食品の加工4</p> <p>第10回：食品の加工5</p> <p>第11回：実習 1</p> <p>第12回：実習 2</p> <p>第13回：実習 3</p> <p>第14回：実習 4</p> <p>第15回：実習 5</p>		
成績評価の方法	実習レポート (50%) + テスト (50%)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品加工の基本理念</li> <li>物理的操作と化学的操作</li> <li>低温保存と水分制御による保存</li> <li>浸透圧の利用, pH, 燻煙</li> <li>殺菌による保存, 環境ガス</li> <li>農産物</li> <li>農産物</li> <li>畜産物</li> <li>水産物</li> <li>乳製品, 卵</li> </ul>		

授業科目	調理学	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 必修                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 食品の調理過程における科学的現象  <b>【概要】</b> 調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 嗜好を満足させ、健康を維持するために、おいしく調理する作業を再現でき、また、調理や食物選択が理にかなったものにする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) はじめて学ぶ『調理学』化学同人 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部 山崎清子ら共著『NEW 調理と理論』同文書院		
授業スケジュール	第 1回 調理学の意義と目的 第 2回 食べ物のおいしさ 第 3回 調理操作と調理機器 第 4回 植物性食品1の調理科学 第 5回 調味料・香辛料の調理科学 第 6回 ゲル化剤・とろみ剤の調理科学 第 7回 植物性食品2の調理科学 第 8回 植物性食品3の調理科学 第 9回 植物性食品1の調理科学 第10回       "      2の調理科学 第11回       "      3の調理科学 第12回 油脂類の調理科学 第13回 嗜好飲料 第14回 調理文化 第15回 グループ発表、まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) ・授業態度及び出席・小テスト・ノート (40%) を考慮		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習 I	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術  <b>【概要】</b> 一食の献立として学習で来るよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム  <b>【到達目標】</b> 調理の見方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回 調理機器の使い方、調味の割合、 第 2回 和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物 第 3回 日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し（下洗い）、上新粉の扱い 第 4回 西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ（鶏がらの扱い）、パンケーキ 第 5回 中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、（大量調理） 第 6回 日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉 第 7回 洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット（ヴィネグレット）ソース、ゼラチンの扱い 第 8回 中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナッツの扱い 第 9回 日本料理：ソーメン、焼魚（器具と化粧塩、鮎の食べ方）、いり豆腐、和え物、水ようかん 第10回 西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン 第11回 中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い 第12回 郷土料理：具沢山の炊き込みご飯（具の量と調味）、ささがき、寄せ卵、白和え、ふくれ菓子 第13回 西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ（マヨネーズ作り）、レア・チーズケーキ 第14回 お盆料理：かひのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い 第15回 調理実技復習、まとめ		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅱ	担当者	山下三香子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム</p> <p>【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 夏のお盆料理の報告</p> <p>第2回 日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子</p> <p>第3回 中華料理：八宝菜、いかの扱い(花いか)、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について</p> <p>第4回 日本料理：行楽弁当(いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮)、土瓶蒸し、小倉ケーキ</p> <p>第5回 スチームコンベクション料理：焼き魚・から揚げ(ドライモード)、焼きそば(コンビ)、温野菜・プリン(スチーム)、</p> <p>第6回 献立応用家庭料理かみかみメニュー</p> <p>第7回 日本料理：さつまずもじ(ちらし寿司)、青のりの汁、芋のそぼろあんかけ、抹茶饅頭</p> <p>第8回 パンとスープ</p> <p>第9回 日本料理お魚講習：霜降りの方法と役目、刺身、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし</p> <p>第10回 正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り</p> <p>第11回 クリスマス料理、ビーフストロガノフ(ブラウンソース)、プッシュドノエル</p> <p>第12回 中国の行事食：春節の意味と代表料理、中華饅頭</p> <p>第13回 大量調理への応用</p> <p>第14回 テーブルマナー(会席料理)、会席料理とは</p> <p>第15回 調理技術と主菜の作成、まとめ</p>		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	調理学実習Ⅲ	担当者	山下三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴(糊化作用、凝固作用、膨張作用など)を十分活かした調理実習カリキュラム</p> <p>【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ～13回 大量調理の応用 季節の和食・応用(五目炊き込み、ブリ大根、モズク酢、5色なます、のっぺい汁、桜餅) 郷土料理(芋ご飯、さつま揚げ、さつま汁、なまぶしの酢の物、かるかん、豚骨、鶏飯・酒ずし、がね、ぬた) 小麦の応用(餃子、フルーツパウンドケーキ、アップルケーキ、シフォンケーキ、ソース等) 自作の献立作成から調理技術への完成 正月料理：鹿児島のおせち料理、茶懐石料理 西洋料理の応用：グラタン(ホワイトソースの活用)、 クリスマス(ローストチキン、クラムチャウダー、パン・クッキー、ショートケーキ) 諸外国の料理</p> <p>第14回 テーブルマナー(洋食)</p>		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学総論	担当者	倉元 綾子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養学とはなにか。</p> <p>【概要】 健康な生活を営むためには、適切な栄養摂取が必要である。日本人の食生活は食料不足の時代から飽食の時代へと急速に変化し、国民の栄養摂取状況も大きく変化した。とはいえ、栄養素欠乏症は克服されたが、栄養素の過剰やアンバランスが顕著になり、生活習慣病のような代謝性疾患が増加している。食料の生産・加工・流通のしくみの変化・発達、生活環境の変化、科学技術の発達、情報化の進展なども著しい。このように、健康と栄養、食をとりまく問題は、大きな広がりと深さをもっている。栄養学領域を全体的に把握し、栄養学の本質や基本的考え方を学ぶ。各回の講義の導入部では、食生活の現状についてのトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】 栄養学の基礎的事項を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行, 高橋正佑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己, 三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 『栄養学辞典』同文書院 『管理栄養士国家試験キーワード集』女子栄養大学出版部, レイチェル・カーソン『沈黙の春』新潮文庫 NHK取材班『NHKサイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体1～6別巻1,2』日本放送出版協会 各 3200 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 栄養と食生活, 栄養学の歴史 1 (世界, 日本)</p> <p>第 2 回 栄養と食生活, 栄養学の歴史 2 (世界, 日本)</p> <p>第 3 回 栄養と食生活, 栄養学の歴史 3 (世界, 日本)</p> <p>第 4 回 栄養と食生活, 栄養学の歴史 4 (世界, 日本)</p> <p>第 5 回 「消化吸収の妙-胃・腸」 (小テスト)</p> <p>第 6 回 栄養補給, 消化, 吸収, 栄養素の人体への取り入れ,</p> <p>第 7 回 エネルギー代謝, 水分代謝</p> <p>第 8 回 非栄養成分と人体</p> <p>第 9 回 「壮大な化学工場-肝臓」 (小テスト)</p> <p>第 10 回 栄養素とその機能</p> <p>第 11 回 糖質の栄養と代謝, 脂質の栄養</p> <p>第 12 回 タンパク質の栄養</p> <p>第 13 回 タンパク質の栄養</p> <p>第 14 回 ビタミンの栄養</p> <p>第 15 回 無機質の栄養</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%), テスト (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学各論	担当者	玉田 泉
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 小児栄養学</p> <p>【概要】 小児期の成長と発達を学び、乳児期、幼児期、学童期、思春期の特徴を理解し、各期の栄養の概説を述べる。また、各期の病気も学びその治療と栄養の関係について理解を深める</p> <p>【到達目標】 小児の特徴を理解し、小児栄養の成長や発達における影響を把握し、小児が健全な発育・発達をし、生涯を通じて健康に過ごすことができるよう援助することができること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』堤ちはる、土井正子編著 萌文書林、2,400 円		
授業スケジュール	<p>第 1 回 小児の特徴、小児期の分類</p> <p>第 2 回 胎生期の栄養と病気</p> <p>第 3 回 乳児期の栄養と病気</p> <p>第 4 回 幼児期の栄養と病気</p> <p>第 5 回 学童期・思春期の栄養と病気</p> <p>第 6 回 小児期の疾病と食生活</p> <p>第 7 回 小児期の食生活・食育</p> <p>第 8 回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学各論	担当者	吉田 泰与
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の健康と栄養及び病態栄養療法</p> <p>【概要】日本人の食事摂取基準を基に食と健康について学習する。エネルギー及び栄養素摂取量の多少に起因する健康障害は、欠乏症または摂取不足によるものだけでなく、過剰によるものも存在する。また、栄養素摂取量の多少が生活習慣病の予防に関与する場合もある。これらに対応することを目的とした各ライフステージの健康と栄養の理解を深め、さらに各疾患の予防ガイドラインを含めた栄養療法をも学ぶ。</p> <p>【到達目標】個々に必要なエネルギー、たんぱく質等の栄養素摂取量算出及び栄養ケア・マネジメントの立案ができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 厚生労働省策定 『日本人の食事摂取基準 2010年版』 第一出版 日本病態栄養学会編 改訂第4版認定「病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック」メディカルレビュー社 3500円+税</p> <p>(2) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(最新版) 日本糖尿病協会文光堂 医歯薬出版編 『最新 日本食品成分表』 医歯薬出版 (日本食品標準成分表2010 アミノ酸成分表2010 五訂増補期別成分表 完全収載)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 食事摂取基準による個々の推定エネルギー算出 第2回 同上 たんぱく質及び他の栄養素摂取量 第3回 ライフステージ別の栄養 成人期の生活活動 メタボリック・シンドローム 特定健診 特定保健指導 第4回 同上 思春期 妊娠・授乳期 高齢期 第5回 病態栄養と栄養療法および各疾患の栄養管理ガイドライン 消化器疾患 代謝疾患 呼吸器疾患 第6回 同上 循環器疾患 腎疾患 第7回 同上 血液疾患 他 周産期医療 外科術前術後 第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学実習	担当者	山下三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防、臨床を対象とした栄養学の実践から応用</p> <p>【概要】妊娠、乳幼児・高齢期に至るまでの健康保持・疾病予防、疾病の臨床的な栄養管理、つまり食品の選択から食品構成、献立作成、調理、供食までを実際に行う。</p> <p>【到達目標】ライフステージごとの食形態、疾病により異なる栄養素配分の献立、常食からの展開ができる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『ライフステージ実習栄養学』、『臨床栄養学実習書』 医歯薬出版 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版社、『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版、『腎臓病食品交換表』医歯薬出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 成長期(乳児期、幼児期、学童期)の栄養的特徴、演習 第2回 " 実習 第3回 経腸栄養の特徴、易消化食の特徴と実習 第4回 高齢期の栄養的特徴、実習(骨粗鬆症、咀嚼嚥下困難食) 第5回 " 第6回 成人期の臨床栄養(エネルギーコントロール食:糖尿病食演習、実習) 第7回 " 第8回 成人期の臨床栄養(たんぱく質コントロール食:腎臓病食演習、実習) 第9回 " 第10回 成人期の臨床栄養(ナトリウムコントロール食:高血圧食演習、実習) " 第11回 " 第12回 成人期の臨床栄養(脂質コントロール食:脂質異常症食演習、実習) 第13回 " 第14回 妊娠、授乳期の栄養学的特徴 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート50% 出席・実習態度50%		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学	担当者	倉元 綾子
		〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能</p> <p>【概要】食物栄養の専門知識においては、食物や栄養のことばかりでなく、消化・吸収・排泄などの機能を担う人体についても深く理解しておくことが重要である。人体を構成している各種臓器、組織、細胞を構造的、形態的、機能的な側面から総合的に学ぶ。使用するテキストやビデオ、プリントなどとおして、それらの形態と機能の有機的関連を理解することに重点を置く。関連する生化学、栄養学への関心を高めるようにする。主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深めたい。また、解剖生理学のトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】人体の構造と機能を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4000 円+税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4000 円+税</p> <p>(2) NHK 取材班『NHK サイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体Ⅰ～Ⅵ別巻1,2』日本放送出版協会 各 3200 円 『驚異の小宇宙・人体Ⅱ 脳と心Ⅰ～Ⅵ』NHK 出版 各 3200 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 「生命誕生」人体の構造と機能 (人体の大要, 細胞, 組織, 器官と器官系, 個体発生と系統発生),</p> <p>第 2 回 人体の構造と機能 1 (人体の大要, 細胞, 組織)</p> <p>第 3 回 人体の構造と機能 2 (器官と器官系, 個体発生と系統発生)</p> <p>第 4 回 生殖系 (生殖器とその機能)</p> <p>第 5 回 「しなやかなポンプー心臓・血管」循環系 (構成, 血液, リンパ系, 生理) (小テスト)</p> <p>第 6 回 循環系 (構成, 血液, リンパ系, 生理)</p> <p>第 7 回 呼吸系 (構成, 生理)</p> <p>第 8 回 「なめらかな連携プレーー骨・筋肉」骨格系 (形状と構造, 主要骨格とその連結, 生理) (小テスト)</p> <p>第 9 回 筋系 (形状と構造, 主要骨格筋, 生理) (小テスト)</p> <p>第 10 回 「生命を守るー免疫」内分泌系 (内分泌腺の構造と機能)</p> <p>第 11 回 内分泌系 (内分泌腺の構造と機能)</p> <p>第 12 回 免疫系</p> <p>第 13 回 「脳の構造と機能 (記憶, 再生)」神経系 (神経系の概要, 中枢神経系の構造と機能) (小テスト)</p> <p>第 14 回 神経系 (末梢神経系の構造と機能, 自律神経系の構造と機能)</p> <p>第 15 回 感覚系 (感覚の種類, 視覚器の構造と機能, 聴覚器の構造と機能, 味覚および嗅覚, 体性感覚・内臓感覚, 皮膚と体温調節 (皮膚の構造, 皮膚の機能, 体温の調節))</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%), テスト (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学実験	担当者	倉元 綾子
		〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実験方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能</p> <p>【概要】人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての解剖生理学的知識を、実験・観察・スケッチなどを通して、体得し深める。また、食品学実験における定性実験を基礎に、生体における健康の指標である血液などの各種成分の定量的分析を行う。これらを通じて、正確さ、根拠強さ、コミュニケーション能力などを養う。(なお、時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。)</p> <p>【到達目標】実験、観察を通して、人体の構造と機能を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 奥恒行,高橋正信編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4000 円+税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4000 円+税 川村一男『新訂解剖生理学実験』建帛社 1785 円 村澤三『新訂生化学実験』建帛社 1785 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験の予備知識, 実験の進め方, レポートの書き方, 器具洗浄</p> <p>第 2 回 骨格観察 (脳神経)</p> <p>第 3 回 骨格観察</p> <p>第 4 回 骨格観察</p> <p>第 5 回 人体モデル観察 (各種臓器) (腎臓神経)</p> <p>第 6 回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第 7 回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第 8 回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第 9 回 組織観察 (肝臓, 腎臓, 脾臓, 胃)</p> <p>第 10 回 血液(1)赤血球数算定, 白血球数算定</p> <p>第 11 回 血液(2)ヘモグロビン量, ヘマトクリット値</p> <p>第 12 回 血液(3)血糖定量, 血中タンパク質定量</p> <p>第 13 回 血液(4)血清コレステロール測定</p> <p>第 14 回 ラットの解剖</p> <p>第 15 回 器具洗浄, そうじ, まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (70%), 予習の状況, 実験への取り組み状況 (30%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学Ⅰ	担当者	倉元 綾子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脂質、糖質、タンパク質の生化学</p> <p>【概要】栄養とは、生物が体外から物質を取り入れ、それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は体外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化、すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は、必要に応じて調節され、変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり、この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように、生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的・分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ、さらに、生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち、脂質、糖質、タンパク質などを中心に、より深く、多面的に学習する。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深める。また、講義の最初には生化学のトピックスにも触れたい。</p> <p>【到達目標】脂質、糖質、タンパク質の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4000 円+税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4000 円+税</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 生化学を学ぶ意義 1 第 2回 生化学を学ぶ意義 2 第 3回 細胞 第 4回 タンパク質代謝 1 第 5回 タンパク質代謝 2 (小テスト) 第 6回 酵素 1 第 7回 酵素 2 第 8回 脂質代謝 1 (小テスト) 第 9回 脂質代謝 2 第 10回 コレステロール代謝 第 11回 解毒, P450, アルコール代謝 (小テスト) 第 12回 ビタミン 1 第 13回 ビタミン 2 第 14回 ビタミン 3 第 15回 無機質 (小テスト)</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%), テスト (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学Ⅱ	担当者	倉元 綾子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脂質、核酸、生体機能の調節の生化学</p> <p>【概要】栄養とは、生物が体外から物質を取り入れ、それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は体外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化、すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は、必要に応じて調節され、変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり、この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように、生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的・分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ、さらに、生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち、脂質、糖質、タンパク質などを中心に、より深く、多面的に学習したい。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深めたい。また、講義の最初には生化学のトピックスにも触れたい。</p> <p>【到達目標】脂質、核酸、生体機能の調節の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4000 円+税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4000 円+税</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など) 第 2回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など) 第 3回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など) 第 4回 アミノ酸の代謝 (アミノ基転移と脱アミノ, 尿素回路), (小テスト) 第 5回 アミノ酸の代謝 (アミノ酸の炭素骨格の代謝, 尿素以外の窒素化合物の代謝) 第 6回 タンパク質の代謝 (DNA, RNA, タンパク質の合成, 分解, 代謝調節) 第 7回 タンパク質の代謝 (DNA, RNA, タンパク質の合成, 分解, 代謝調節) 第 8回 糖質の代謝 (解糖系, TCA回路など), (小テスト) 第 9回 糖質の代謝 (解糖系, TCA回路など) 第 10回 糖質の代謝 (解糖系, TCA回路など) 第 11回 脂質の代謝 (トリグリセリドの分解, 脂肪酸の酸化), (小テスト) 第 12回 脂質の代謝 (不飽和脂肪酸の酸化, ケトン体の生成・代謝, 脂肪酸の生合成など) 第 13回 核酸の代謝 (プリン塩基&lt;ヌクレオチド&gt;の合成と分解) (小テスト) 第 14回 核酸の代謝 (ピリミジン塩基&lt;ヌクレオチド&gt;の合成と分解) 第 15回 生体機能の調節 (ホルモンの構造と化学), (小テスト)</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%), テスト (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学実験	担当者	倉元 綾子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実験方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生体成分, 栄養成分の定量的分析</p> <p>【概要】 生化学は, 食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で, 人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について, 栄養成分の定量分析, 尿, ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。実験を通じて, 正確さ, 根気強さ, コミュニケーション能力などを養う。(なお, 時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。)</p> <p>【到達目標】 実験を通して, 生体成分, 栄養成分の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円 奥恒行,高橋正伸編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社 4,000 円+税 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円+税</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験の予備知識, 実験の進め方, レポートの書き方, 器具洗浄</p> <p>第 2 回 灰分, 脂肪, 食物繊維の定量 (解説)</p> <p>第 3 回 水分の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 4 回 ステロイドホルモンの分離定性 (解説, 実験)</p> <p>第 5 回 アミラーゼによる酵素実験 (解説, 実験)</p> <p>第 6 回 ビタミンB<sub>2</sub>の定性 (解説, 実験)</p> <p>第 7 回 ビタミンB<sub>1</sub>の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 8 回 タンパク質の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 9 回 タンパク質の定量 (実験)</p> <p>第 10 回 タンパク質の定量 (実験)</p> <p>第 11 回 カルシウムの定量 (解説, 実験)</p> <p>第 12 回 尿 (1) クレアチニン, カルシウム・マグネシウムの定量 (解説, 実験)</p> <p>第 13 回 尿 (2) ウロペーパータンパク, 糖, アセトン体</p> <p>第 14 回 器具洗浄</p> <p>第 15 回 まとめ, そうじ</p>		
成績評価の方法	レポート (70%), 予習の状況, 実験への取り組み状況 (30%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	健康と運動	担当者	西迫 貴美代
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代社会において健康問題が取り上げられ, 「健康ブーム」現象が起きている。その背景やその原因について言及することによって, 本講義で取り扱う「健康」概念を明確にする。特に運動不足がもたらす現代人の健康問題に対して, 運動の必要性を理解することはもちろんのこと, 日常生活の中で実施しうる具体的な「運動処方」について理解することを目的とする。</p> <p>【概要】 健康にかかわる職業である, 栄養士に必要な基本的な運動処方の知識を具体的なデータを元に深める。</p> <p>【到達目標】 自分自身の測定データから導き出される運動作業課題を導き出すことができ, さらにその課題克服のための具体的なかつ適切な運動処方を組み立てることができることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 適時, 講義資料を配付する</p> <p>(2) 『健康と運動の科学』九州大学健康科学センター編, 大修館書店, 1999 年 他に適時, 参考文献を紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回:オリエンテーション 現代社会の特徴と健康問題</p> <p>第 2 回:健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る)</p> <p>第 3 回:からだに刷り込まれた自分の体のクセを知る (データの意味)</p> <p>第 4 回:ウォーキングによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第 5 回:ペースウォーキングによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第 6 回:ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定</p> <p>第 7 回:ペースジョギングにおける身体作業能力の測定</p> <p>第 8 回:適切な運動処方について考える 1 (自己のデータを元に)</p> <p>第 9 回:適切な運動処方について考える 2 (基本的な運動とリラクゼーションの方法について～ストレス解消法)</p> <p>第 10 回:適切な運動処方について考える 3 (これまでの健康づくりとこれからの健康づくり)</p> <p>第 11 回:健康と運動 1 (運動の仕組みと運動の効果)</p> <p>第 12 回:健康と運動 2 (運動とダイエット)</p> <p>第 13 回:健康と運動 3 (運動と休養・栄養)</p> <p>第 14 回:健康と運動 4 (ライフスタイルを考える)</p> <p>第 15 回:まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) +レポート(40%)		

(注) 教職必修

授業科目	健康管理概論	担当者	森口 哲史
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康を維持増進するために、病気の予防法について学ぶ</p> <p>【概要】人口統計及び疾病統計の現状について把握し、疾病の予防、健康維持増進の方法についての知識を習得することで、健康管理についての科学的な考え方や理解を養う</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康の概念について説明できる</li> <li>2) 健康指標の意義について説明できる</li> <li>3) 疾病の予防法について列挙できる</li> <li>4) 主な感染症について、微生物と感染経路について列挙できる</li> <li>5) 人口統計および疾病統計について把握し、健康維持等の具体的方法について説明できる</li> <li>6) 身の周りの生活環境や労働環境による健康障害について説明できる</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 松元秀明 よくわかる公衆衛生 金原出版 (2) 国民衛生の動向など		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 健康の概念、 第 3回 健康の指標 1 第 4回 健康の指標 2 第 5回 疾病予防 第 6回 感染症予防 1 第 7回 感染症予防 2 第 8回 健康の現状 1 人口統計 第 9回 健康の現状 2 疾病統計 第 10回 健康増進の施策 第 11回 健康増進の実際 1 第 12回 健康増進の実際 2 第 13回 環境と健康障害 第 14回 労働と健康障害 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	公衆衛生学	担当者	波多野浩道
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】公衆衛生学およびその実践である公衆衛生の昨日、今日、明日</p> <p>【概要】人間の健康擁護のための学的体系つまり公衆衛生学とその実践つまり公衆衛生を理解する上で、基本となる疫学方法論の修得及び保健統計の読み方、主要な概念を修得する。 過去に起こった公衆衛生上の出来事や現在のトピックを素材に、公衆衛生リテラシーを獲得できるように、講義と一部演習を取り入れる。</p> <p>【到達目標】公衆衛生学の主要な概念を用いることができる。保健統計の意味を解説できる。新聞報道等の公衆衛生トピックを理解することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 国民衛生の動向 2013/2014 年版あるいは 2014/2015 年版、厚生統計協会 (2) 適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 公衆衛生とは; Winslow C. E. A. の定義と健康転換 第 2回 公衆衛生史と New Public Health : WHO の理念と戦略を中心として 第 3回 疫学 1 : 研究デザイン; 記述疫学(Snow), 分析疫学, 介入疫学 (高木兼寛) 第 4回 疫学 2 : 因果論、誤差論 第 5回 保健統計 1 : 人口現象と生命表 第 6回 保健統計 2: 健康指標とヘルスケアシステム評価 第 7回 環境保健 1 ; 生態学的環境論と 4 大公害 第 8回 環境保健 2 : 地球環境保健と新興・再興感染症 第 9回 地域保健活動 1 : 基本理念とヘルスサービスの構造 第 10回 地域保健活動 2 : 母子保健 学校保健 第 11回 地域保健活動 3 : 産業保健 老人保健 第 12回 地域保健活動 4 : 感染症 精神保健 第 13回 地域保健活動 5 : 健康危機管理 (災害、原発事故) 第 14回 公衆衛生行政 1 : 健康づくり施策と医療計画 第 15回 公衆衛生行政 2 : 医療制度改革と社会保障		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) , 小論文 (20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	運動生理学	担当者	森口 哲史
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身体活動による人体機能の変化について学ぶ  【概要】運動を行った際の人体機能の変化を習得することで、運動習慣の必要性に関する科学的根拠を学ぶ  【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 骨格筋の構造を把握し、筋線維タイプ、筋収縮様式、エネルギー供給系について説明できる</li> <li>2) 神経系の分類を把握し、ニューロンと興奮伝導、反射について説明できる</li> <li>3) 運動と酸素摂取、エネルギー代謝について説明できる</li> <li>4) 運動時の中心・末梢循環について説明できる</li> <li>5) 運動と各種栄養素および水分摂取との関わりについて説明できる</li> <li>6) 運動処方 の 6 原則を説明できる</li> <li>7) 老化による身体機能の変化について説明できる</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 勝田茂「運動生理 20 講」朝倉書店、「入門運動生理学」杏林書院 (2) オストランド運動生理学、スポーツ栄養学、高所医学、など		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 体力 第 3 回 筋肉 1 第 4 回 筋肉 2 第 5 回 神経 1 第 6 回 神経 2 第 7 回 呼吸 第 8 回 エネルギー代謝 第 9 回 循環 第 10 回 運動と栄養 1 第 11 回 運動と栄養 2 第 12 回 運動処方 1 第 13 回 特殊環境と運動 第 14 回 老化と運動 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	給食管理	担当者	山下三香子
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について  【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ  【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』、『大量調理』 学建書院 (2) 『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部、 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂 『給食の運営管理実習テキスト』第一出版		
授業スケジュール	第 1 回 給食の意義と目的 (特定給食施設、役割)、給食関連法規と行政指導 第 2 回 食事計画、栄養管理 第 3 回 " " 第 4 回 " " 第 5 回 大量調理、作業工程 第 6 回 衛生・安全管理 献立作成 第 7 回 " " 第 8 回 " " 第 9 回 施設・設備管理 " 第 10 回 食材・原価管理 " 第 11 回 経営・作業・人事管理 第 12 回 給食施設の種類と特性 第 13 回 " " 第 14 回 調査・研究、栄養教育 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	出席・レポート・小テスト 40%、試験 60%		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅰ	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期・後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択(注)                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス</p> <p>【概要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。</p> <p>【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』、『大量調理』 学建書院 『給食の運営管理実習テキスト』第一出版</p> <p>(2) 『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂</p>		
授業スケジュール	<p>オリエンテーション(実習の概要)</p> <p>献立計画・・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。 食材購入計画・・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。</p> <p>運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。</p> <p>試作・試食・・献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする</p> <p>衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。</p> <p>実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。</p> <p>栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。</p> <p>供食サービス・・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。</p> <p>評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ(報告発表)</p>		
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度及び出席(70%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期集中 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択(注)                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設(事業所、福祉施設など)での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、 『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部</p>		
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、給食施設の概要</li> <li>2、給食業務の流れ</li> <li>3、給食組織と業務分担および栄養士業務</li> <li>4、栄養教育</li> <li>5、献立内容</li> <li>6、大量調理の技術</li> <li>7、食材管理</li> <li>8、衛生管理</li> <li>9、各調査と評価</li> <li>10、実習終了後、学内で報告発表を行う。</li> </ol>		
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)		

(注) 栄養士必修 ※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる。

授業科目	給食管理実習Ⅲ	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期集中 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択(注)                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設(学校)での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』 医歯薬出版、 『五訂増補食品成分表』 女子栄養大学出版社</p>		
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、給食施設の概要</li> <li>2、給食業務の流れ</li> <li>3、給食組織と業務分担および栄養士業務</li> <li>4、栄養教育</li> <li>5、献立内容</li> <li>6、大量調理の技術</li> <li>7、食材管理</li> <li>8、衛生管理</li> <li>9、各調査と評価</li> <li>10、実習終了後、学内で報告発表を行う。</li> </ol>		
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)		

(注) 栄養士必修、教職必修 ※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる。

授業科目	栄養教育論	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期                      〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択(注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】栄養教育は、対象とする個人や集団のQOLを高めるため適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて、好ましい食行動の実践と習慣化をさせること、また、生活習慣病の増加に対応するためには、栄養・食生活上問題のある人々を対象として、その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。</p> <p>【到達目標】対象の実態とニーズに沿って、健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 日本栄養士会編 『2014年度版 管理栄養士 栄養士必携』 第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育の概念、行動科学理論と栄養教育</p> <p>第2回 行動科学理論とモデル</p> <p>第3回 行動変容技法と概念</p> <p>第4回 栄養教育におけるカウンセリング</p> <p>第5回 組織づくり・地域づくり、栄養教育の展開</p> <p>第6回 食環境づくり、栄養教育の展開</p> <p>第7回 栄養教育マネジメント、栄養教育の展開</p> <p>第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績(70%)、課題と小テスト(30%)により評価する。		

(注) 栄養士必修、教職必修 7.5回

授業科目	栄養指導論Ⅰ	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 必修 (注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養学的基礎理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握</p> <p>【概要】 本講義では、栄養指導に必要な基礎的知識と、対象とする個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割やその食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院</p> <p>(2) 日本糖尿病学会編・著『糖尿病食事療法のための食品交換表第7版』日本糖尿病協会・文光堂 日本栄養士会編 『2014年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導の目的, 栄養指導の歴史</p> <p>第2回 食事栄養摂取基準 (身体活動指数, エネルギー)</p> <p>第3回 食事栄養摂取基準 (各栄養素)</p> <p>第4回 食品構成 (各栄養素の基準量)</p> <p>第5回 食品構成 (栄養比率)</p> <p>第6回 栄養価の算定 (日本食品標準成分表の活用とその留意点)</p> <p>第7回 各種調査による実態把握 (身体状況)</p> <p>第8回 各種調査による実態把握 (生活時間)</p> <p>第9回 各種調査による実態把握 (栄養調査)</p> <p>第10回 各種調査による実態把握 (食生活調査)</p> <p>第11回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導)</p> <p>第12回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価)</p> <p>第13回 栄養指導の基本的な進め方 (運動)</p> <p>第14回 栄養指導の基本的な進め方 (休養)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%)、課題と小テスト (30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論Ⅱ	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 必修 (注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養学的基礎理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導</p> <p>【概要】 本講義では、対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して、その食習慣を形作った背景を正しく理解して、指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し、栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院</p> <p>(2) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表第7版』日本糖尿病協会・文光堂 日本栄養士会編 『2014年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ライフステージと栄養指導 (妊産婦)</p> <p>第2回 ライフステージと栄養指導 (乳・幼児期)</p> <p>第3回 ライフステージと栄養指導 (学童期)</p> <p>第4回 ライフステージと栄養指導 (思春期・青年期)</p> <p>第5回 ライフステージと栄養指導 (壮年期)</p> <p>第6回 ライフステージと栄養指導 (高齢期)</p> <p>第7回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病)</p> <p>第8回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 肥満症)</p> <p>第9回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 高血圧症)</p> <p>第10回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 糖尿病)</p> <p>第11回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 脂質異常症)</p> <p>第12回 学校給食と栄養指導</p> <p>第13回 病院給食と栄養指導</p> <p>第14回 事業所給食と栄養指導, 福祉施設給食と栄養指導</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%)、課題と小テスト (30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅰ	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、個人や集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のために、栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成、栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的とする。特に栄養指導論実習Ⅰでは、事業所、学校での栄養指導・教育のシュミレーションを展開し、体験学習により栄養指導・教育に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】対象者（幼児、学童、生徒）への的確な栄養アセスメント、指導案の作成、媒体の選択、プレゼンテーションのスキルを習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 齊藤禮子著『改訂栄養教育・指導演習』建帛社</p> <p>(2) 日本栄養士会編『2014年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導実習の意義と目的、栄養指導の基礎知識（食事摂取基準）</p> <p>第2回 栄養指導の基礎知識（食品構成表の作成）</p> <p>第3回 実態指導の基礎知識（献立作成）</p> <p>第4回 実態把握の方法 食品構成の算定実習</p> <p>第5回 実態把握の方法 各種調査方法（食事摂取状況調査など）</p> <p>第6回 実態把握の方法 身体状況調査</p> <p>第7回 実態把握の方法 体力測定</p> <p>第8回 指導案の作成（基本）</p> <p>第9回 指導案の作成（実践用 グループ）</p> <p>第10回 プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導 フループ）</p> <p>第11回 プレゼンテーション（グループ）</p> <p>第12回 指導案の作成（実践用 個人）</p> <p>第13回 プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導 個人 その1）</p> <p>第14回 プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導 個人 その2）</p> <p>第15回 発表</p>		
成績評価の方法	発表（50%）、課題と小テスト（40%）、出席状況（10%）により評価する。		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅱ	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、個人・集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のために、栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成、栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び栄養指導が実践できるように、技術を習得することを目的とする。特に栄養指導論実習Ⅱでは、病院での栄養指導のシュミレーションを展開し、体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】 (1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。 (2) 対象に応じた指導案の作成、媒体の選択が出来る。 (3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 第一出版編集部編『日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版「プリント」</p> <p>(2) 日本栄養士会編『2014年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成①</p> <p>第2回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成②</p> <p>第3回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その1</p> <p>第4回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その2</p> <p>第5回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その3</p> <p>第6回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その4</p> <p>第7回 個別対応の栄養指導の基本的な考え方</p> <p>第8回 個別対応の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第9回 個別対応の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第10回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その1</p> <p>第11回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その2</p> <p>第12回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その3</p> <p>第13回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その4</p> <p>第14回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その5</p> <p>第15回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その6とまとめ</p>		
成績評価の方法	発表（50%）、課題と小テスト（30%）、出席状況（20%）により評価する。		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	公衆栄養学	担当者	米盛 麻美
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式 (発表形式)		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 集団の健康問題が栄養上どのような因子に基づくのか、問題解決のために栄養はどうあるべきかを明らかにしていく。 <b>【概要】</b> 日本は、平均寿命延伸のなか、高齢化、少子化、医療費増大などの問題を抱えている。よって、障害や寝たきりではない状態で健康的に過ごせる期間である健康寿命の延伸が強く望まれている。そのような現状のなか、不適切な栄養摂取や生活習慣により引き起こされる生活習慣病対策としての、栄養士の活動は益々重要性を帯びている。 <b>【到達目標】</b> 食の専門家である栄養士が疾患の予防のために、集団レベル、個人レベルで食生活における問題点を抽出し、その問題解決のために必要な食環境を含めた総合的かつ具体的に有効な方法を示すことができるようになること。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 栄養科学シリーズNEXT 公衆栄養学 第4版 講談社サイエンティフィック (2) 栄養科学シリーズNEXT 栄養カウンセリング論 第2版 講談社サイエンティフィック		
授業スケジュール	第1回 公衆栄養学の概念 第2回 公衆栄養学の歴史 第3回 わが国の食生活と栄養問題の変遷と現状 第4回 わが国の栄養問題の現状と課題 (1) 第5回 わが国の栄養問題の現状と課題 (2) 第6回 食事摂取基準における栄養疫学的解説 第7回 わが国の栄養政策 第8回 栄養疫学 第9回 公衆栄養学で必要な統計 第10回 地域栄養マネジメント 第11回 公衆栄養プログラムの展開 第12回 実技 (1) 第13回 実技 (2) 第14回 国際栄養 第15回 公衆栄養学総括		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) , 実技 (10%) , 出席状況 (10%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養情報処理	担当者	町田和恵
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 栄養士が健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析、それを総合的に判断する能力を養うことである。 <b>【概要】</b> 栄養士には、集めた情報を統計的に処理し、客観的に評価することが求められている。そのためには、コンピュータを使用し、短時間で必要な情報をできる限り集め、分析するといったことは必要である。そこで、実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法にはどのようなものがあるかを学ぶ。 <b>【到達目標】</b> 本実習は、栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び、これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 「プリント」		
授業スケジュール	第1回 栄養教育とコンピュータ コンピュータの役割、機能、実際 第2回～第6回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 ・第2回 度数分布表、ヒストグラム ・第3回 平均値、標準偏差 ・第4回 棒・円・折れ線グラフ ・第5回 散布図・相関係数 ・第6回 回帰直線 第7回～第12回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 ・第7回 単純集計 ・第8回 クロス集計 (オッズ比) ・第9回 確立分布 ・第10回 区間推定 (母平均の区間推定, 比率の区間推定) ・第11回 仮説の検定 (平均の差の検定, 比率の検定) ・第12回 クロス集計 (独立性の検定) 第13回～第14回 コンピュータによる献立作成、栄養計算 ・第13回 コンピュータによる献立作成 ・第14回 コンピュータによる栄養計算 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) , レポート (30%) , 出席状況 (10%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅰ	担当者	堀内 正久
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1. 頻度の高い(将来経験するであろう)疾患の病態生理を理解すること 2. 病態生理に基づき、栄養の重要性の理解を深めること</p> <p>【概要】 講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで、各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】 主要な疾患(消化管疾患、肝疾患、代謝性疾患)の病態生理を説明でき、疾患の発症と栄養との関連を認識できること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 後藤昌義ら 新しい臨床栄養学 南江堂 山口和克 病気の地図帳 講談社 著者多数 病気がみえる メディックメディア社		
授業スケジュール	第1回: 病態生理に基づく疾患の理解1 第2回: 病態生理に基づく疾患の理解2 第3回: 消化管疾患1 第4回: 消化管疾患2 第5回: 消化管疾患3 第6回: 消化管疾患4 第7回: 肝疾患1 第8回: 肝疾患2 第9回: 肝疾患3 第10回: 肝疾患4 第11回: 代謝性疾患1 第12回: 代謝性疾患2 第13回: 代謝性疾患3 第14回: 代謝性疾患4 第15回: 循環器疾患1		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 授業ごとに実施する小テスト(20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ	担当者	堀内 正久
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1. 頻度の高い(将来経験するであろう)疾患の病態生理を理解すること 2. 病態生理に基づき、栄養の重要性の理解を深めること</p> <p>【概要】 講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで、各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】 主要な疾患(循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患など)の病態生理を説明でき、疾患の発症と栄養との関連を認識できること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 後藤昌義ら 新しい臨床栄養学 南江堂 山口和克 病気の地図帳 講談社 著者多数 病気がみえる メディックメディア社		
授業スケジュール	第1回: 循環器疾患2 第2回: 循環器疾患3 第3回: 循環器疾患4 第4回: 腎疾患と体液調節1 第5回: 腎疾患と体液調節2 第6回: 腎疾患と体液調節3 第7回: 呼吸器疾患1 第8回: 呼吸器疾患2 第9回: 内分泌疾患1 第10回: 内分泌疾患2 第11回: 血液疾患 第12回: 免疫とアレルギー 第13回: 発熱・感染症 第14回: 小児と妊産婦と臨床検査他 第15回: まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 授業ごとに実施する小テスト(20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学実習	担当者	山下三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 病院での栄養士全般の業務による実習</p> <p>【概要】県内外の医療現場での2週間の実習で献立作成、給食業務と同様以下のような内容を学ぶ。 1、医療に携わる他職種と連携を図ったチーム7医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。 2、対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、臨床栄養指導。 3、対象者の心理を理解し信頼を得る。</p> <p>【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士の栄養管理業務の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『臨床栄養学実習書』医歯薬出版 『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂</p> <p>(2) 『腎臓病食品交換表』医歯薬出版 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <p>1、院内における栄養部門の位置と役割 2、病院給食管理業務の実際 3、供食状況の実際 4、病態栄養管理業務の実際 5、栄養指導業務の実際 6、栄養教育用媒体および指導評価の方法 実習終了後、報告発表を行う。</p>		
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	病理学	担当者	山田博久
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体等における病気の成り立ち。</p> <p>【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため、以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。</p> <p>【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしばった授業も可能ですが、表面的な知識しか持たず、本当の問題解決能力がない者となる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしぼって程度の高い授業(医学部3-5年生相当)を行い、また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ、以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学</p> <p>(2) 特に定めませんが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 病理学で学ぶこと 第2回 炎症、免疫、感染症 呼吸器系の疾患 第3回 循環障害、循環器、の疾患 代謝障害、 第4回 先天異常、遺伝子異常、神経系の疾患 第5回 補足、 第6回 消化器系、腎泌尿器系、内分泌系の疾患 第7回 腫瘍、血液の疾患、老化と死 第8回 補足、 第9回 試験(筆記試験)</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。		

※ 7.5回

授業科目	学校栄養教育論	担当者	町田 和恵, 木場 幸子
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】 学校での年間指導計画の下に学校給食の時間や学級活動、総合的な学習の時間などにおいて、学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。児童・生徒の栄養に関する指導及び学校給食の管理をつかさどる栄養教諭は、これらを一体的に担う職員として、教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要がある。学校給食を生きた教材として活用し、効果的な指導を行うために、栄養教諭の役割や職務内容、食文化、食に関する指導方法等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し、学級担任や養護教諭、学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために、実践を兼ねた演習を行い、知識や方法を修得させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 金田雅代『栄養教諭論』建帛社 (2) 坂本元子『こどもの栄養・食教育ガイド』医歯薬出版      山本公弘『気がるにできる総合学習・体験学習―新しい栄養指導3』東山書房 (3) 文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール	第1回～4回 栄養教諭の役割及び職務内容 ・第1回 児童・生徒に対する栄養指導と栄養管理の意義、現状と課題 (担当：木場) (児童・生徒の食事に関する実態把握、分析等に必要事項を含む) ・第2回 栄養教諭の職務内容、使命、役割 (担当：木場) ・第3回 学校給食の意義、役割等 (担当：木場) ・第4回 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情、法令及び諸制度 (担当：町田) 第5回 幼児・児童・生徒の栄養に係る諸課題 (担当：木場) 第6回 児童・生徒の栄養に係る諸課題 (国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む) (担当：町田) 第7回 食生活に関する歴史的及び文化的事項 (担当：町田) 第8回～11回 食に関する指導の方法 (対象実態把握等) ・第8回 食に関する指導に係る全体的な計画の作成 (計画・実施・評価) (担当：木場) 給食の時間における食に関する指導 (地場産品の活用含む) 栄養教諭が行う授業の特性、発達に応じた食に関する指導、食生活学習教材の活用 ・第9回 教科における食に関する指導 (家庭科、技術・家政科、体育科、保健体育科、その他の教科) 効果的な栄養教諭の授業参画 (担当：町田) ・第10回 道徳、特別活動における食に関する指導 (担当：木場) 生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導 ・第11回 食物アレルギー等食に関する特別な指導等を要する児童・生徒、他の児童・生徒への指導上の配慮 (担当：町田) 第12回～14回 児童・生徒への指導上の配慮 (担当：木場・町田) ・第12回 食に関する指導の指導案作り ・第13回 学生が作成した指導案の発表、相互批評等 ・第14回 模擬授業、指導効果の評価 ; ; 学校、家庭、地域と連携した食に関する指導 第15回 まとめ (担当：町田)		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (80点)、課題と小テスト (20点) により評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	有機化学概論	担当者	釜田 忠
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 自然界の物質や人工的に合成された物質の構造、性質、変化学の科学的基礎知識について理解を深める。</p> <p>【概要】 食物栄養専攻の専門科目や実験・実習を学んでいく上で化学の知識が要求される。本講義では化学の基礎的な知識を習得するために、原子、化学反応、化学結合、有機化学の基礎的な知識を学習する。</p> <p>【到達目標】 食物栄養専攻で履修する専門科目の基礎科目であることを念頭に、「化学」という学問に親しみを感じる。そして、専門科目に必要な基礎的な知識を習得し、これから学んでいく専門科目の理解を一層深める手助けとなることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント		
授業スケジュール	第1回：ガイダンス                      ・有機化学概論の概要説明 第2回：原子の構造                      ・電子構造と混成軌道 第3回：化学結合                      ・共有結合、イオン結合、配位結合、水素結合 第4回：化学反応                      ・化学反応と反応式 第5回：酸化・還元                      ・酸化・還元反応 第6回：溶液の濃度                      ・溶液の濃度 (%、モル濃度、規程度)、中和滴定反応 第7回：有機化合物                      ・有機化合物の特徴、分子式と構造式 第8回：異性体                      ・構造異性体、立体異性体、光学異性体 第9回：有機化合物の種類と反応1                      ・脂肪族化合物 第10回：有機化合物の種類と反応2                      ・アルコール、エーテル、エステル 第11回：有機化合物の種類と反応3                      ・カルボニル化合物とカルボン酸 第12回：有機化合物の種類と反応4                      ・芳香族化合物と複素環式化合物乳 第13回：有機化合物の反応                      ・有機化学反応 (付加反応、置換反応 etc) 第14回：生体高分子                      ・炭水化物とタンパク質 第15回：まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

授業科目	生物概論	担当者	埜田 司
テーマ及び概要	<p>〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期</p> <p>〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式</p> <p>【テーマ】 生命科学を学ぶための基礎となる生物学の概念と考え方を系統的に理解する。</p> <p>【概要】 生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造や機能、生命維持のためのエネルギー代謝の仕組み、さらに遺伝についての基本的概念を学習し、最後に動物の生殖と体の成り立ち、恒常性の維持や刺激に対する応答について学習を進める。また、それぞれのテーマに関するいろいろな話題を取り上げて、生物に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 食物栄養専攻で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭に、生命現象や生活現象を基礎的、原理的な面から理解できるようになること、特に高校で生物を履修していなかった学生が、生命や生活の機構の精緻さに興味を持ち、これから学ぶ専門科目をさらに深く理解できるようになることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 田村隆明 著 医療・看護系のための生物学 裳華房 2010 適宜、プリントによる資料も配付する。</p> <p>(2) あれは講義中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：生物概論を学習するにあたって</p> <p>第 2回 分子から細胞へ：生体を構成する分子</p> <p>第 3回 細胞の構造と機能：生物の体の成り立ちについて</p> <p>第 4回 細胞分裂と細胞周期：体細胞分裂と核の変化</p> <p>第 5回 遺伝と遺伝情報：メンデルの法則とセントラルドグマ</p> <p>第 6回 遺伝情報とその複製：遺伝子の本体 DNA</p> <p>第 7回 遺伝情報の発現：遺伝情報からタンパク質合成へ</p> <p>第 8回 生殖と発生：減数分裂と性の決定</p> <p>第 9回 生殖と発生：配偶子形成と受精、発生</p> <p>第 10回 生命活動とエネルギー代謝：同化、異化</p> <p>第 11回 生命活動とエネルギー代謝：解糖系、TCA 回路、電子伝達系</p> <p>第 12回 生命活動とエネルギー代謝：光合成</p> <p>第 13回 個体の構造と機能：内分泌系</p> <p>第 14回 個体の構造と機能：神経系</p> <p>第 15回 個体の構造と機能：生体防御</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。		

## 9 生活科学専攻専門科目

授業科目	生活環境学	担当者	多々良 尊子
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 常に生活者の周辺にあるもの全てを環境としてとらえ、環境という視点で生活について考える。</p> <p><b>【概要】</b> 現代の生活は、利便性や快適性、個人の意思決定が優先されるようになり、安全や健康が脅かされるとともに、人間関係の希薄化が問題となっている。また、地球規模の様々な環境問題も私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。それらの問題を解説し、どのように対応していくべきかを考える。</p> <p><b>【到達目標】</b> 生活環境の概念を理解し、誰もが安全で安心な生活を営むことができる社会を目指し、課題探求していくことを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない (2) 岩田利枝 (他) 『生活環境学』井上書院 奈良由美子, 伊勢田哲治『生活知と科学知』日本放送協会出版会 奈良由美子『生活とリスク』日本放送協会出版会 浅井治彦, 増田文和 (編) 『エコデザイン』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 生活環境の構造 第 2回 生活環境の要素: 音, 光, 熱, 空気, 水, 廃棄物, 人間 第 3回 生活のリスク: 自然災害, 犯罪, 化学物質, 人間関係, 健康, 情報 第 4回 安全かつ安心な生活 第 5~6回 食生活と環境 第 7~8回 衣生活と環境 第 9~10回 住生活と環境 第 11~12回 生活経営と環境 第 13回 エコデザイン 第 14回 地球環境が生活環境に及ぼす影響 第 15回 環境コミュニケーション</p>		
成績評価の方法	レポート (50%) , 授業時間内の課題 (50%)		

授業科目	生活化学	担当者	井余田 秀美
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 身の回りの化学物質について学び、生活の様式や環境との関わりについて考える。</p> <p><b>【概要】</b> 多くの人が豊かで快適に暮らすために化学の果たす役割は大きい。人はこれまで、自然の物をうまく利用したり、自然にはない有益な物を作り出して、生活のために活用してきた。しかしながら一方で、人工の有害物質や生活や生産活動に伴う大量の廃棄物等が、人の生活や自然環境を損なってきた。本講義では、生活の中の化学物質について学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 「環境・くらし・いのちのための 化学のこころ」伊藤明夫著(裳華房)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 水 第 2回 大気 第 3回 大地 第 4回 環境と化学物質 第 5回 エネルギーと化学 第 6回 水の性質 第 7回 燃焼 第 8回 溶ける・洗う 第 9回 接着 第 10回 色をつける 第 11回 暮らしと金属 第 12回 進化し続けるプラスチック 第 13回 生体内の分子 第 14回 栄養と代謝 第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験またはレポート		

授業科目	<b>生活化学実験</b>	担当者	井余田 秀美
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実験方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中の化学物質について理解し、その正しい取り扱いができるようにする。</p> <p>【概要】衣食住や生活環境に関する実験を行う</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリントを配布する		
授業スケジュール	<p>第1回 実験全般の説明</p> <p>第2～11回 衣食住の実験 染色 水の硬度 洗剤および洗剤水溶液 漂白剤 吸水性樹脂 食品の塩分濃度</p> <p>第12～15回 生活環境の実験 pH の測定(生活, 土壌, 酸性雨) 脱酸素剤と使い捨てカイロ 木炭やシリカゲルと吸着</p>		
成績評価の方法	レポート		

授業科目	<b>色彩学</b>	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。</p> <p>【概要】 「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』（監修 財団法人日本色彩研究所）</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 色とは：色が見える仕組み</p> <p>第3回 色の記録・伝達方法1：色名</p> <p>第4回 色の記録・伝達方法2：表色系</p> <p>第5回 色の混合：加法混色・減法混色</p> <p>第6回 照明：演色性</p> <p>第7回 色彩の心理1：色の見えの効果</p> <p>第8回 色彩の心理2：色のイメージ</p> <p>第9回 色彩調和1：色彩調和の基本形式</p> <p>第10回 色彩調和2：配色技法</p> <p>第11回 色彩調和論</p> <p>第12回 色彩計画</p> <p>第13回 色と文化</p> <p>第14回 商品と色</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業ごとに実施する小テスト (30%)		

(注) インテリアプランナー登録資格取得A科目 (学生便覧参照)

授業科目	コンポジション	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】グラフィックデザインにおける基礎的なレイアウトの考え方を体験する。</p> <p>【概要】雑誌・ポスター等のレイアウト研究を活かし、自分のアイデアを作品上に反映させる。</p> <p>【到達目標】レイアウトの研究・作品制作と講評を通じて、美しいレイアウトとはどのようなものかを探る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし (第1回目に説明する。)		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 演習方式の説明等</p> <p>第2回～第4回 「ドローイングソフトの説明と作図」：基本的な作図方法を学ぶ</p> <p>第5回～第7回 「コンピュータを使用したレイアウト1」：様々なレイアウトの考え方と方法を体験する</p> <p>第8回～第10回 「コンピュータを使用したレイアウト2」</p> <p>第11回～第14回 「コンピュータを使用したレイアウト3」</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%) , 提出作品 (70%) で評価		

授業科目	デジタル造形基礎	担当者	北 一浩
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータを用いたグラフィックデザインの基礎的な操作法を学ぶ。</p> <p>【概要】グラフィックデザインの基礎となる、グラフィック編集ソフトウェア「Adobe Illustrator」及び画像編集ソフトウェア「Adobe Photoshop」を使用した、コンピュータでのDTP (デスクトップ・パブリッシング) の基本操作技術を学ぶ。デジタルデザイン論と同時に履修すること。</p> <p>【到達目標】主に印刷 (DTP) のデザインワークに取り組むにあたり、基本となるコンピュータの操作とソフトウェアの操作方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：演習方式の説明等</p> <p>第2回～第3回 Illustrator 基本操作 1 オブジェクトの作成、線・塗りの設定 実践課題 A：幾何形態色彩構成</p> <p>第4回～第5回 Illustrator 基本操作 2 パスの基本知識、ベジエ曲線 実践課題 B：ピクトグラム</p> <p>第6回～第8回 Illustrator 基本操作 3 文字入力、フォント、文字のアウトライン化 実践課題 C：タイポグラフィ構成</p> <p>第9回～第11回 Photoshop 基本操作 デジタル画像の切り抜き、画像合成 実践課題 D：デジタルフォトコラージュ</p> <p>第12回～第14回 Illustrator + Photoshop 連携 画像の配置、印刷 応用課題：平面作品制作</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	提出作品 (70%) 出席と授業態度 (30%)		

授業科目	テキスタイルサイエンス	担当者	坂上 ちえ子
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> テキスタイル（布、織物）について、科学的な視点から学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 衣服だけでなくインテリアなどの素材として広く用いられているテキスタイルについて、物理的、科学的基礎事項を中心に、そのデザインや製造工程までを学ぶ。適宜試料の観察や簡単な実験を取り入れ、科学的分析も試みる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 基礎事項を習得し、さらに習得した内容を今後のテキスタイル選択や購入に反映できるようになることを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 テキスタイルの構造1：天然繊維 第 3回 テキスタイルの構造2：合成繊維 第 4回 テキスタイルの構造3：織物・編物 第 5回 テキスタイルの外観的性能1：理論 第 6回 テキスタイルの外観的性能2：観察・実験 第 7回 テキスタイルの物理的性能1：理論 第 8回 テキスタイルの物理的性能2：観察・実験 第 9回 テキスタイルの改良：新素材と機能性付与素材 第 10回 テキスタイルの製造工程 第 11回 テキスタイルのデザイン1：色 第 12回 テキスタイルのデザイン2：柄 第 13回 インテリアのテキスタイル 第 14回 鹿児島伝統のテキスタイル：大島紬 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業での活動内容（30%）		

授業科目	ファッション造形基礎	担当者	多々良 尊子
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択（注）                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b>衣服の形態を理解し、基礎的な製作技術を習得する。</p> <p><b>【概要】</b>立体的な人体を平面の布で包むための理論を解説する。ベーシックなデザインのトップスの製作を通して、採寸・製図・裁断・仮縫い・縫製の流れを把握する。</p> <p><b>【到達目標】</b>平面の布を立体化していくイメージをつかむ。縫製用具・機器の使用法を理解し、衣服の製作過程を経験する。合理的で美しい縫い方を身につけ、ファッション造形実習での応用につなげる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 八角節子『わかりやすい写真でマスターする 縫い方の基礎の基礎』文化出版局 文化服装学院（編）『服飾造形の基礎』文化服装学院教科書出版部		
授業スケジュール	第 1回 人体の構造と人体計測 第 2回 衣服のパターン(1)：平面構成と立体構成 第 3回 衣服のパターン(2)：ドレーピング 第 4回 衣服のパターン(3)：ピンワーク 第 5回 洋裁用具・機器の種類と扱い方 第 6回 基礎縫い(1) 運針 第 7回 基礎縫い(2) まつり縫い（普通まつり、奥まつり、たてまつり、流しまつり、丈夫で美しい縫い方） 第 8回 基礎縫い(3) ボタンつけ、スナップつけ、かがり縫い 第 9回 基礎縫い(4) ミシンとロックミシンの練習 第 10回 トップスの製作(1)：裁断、印つけ 第 11回 トップスの製作(2)：仮縫い 第 12回 トップスの製作(3)：本縫い 第 13回 トップスの製作(4)：ファスナーつけ 第 14回 トップスの製作(5)：見返し、裾 第 15回 トップスの製作(6)：まとめ		
成績評価の方法	製作技術（50%）、作業の着実性（30%）、プレゼンテーション（20%）		

(注) 教職必修

授業科目	衣生活学	担当者	多々良 尊子
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活における衣服の役割を、ファッション、消費性能、環境、生活文化など多様な視点から考える。</p> <p>【概要】 衣服は常に人体の近くにあり、「第二の皮膚」または「最も小さい住居」とあると言われる。衣服を着ることによって生じる人と衣服の相互作用、社会と衣服の相互作用を基本として、合理的で快適な衣生活を営むために必要な知識と感性について複合的に解説する。</p> <p>【到達目標】 現在の衣生活について、近接環境としての衣服、自己表現としての衣服、生活文化としての衣服など多面的にアプローチして論じることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 田村照子『衣環境の科学』建帛社 文化服装学院『アパレル品質論』文化服装学院教科書出版部</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 近接環境としての衣服：何をまとうのか（空気、光、感性）</p> <p>第2回 衣服の機能(1)：人体の構造と衣服の構成</p> <p>第3回 衣服の機能(2)：人体保護、気候調整、清潔</p> <p>第4回 衣服の成り立ち(1)：日本服飾史概説、和服の構成の特徴</p> <p>第5回 衣服の成り立ち(2)：西洋服飾史概説、立体構成の特徴</p> <p>第6回 自己表現としての衣服(1)：デザインとコーディネート、イメージマップ、外見と評価</p> <p>第7回 自己表現としての衣服(2)：ファッション、モード、スタイル、プレタポルテ、既製服</p> <p>第8回 自己表現としての衣服(3)：流行のメカニズム、ブランドの価値</p> <p>第9回 衣服の生産：繊維メーカー、テキスタイルメーカー、アパレルメーカー、生産システム</p> <p>第10回 衣服の流通：アパレル卸売業、小売業、ファッション情報</p> <p>第11回 衣服の消費：アパレル商品の分類と名称、品質管理と消費性能、価格</p> <p>第12回 衣服の取り扱い(1)：洗濯の条件、洗濯機器、クリーニング</p> <p>第13回 衣服の取り扱い(2)：洗剤・仕上げ加工剤の種類と特徴、保存</p> <p>第14回 衣生活にかかわる環境問題：資源・エネルギー問題、化学物質のリスク、生態系に及ぼす影響</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験 (80%) , 授業中の課題 (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	生活コロイド学	担当者	井余田 秀美
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活の中で出会う様々なコロイドや界面の現象について理解する。</p> <p>【概要】 コロイドや界面の学問的基礎を説明し、次に日常の事柄、特に洗濯や染色について詳しく述べる。更に、生活や環境での関連する事柄を取り上げ、最後に、生体に関する事に触れる。</p> <p>1 界面とコロイドの基礎</p> <p>2 環境とコロイド</p> <p>3 生活とコロイド</p> <p>4 生体とコロイド</p> <p>【到達目標】 コロイドや界面の現象と日常生活との関わりについて理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 北原文雄、「界面・コロイド化学の基礎」講談社 水野上与志子他編、「被服整理学」建帛社</p>		
授業スケジュール	<p>第1～3回 界面とコロイドの基礎 界面とコロイドとは 界面現象 コロイド（ミセル、高分子、粒子コロイド）</p> <p>第4～13回 生活とコロイド 繊維、染色、洗濯 食品とコロイド 化粧品</p> <p>第14回 環境とコロイド、産業とコロイド、生体とコロイド</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験またはレポート		

(注) 教職必修

授業科目	食物と栄養	担当者	釜田 忠
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に含まれる成分の物理化学的性質と栄養効果についての基本的知識を理解し、健康維持のための日常の食生活の改善、栄養改善をはかる。</p> <p>【概要】食品学は食品の栄養価、食品成分の化学、食品成分からみた食品の特性を扱う学問であり、一方栄養学はヒトまたは生物が食物栄養素を摂取し、代謝を営み、最終的には栄養改善をはかる事を学ぶ学問である。</p> <p>本講義では、健康の維持増進に必要な食品中の栄養素（炭水化物、脂質、蛋白質、ミネラル、ビタミン、食物繊維）の基礎的の化学、特性、栄養価について講義するとともに、これら栄養素の体内へ消化・吸収、体内でどのように代謝され機能を果たしているかについて講義する。</p> <p>【到達目標】食品の成分の性質や生理機能を理解し、自らの食生活の改善に役立てることができる基礎的知識を習得する目標とする</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス ・科目概要の説明、栄養の意義 第2回 栄養素と食物 ・栄養素 食品成分の分類 第3回 水分 ・水の物理化学的性質 生理機能 第4回 炭水化物1 ・炭水化物の種類と物理化学的性質 第5回 炭水化物2 ・炭水化物の栄養効果 食物繊維の生理機能 第6回 タンパク質1 ・アミノ酸とタンパク質の物理化学的性質 第7回 タンパク質2 ・タンパク質の代謝と生理機能 第8回 脂質1 ・脂質の化学と食品中の変化 第9回 脂質2 ・脂質の代謝と生理機能 第10回 ビタミン1 ・脂溶性ビタミンの化学と生理機能 第11回 ビタミン2 ・水溶性ビタミンの生理機能 第12回 ミネラル ・主要ミネラルの生理機能 第13回 植物性食品 ・穀類、芋類、野菜類、果実の特性 第14回 動物性食品 ・畜肉、魚介類、乳製品の特性 第15回 まとめ		
成績評価の方	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%) で評価する		

(注) 教職必修

授業科目	調理学	担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理科学を知る。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物の自然科学的学習</li> <li>・調理操作を科学的に捉える</li> </ul> <p>【到達目標】調理学の意義を理解し、調理実習の基礎力をつける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW 基礎調理学 (2) 山崎清子・島田キミエ『調理と理論』同文書院		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (調理学の意義) 第2回 基本的調理操作「DVD」 第3回 調理とテクスチャー 第4回 砂糖の調理科学的操作 第5回 食品素材「米類と嗜好飲料」 第6回 米の調理科学的操作 第7回 食品素材「果実類と野菜類」 第8回 魚の解体 魚の部位と切り方の違いにおけるテクスチャーの違い、鹿児島魚について 第9回 食品素材「卵・魚介・食肉類」 第10回 卵の調理科学的操作 第11回 食品素材「小麦・豆・牛乳」 第12回 ゲル化剤の調理科学的操作 第13回 食品素材「ゲル化素材・いも・キノコ類・種実類」 第14回 食品素材「香辛料・成分抽出素材・加工保存食品」 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業ごとの発言内容 (20%)		

授業科目	調理実習	担当者	立石 百合恵
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 調理学の知識を生活力へ</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の調理性を活かした調理操作の習得。</li> <li>・旬の食材、郷土料理について理解を深める。</li> <li>・食事の作法を学び、社会人としてのマナーを身につける。</li> </ul> <p>【到達目標】 調理学で学んだ知識を調理技術へつなぎ、日常へ応用する実力をつける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実習プリント</p> <p>(2) 山崎清子・島田キミエ『調理と理論』同文書院、支倉サツキ『調理実習』峯書房</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (調理の意義と目的、実習にあたっての心得と基礎的操作について)</p> <p>第2回 日本料理 郷土料理</p> <p>第3回 日本料理 春の献立</p> <p>第4回 西洋料理 魚を使用した西洋料理</p> <p>第5回 中国料理 広東料理</p> <p>第6回 中国料理 四川料理</p> <p>第7回 西洋料理 肉を資料した西洋料理</p> <p>第8回 日本料理 初夏の献立</p> <p>第9回 西洋料理 イギリス式カレー</p> <p>第10回 日本料理 夏の献立</p> <p>第11回 西洋料理 パン</p> <p>第12回 テーブルマナー (西洋～和食)</p> <p>第13回 日本料理 精進料理</p> <p>第14回 西洋料理 米を使用した西洋料理</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	「実技試験 (40%) + 筆記試験 (30%) + 授業ごとの実習内容評価 (30%)」		

(注) 教職必修

授業科目	保育学	担当者	奥 章三, 池堂 猛彦, 石川 満佐育
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】 子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ (発達援助) が不可欠である。保育学講義では、保育 (発達援助) の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発育発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】 保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(担当 相星) プリント</p> <p>(担当 相星) なし</p>		
授業スケジュール	<p>(担当 奥) 第1回 保育とは何か? ～子どもの成長の最終目標、発達援助、遊び・学び・経験～</p> <p>第2回 出産と育児及びそれらを取りまく環境</p> <p>第3回 子どもの成長 (その1) ～発育、運動発達～</p> <p>第4回 子どもの成長 (その2) ～知的発達、社会性の発達～</p> <p>第5回 発達に問題を抱える子どもたち</p> <p>第6回 障害を持つ子どもたち及びその家族への支援</p> <p>第7回 子どもによくみられる病気とその症状・対応</p> <p>第8回 子どもの事故防止対策</p> <p>第9回 親やまわりの大人から子どもへの働きかけとその影響</p> <p>第10回 もう一度、保育とは何か? ～講義のふりかえりとまとめ～</p> <p>(担当 石川) 第11回 事前指導</p> <p>(担当 池堂) 第12回 保育園における保育実習(1)</p> <p>第13回 保育園における保育実習(2)</p> <p>第14回 保育園における保育実習(3)</p> <p>(担当 石川) 第15回 事後指導</p>		
成績評価の方法	<p>(担当 相星) 筆記試験 (100%)</p> <p>各担当者が100点/3で点数を算出した後、3人の合計を総合点として評価する。</p>		

(注) 教職必修

授業科目	卒業研究A	担当者	多々良 尊子
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】安全で快適な生活を営むために解決すべき課題について調査・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】私たちの生活においてどのような課題があるのか現状分析する。これまでに学習した内容を基に、研究テーマを設定し、文献の調べ方や社会調査の方法などを検討し、実践する。その中から、問題解決につながる独自の知見を見つける。</p> <p>【到達目標】生活における様々な課題の中から研究テーマを見つけ、それにアプローチする方法を学習する。研究成果を発表することにより、効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 佐渡島紗織, 吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第4回 研究方法の概説(テーマの設定, 文献検索の方法, 調査の方法など)</p> <p>第5回～第23回 各自で研究に取り組み, 適宜, 中間報告を行う</p> <p>第24回～第27回 研究のまとめ</p> <p>第28回～第29回 発表準備</p> <p>第30回 口頭発表</p>		
成績評価の方法	研究成果の評価(60%), 研究発表(20%), 議論参加の積極性(20%)		

授業科目	卒業研究A	担当者	井余田 秀美
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自ら研究課題を設定し、課題探求と問題解決の能力を養う。</p> <p>【概要】生活化学及び生活コロイド学の分野から(例えば、洗剤や染色, 化粧品, 環境など)基礎課題や応用課題を設定し取り組む</p> <p>【到達目標】実験や演習を行うことにより, 衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(2) 中西茂子著「洗剤と洗浄の科学」 北原文雄著「界面・コロイド科学の基礎」 近藤保也著「やさしいコロイドと界面の科学」</p>		
授業スケジュール	<p>第1～3回 研究課題の決定, 参考資料の収集</p> <p>第4～8回 予備実験</p> <p>第9～22回 本実験</p> <p>第23～第24回 まとめ</p> <p>第25～第27回 論文作成</p> <p>第28～第29回 発表準備</p> <p>第30回 発表</p>		
成績評価の方法	口頭発表(30%)と論文(70%)		

授業科目	卒業研究A	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 2年 〔単位〕 4単位	〔学期〕 通年 〔必修/選択〕 必修	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<b>【テーマ&amp;概要】</b> 学校教育領域、対人関係領域に関する課題について、各自がテーマを設定し、心理学の研究方法を用いて、調査・分析し、成果をまとめる。 <b>【到達目標】</b> ①□ 「研究」のプロセスを学ぶ ②□ 自分の意見をまとめ、表現できるようにすることを目指す。 ③□ 効果的なプレゼンテーションの方法を身につけることを目指す。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の進め方 第2回～第5回 心理学の研究方法及び基礎知識 第6回～第27回 テーマ設定、仮説生成、調査、分析、執筆（毎回の報告） 第28、29回 発表準備 第30回 発表会		
成績評価の方法	授業での毎回の報告：30% 卒業論文70%		

授業科目	造形史	担当者	多々良 尊子・丸山 容爾
	〔履修年次〕 2年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 選択（注）	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 長い歴史の中でどのように物が変化してきたかを学ぶと同時に、未来を考える。 <b>【概要】</b> 前半は、多々良担当で「ファッションデザイン」について、後半は、丸山担当で「商業・工業デザイン」についての歴史を中心に講義をする。 <b>【到達目標】</b> 造形の歴史を探り、私たちがこれからの造形とのつながりを考えていく。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) テキストは、プリントしたものを配布する。 (2) 多々良 文化服装学院（編）『西洋服装史』文化学園教科書出版部 小池三枝、野口ひろみ、吉村佳子『概説 日本服飾史』光生館 丸山 講義中に適時示す。		
授業スケジュール	（担当 多々良） 第1回 衣服の起源：古代の人は何を着ていたのか、何のために着ていたのか 第2回 世界の四大文明における装飾とファッション 第3回 ヨーロッパのファッションの歴史：ギリシア、ローマ、ルネッサンス、バロック、ロココ 第4回 和服の歴史：衣裳（きぬも）、十二単、打掛、小袖 第5回 「ファッションデザイナーの誕生とファッションブランドの成立」 （担当 丸山） 第6回 イギリス産業革命とデザイン 第7回 シノワズリーとジャポニスム 第8回 ウィリアム・モリスとアート・アンド・クラフツ運動 第9回 アール・ヌーヴォー 1 第10回 アール・ヌーヴォー 2 第11回 アール・デコ 第12回 写真の発明とグラフィックデザイン 第13回 ドイツ工作連盟とAEG 第14回 バウハウス 第15回 「まとめ」		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%）、試験あるいはレポート（70%）で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得A科目（学生便覧参照）

授業科目	ビジュアルデザイン論	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人間が創り出してきたもののデザインに焦点を当てて鑑賞・考察し、今後のデザインの方向性を探る。</p> <p>【概要】デザインの変遷と、社会生活への影響を時代ごとの代表的作品を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】講義を通して、身の周りのデザイン作品の「用と美」を探求する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) テキストは、プリントしたものを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「文字の起源」 :</p> <p>第3回 「文字と書写体」 :世界各地の文字と書写体</p> <p>第4回 「漢字」</p> <p>第5回 「文房四宝 1」 :筆・紙・墨・硯</p> <p>第6回 「文房四宝 2」</p> <p>第7回 「書体・印刷 1」 :和文・英文書体と印刷</p> <p>第8回 「書体・印刷 2」</p> <p>第9回 「書籍」 :書籍の作り</p> <p>第10回 「現代の書籍 装幀」 :書籍の編集とデザイン</p> <p>第11回 「現代のポスター」</p> <p>第12回 「欧米の現代デザイン」</p> <p>第13回 「日本の現代デザイン」</p> <p>第14回 「日本の現代デザイン」</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%) , レポート (70%) で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得A科目 (学生便覧参照)

授業科目	ビジュアルデザイン I	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な作図技術と考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】各種の平面構成やカラーズ等を通じて、自分のアイデアを作品上に反映させる。</p> <p>【到達目標】作品制作と講評を通じて、デザイン表現の理論と楽しさを体験する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) なし (デザイン用具については、第1回目に説明する。)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 :実習方式の説明等</p> <p>第2回 ~ 第4回 「カラーズ」 :雑誌を使用したカラーズ作成</p> <p>第5回 ~ 第7回 「平面構成」 :相反するテーマをセットにして、色彩表現する</p> <p>第8回 ~ 第10回 「レタリング」 :自分の名前を明朝体とゴシック体で書く</p> <p>第11回 ~ 第12回 「マーク」 :テーマを決めて、マークを作成</p> <p>第13回 ~ 第14回 「エンボス」 :厚紙によるエンボス作成</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%) , 提出作品 (70%) で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得A科目 (学生便覧参照)

授業科目	ビジュアルデザインⅡ	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な作図技術と考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】各種制作を通じて、自分のアイデアを作品上に反映させる。</p> <p>【到達目標】作品制作と講評を通じて、デザイン表現の理論と楽しさを体験する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし (デザイン用具については、第1回目に説明する。)		
授業スケジュール	第1回 「導入」：実習方式の説明等 第2回～第4回 「テクニック」：各種製図器具を使用する作図表現 第5回～第7回 「ポスター」：与えられたテーマを基にした表現 第8回～第10回 「カレンダー」：1ヶ月分制作 第11回～第14回 「応用課題」：自由テーマでの制作 第15回 「まとめ」		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%)， 提出作品 (70%) で評価		

授業科目	ファッションデザイン論	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションデザインの概要と基礎、展開、さらに、パターンメイキングの基礎理論と応用を学ぶ。</p> <p>【概要】衣服が製作される過程では、まずデザインと素材が決まり、次にデザインイメージを具体化して、布地裁断のための型紙を作図しなければならぬ。製作イメージを表現できるファッションデザインの方法と運動や動作に配慮したパターンメイキングを学ぶ。</p> <p>【到達目標】デザイン、パターンともに基礎知識を理解し、自分が表現したいデザインやパターンメイキングができる応用力を目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾関連専門講座9 服飾デザイン』（文化出版局） 文化女子大学被服構成学研究室編『被服構成学 理論編』（文化出版局）		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 ファッションデザインの概要 第3回 ファッションデザインの基礎1：形態と色彩 第4回 ファッションデザインの基礎2：素材とコンポジション 第5回 ファッションデザインの展開 第6回 ファッションデザインとイメージ 第7回 デザイン展開とパターンメイキング1：人体の形態 第8回 デザイン展開とパターンメイキング2：平面展開図 第9回 デザイン展開とパターンメイキング3：ダーツ、衿、袖 第10回 デザイン展開とパターンメイキング4：スカートとパンツ 第11回 パターンメイキングと運動機構1：上半身 第12回 パターンメイキングと運動機構2：下半身 第13回 ファッションデザインとコーディネート1：形態 第14回 ファッションデザインとコーディネート2：色彩と素材 第15回 まとめ：アパレルメーカーとファッション動向		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 提出課題 (30%)		

授業科目	ファッション造形Ⅰ	担当者	坂上 ちえ子
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 衣服を平面製図法で行う場合、基本となるパターン（原型）の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座2 スカート・パンツ』（文化出版局）</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 スカートの製図 第 3回 表布の裁断、印つけ 第 4回 仮縫い 第 5回 試着、補正 第 6回 表布の縫製 1 第 7回 表布の縫製 2 第 8回 ファスナーつけ 第 9回 裏布の裁断、印つけ 第 10回 裏布の縫製 第 11回 ベルトつけ 第 12回 仕上げ 第 13回 製作検討・着装評価 第 14回 上半身衣の原型と展開 第 15回 下半身衣の原型と展開</p>		
成績評価の方法	提出課題（70%）＋ 授業での活動内容（30%）		

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形Ⅱ	担当者	坂上 ちえ子
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法、その過程を学ぶ。デザインについては、基本型から着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう、また、製作については、目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 上、下半身衣のデザインと製図展開ができることと、迅速で適切な縫製技術の習得を目指す</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3ブラウス・ワンピース』（文化出版局）</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回ブラウスのデザインと製図 第 3回 裁断と印つけ 第 4回 仮縫い 第 5回 試着、補正 第 6回 見頃の縫製 第 7回 衿つくりと衿つけ 第 8回 袖つくりと袖つけ 第 9回 ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ 第 10回 パンツのデザインと製図 第 11回 裁断と印つけ 第 12回 仮縫い、試着、補正 第 13回 縫製 第 14回 仕上げ 第 15回 着装評価、まとめ</p>		
成績評価の方法	提出課題（70%）＋ 授業での活動内容（30%）		

授業科目	ファッション造形Ⅲ	担当者	多々良 尊子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平面構成（和裁）の基礎的な理論と縫製技術を学ぶ。</p> <p>【概要】和服の構成は非常に合理的で、仕立て直しやリメイクが容易で、長く着用できる。一方で、着装が難しく、コーディネートのルールも多い。大裁単衣長着を製作し、和服の構成の特徴を理解する。自分で製作したものを自分で着る経験から多くのものを得ることができるはずである。</p> <p>【到達目標】ゆかたの縫製と着付けを習得する。それにより、日本の衣生活文化の理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 高野道子・佐藤孝子『はじめての和裁』永岡書店</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 和服の種類と構成の特徴</p> <p>第2回 大裁単衣長着の構成</p> <p>第3回 和裁の基礎：和裁用具、基礎縫い</p> <p>第4回 ゆかたの製作 (1) 見積もり、柄合わせ、裁断</p> <p>第5回 ゆかたの製作 (2) 身頃の印つけ、背縫い</p> <p>第6回 ゆかたの製作 (3) 衤の印つけ、衤つけ</p> <p>第7回 ゆかたの製作 (4) 脇縫い、脇縫代の始末</p> <p>第8回 ゆかたの製作 (5) 裾～衤下</p> <p>第9～11回 ゆかたの製作 (6) 衤の印つけ、衤つけ、共衤つけ</p> <p>第12～13回 ゆかたの製作 (7) 袖の印つけ、袖つけ</p> <p>第14回 ゆかたの製作 (8) 仕上げ</p> <p>第15回 ゆかたの着付け</p>		
成績評価の方法	製作技術 (70%) , 作業の着実性 (30%)		

授業科目	ファッションビジネス	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。</p> <p>【概要】衣服を大量生産、大量消費する時代は過ぎ、ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。そのファッション産業をビジネスと造形の両面から学び、ファッション全体の背景や仕組みを捉える。</p> <p>【到達目標】基礎知識を習得し、企画・販売の視点からも衣生活を充実させることと、ファッションビジネス検定に挑戦することを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』(財団法人 日本ファッション教育振興会)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 ファッションビジネス知識1：ファッションビジネスの概要</p> <p>第3回 ファッションビジネス知識2：ファッション消費と消費者行動</p> <p>第4回 ファッションビジネス知識3：アパレル産業と小売産業</p> <p>第5回 ファッションビジネス知識4：ファッションマーケティング</p> <p>第6回 ファッションビジネス知識5：ファッションマーチャンダイジング</p> <p>第7回 ファッションビジネス知識6：ファッション物流と流通</p> <p>第8回 ファッションビジネス知識7：ファッションプロモーション</p> <p>第9回 ファッションビジネス知識8：ビジネス基礎知識と計数管理</p> <p>第10回 ファッション造形知識1：ファッション文化</p> <p>第11回 ファッション造形知識2：ファッションコーディネーションの基礎知識</p> <p>第12回 ファッション造形知識3：ファッション商品知識—服種・アイテム</p> <p>第13回 ファッション造形知識4：ファッションデザインの定義と特性</p> <p>第14回 ファッション造形知識5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業ごとに実施する小テスト (30%)		

授業科目	デジタルデザイン論	担当者	北 一浩
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代のグラフィックデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】グラフィックデザインの様々な分野の参考作品を通して、現在のグラフィックデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。またデザインワークショップを行いデザイン的思考を身につける。 デジタル造形基礎と同時に履修すること。</p> <p>【到達目標】デザインを取り巻く環境を理解し、積極的にデジタル環境に慣れるようにする。また、デザインに携わっていくための知識や心得を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義方式の説明等 第2回 デザインとアートの違い 第3回 グラフィックデザインの歴史 第4回 Identity Design 第5回 Branding 第6回 Collateral Design 第7回 Environmental Design 第8回 Iconography 第9回 Information Design 第10回 Editorial Design 第11回 Poster Design 第12回 Packaging 第13回 Interactive Design 第14回 Motion Graphics 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内のプレゼンテーション (70%) 出席と授業態度 (30%)		

授業科目	デジタルデザイン	担当者	北 一浩
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピューターを用いたグラフィックデザインの実践的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】デジタルデザイン論、デジタル造形基礎からの関連科目として、コンピューターを用いてより実践的な課題制作を行う。 デジタルデザイン論、デジタル造形基礎を履修しておくこと。</p> <p>【到達目標】 デジタルデザイン論、デジタル造形基礎で習得した概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：実習方式の説明等 第2回～第4回 カレンダー：数字のタイポグラフィデザインを活かしたカレンダーの制作 第5回～第7回 パッケージデザイン：オリジナルデザインのショッピングバッグの制作。 第8回～第10回 広告デザイン：クライアントを想定した広告制作 第11回～第14回 ポートフォリオ制作：企業のブランディングデザイン 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	提出作品 (70%) 出席と授業態度 (30%)		

授業科目	卒業研究B	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】グラフィック・デザイン（芸術）に関連した分野の研究。</p> <p>【概要】グラフィック・デザイン（芸術）に関連した分野から各自研究テーマを設定し、文献等による研究結果を基にディスカッションを重ねた上で、独自の見解をまとめ、これを発表する。</p> <p>【到達目標】研究テーマを論文にまとめ、発表する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 参考文献は、研究テーマに合わせてそれぞれに紹介する。		
授業スケジュール	第1回 「導入」 演習方式の説明等 第2回～第5回 「研究テーマの検討と設定」 第6回～第24回 「参考文献・資料収集」・「まとめとゼミ内発表」 第25回～第29回 「まとめとゼミ内発表」 第30回 発表		
成績評価の方法	出席と研究態度（30%）、論文および発表内容（70%）で評価		

授業科目	卒業研究B	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】 前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。</p> <p>【到達目標】 まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 適宜、配布する。 (2) 適宜、紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回～第5回 文献購読 第6回～第10回 研究手法の検討・理解 第11回～第15回 テーマ設定と文献・情報収集 第16回～第23回 調査・研究・考察 第24回～第27回 論文作成 第28回～第29回 発表準備 第30回 発表会		
成績評価の方法	卒業研究成果（60%）＋ 研究発表（20%）＋ 授業での取り組み内容（20%）		

授業科目	住生活学	担当者	揚村 固
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テ ー マ】</b> 人間の生活行為と住空間の関連について学ぶ。 <b>【概 要】</b> 住居の今日的課題について考えるときに、果たすべき役割を理解し、設計に必要な計画学的解決手法を知る。 <b>【到達目標】</b> 住居のありかたと選択・取得・設計の際に注意すべきことを修得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 内藤ほか「図説 やさしい建築計画」学芸出版社 ISBN978-4-7615-2522-4 (2) 小原二郎ほか「インテリアの計画と設計」彰国社		
授業スケジュール	第1回 住居計画学1：住居の成立条件とプロセス 第2回 住居計画学2：計画と設計の実際 第3回 建築と住居1：住居存在 第4回 建築と住居2：集合住宅 第5回 建築と住居3：福祉施設と医療施設 第6回 建築と住居4：公共施設と学校 第7回 建築と住居5：図書館 博物館 第8回 高齢者と居住：高齢者の特質と住空間 第9回 計画・設計：手法と表現の基礎 第10回 平面計画1：空間の性質とゾーニング 第11回 平面計画2：アクティビティとシークエンス 第12回 平面計画3：ユニバーサルデザインと住居・建築 第13回 住宅問題：住環境問題 住宅政策 第14回 我々はどう住むか 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (100%) による。		

(注) 教職必修、二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目、インテリアプランナー登録資格取得A科目(学生便覧参照)

授業科目	住居史	担当者	揚村 固
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テ ー マ】</b> 現代住居を理解するうえで日本居住史の理解が欠かせない。 <b>【概 要】</b> 日本固有の伝統のうえに成り立っている日本の住居の歴史とその特質を知る。 <b>【到達目標】</b> 講義では日本建築史を学びながら現代住居との関連でその姿を概括し、世界の住居とも比較しながら検討の材料とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 建築と都市の歴史 光井淑ほか ISBN978-4-7530-1451-4		
授業スケジュール	第1回 建築史序説 : 歴史と住居 上古の住まい方 竪穴式住居と高床式住居 第2回 古代建築 : 神社建築と住居 仏教建築と住居 貴族住居・都城の成立 第3回 中世の建築と住居1 : 浄土建築 大仏様 禅宗様 主殿造り 第4回 中世の建築と住居2 : 和洋 折衷様 中世住居から書院の成立 第5回 近世の建築と住居1 : 座敷と玄関の成立 第6回 近世の建築と住居2 : 茶室と数寄屋 第7回 近世の建築と住居3 : 民家 町家と農家 第8回 近代の建築と住居4 : 洋風住宅と近代化 第9回 西洋建築史概論1 : エジプト オリエント ギリシャ 第10回 西洋建築史概論2 : ローマ 初期キリスト教 ビザンチン ロマネスク 第11回 西洋建築史概論3 : ゴシック ルネッサンス バロック リヴァイバル 第12回 西洋建築史概論4 : 産業革命と近代建築 第13回 アジアの住居と集落 : 中国(台湾) 朝鮮半島 インドネシア 第14回 現代の建築と住居 : モダニズム ポストモダニズム 日本現代建築 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (100%) による。		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目、インテリアプランナー登録資格取得A科目(学生便覧参照)

授業科目	住居・インテリア設計学	担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 建築やインテリアの設計で必要となる様々な図面による表現方法、間取りを構成する手順や要素について学ぶ。 ※「設計製図Ⅰ」と併せて履修することが望ましい。</p> <p>【概要】 建築・インテリア設計のプロセスにおける「考える図面」と「伝える図面」について学ぶ。前半部分で建築図面における平面表現や立体表現の種類と描き方について、後半部分で住宅の間取りを組み立てる手順について、課題を通して理解を深める。</p> <p>【到達目標】 建築・インテリア設計における設計プロセスを理解し、多様な表現方法を用いて構想を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 増田 泰『住まいの解剖図鑑』エクスナレッジ, 中山繁信『手で練る建築デザイン』朝国社		
授業スケジュール	第1回 設計プロセス : 建築図面の作図手順と目的 第2回 様々な図面表現 : 配置図, 平面図, 立面図 第3回 様々な図面表現 : 断面図, 展開図, 天井伏図 第4回 透視図 : 一点透視図 第5回 透視図 : 二点透視図 第6回 透視図 : アイソメ図, アクソメ図 第7回 身体寸法と単位空間 : 校内サーベイ 第8回 住宅プランニング : 所要室の配置と規模 第9回 住宅プランニング : 平面のデザイン (平屋) 第10回 住宅プランニング : 平面のデザイン (複層) 第11回 住宅プランニング : 敷地のデザイン 第12回 住宅プランニング : 外観のデザイン 第13回 インテリアエレメント : 照明, 家具, 設備, 他 第14回 インテリアエレメント : 床, 壁, 開口部, 他 第15回 インテリアエレメント : 商業施設のデザイン		
成績評価の方法	授業中の課題・宿題 (80%) + レポート (20%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	設計製図Ⅰ	担当者	揚村 固
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 設計製図Ⅰは住居を計画・設計するときに必要な図法と表現法を習得する。</p> <p>【概要】 実習は設計製図法の基礎から始め、単位空間から住居空間にいたる計画・設計を行う。</p> <p>【到達目標】 小住宅の設計に必要な図面製作と模型製作の方法を習得して発表する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 新しい建築の製図 学芸出版社 ISBN4-7615-2375-1		
授業スケジュール	第1回 製図基礎1 : 線の種類と意味 模写 第2回 製図基礎2 : 平面記号の練習 模写 第3回 作品研究プレゼンテーション : プレゼンテーション 第4回 小空間の計画 : 平面図 立面図の製作 第5回 小空間の製作 : 断面図 その他の製作 第6回 模型による表現 : 模型表現基礎 第7回 小住宅の計画と設計1 : 作品構想プレゼンテーション 第8回 小住宅の計画と設計2 : 平面計画と平面図1 第9回 小住宅の計画と設計3 : 平面計画と平面図2 第10回 模型製作1 : 模型製作 第11回 模型製作2 : 模型製作 第12回 模型製作3 : 模型製作 第13回 プレゼンテーション製作 : プレゼンテーションボードの製作 第14回 プレゼンテーション製作 : プレゼンテーションボードの製作 第15回 成果発表 : プレゼンテーションとまとめ		
成績評価の方法	成果物 (100%) の評価による		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得C科目(学生便覧参照)

授業科目	設計製図Ⅱ	担当者	揚村 固
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 各種詳細図の表現法を習得したうえで、小住宅を計画・設計する。模型を製作してこれを完成させる。 <b>【注】</b> 住居・インテリア設計学の履修が望ましい。 <b>【概要】</b> 3世代住宅の計画と設計を行い、図面と模型でこれを表現し、発表する。 <b>【到達目標】</b> 詳細図の表現を修得し、住宅設計の成果をわかりやすくプレゼンテーションする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 新しい建築の製図 学芸出版社 ISBN4-7615-2375-1		
授業スケジュール	第1回 課題1 : 木造の詳細図1 : 真壁と大壁 第2回 課題2 : 木造の詳細図2 開口部: ドア 第3回 課題3 : 木造の詳細図3 開口部: 和室建具 第4回 課題3 : 木造の詳細図3 開口部: 和室建具 第5回 課題4 : 一般意匠図1 : 木造平面図 第6回 課題4 : 一般意匠図2 : 木造平面図 第7回 課題4 : 一般意匠図3 : 立面図と断面図 第8回 課題4 : 一般意匠図4 : 矩形詳細図 第9回 課題4 : 一般意匠図5 : 矩形詳細図 第10回 課題5 : リフォーム計画と設計1 配置図 第11回 課題5 : リフォーム計画と設計2 平面図 第12回 課題5 : リフォーム計画と設計3 立面図・断面図 第13回 課題5 : リフォーム計画と設計4 立面図・断面図 第14回 課題5 : リフォーム計画と設計5 計画概要説明図 第15回 発表 : プレゼンテーションとまとめ		
成績評価の方法	成果物(100%)の評価による		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得C科目(学生便覧参照)

授業科目	住居構造学Ⅰ	担当者	徳富 久二
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。 <b>【概要】</b> 木構造, 鉄骨構造, 鉄筋コンクリート構造, その他の構造などの概要と特徴および下地と仕上げに関する構法について講義する。 <b>【到達目標】</b> さまざまな構造方式の特徴や長所について理解するとともに図表を目の当たりにしたとき, それについて説明できる能力が養われること。		
(1) テキスト (2) 参考文献	図説 やさしい建築一般構造 今村仁美・田中美都著, 学芸出版社 やさしい建築の構造力学, 山田修著, オーム社		
授業スケジュール	第1回 実例にみる住居構造のあらまし 作用する外力と構造の基本的考え方 第2回 木造1 構造形式と特徴 第3回 木造2 軸組構法 第4回 木造3 枠組壁構法(2×4 構法) 第5回 鉄骨構造1 構造形式と特徴 第6回 鉄骨構造2 鋼材と接合方法 構造部材の基本寸法と構造規定 第7回 鉄筋コンクリート構造1 構造形式と特徴 第8回 鉄筋コンクリート構造2 材料の性質と管理および材料試験 第9回 鉄筋コンクリート構造3 力の伝達機構と破壊実験 第10回 鉄筋コンクリート構造4 基本寸法と配筋の規定 第11回 その他の構造方式(プレストレストコンクリート構造, 基礎構造 他) 第12回 下地と仕上げ 1 第13回 下地と仕上げ 2 第14回 下地と仕上げ 3 第15回 まとめ		
成績評価の方法	*試験(50%)とレポート(30%)および授業での発言質問とその内容(20%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	住居構造学Ⅱ	担当者	徳富 久二
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 (必修/選択) 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。 <b>【概要】</b> 住居構造学Ⅱでは、基本的な構造物と部材にかかる力の計算法と評価方法について学ぶ。 <b>【到達目標】</b> 静定の片持ばり、単純ばり、門型骨組みの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	前もって配布する演習問題とその解法の説明として編まれたプリントによって講義する。 やさしい建築の構造力学, 山田修著, オーム社		
授業スケジュール	第1回 構造物の強度と安全性 第2回 力のつりあい(外力・反力・応力) 第3回 外力と内力および反力の釣り合い(含演習) 第4回 構造物の支持状態, ローラー, ピンと固定(含演習) 第5回 片持ばりと単純ばりの反力と釣り合いおよび応力と応力図 第6回 各種静定ばりと静定門形骨組みの応力図(含演習) 第7回 トラス骨組みの応力 第8回 トラス骨組みの応力(含演習) 第9回 断面内の応力(垂直応力 せん断応力) 第10回 断面の性質(断面1次モーメント, 断面2次モーメント, 他)(含演習) 第11回 はりの曲げ応力度, せん断応力度 第12回 片持ばりと単純ばりの変形 第13回 簡単な不静定構造物の応力と応力図(含演習) 第14回 構造物の設計と安全性の考え方 第15回 まとめ		
成績評価の方法	*試験(50%)と演習レポート(30%)および授業での発言質問とその内容(20%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	住居環境学	担当者	曾我 和弘	
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 (必修/選択) 選択 (注) [授業形態] 講義方式			
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 快適で環境に優しい住まいや建築物の計画 <b>【概要】</b> 居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境(熱・光・音・空気・水環境)をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。 <b>【到達目標】</b> 建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。			
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 三浦昌生 著, 基礎力が身につく建築環境工学, 森北出版株式会社			
授業スケジュール	第1回 気候と建築環境 第2回 建築環境と建築設備 第3回 光環境計画 第4回 照明設備計画 第5回 熱環境計画1 第6回 熱環境計画2 第7回 空調設備計画 第8回 住まいと結露	第9回 音環境計画1 第10回 音環境計画2 第11回 空気環境計画1(室内空気汚染) 第12回 空気環境計画2(通風, 換気) 第13回 換気設備計画 第14回 給排水設備計画 第15回 建築物の総合的な環境性能と評価		
成績評価の方法	筆記試験(80%)とレポート(20%)で評価する。			

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧表参照)

授業科目	住居環境学演習	担当者	曾我 和弘
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 身近な居住環境の快適性や健康性の測定</p> <p>【概要】 居住環境の物理環境(熱・光・音・空気など)の測定を行い、測定データに基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に、データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また、気候と住居形態、環境共生住宅に関する調査を通して、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 三浦昌生 著, 基礎力が身につく建築環境工学, 森北出版株式会社およびプリント		
授業スケジュール	第1回 クリモグラフの作成と 気候に適した住居形態調査 第2回 日影図の作成と日照環境の 評価 第3回 教室の照度分布測定 第4回 教室の昼光率分布測定 第5回 照明計算 第6回 屋外気候の測定 第7回 室内気候の測定	第8回 身近な居室の室温測定と分析 第9回 定常結露計算 第10回 交通騒音測定 第11回 教室の騒音測定 第12回 CO <sub>2</sub> 濃度等の測定と評価 第13回 必要換気量の計算 第14回 シックハウス問題のレポート発表会 第15回 環境共生住宅に関する調査 環境共生住宅のレポート発表会	
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度、レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧表参照)

授業科目	建築材料学	担当者	迫田 順一
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質</p> <p>【概要】どのような材料がどのような特質を持ち、どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ。</p> <p>【到達目標】講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上工事の関係について、工種毎に理解することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社 (2) 建築学会編 「建築材料用教材」 朝国社		
授業スケジュール	第1回 構法と建築材料 第2回 主要構造部材と仕上材 第3回 木材1 特性 第4回 木材2 用法 第5回 木材3 種類と用法 第6回 コンクリート1 特性 第7回 コンクリート2 配合と強度 第8回 コンクリート3 製作 第9回 鉄材1 鉄筋 第10回 鉄材2 鉄骨と接合 第11回 その他の主要材料(石・左官・ガラス・建具) 第12回 材料の力学(曲がりにくさ) 第13回 環境にやさしい建築材料 第14回 材料の積算 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧表参照)

授業科目	建築生産	担当者	迫田 順一
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択 (注)                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ。</p> <p>【概要】 住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で、建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。</p> <p>【到達目標】 講義では建築の各種構造方式の施工手順について、工種と工程に沿って理解することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 今村仁美, 田中美都 『図説 やさしい建築一般構造』 学芸出版社</p> <p>(2) 久富洋, 古澤忠正 『図説 建築施工入門』 彰国社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 構法と施工過程</p> <p>第2回 木構造と木工事</p> <p>第3回 鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事</p> <p>第4回 鉄骨構造 その他の構造</p> <p>第5回 建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事</p> <p>第6回 施工計画と管理</p> <p>第7回 契約と実行</p> <p>第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照) 7.5回

授業科目	建築法規	担当者	西菌 幸弘																														
	〔履修年次〕 2年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 建築物の安全や衛生を守り, 都市の防災対策や街並みを形成するための基準である建築基準法</p> <p>【概要】 建築物は, 人間の生活や社会活動の基盤であり, 社会資本でもある。建築物は, 建築基準法など建築法規に適合させる必要がある。建築物の構造安全性, 防火規定, 室内環境, 避難規定, 集団規定など建築物の基本法としての建築基準法について, 解説する。</p> <p>【到達目標】 建築物, 特に住宅を建築する際に, 必要な建築法規の基礎を理解する。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	いちばんやさしい 建築基準法																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1回 建築基準法の基礎</td> <td>1 建築基準法の目的と構成</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 法規を理解するための用語, 面積や高さの算定方法等</td> </tr> <tr> <td>第 2回 位置や形状に関する規定 1</td> <td>1 都市計画区域内の道路と敷地</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 用途制限</td> </tr> <tr> <td>第 3回 位置や形状に関する規定 2</td> <td>1 容積率, 建ぺい率の形態規制</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 高さ制限等の形態規制</td> </tr> <tr> <td>第 4回 防火に関する規定</td> <td>1 耐火建築物等にしなけいばならない特殊建築物</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 火災の拡大を防止する防火区画, 内装制限</td> </tr> <tr> <td>第 5回 室内環境に関する規定</td> <td>1 室内の環境を守る採光・換気</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 シックハウス対策等</td> </tr> <tr> <td>第 6回 避難に関する規定</td> <td>1 安全に避難するための内装制限, 廊下や直通階段等</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 排煙設備, 非常用照明設備等</td> </tr> <tr> <td>第 7回 その他の関係法令</td> <td>1 建築基準法に基づく手続き</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 建築士法, 都市計画法の建築関連法</td> </tr> <tr> <td>第 8回 まとめと試験</td> <td></td> </tr> </table>			第 1回 建築基準法の基礎	1 建築基準法の目的と構成		2 法規を理解するための用語, 面積や高さの算定方法等	第 2回 位置や形状に関する規定 1	1 都市計画区域内の道路と敷地		2 用途制限	第 3回 位置や形状に関する規定 2	1 容積率, 建ぺい率の形態規制		2 高さ制限等の形態規制	第 4回 防火に関する規定	1 耐火建築物等にしなけいばならない特殊建築物		2 火災の拡大を防止する防火区画, 内装制限	第 5回 室内環境に関する規定	1 室内の環境を守る採光・換気		2 シックハウス対策等	第 6回 避難に関する規定	1 安全に避難するための内装制限, 廊下や直通階段等		2 排煙設備, 非常用照明設備等	第 7回 その他の関係法令	1 建築基準法に基づく手続き		2 建築士法, 都市計画法の建築関連法	第 8回 まとめと試験	
第 1回 建築基準法の基礎	1 建築基準法の目的と構成																																
	2 法規を理解するための用語, 面積や高さの算定方法等																																
第 2回 位置や形状に関する規定 1	1 都市計画区域内の道路と敷地																																
	2 用途制限																																
第 3回 位置や形状に関する規定 2	1 容積率, 建ぺい率の形態規制																																
	2 高さ制限等の形態規制																																
第 4回 防火に関する規定	1 耐火建築物等にしなけいばならない特殊建築物																																
	2 火災の拡大を防止する防火区画, 内装制限																																
第 5回 室内環境に関する規定	1 室内の環境を守る採光・換気																																
	2 シックハウス対策等																																
第 6回 避難に関する規定	1 安全に避難するための内装制限, 廊下や直通階段等																																
	2 排煙設備, 非常用照明設備等																																
第 7回 その他の関係法令	1 建築基準法に基づく手続き																																
	2 建築士法, 都市計画法の建築関連法																																
第 8回 まとめと試験																																	
成績評価の方法	筆記試験																																

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照) 7.5回

授業科目	CAD設計	担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義 (演習を含む) 方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> CAD (作図) ソフトを用いた基礎的な建築図面 (住宅の平面図・立面図・断面図・立体図) の製作手順や、作品表現方法について学ぶ。 <b>【概要】</b> まず、2次元CAD及び3次元CADソフトによる建築図面の基礎的な作成手順を理解する。次に、各自で案出した住宅プランを作図する。最終的に、平面図・立面図・断面図・立体図を適切にレイアウトし完成させる。 <b>【到達目標】</b> CADソフトの基本的操作を習得し、基礎的な建築図面を製作することができる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に指示		
授業スケジュール	第1回 基本操作 : 2DCAD の概念と基礎, 初期設定, 図形描画 第2回 基本操作 : 添景素材製作 (人物, 植栽, 敷石, 建具, 設備, 家具) 第3回 製作 : 平面図 (基準線, 下書き線) 第4回 製作 : 平面図 (切断線, 開口部, 建具) 第5回 製作 : 平面図 (家具, 設備) 第6回 製作 : 配置図 (外構, 室名, 寸法線) 第7回 基本操作 : 3DCAD の概念と基礎, 初期設定, 図形描画 第8回 製作 : 立体図 (敷地, 基礎, 壁) 第9回 製作 : 立体図 (開口部と建具の配置) 第10回 製作 : 立体図 (家具, 設備の配置) 第11回 製作 : 立体図 (内外装仕上げ) 第12回 製作 : 立体図 (外構, 屋根) 第13回 製作 : 立体図 (平面, 立面, 断面, 立体図の書き出し) 第14回 プレゼンテーション : 図面のレイアウト 第15回 プレゼンテーション : 印刷, 提出		
成績評価の方法	授業中の課題・宿題 (100%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	建築史	担当者	揚村 固
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 世界の住居と建築の歴史を学ぶ <b>【概要】</b> 世界の住居と建築の歴史を学んで、日本建築との相違を認識して、今後の住み方を考える。 <b>【到達目標】</b> 西洋世界, アジア諸国の住居形式と建築について学修する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) コンパクト板建築史 朝国社 ISBN9784-4-395-00876-6		
授業スケジュール	第1回 西洋建築史序説 第2回 エジプトとオリエント 第3回 ギリシャ 第4回 ローマ 第5回 初期キリスト教建築・ビザンチン・ 第6回 ロマネスク 第7回 ゴシック 第8回 ルネッサンス 第9回 バロック 第10回 新古典主義 (リバイバル) 第11回 産業革命からモダニズムへの道 第12回 中国・台湾の住居 第13回 韓国の住居 第14回 インドネシア 第15回 現代住居にいたる道		
成績評価の方法	レポート (100%) による		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

授業科目	CAD設計特講	担当者	宍戸 克実																																													
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義 (演習を含む) 方式																																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 CAD (作図) ソフトを用いた建築図面 (3次元・立体図) の作成手順や、建築作品の多様な表現方法について学ぶ。 ※「CAD設計」を履修していること。</p> <p>【概要】 まず、2次元CAD及び3次元CADソフトの復習を目的とした共通課題を製作する。次に、設計製図Ⅲで案出した建築プランをもとに、立体図・立面図・断面図を作成する。最終的に、細部縮尺の為の図版を加えたプレゼンテーションボードを完成させる。</p> <p>【到達目標】 CADソフトを使いこなし、建築図面や解説図を用いて効果的な作品プレゼンテーションボードを製作することができる。</p>																																															
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に指示																																															
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>基本操作</td><td>: 2D・3DCADソフトの基本操作と平面図課題</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>基本操作</td><td>: 立体図課題</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>基本操作</td><td>: 立面図・断面図課題</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>プランニング</td><td>: 3DCADを用いたエスキス</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>プランニング</td><td>: 3DCADを用いたエスキス</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>製作</td><td>: 立体図 (敷地, 基礎, 壁)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>製作</td><td>: 立体図 (開口部の開口)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>製作</td><td>: 立体図 (建具, サッシの配置)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>製作</td><td>: 立体図 (家具, 設備の配置)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>製作</td><td>: 立体図 (内外装の仕上げ)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>製作</td><td>: 立体図 (屋根)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>製作</td><td>: 立体図 (外構)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>製作</td><td>: 立体図 (書き出し)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>プレゼンテーション</td><td>: 図面のレイアウト</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>プレゼンテーション</td><td>: 印刷, 提出</td></tr> </table>			第1回	基本操作	: 2D・3DCADソフトの基本操作と平面図課題	第2回	基本操作	: 立体図課題	第3回	基本操作	: 立面図・断面図課題	第4回	プランニング	: 3DCADを用いたエスキス	第5回	プランニング	: 3DCADを用いたエスキス	第6回	製作	: 立体図 (敷地, 基礎, 壁)	第7回	製作	: 立体図 (開口部の開口)	第8回	製作	: 立体図 (建具, サッシの配置)	第9回	製作	: 立体図 (家具, 設備の配置)	第10回	製作	: 立体図 (内外装の仕上げ)	第11回	製作	: 立体図 (屋根)	第12回	製作	: 立体図 (外構)	第13回	製作	: 立体図 (書き出し)	第14回	プレゼンテーション	: 図面のレイアウト	第15回	プレゼンテーション	: 印刷, 提出
第1回	基本操作	: 2D・3DCADソフトの基本操作と平面図課題																																														
第2回	基本操作	: 立体図課題																																														
第3回	基本操作	: 立面図・断面図課題																																														
第4回	プランニング	: 3DCADを用いたエスキス																																														
第5回	プランニング	: 3DCADを用いたエスキス																																														
第6回	製作	: 立体図 (敷地, 基礎, 壁)																																														
第7回	製作	: 立体図 (開口部の開口)																																														
第8回	製作	: 立体図 (建具, サッシの配置)																																														
第9回	製作	: 立体図 (家具, 設備の配置)																																														
第10回	製作	: 立体図 (内外装の仕上げ)																																														
第11回	製作	: 立体図 (屋根)																																														
第12回	製作	: 立体図 (外構)																																														
第13回	製作	: 立体図 (書き出し)																																														
第14回	プレゼンテーション	: 図面のレイアウト																																														
第15回	プレゼンテーション	: 印刷, 提出																																														
成績評価の方法	授業中の課題・宿題 (100%)																																															

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

授業科目	設計製図Ⅲ	担当者	宍戸 克実																																													
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実習方式																																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住宅・建築における環境・福祉的課題と向き合いながら、二級建築士が設計可能な種類の建築施設の設計課題に取り組む。 ※「CAD設計特講」と併せて履修すること。</p> <p>【概要】 課題は少人数のグループで製作する。アイディアを出し合いながらプランニングを行い、役割分担や工程管理を適切に行いながら作品を完成させる。グループで行うことの意義を理解し、設計・製作プロセスを体験する。</p> <p>【到達目標】 様々な設計条件や問題点を整理し、建築としてまとめ上げ、CADソフトを用いた効果的なプレゼンテーションを行うことができる。</p>																																															
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に指示																																															
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>課題説明・事例研究</td><td>: 設計課題の説明, 建築事例の研究</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>事例研究</td><td>: 資料作成, 発表</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>プランニング</td><td>: 設計条件の整理</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>プランニング</td><td>: ゾーニング, 平面計画</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>プランニング</td><td>: 平面計画</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>プランニング</td><td>: 屋根のデザイン, 敷地計画</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>製作</td><td>: 平面図 (1階)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>製作</td><td>: 平面図 (2階)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>製作</td><td>: 平面図 (家具, 設備)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>製作</td><td>: 平面図 (外構)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>製作</td><td>: 平面図 (角縮図)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>製作</td><td>: 平面図 (角縮図)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>製作</td><td>: 立面図, 断面図の書き出し</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>プレゼンテーション</td><td>: プレゼンボード作成</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>プレゼンテーション</td><td>: 印刷, 提出</td></tr> </table>			第1回	課題説明・事例研究	: 設計課題の説明, 建築事例の研究	第2回	事例研究	: 資料作成, 発表	第3回	プランニング	: 設計条件の整理	第4回	プランニング	: ゾーニング, 平面計画	第5回	プランニング	: 平面計画	第6回	プランニング	: 屋根のデザイン, 敷地計画	第7回	製作	: 平面図 (1階)	第8回	製作	: 平面図 (2階)	第9回	製作	: 平面図 (家具, 設備)	第10回	製作	: 平面図 (外構)	第11回	製作	: 平面図 (角縮図)	第12回	製作	: 平面図 (角縮図)	第13回	製作	: 立面図, 断面図の書き出し	第14回	プレゼンテーション	: プレゼンボード作成	第15回	プレゼンテーション	: 印刷, 提出
第1回	課題説明・事例研究	: 設計課題の説明, 建築事例の研究																																														
第2回	事例研究	: 資料作成, 発表																																														
第3回	プランニング	: 設計条件の整理																																														
第4回	プランニング	: ゾーニング, 平面計画																																														
第5回	プランニング	: 平面計画																																														
第6回	プランニング	: 屋根のデザイン, 敷地計画																																														
第7回	製作	: 平面図 (1階)																																														
第8回	製作	: 平面図 (2階)																																														
第9回	製作	: 平面図 (家具, 設備)																																														
第10回	製作	: 平面図 (外構)																																														
第11回	製作	: 平面図 (角縮図)																																														
第12回	製作	: 平面図 (角縮図)																																														
第13回	製作	: 立面図, 断面図の書き出し																																														
第14回	プレゼンテーション	: プレゼンボード作成																																														
第15回	プレゼンテーション	: 印刷, 提出																																														
成績評価の方法	授業中の課題・宿題 (100%)																																															

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

授業科目	設計製図Ⅳ	担当者	揚村 固
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 詳細図と一般的図面制作と自由設計</p> <p>【概要】 木造平面詳細図の演習と自由設計テーマの設定およびその計画と設計</p> <p>【到達目標】 リフォーム設計の木造平面詳細図, 一般意匠図の包括的演習 自由設計による建築設計の課題を完成させてこれを発表する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(2) 新しい建築の製図 学芸出版社 ISBN4-7615-2375-1 (2)		
授業スケジュール	<p>第1回～第3回 課題1 リフォーム計画のエスキス</p> <p>第4回～第6回 課題2 リフォーム計画の平面詳細図1</p> <p>第7回～第9回 課題3 リフォーム計画の平面詳細図2</p> <p>第10回～第12回 課題4 包括設計図の演習</p> <p>第13回～第15回 課題5 課題研究とテーマ設定</p> <p>第16回～第18回 課題5 問題解決の設計構想</p> <p>第19回～第22回 課題5 問題解決の設計</p> <p>第23回～第27回 課題6 模型制作</p> <p>第28回～第30回 課題6 プレゼンテーション制作と発表</p>		
成績評価の方法	課題成果物 (80%) と発表 (20%) の評価		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目  
(専門基礎科目)

授業科目	経済学	担当者	篠田 剛
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 経済学は私たちの生きる現代社会の仕組みを説明する。なぜ多様な消費者と生産者がいるにもかかわらず商品交換は滞りなく行われるのか、不景気の下ではなぜ財政支出を拡大し金融緩和を行うのか、なぜ失業や経済格差はなくなるのか、そして、なぜ経済危機は繰り返さえるのか。経済活動がすべての人びとにとって生活の重要な一部である以上、経済学は私たちにとって欠かすことのできない教養といえる。本講義では、経済学の基礎的なエッセンスを広くまなび、自らの頭で今日の経済現象を読み解き、判断していくための力を身につけることを目的としている。</p> <p><b>【概要】</b> 経済学と一口にいってもその対象や目的のちがいがからその体系も異なっている。本講義では、そうしたことから生じる学習者の混乱に配慮するために導入部分（第1～2回）を設け、初学者がマイクロ経済学（第3～6回）、マクロ経済学（第7～10回）、社会経済学（第11～14回）の基礎をバランスよく学べるよう構成している。また、抽象的な基礎理論を扱いながらもイメージと学習意欲を持ちやすいように現代の問題にひきつけながら講義をすすめていく。</p> <p><b>【到達目標】</b> 今日の経済問題への知識と判断力を養うこと、他の関連科目の学習を深めるための基礎を身につけることが本講義の目標である。そのために、（1）各経済理論の考え方を理解すること、（2）経済分析に欠かせない重要な概念（キーワード）を理解すること、（3）そうした概念を用いて具体的な経済現象を実際に説明できるようになることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 指定しない (2) N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社、大谷禎之介『図解 社会経済学』櫻井書店</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義の概要/現代社会と経済学のかかわり 第2回 資本主義社会と経済学の歩み 第3回 ミクロ経済学(1)：市場における需要と供給 第4回 ミクロ経済学(2)：政府の政策の需要・供給への影響 第5回 ミクロ経済学(3)：消費者・生産者と市場の効率性 第6回 ミクロ経済学(4)：市場の失敗と外部性への対応 第7回 マクロ経済学(1)：国民所得の測定/生計費の測定 第8回 マクロ経済学(2)：経済成長 第9回 マクロ経済学(3)：貯蓄と投資 第10回 マクロ経済学(4)：総需要・総供給/財政政策・金融政策 第11回 社会経済学(1)：商品、価値、貨幣、資本 第12回 社会経済学(2)：剰余価値の生産 第13回 社会経済学(3)：資本蓄積と相対的過剰人口 第14回 社会経済学(4)：恐慌のメカニズム 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) , コミュニケーションペーパー (30%)		

授業科目	文化と社会	担当者	種村 完司
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本における文化とモラルの特徴を概観し、さまざまな社会領域での人間関係、生活と文化、コミュニケーションのあり方を考える。</p> <p>【概要】日本の企業社会や市民生活の現実と特徴を理解し、それと結びついて発生している社会的文化的問題を多面的にとらえることをめざす。特に、夫婦・親子および男女の関係、子どもの生活と文化、若者のコミュニケーション状況、老人の生活と人間関係、等々の実情を具体的にとらえ、今後のあるべき姿を考える。</p> <p>【到達目標】企業社会や市民生活の現実を的確に理解すること。夫婦・親子・男女、子ども、若者、老人をめぐる実情と問題点を具体的につかむこと。それらの課題を自分の問題としてもとらえ、今後自らが生活し活動していく上での目標を見つけること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(2) 種村完司『コミュニケーションと関係の倫理』青木書店		
授業スケジュール	第1回 「文化」とは / 「モラル」とは 第2回 現代日本の社会的モラル・文化の状況とその特徴 第3回 企業中心社会と日本国民の「社会的性格」 第4回 夫婦関係の揺らぎとコミュニケーション病理 (1) 第5回 夫婦関係の揺らぎとコミュニケーション病理 (2) 第6回 子どもの世界・文化の変容とモラル形成 (1) 第7回 子どもの世界・文化の変容とモラル形成 (2) 第8回 子どもの世界・文化の変容とモラル形成 (3) 第9回 若者の生活・文化と個性化・孤立化 (1) 第10回 若者の生活・文化と個性化・孤立化 (2) 第11回 IT文化と「若者のコミュニケーション不全」 (1) 第12回 IT文化と「若者のコミュニケーション不全」 (2) 第13回 競争主義文化と「老人の孤独と遺棄」 (1) 第14回 競争主義文化と「老人の孤独と遺棄」 (2) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (70%) + 毎回の授業での意見・感想・質問 (30%)		

授業科目	経済情報論	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済が直面しているさまざまな課題について、現状を知り、何がどう問題なのかそうでないのか考えていきます。</p> <p>【概要】日本経済を取り巻く経済の動きを採り上げ、受講者とともにさまざまな視点から掘り下げて考えていきます。</p> <p>【到達目標】経済ニュースに関心を持ち、異なる視点・考え方を学び、経済の動きを多面的に捉える眼を持てるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 高橋伸彰『少子高齢化の死角—本当の危機とは何か』ミネルヴァ書房、東京大学高齢社会総合研究機構『2030年 超高齢未来—「ジェロントロジー」が、日本を世界の中心にする』東洋経済新報社、スーザン・ジョージ×マーティン・ウルフ『徹底討論 グローバリゼーション 賛成/反対』作品社		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス： 講義の目的・進め方について説明 第2回 少子高齢化社会： 少子高齢化は悪いことなのか、少子高齢化で日本人は貧しくなるのか 第3回 国の債務残高(1)： 国の借金が増えることは問題なのか、何が問題なのか 第4回 国の債務残高(2)： 国民の貯蓄で国債を買い続けられるか 第5回 デフレ経済： なぜ日本はデフレ経済になったのか、アメリカはなぜデフレにならないのか 第6回 変動相場制と固定相場制： それぞれのメリット・デメリットは何か 第7回 企業のグローバル化： 企業の海外進出は止まらないのか、企業が海外進出することは問題なのか 第8回 貿易収支(1)： 日本は貿易赤字国になっていくのか、貿易赤字は悪いことなのか 第9回 貿易収支(2)： 輸出を増やすには何が必要か、輸出大国ドイツに学ぶこと 第10回 自由貿易協定： 日本経済にとって有益なのか、有害なのか 第11回 食料輸入： 食料自給率をもっと引き上げるべきなのか 第12回 再生可能エネルギー： 電力供給の仕組みはどこが問題なのか、再生可能エネルギー普及への課題は何か 第13回 新興国経済： 新興国の経済発展は、日本にとって脅威なのか有益なのか 第14回 グローバリゼーション： グローバリゼーションの良い面、悪い面、課題を考える 第15回 まとめ		
成績評価の方法	小レポート [10回] (50%) + 期末レポート (50%)		

授業科目	消費者問題	担当者	石窪 奈穂美
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「消費者問題を通して考える—自己責任社会における消費者のあり方・役割について」</p> <p>【概要】規制緩和やグローバル化等, 私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し, 自己責任社会を迎えています。また, 消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら, 消費者の権利と責任について理解し, 消費者問題を幅広い視点から捉え, 問題点や解決策を考えます。その上で, 消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。</p> <p>【到達目標】消費者基本法が制定され, 消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され, 消費者自らが自立し, 「消費者力」を身につけなければならないといわれています。生活者として, 消費者として, 社会人として, 各自の価値システムをどう作り上げていくのか, 消費者主権の主体的・合理的な選択, 判断能力を養います。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 無し。随時プリント・資料等を配布する。</p> <p>(2) 講義時に必要な際は紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション, 消費者問題概論①</p> <p>第2回 消費者問題概論②</p> <p>第3回 消費者問題の歴史</p> <p>第4回 悪徳商法と消費者問題</p> <p>第5回 ネット社会と消費者問題</p> <p>第6回 消費者の権利と法的保護①</p> <p>第7回 消費者の権利と法的保護②</p> <p>第8回 消費者金融(クレジット・サラ金)問題</p> <p>第9回 安心・安全と消費者問題①</p> <p>第10回 安心・安全と消費者問題②</p> <p>第11回 商品・サービスと消費者問題①</p> <p>第12回 商品・サービスと消費者問題②</p> <p>第13回 消費生活と環境問題</p> <p>第14回 消費者の未来像—消費者主権の社会づくり</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加態度(20%), 提出物(20%), 定期試験(60%)による総合評価		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で, 行政不服審査法, 行政事件訴訟法, 国家賠償法の基本構造を体系的に把握し, 行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり, 行政法は通則的法典が存在しておらず, そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では, 行政法の基本原則である法律による行政の原理(法律の法規創造力, 法律の優位の原則, 法律の留保の原則), 行政行為, 行政立法, 行政計画, 行政指導, 行政契約, 行政上の義務履行確保制度, 行政手続等をわかりやすく解説し, 行政法の基礎理論を体系的に理解した上で, 行政不服審査法, 行政事件訴訟法, 国家賠償法といった一般法について, 国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則, 行政の行為形式論, 行政上の一般制度, 行政救済法について説明できるようになり, 行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 適宜, プリントを配布する。</p> <p>(2) 『ポケット六法』(平成26年度版) 有斐閣2013年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 法律による行政の原理</p> <p>第2回 行政立法</p> <p>第3回 行政行為(1)</p> <p>第4回 行政行為(2)</p> <p>第5回 行政指導</p> <p>第6回 行政上の義務履行確保制度</p> <p>第7回 行政手続法</p> <p>第8回 行政不服申立て</p> <p>第9回 行政事件訴訟法(1)</p> <p>第10回 行政事件訴訟法(2)</p> <p>第11回 行政事件訴訟法(3)</p> <p>第12回 国家賠償法(1)</p> <p>第13回 国家賠償法(2)</p> <p>第14回 損失補償</p> <p>第15回 公物</p>		
成績評価の方法	筆記試験(90%), 授業での発言の記録(10%)により評価する。		

授業科目	経済政策	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「課題先進国」とされる日本の将来にとって、どのような政策が必要なのかを考えます。</p> <p>【概要】 人口減少社会への転換によって、これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度の再構築が迫られています。日本が抱えるさまざまな課題を採り上げ、受講者とともに将来の制度設計について考えていきます。</p> <p>【到達目標】 日本の課題について関心を持ち、さまざまな考え方やアプローチを踏まえて、自分自身で解決策を考える視点を持つこと。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 藻谷浩介・山崎亮『藻谷浩介さん、経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのでしょうか?』学芸出版社、鈴木優実『デンマークの光と影—福祉社会とネオリベラリズム』巻生舎、山崎亮『まちの幸福論—コミュニティデザインから考える』NHK出版、高岡望『日本はスウェーデンになるべきか』PHP研究所</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス： 講義の目的・進め方</p> <p>第2回 経済成長を考える： 経済成長は、善か悪か必要悪か、経済成長のための政策を考える</p> <p>第3回 産業空洞化を考える： 産業空洞化のどこが問題なのか、成長産業を育成するための政策を考える</p> <p>第4回 財政再建を考える(1)： 財政再建は必要なのか、社会保障と税の一体改革とは</p> <p>第5回 財政再建を考える(2)： 消費税増税の課題、税制の課題を考える</p> <p>第6回 社会保障の将来を考える(1)： 所得格差の現状を知る、政府は誰をどこまで救うべきなのか</p> <p>第7回 社会保障の将来を考える(2)： 弱者救済のための政策を考える</p> <p>第8回 社会保障の将来を考える(3)： 現役世代のための社会保障の充実策を考える</p> <p>第9回 雇用の将来を考える(1)： 非正規雇用はなぜ拡大したのか、北欧諸国の改革に学ぶ</p> <p>第10回 雇用の将来を考える(2)： 若者の雇いをどう増やすか、再雇用義務付けを考える</p> <p>第11回 地域経済の将来を考える(1)： 中央集権から地域主権へ、道州制は何を目指そうとしているのか</p> <p>第12回 地域経済の将来を考える(2)： 地域経済を支える産業を考える</p> <p>第13回 地域経済の将来を考える(3)： 農業の再生には何かが必要かを考える</p> <p>第14回 地域経済の将来を考える(4)： 地域や社会のここをこうしたい—を考える (期末レポート課題)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	小レポート (10回) (50%) + 期末レポート (50%)		

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 格差や貧困が生まれる理由と、問題解決の方法を考える。</p> <p>【概要】 経済学の基礎を学びながら、賃金、労働時間、その他の労働条件、社会福祉や社会保障の本質・役割について勉強します。受講生のみなさんには、経済学の入門講座としても役立ちます。企業論、経営組織論、労務管理論を履修したい人は、予めこの授業を履修しておくこと、理解しやすくなります。</p> <p>【到達目標】 資本主義が作り出す貧困や格差の特徴をその原因からとらえ、今日の社会を生きるためには、何を考える必要があるのかという、視点を獲得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に定めない</p> <p>(2) 授業時間内で指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方について</p> <p>第2回 働くことってどういうこと?</p> <p>第3回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (1)</p> <p>第4回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (2)</p> <p>第5回 賃金 (1) 賃金形態の目くらまし作用</p> <p>第6回 賃金 (2) 時間賃金・出来高賃金</p> <p>第7回 働き過ぎの日本人 どうしたら労働時間は短くなるか</p> <p>第8回 労働基準の法律がどうして生まれたか</p> <p>第9回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性</p> <p>第10回 社会政策と資本主義国家 社会政策本質論争の貧困</p> <p>第11回 帝国主義と協調的労使関係の形成</p> <p>第12回 福祉国家と社会政策</p> <p>第13回 ケインズ革命の終焉 社会政策から総合社会政策へ</p> <p>第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性</p> <p>第15回 今日の社会政策をめぐる諸問題</p>		
成績評価の方法	学期末試験 (100%)		

授業科目	社会思想	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位           〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	民法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位           〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 民法の基本原則と基本ツール</p> <p>【概要】 民法は、市民社会における人対人の間に生ずる権利義務関係を規律する法で、共同生活上のルールであると同時に紛争解決の基準となるものです。本講義では、日本の民法典の歴史も概観しながら、特に総則・物権・債権を中心に、財産に関する法を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約の交渉、締結、履行、履行されなかった場合の救済手段についての流れを理解する。</li> <li>2. 未成年者など判断能力が不十分な者の契約締結に関する法規制の目的を理解する。</li> <li>3. 日常生活の「善意」と法律上の「善意」の違いを理解する</li> <li>4. トラブルが生じたとき、それが法的にどのような問題なのかを大まかに説明できる</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	後日指定する 講義時に紹介する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：「私法の一般法としての民法」とはどのような意味か 第2回 民法の歴史を学ぶ：民法の制定と改正史 第3回 人と財産：プレイヤーと道具に関するルール 第4回 契約の成立：売買契約と雇用契約はどう違うか 第5回 契約締結で生じる問題：錯誤、詐欺 第6回 契約を締結する人に関する問題（1）：胎児、不在者はどうなるか 第7回 契約を締結する人に関する問題（2）：泥酔者、未成年者、成年被後見人など 第8回 所有権の取得：ダブル・ブッキングにどう対抗するか 第9回 契約の賞味期限：条件、期限、時効 第10回 代理：代理人による契約の締結 第11回 契約内容の有効性：公序良俗違反をめぐる議論の展開 第12回 契約が履行されないとき：債務不履行と損害賠償請求 第13回 契約の不完全な履行：危険負担と瑕疵担保責任 第14回 不法行為：事故の場合の損害賠償 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業の時に提出してもらったレポート (30%) + 試験 (70%)		

授業科目	商法	担当者	板倉 大治
		〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】取引社会の変化とともに日々生成しつつある企業法の現在を判例・トピックを参照しながら探求する。</p> <p>【概要】現代の経営は、ある程度大きな資本を用い、従業員を雇用して、多方面に、あるいは広い地域で事業を展開しています。それに伴って生じる様々なリスクを避けるため、たとえば「会社」組織を利用して出資者の危険を分散し、会社役員や従業員の行為に対する企業の責任を制限し、消費者との契約条項に企業側の責任の軽減・免除を定めたりしています。しかし、大企業の行き過ぎたリスク回避策は、取引相手である中小・零細企業や顧客・消費者など一般公衆の利益を損ない、あるいは環境問題を引き起こしたりします。そのような対立する利益の調整をはかり企業行動の規範を定めているのが商法です。</p> <p>商法は、企業取引を安全・円滑・迅速に行うための合理的な企業組織について規律を設けていますが、それらの現状と問題点を裁判例や最新のトピックを参照しながら検討します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 民法・一般法人法のほか、商法・会社法が設けられている理由やその役割を説明できる。</p> <p>(2) 企業取引を安全・円滑・迅速に行うための諸制度について、その特色を説明できる。</p> <p>(3) 国際化や情報化など、現代社会の要請に応える諸制度について、その概要を説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント（講義案と資料）を配布します。</p> <p>(2) 法学系の科目をいくつか履修する人には、岩波書店『セレクト六法』などの小型六法全書の購入を薦めます。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 企業法としての商法</p> <p>第2回 商業登記と情報化社会</p> <p>第3回 商号自由主義とその制限—CI戦略と商号—</p> <p>第4回 名板貸（名義貸し）の責任</p> <p>第5回 商号権によるブランドの保護—不正競争の防止—</p> <p>第6回 営業譲渡とその効果</p> <p>第7回 営業所と商業使用人—商業代理人制度—</p> <p>第8回 商業使用人と外観責任—表見支配人など—</p> <p>第9回 企業会計と商法—会計帳簿・書類の電子化—</p> <p>第10回 企業取引と普通取引約款</p> <p>第11回 消費者取引の規制—特定商取引法・製造物責任法—</p> <p>第12回 有価証券法の基礎</p> <p>第13回 会社法の基礎</p> <p>第14回 倒産処理の法制度</p> <p>第15回 企業不法行為法—公害法から環境法へ—</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績によって評価します。受験資格として3分の2以上出席して下さい。		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
		〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。</p> <p>簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】</p> <p>商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理</p> <p>第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印象管理</p> <p>第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	簿記論 I	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)	[学期] 前期	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記の仕組みの理解</p> <p>【概要】 みなさんは、これまで一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では、何をいつ買ったか (現金収支とその明細) くらいしか記入しなかったと思います。しかし、利益の獲得を目的としている営利企業は、現金収支に限らず、さまざまな取引を記帳しています。企業はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。この複式簿記の仕組み (原理) を理解することがこのコース (科目) の目的です。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記3級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 渡部 ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成26年度版), 中央経済社。(予定)・・・簿記論 II と共通 渡部 ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。(予定)・・・簿記論 II と共通</p> <p>(2) ①中村忠『簿記の考え方・学び方[二訂版]』, 税務経理協会, 2004年。 ②上野清貴監修『簿記のススメ ー人生を豊かにする知識』, 創成社, 2012年。 ③内藤文雄『会計学 エッセンス』, 中央経済社, 2013年。 ④渡邊泉『歴史から学ぶ会計』, 同文館出版, 2008年。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス, 簿記って何?: 履修登録確認, 配布資料 (簿記・会計の歴史), コース・パケット</p> <p>第2回 簿記の意味・目的・種類: テキスト第1章, 簿記の基礎概念: テキスト第2章</p> <p>第3回 取引: テキスト第3章, 商工会議所簿記検定試験許容勘定科目表</p> <p>第4回 勘定と仕訳: テキスト第4章</p> <p>第5回 帳簿の記入: テキスト第5章, 決算と財務諸表 (その1): テキスト第6章</p> <p>第6回 決算と財務諸表 (その1): テキスト第6章</p> <p>第7回 簿記一巡の手続きに関する学習 (資料配布)</p> <p>第8回 復習, 予習・復習状況の確認: 第6回までの資料, 場合によっては小テスト</p> <p>第9回 現金預金取引: テキスト第7章 (これ以降は, 簿記論 II に回す可能性がある)</p> <p>第10回 商品売買 (3分法): テキスト第8章</p> <p>第11回 商品売買 (3分法): テキスト第8章</p> <p>第12回 売掛金と買掛金: テキスト第9章</p> <p>第13回 その他の債権と債務: テキスト第10章</p> <p>第14回 復習: テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	<p>小テスト・予習・復習の状況 (20%), および筆記試験 (80%) で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

経済, 経営情報専攻の受講モデル
1年前期: 簿記論 I
1年後期: 簿記論 II, 財務会計論 管理会計論, 経営分析 原価計算
2年後期: コンピュータ会計

授業科目	経営学総論	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営学全般について, 幅広く理解し, 経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】 この講義では, これから経営学を学ぶに当たって, 必要と思われる知識や考え方について説明する。まず, 経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ, 企業や組織の仕組みを理解する。また, 単なる知識の習得だけではなく, 経営学が持っている特徴的な考え方も説明し, それに触れることで, その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに, 経営学が取り扱うテーマは, 企業だけではなく, 様々な場面で役立てることができる, 実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】 経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明: 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営学と経済学の違い: 経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第3回 経営学の発展と必要性: 経営学がいつか社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第4回 企業の種類について: 企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第5回 企業の目的と役割について: 企業が持っている目的と, 果たすべき役割について理解する。</p> <p>第6回 人と企業との関係について (1): 企業で働く従業員の立場から, 企業との関係を考える。</p> <p>第7回 人と企業との関係について (2): 株主 (出資者) としての立場から, 企業との関係を考える。</p> <p>第8回 人と企業との関係について (3): 消費者の立場から, 企業との関係を考える。</p> <p>第9回 人と企業との関係について (4): 企業の社会的責任について考える。</p> <p>第10回 日本の経営を考える: 年功主義や終身雇用, そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第11回 組織の基本的な仕組みについて: 基本的な組織構造を理解し, その特徴を知る。</p> <p>第12回 企業統治について: 株式会社を運営している人は, 実際には誰なのかを考える。</p> <p>第13回 経営戦略を考える: 経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第14回 企業の革新の必要性について: 企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>前期筆記試験 (70%), 授業でのレポート (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。</p>		

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる</li> <li>・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる</li> <li>・調子の悪いパソコンを直す</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第5回 コンピュータウイルス：コンピュータウイルスの仕組みと防御法</p> <p>第6回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第7回 学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説</p> <p>第8回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第9回 インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方</p> <p>第10回 周辺機器：モニタ、光学ドライブ、プリンタなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第11回 Web2.0とクラウド：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第12回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第13回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第14回 学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	文書作成実習	担当者	永俣 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Wordの応用機能も習得していく。</p> <p>【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得）</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習・・・概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第2回 あいさつ状の作成・・・ビジネス文書の基礎知識、社外文書の作成（あいさつ状）</p> <p>第3回 社内文書の作成・・・ビジネス文書のライティング技術、課題文書作成（表を利用した文書の作成）</p> <p>第4回 図解の利用・・・ネット社会の特徴について、図解を利用した文書の作成</p> <p>第5回 企画書の作成・・・デジタル情報の整理法について、計算式を含む文書の作成（企画書）</p> <p>第6回 案内状の作成・・・ネット関連の法律について、課題文書作成（案内状）</p> <p>第7回 検定対策・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目）</p> <p>第8回 検定対策・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目）</p> <p>第9回 検定対策・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目）</p> <p>第10回 Excelデータの利用・・・Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第11回 文書の編集・・・いろいろな応用機能（段組み、タブ、ヘッダー・フッターなど）</p> <p>第12回 議事録の作成・・・議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第13回 報告書の作成・・・課題文書（報告書）の作成（テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第14回 稟議書の作成・・・稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%+実技科目50%）+授業ごとに実施する課題（30%）		

(注) 経済専攻と経営情報専攻とは、別クラス

授業科目	<b>統計学</b>	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可能 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在, 情報技術を有効に活用してデータ収集を行い, そのデータの中に潜んでいる“お宝”を見つけ出すことが重要視されている。この講義では, 宝探しのためのツールとして, 基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なデータ処理を行う</li> <li>・相関関係について理解する</li> <li>・検定について理解する</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 木下栄蔵, 『入門統計解析』, 講談社サイエンティフィク</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論: 統計学とは 第2回 個数の処理1: 順列 第3回 個数の処理2: 組合せ 第4回 データの基本処理1: 平均値, 度数分布 第5回 データの基本処理2: 分散, 標準偏差 第6回 データの基本処理3: 正規分布 第7回 統計解析1: 順位相関 第8回 統計解析2: 相関係数 第9回 統計解析3: 回帰直線 第10回 統計解析4: 重回帰分析 第11回 統計解析5: カイ2乗検定 第12回 統計解析6: 平均値の推定 第13回 統計解析7: 平均値の検定 第14回 統計解析8: 分散分析 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	<b>応用文書処理</b>	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複数のアプリケーションを有機的に活用しながら, ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己紹介文書作成: ワードプロソフトを核に, グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する</li> <li>2) 提案書作成: インターネット検索と表計算ソフトを使い, 架空の提案書を作成する</li> <li>3) ホームページ作成: 自分なりの大学のホームページを作成し, 公開する。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる</li> <li>・わかりやすいドキュメントを作成する</li> <li>・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布, Web でも公開 (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明 第2回 自己紹介文書作成1: ワードプロを使ったベース文書の作成 第3回 自己紹介文書作成2: 表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第4回 自己紹介文書作成3: 写真, 図の取り扱いとベース文書の結合 第5回 自己紹介文書作成4: 仕上げ. 印刷設定のコツ 第6回 提案書作成1: インターネットによる費用検索 第7回 提案書作成2: 表計算ソフトを使った自動計算書 第8回 提案書作成3: プレゼン資料の作成 第9回 提案書作成4: 仕上げ, データ送信のコツ 第10回 ホームページ作成1: USBメモリへのソフトの導入, HTML 概念の復習。 第11回 ホームページ作成2: 課題設定とページ作成 第12回 ホームページ作成3: 資料収集とページ作成 第13回 ホームページ作成4: ページ公開 第14回 予備 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)		

授業科目	PCデータ活用	担当者	口脇 淳子
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式 (PCを使用)	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 表計算ソフトMicrosoft Excel基本操作の習得</p> <p><b>【概要】</b> 表計算ソフトMicrosoft Excelを使用し、作表やグラフ化といった基本操作はもちろんのこと、一歩進んだ操作知識や、効率的に作業を進めるための応用力を身につけられるような技術を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 表計算ソフトMicrosoft Excelの基本操作を確実に習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第1回 表計算の基礎：入力・編集に関する基本操作 第2回 表計算の基礎：印刷に関する基本操作 第3回 表計算の基礎：別形式のデータの取り込みと作表 第4回 データ処理の基礎：数式の利用 第5回 データ処理の基礎：グラフの作成 第6回 データ処理の基礎：グラフの作成 第7回 データ処理の基礎：グラフの作成 第8回 データ処理の基礎：関数の利用 (合計・平均・IF関数) 第9回 データ処理の基礎：関数の利用 (VLOOKUP・数値データを丸める関数) 第10回 データ処理の基礎：関数の利用 (論理関数) 第11回 データ処理の基礎：関数の利用 (その他の関数) 第12回 データ処理の応用：データの集計 (並べ替え・抽出 (ほか)) 第13回 データ処理の応用：データの集計 (ピボットテーブル) 第14回 表計算利用に必要な操作の例題・実習問題 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (40%) + 試験 (60%)		

授業科目	PCデータ活用実習	担当者	口脇 淳子
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 取得操作の実践活用</p> <p><b>【概要】</b> 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。</p> <p><b>【到達目標】</b> PC検定 (データ活用) の3級・もしくは2級の取得</p> <p>後期から履修する場合は、前期授業内容程度の知識を習得していることが前提とする</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 資料プリント		
授業スケジュール	第1回 前期の復習 第2回～第14回 演習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (20%) + 授業内小テスト (20%) + 試験 (60%)		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなせるようになる。</p> <p>【概要】本実習は前期の情報リテラシーII (E) (F) の応用となるので、前期のPC経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種ソフトウェア (プレゼンテーション, PDF ファイル, OCR, 動画編集, HP 作成など) の基本的な使い方を学習する。また、習いたいソフトウェアについて事前アンケートを取ることで、これらにできるだけ対応したいと考えている。</p> <p>【到達目標】上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業前アンケート (使用ソフトウェアの希望など) と前期授業の復習  第2回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (1)  第3回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (2)  第4回 PDF ファイルの扱い方・OCR の利用  第5回 PDF ファイルの扱い方・文書ファイルの統合  第6回 PDF ファイルの扱い方・セキュリティ設定  第7回 動画ファイルの扱い方・ムービーメーカーの使い方  第8回 動画ファイルの扱い方・ムービーの撮影  第9回 動画ファイルの扱い方・ムービーの編集  第10回 ホームページの作成 (1)  第11回 ホームページの作成 (2)  第12回 ホームページの作成 (3)  第13回 クラウドなどのインターネットの活用  第14回 アンケートにより学生が希望したソフトウェアへの対応  第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	3回の課題 (60%) と試験 (40%) の総合評価		

## 11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と、構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】現在、アベノミクスと呼ばれる経済政策の下で、日本経済はどういった方向に進むべきか、様々な議論がなされています。しかし、そうした議論は一定の方向に収束する様相を見せず、真っ向からの激しい対立が続いています。こうした状況では、自分自身で主体的に考え、判断できることが非常に重要となります。この講義では、日本経済の特質と問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6回 日本の産業政策と行政指導：勸告操短、企業の反発等 第 7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第 8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第 9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等 第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第 11回 現在の産業政策：産活法、現在の産業政策の特徴等 第 12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等 第 13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政・財政学</p> <p>【概要】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に、グローバル化の影響等についても講義します(下記、授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】財政とは、政府の活動が正直に反映され、その政府の活動は、社会のあり方や人々の生活、経済状況に非常に重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活、経済状況は、国民一人一人の財政に対する判断によって大きく変わることになるでしょう。そこで、本講義では、受講者が現財政に関して自分自身で主体的に考え、判断できるようになることを目指し、財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の財政の制度、実態、抱えている課題について理解を深めることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 財政とは何か：財政の定義、政府に対する評価の揺れ、市場の失敗、政府の機能等 第 3回 予算(1)：定義、役割、予算原則等 第 4回 予算(2)：日本の制度、その抱えている課題、改革の方向等 第 5回 経費(1)：定義、経費を分析する意味、経費の分類等 第 6回 経費(2)：経費膨張の法則・転位効果、小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 7回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 8回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 9回 公債(1)：定義、民間債務との対比、租税との対比、公債の種類等 第 10回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11回 財政投融资(1)：定義、運用対象、批判等 第 12回 財政投融资(2)：2001年度の改革、今後の展望等 第 13回 財政の国際化：国際公共財、グローバル化と国際的財政移転等 第 14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、本当の財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	金融論	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 〔単位〕 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 金融に関する基礎知識を習得するとともに、金融が経済に及ぼす影響など幅広い視野を養います。</p> <p>【概要】 金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や金融危機の原因まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済との関わりを幅広く学習することによって、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身に付けます。</p> <p>【到達目標】 金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 杉山敏啓編『実務入門 改訂版 金融の基本教科書』日本能率協会マネジメントセンター、岩崎博充『手にとるように銀行がわかる本』かんき出版、株式フォーラム21『手にとるように株・証券がわかる本』かんき出版、森宮康『保険の基本 新版』日経文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：金融とは何か — お金が果たす役割、金融という機能とは？</p> <p>第2回 銀行の役割 (1)： 決済の仕組み (内国為替、手形、外国為替)</p> <p>第3回 銀行の役割 (2)： 預金と貸出の関係、預金金利・貸出金利の決定方法、銀行の信用創造機能</p> <p>第4回 銀行の役割 (3)： 貸出形態、貸出審査、信用補完 (担保・保証)</p> <p>第5回 銀行の役割 (4)： 新しい貸出手法 (動産担保融資、知的財産担保融資、リバースモーゲージ)</p> <p>第6回 銀行の役割 (5)： 地域金融機関の取り組み (リレーションシップ・バンキング)</p> <p>第7回 銀行の役割 (6)： 金融機関に対する規制、預金者保護のための制度</p> <p>第8回 証券会社の役割 (1)： 株式の仕組み、株式市場の仕組み、株式上場の意義</p> <p>第9回 証券会社の役割 (2)： 証券会社の役割、投資家保護のための制度</p> <p>第10回 保険会社の役割 (1)： 保険の仕組み、生命保険と損害保険、生命保険と損害保険の相互参入</p> <p>第11回 保険会社の役割 (2)： 保険会社の経営、機関投資家としての役割、保険会社に対する規制、契約者保護のための制度</p> <p>第12回 その他の金融機関： 信託銀行、投資信託委託会社、消費者金融会社、クレジットカードの仕組み</p> <p>第13回 日本銀行と金融政策： 日本銀行の金融政策 (金融引き締め・金融緩和、量的緩和政策)</p> <p>第14回 金融危機から学ぶこと： 金融危機を防ぐには</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	経済学史	担当者	篠田 剛
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 〔単位〕 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資本主義の歴史と経済学の発展</p> <p>【概要】私たちの生活と経済は切っても切り離せない。それゆえ、現代に生きる私たちは、経済分析や経済政策の基礎理論を提供する経済学とも無関係でいることはできない。そもそも経済学は資本主義とともに誕生した。そして、経済学者たちは資本主義の抱える矛盾や謎と格闘してきた。その意味で経済学は観念の産物でも既に完成された学問でもなく、論争を繰り返しながら常にその時々々の現実的課題に突き動かされて発展する生きた学問である。各時代を代表する理論を取り上げながらこれからの経済学の課題を考える。</p> <p>【到達目標】各時代の経済学の意義と限界を歴史的課題と関連づけながら理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 指定しない</p> <p>(2) 中村達也・八木紀一郎・新村聡・井上義朗 (2001) 『経済学の歴史——市場経済を読み解く』有斐閣アルマ、大田一廣、鈴木信雄、高哲男、八木紀一郎編 (2006) 『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』名古屋大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要/経済学史を学ぶ意味</p> <p>第2回 資本主義の勃興期——古典派経済学の系譜</p> <p>第3回 古典派経済学 (1) 重商主義、重農主義からアダム・スミスへ</p> <p>第4回 古典派経済学 (2) アダム・スミスと『国富論』</p> <p>第5回 古典派経済学 (3) 古典派経済学の遺産——マルサス、リカード、J.S. ミル</p> <p>第6回 資本主義の成熟と矛盾——近代の経済学の系譜</p> <p>第7回 近代の経済学 (1) マルクス——史的唯物論と剰余価値論</p> <p>第8回 近代の経済学 (2) 限界革命——オーストリア学派とローザンヌ学派</p> <p>第9回 近代の経済学 (3) マーシャルとケンブリッジ学派</p> <p>第10回 資本主義は制御できるか——20世紀の経済学の系譜</p> <p>第11回 20世紀の経済学 (1) ケインズ革命——大恐慌とケインズ</p> <p>第12回 20世紀の経済学 (2) 競争と独占の理論</p> <p>第13回 20世紀の経済学 (3) ケインズ理論への批判と継承</p> <p>第14回 21世紀の資本主義と現代経済学の諸潮流</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) , コミュニケーションペーパー (30%)		

授業科目	経済学特講Ⅰ	担当者	内田 昌廣
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 証券取引の実務を学びます。</p> <p><b>【概要】</b> 株式や債券、投資信託などの証券商品は、私たちの資産形成の手段として身近なものとなっています。本講義では、証券取引に携わる証券会社や金融機関の職員に必要とされる実務知識を習得します。</p> <p><b>【到達目標】</b> 証券外務員二種資格試験に合格できる程度の知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) ファイナンシャルバンクインスティテュート(株)『わかる！証券外務員二種 最速テキスト 2014-2015年版』日本経済新聞出版社 (2) なし		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス： 講義の目的・進め方 / 序論： 間接金融と直接金融 第2回 証券の仕組み： 株式・債券の仕組み、証券市場（発行市場、流通市場） 第3回 株式会社法： 株主の責任と権利、株式会社の機関 第4回 財務諸表と企業分析(1)： 財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の仕組み、収益性分析、安全性分析 第5回 財務諸表と企業分析(2)： 資本効率性分析、成長性分析、損益分岐点分析 第6回 株式業務： 売買の種類、証券取引所での売買、店頭取引、株式の上場、証券投資計算 第7回 証券売買のルール(1)： 証券取引所のルール 第8回 証券売買のルール(2)： 証券業協会のルール 第9回 証券取引のルール(3)： 金融商品取引法のルール 第10回 債券業務(1)： 債券の仕組み、債券売買手法、利回り計算 第11回 債券業務(2)： 転換社債型新株予約権付社債 第12回 投資信託業務： 投資信託の仕組み、委託者指図型投資信託のルール 第13回 証券税制： 利子所得・配当所得・譲渡所得に対する課税、相続・贈与に対する課税 第14回 小テスト 第15回 まとめ (※授業の進み具合によっては、内容が変更となる回があります)		
成績評価の方法	小テスト (100%)		

授業科目	経済学特講Ⅱ	担当者	山本 肇, 野村俊郎
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> タイ、インドネシア、マレーシア、カンボジアなどの自動車産業</p> <p><b>【概要】</b> 東南アジア各国の自動車工場、部品工場を足で廻ったリアルな現地事情報告。山本はタイ語、野村はインドネシア語を用いて、現地の人々、特に工場労働者の声をリアルにレポート。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本企業が多数進出する現地では、数人の日本人駐在員が何百人、何千人の現地人を雇用してものづくりに取り組んでいる。その日本人駐在員たちのチャレンジ精神、フロンティア精神を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリントを配布する		
授業スケジュール	第1回 成長するアジアの新興国 (野村俊郎) 第2回 AFTA, ACFTA, AIFTA と日本 (同上) 第3回 FTA の進展とトヨタの企業内世界分業 (同上) 第4回 グローバル自動車メーカーのアセアン戦略 (山本) 第5回 タイの政治 (同上) 第6回 タイの経済 (同上) 第7回 タイの自動車産業~アセアンのハブ (同上) 第8回 インドネシアの政治・経済 (同上) 第9回 インドネシアの自動車産業~アセアン最大市場の行方 (同上) 第10回 マレーシアの政治・経済 (同上) 第11回 マレーシアの自動車産業~国民政策の行方 (同上) 第12回 大メコン流域 (Greater Mekong Subregion) 開発と今後のカンボジア、ラオス、ミャンマー経済の行方 (同上) 第13回 ミャンマーの自動車産業~黎明期の自動車産業 第14回 総括：アセアン経済、産業の今後の展望 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	宗田 健一				
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期				
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学習した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>						
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成26年度版), 中央経済社。(予定)・・・簿記論Ⅰと共通 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。(予定)・・・簿記論Ⅰと共通</p> <p>(2) ①中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』, 税務経理協会, 2004年。 ②上野清貴監修『簿記のススメー人生を豊かにする知識』, 創成社, 2012年。 ③内藤文雄『会計学 エッセンス』, 中央経済社, 2013年。 ④渡邊泉『歴史から学ぶ会計』, 同文館出版, 2008年。</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス:履修登録確認、配布資料、コース・パケット、前期(簿記論Ⅰ)の復習(簿記論Ⅰの積み残しなど)</p> <p>第2回 手形:テキスト第11章</p> <p>第3回 有価証券:テキスト第12章</p> <p>第4回 固定資産:第13章</p> <p>第5回 資本金と引出金:第14章</p> <p>第6回 収益と費用:第15章</p> <p>第7回 消耗品:第15章, 税金:第16章</p> <p>第8回 復習、予習・復習状況の確認:第7回までの資料, 場合によっては小テスト</p> <p>第9回 帳簿と伝票:第17章</p> <p>第10回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第11回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第12回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第13回 復習:テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第14回 復習:テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第15回 まとめ:試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>		<table border="1"> <tr> <td>経済, 経営情報専攻の受講モデル</td> </tr> <tr> <td>1年前期:簿記論Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>1年後期:簿記論Ⅱ, 財務会計論 管理会計論, 経営分析 原価計算</td> </tr> <tr> <td>2年後期:コンピュータ会計</td> </tr> </table>	経済, 経営情報専攻の受講モデル	1年前期:簿記論Ⅰ	1年後期:簿記論Ⅱ, 財務会計論 管理会計論, 経営分析 原価計算	2年後期:コンピュータ会計
経済, 経営情報専攻の受講モデル							
1年前期:簿記論Ⅰ							
1年後期:簿記論Ⅱ, 財務会計論 管理会計論, 経営分析 原価計算							
2年後期:コンピュータ会計							
成績評価の方法	<p>小テスト・予習・復習の状況(20%), および筆記試験(80%)で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>						

(注1) 2013年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も簿記論Ⅱを履修登録できます。

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】 グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】 21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向:外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化</p> <p>第2回 WTOの仕組み:最恵国待遇, 内国民待遇, 数量制限の禁止, ドーハラウンド</p> <p>第3回 FTAとバラッサの5段階説:EU</p> <p>第4回 進展するFTAとEPAの限界:東アジア共同体かTPPか, NAFTA, メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界</p> <p>第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり(中国1):广汽トヨタにおけるSPSとリーン化の進展</p> <p>第6回 同上(中国2):SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～</p> <p>第7回 同上(中国3):サプライヤーパーク内専用道順引き:JITからJISへの進化と負担転嫁</p> <p>第8回 同上(中国4):日系自動車メーカーと中国金型産業</p> <p>第9回 同上(中国5):中国金型産業の発展と限界</p> <p>第10回 同上(タイ):トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS</p> <p>第11回 同上(台湾):国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS</p> <p>第12回 同上(インドネシア):TMMINにおけるハンガー式SPS</p> <p>第13回 内に向かうグローバル化:リーマンショックと生産のフレキシビリティ</p> <p>第14回 同上:リーマンショックと雇用のフレキシビリティ</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

授業科目	国際立地論	担当者	野村 俊郎
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業が創業の地から国内の他地域へ、そして海外へ展開していくプロセスの考察</p> <p>【概要】自動車産業を例に、創業の地から東北・北海道、九州への立地、南アフリカ、アルゼンチン、ベネズエラへの立地と展開していく過程を考察する。</p> <p>【到達目標】資本の民族性と国際性を理解するとともに、ナショナル、リージョナル、グローバルの意味を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業で指示する。		
授業スケジュール	第 1回 国内立地と国際立地 第 2回 国内立地 (1) 東北・北海道への立地 第 3回 国内立地 (2) 東北・北海道への立地 第 4回 国内立地 (3) 東北・北海道への立地 第 5回 国内立地 (4) 九州への立地 第 6回 国内立地 (5) 九州への立地 第 7回 国内立地 (6) 九州への立地 第 8回 国際立地 (1) 中国への立地 第 9回 国際立地 (2) 南アフリカへの立地 (IMV1) 第 10回 国際立地 (3) アルゼンチンへの立地 (IMV2) 第 11回 国際立地 (4) ベネズエラへの立地 (IMV3) 第 12回 国際立地 (5) 第 13回 資本の民族性と国際性 (1) : 国家によって総括された資本と、それを超えていく資本 第 14回 資本の民族性と国際性 (2) : ナショナル、リージョナル、グローバル 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 前期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】成長するアジとアジア共同体への展望</p> <p>【概要】ヨーロッパ27カ国はヒト、モノ、カネの出入りが自由な共同体、EUを結成している。この27カ国は、地面の上には国境がなく、文字通り自由に入出りできる。アジアにも、こうした自由な共同体はできるのか? TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで、世界経済の成長を牽引する中国、インド、東南アジアの現状を概説する。以上の検討を踏まえて、アジア経済の未来を展望する。</p> <p>【到達目標】アジア共同体への道を、各国の発展の現状から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 アジアとヨーロッパ: 統合に向かう成長と統合による成長 第 2回 アジア経済への道 (1) : 経済統合の5段階 第 3回 同上 (2) : TPPによる完全自由化への道 第 4回 同上 (3) : 東アジア共同体による保護を残した自由化への道 第 5回 中国経済 (1) : 経済規模で日本を追い抜いた中国経済 第 6回 同上 (2) : 社会主義を目指す資本主義 第 7回 同上 (3) : アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国へ改革開放30年の成果へ 第 8回 インド経済 (1) : インドの概況 第 9回 同上 (2) : 植民地から独立、管理経済を経て91年から自由化 第 10回 同上 (3) : 民族資本として成長するTATA 第 11回 東南アジアの経済 (1) : タイとインドネシア 第 12回 同上 (2) : マレーシア、フィリピン、ベトナム 第 13回 アジアの未来 (1) : 中国、インド、日本の役割 第 14回 同上 (2) : アジア共同体への展望 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	外国貿易論	担当者	大重 康雄
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその課題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説するとともに、変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。WTO・自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)などで変化する国際経済の実態を紹介し課題の抽出・討論を行う。</p> <p>【到達目標】貿易取引の基本的仕組みを理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) グローバル・エコノミー 有斐閣アルマ		
授業スケジュール	第1回 開講 貿易と私たちの暮らし 第2回 自由貿易のもたらす利益 第3回 新古典派貿易理論を学ぶ 第4回 グローバル生産システムと貿易の現状 第5回 国際収支からみた貿易の姿 第6回 外国為替市場と為替レート 第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史 第8回 貿易決済の方法 第9回 国際貿易の論点 中間まとめ 第10回 世界の地域貿易協定の現状 第11回 東アジアの発展と日本の貿易 第12回 鹿児島県の貿易取引の現状 第13回 海外直接投資と労働の国際移動 第14回 開発と環境を考える 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じするさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 原林久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的、方法 第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか 第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化 第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1 第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2 第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム 第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序 第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題 第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発 第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題 第13回 国際社会における諸問題4：対テロ 第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス 第15回 まとめ		
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p><b>【概要】</b> 異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 広い視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第 1回 文化・異文化とは？ 第 2回 コミュニケーションとは？ 第 3回 言語・非言語コミュニケーション1 第 4回 言語・非言語コミュニケーション2 第 5回 言語・非言語コミュニケーション3 第 6回 ステレオタイプと偏見 第 7回 オリエンタリズム 第 8回 価値観 第 9回 グローバリゼーションと文化・文明の衝突 第10回 ディアスポラ 第11回 カルチャーショックと異文化適応 第12回 翻訳と通訳 第13回 異文化コミュニケーションの方法1 第14回 異文化コミュニケーションの方法2 第15回 多文化共生		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , 筆記試験 (70%)		

(注) 文学科に合同

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 東アジア, 東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p><b>【概要】</b> アジアは, 地理, 歴史, 言語, 文化, 宗教, 民族など, すべての面において多様である。本講義では, 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも, 「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化, 現代においては脱植民地化, 国民国家建設, リージョナリズム (地域主義) の形成という共通性がある。また, 最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し, 分析する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス: 講義の目的と方法 第 2回 「アジア」という概念: アジアはどこまでがアジアか 第 3回 歴史的形成1: 植民地以前のアジア 第 4回 歴史的形成2: 植民地のようす 第 5回 歴史的形成3: 植民地からの独立 第 6回 歴史的形成4: 脱植民地化, 国民国家建設, 開発 第 7回 歴史的形成5: 冷戦下のアジア 第 8回 東南アジア1: インドシナ三国 第 9回 東南アジア2: ベトナム戦争の影響 第10回 東南アジア3: タイ, ミャンマー, マレーシア 第11回 東南アジア4: メコン河流域開発 第12回 東南アジアの地域協力体制: ASEAN の形成 第13回 アジアにおける協力体制1: ASEAN を中心とする協力1 第14回 アジアにおける協力体制2: ASEAN を中心とする協力2 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (100%) によって評価する。		

授業科目	国際経済特講	担当者	梅 允中
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 外国為替と貿易実務</p> <p>【概要】 経済のグローバル化の進展は著しく、消費者のニーズも多様化していることによって、貿易取引を行う企業は増えつつあります。そこで、これからは、輸出入取引の仕組みや外国為替、貿易決済などの貿易実務の知識を得ることは重要です。この講義では、貿易実務について広く習得し、貿易実務担当者となるための知識を身に付けます。また、貿易実務を学習しながら、貿易英語も勉強します。</p> <p>【到達目標】 貿易実務担当者レベル</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>最新版 貿易実務 ハンドブック 日本貿易実務検定協会 編 発行所 中央書院</p> <p>必要に応じて資料を配布する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第4回 輸入編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易とは、規制の確認、インコタームズ、輸入の流れ</li> <li>・輸入採算、契約、海上貨物保険付保</li> <li>・決済方法、通関、貨物引取り</li> </ul> <p>第5回～第7回 輸出編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引準備・契約、輸出採算、輸出流れ、</li> <li>・輸出信用状</li> <li>・輸出書類作成</li> </ul> <p>第8回～第9回 外国為替編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国為替の仕組み</li> <li>・為替リスク</li> <li>・外国為替と銀行取引</li> </ul> <p>第10回 貨物海上保険、信用状の実務</p> <p>第11回 輸出入通関と関税</p> <p>第12回 仲介貿易</p> <p>第13回 貿易実例紹介</p> <p>第14回 貿易実例紹介</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験の成績（70％）に、授業での発言内容及び予習の状況（30％）を加味する。</p>		

授業科目	地域経済論	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済と第一次産業—地域再生の視角—</p> <p>【概要】 離島・半島など条件不利地域において（鹿児島県とてその例外ではなく、むしろ多く抱える）、どのような問題を抱え、どのようにして地域経済の再建と地域社会の再生を図っていったらよいかを、事例分析を通して、多角的に解析し、考察していく。</p> <p>【到達目標】 農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて、それに対する政策的処方箋を導出するなど、地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論（1）</p> <p>第2回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論（2）</p> <p>第3回 内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展</p> <p>第4回 地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題</p> <p>第5回 農山漁村地域の活性化 実態編（1）：農山村地域での地域づくりとその手法</p> <p>第6回 農山漁村地域の活性化 実態編（2）：漁村地域での地域づくりとその手法</p> <p>第7回 資源管理論：コモンスの悲劇と広域的資源管理組織</p> <p>第8回 里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト</p> <p>第9回 第一次産業の担い手問題：後継者対策とU・Iターン者</p> <p>第10回 地域リーダー論：地域リーダーの特徴、育成、そして役割</p> <p>第11回 経営組織論：地域づくりと経営組織形態</p> <p>第12回 農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック</p> <p>第13回 農林水産物の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み</p> <p>第14回 地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ</p> <p>第15回 まとめ「農山漁村地域再生への道標」</p>		
成績評価の方法	<p>授業での発言内容及び授業中に実施するレポート(40%)＋期末試験 (60%)</p>		

授業科目	地域産業政策	担当者	田中 史朗
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 地域経済の再建と地域社会の再生  <b>【概要】</b> 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。  <b>【到達目標】</b> 地域のニーズを知る力、地域の課題や問題点を的確に捉えて、その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第 2回 日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第 3回 日本における地域開発の功罪 実態編 (1)：全国総合開発計画と高度経済成長 第 4回 日本における地域開発の功罪 実態編 (2)：格差の拡大と公害問題 第 5回 経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第 6回 内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第 7回 地域再生のための手法：六次産業化と水商工連携 第 8回 農村地域再生への取り組み 実態編 (1)：自然生態系との共生モデル他 第 9回 山村地域再生への取り組み 実態編 (2)：地域資源活用型ビジネスモデル他 第 10回 漁村地域再生への取り組み 実態編 (3)：地域まるごとブランド化と都市との交流 第 11回 地方都市再生への取り組み 実態編 (4)：中心市街地活性化とコンパクトシティ 第 12回 地方都市再生への取り組み 実態編 (5)：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第 13回 地方都市再生への取り組み 実態編 (6)：自然景観と芸術文化による地域づくり 第 14回 地域再生のための内発的発展モデル：人、組織、環境、産業 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時実施するレポート(40%)＋期末試験 (60%)		

授業科目	地域史	担当者	田中 史朗
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 経済のグローバル化の進展と農水産業の地域的動向  <b>【概要】</b> 経済のグローバル化が進展する中で、世界、日本、そして鹿児島県における農水産業と農水産物流通の動向を解析し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、日本および鹿児島県の農水産業のありようを展望したい。  <b>【到達目標】</b> 世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本および鹿児島県の農水産業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本および鹿児島県の農水産業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第 2回 マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスタープラウンと新マルサス主義批判 第 3回 農業の近代化と自由貿易政策および欧米と日本との農業比較：農業革命と自由貿易政策、経営規模と生産性 第 4回 食の安全と農水産業：遺伝子組み換えとBSEなど 第 5回 映像でみる戦後日本農業の歩み 第 6回 戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第 7回 日本農業の現状と課題(1)：国民経済に占める農業の地位と自給率の推移 第 8回 日本農業の現状と課題(2)：農業の近代化と担い手 第 9回 映像でみる水産業の世界 第 10回 水産業の成立・発展条件と日本の水産業の特徴 第 11回 戦後の日本水産業の歩みと水産業政策の検証 (1)：「沿岸漁業等振興法」から「水産基本法」 第 12回 戦後の日本水産業の歩みと水産業政策の検証 (2)：「沿岸漁業等振興法」から「水産基本法」 第 13回 鹿児島県の産業構造と第一次産業振興策 第 14回 枕崎市とカツオ産業 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時実施するレポート(40%)＋期末試験 (60%)		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方財政</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴といった視点を踏まえて、地方財政に関する基本的な概念と理論、そして日本の地方財政制度とその特質、課題に関する内容を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】 近年、行財政改革において地方分権が大きな焦点となる一方で、地方自治体に対しては、国に甘えている、財政改革が足りないといった批判が盛んになされています。しかし、こうした批判において、地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係はどうなっているのかといった重要な視点が置き去りにになっていることがしばしば見られます。本講義では、そうした重要な視点を踏まえて地方財政に関する理解を深め、地方財政や地方分権について受講者の皆さんが主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 4回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴、三位一体の改革等 第 5回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 6回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 7回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等 第 8回 地方の事務：機関委任事務廃止までの経緯、自治事務と法定受託事務等 第 9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等 第 10回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等 第 12回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等 第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	非営利組織論	担当者	田村 達哉
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 非営利組織の現在と未来</p> <p>【概要】 非営利組織(NPO・Non-Profit Organization)は、学校や福祉、環境、医療、国際協力など様々な分野に広がっています。日本の中で多くの消費者が参加している生活協同組合(生協)を参考に、現代社会での非営利組織の位置と役割を理解し、非営利組織の特徴を確認します。その中で大学生にとって身近な大学生協の取り組みを紹介し、また、生協以外の多くのNPO法人についても活動事例を紹介していきます。講義やグループワークで非営利組織について考えてみます。</p> <p>【到達目標】 非営利組織の概要を理解し、組織で働くことと組織のリーダーシップについて意識できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 島田恒『NPOという生き方』PHP新書 小暮真久『20円で世界をつなぐ仕事』日本能率協会マネジメントセンター ※臨時プリントも使用 (2) 講義にて情報提供		
授業スケジュール	第 1回 非営利組織の概要 第 2回 非営利組織と他の組織の違いや共通点 (営利企業との違いや特徴などを知る) 第 3回 生活協同組合での取り組み (地域生協や大学生協の概要を知る) 第 4回 生協以外の非営利組織 (生協以外の非営利組織の概要を知る) 第 5回 組織で働くこと (組織で働く意味を考える) 第 6回 非営利組織のリーダーシップ (組織の中でのリーダーシップについて考える) 第 7回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

授業科目	非営利組織論	担当者	丸田 真悟
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代日本社会におけるNPOの役割と可能性</p> <p>【概要】 現代日本においてNPOは医療・福祉から街作り, 学術・文化・芸術, 国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み, その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方でNPOを巡る環境も大きく変わりつつあります。これからはNPOも質が問われる時代です。そこで本講義ではNPOの概念と組織運営について具体的な事例をもとに考えると共に, 現代日本社会におけるNPOの役割と, これからの可能性と課題について考えます。</p> <p>【到達目標】 NPOに関する基本的な知識を習得する。現代社会におけるNPOの役割と, それを果たすための課題と可能性を考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを使用 (2) 雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社, 田尾雅夫, 吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣, 他随時紹介して行きます。		
授業スケジュール	第 1回 NPOとは何か 講義ガイダンスと体験的NPO活動について 第 2回 ボランティアとNPO 「ボランティア」の意味を再検討し, NPOとの関係を考えます。 第 3回 NPOの活動事例 具体的な事例を基にNPOの多様性と存在意義を考えます。 第 4回 コミュニティとNPO コミュニティとNPOの関係について考えます。 第 5回 行政, 企業とNPO 行政や企業との「協働」と「パートナーシップ」について考えます。 第 6回 NPOのマネジメント NPOの意志決定法, 活動資金調達, 人材育成のあり方について考えます。 第 7回 NPOの可能性と課題 NPOを取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。 第 8回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)		

授業科目	労働法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「ディーセント・ワーク (働きがいのある人間らしい仕事)」 実現のための基礎知識</p> <p>【概要】 法体系の中でも労働法は憲法や民法の応用分野であり, 憲法や民法・刑法・行政法といった基本的な法律の上になりたっている。そういう意味では, その全体像をつかむことは難しいかもしれない。しかし, 1919年に国際労働機関 (ILO) が結成されて以来, その法分野が目指したのは「ディーセント・ワーク」の実現なのだ。本講義では, 就職するとき知っておくべき労働者の権利と義務, 職場で問題が起こった場合の解決の手段に関する基本的なルールを講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>働くときに知っておくべき労働者の権利と, 使用者が守るべき義務とは何かを理解する。</li> <li>権利侵害に対して, どのような救済手段, 救済機関があるのかを知る。</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業の時に紹介する 授業の時に紹介する		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス: 労働法の成立史 第 2回 労働法の全体像: 憲法・民法と労働法の関係 第 3回 労働契約の成立: 労働基準法と労働契約 第 4回 労働法上の「労働者」「使用者」概念: プロ野球選手は「労働者」? 第 5回 就業規則・労働協約との関係: 就業規則の不利益変更 第 6回 労働契約成立までの流れ: 採用内定と試用期間の法的性格 第 7回 労働契約の内容: 労働契約の基本的な内容と使用者の労働条件明示義務 第 8回 労働契約の原則: 雇用における男女平等と中間搾取の排除 第 9回 賃金についてのルール: 賃金額の制限と賃金支払いのルール 第 10回 労働時間の基本的ルール: 所定労働時間と法定労働時間 第 11回 労働時間制の多様化: 変形労働時間制とフレックスタイム制 第 12回 年次有給休暇: 休日・休暇・休業はどう違う? 第 13回 労働契約の変更と終了: 解雇に関する法規制 第 14回 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて: 育児・介護休業と雇用機会均等 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業時に提出してもらう小レポート (30%) + 試験 (70%)		

授業科目	地域研究特講	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新編国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 世界の現状1：数値からみる世界の格差</p> <p>第3回 世界の現状2：グローバリゼーションの進展</p> <p>第4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略</p> <p>第6回 国際機関による援助1：さまざまな国際機関1</p> <p>第7回 国際機関による援助2：さまざまな国際機関2</p> <p>第8回 国家を主体とする援助1：ODAについて（1）</p> <p>第9回 国家を主体とする援助2：ODAについて（2）</p> <p>第10回 企業による社会活動：CSRを中心に</p> <p>第11回 市民を主体とする援助1：NPOの活動（1）</p> <p>第12回 市民を主体とする援助2：NPOの活動（2）</p> <p>第13回 市民を主体とする援助3：NPOの活動（3）</p> <p>第14回 人間の安全保障</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地域主権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 『ポケット六法』（平成26年度版）有斐閣2013年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例(1)</p> <p>第7回 条例(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 議会と長との関係</p> <p>第13回 地方公共団体と国の関係</p> <p>第14回 予算</p> <p>第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民自治、団体自治、伝来説、固有権説、地方自治の本旨について</li> <li>・地方公共団体の構成要素、都道府県、市町村について、</li> <li>・区域、機関委任事務、法手受託事務について</li> <li>・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について</li> <li>・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について</li> <li>・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について</li> <li>・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について</li> <li>・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について</li> <li>・定例会、臨時会、議会の運営、定足数の原則、過半数議決の原則について</li> <li>・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について</li> <li>・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について</li> <li>・再議制度、専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散について</li> <li>・国の関与の手続、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について</li> <li>・予算事前議決の原則、予算公開の原則、予算単一主義の原則について</li> </ul>		
成績評価の方法	筆記試験(90%)、授業での発言の記録(10%)により評価する。		

## 12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位		〔必修/選択〕 選択
	〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学習した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成26年度版), 中央経済社。(予定)・・・簿記論Ⅰと共通 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。(予定)・・・簿記論Ⅰと共通</p> <p>(2) ①中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』, 税務経理協会, 2004年。 ②上野清貴監修『簿記のススメ ー人生を豊かにする知識』, 創成社, 2012年。 ③内藤文雄『会計学 エッセンス』, 中央経済社, 2013年。 ④渡邊泉『歴史から学ぶ会計』, 同文館出版, 2008年。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス:履修登録確認、配布資料、コース・パケット、前期(簿記論Ⅰ)の復習(簿記論Ⅰの積み残しなど)</p> <p>第2回 手形:テキスト第11章</p> <p>第3回 有価証券:テキスト第12章</p> <p>第4回 固定資産:第13章</p> <p>第5回 資本金と引出金:第14章</p> <p>第6回 収益と費用:第15章</p> <p>第7回 消耗品:第15章, 税金:第16章</p> <p>第8回 復習、予習・復習状況の確認:第7回までの資料、場合によっては小テスト</p> <p>第9回 帳簿と伝票:第17章</p> <p>第10回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第11回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第12回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第13回 復習:テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第14回 復習:テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第15回 まとめ:試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	<p>小テスト・予習・復習の状況(20%), および筆記試験(80%)で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

経済, 経営情報専攻の受講モデル
1年前期:簿記論Ⅰ
1年後期:簿記論Ⅱ, 財務会計論 管理会計論, 経営分析 原価計算
2年後期:コンピュータ会計

(注1) 2013年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も簿記論Ⅱを履修登録できます。

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位		〔必修/選択〕 選択
	〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し、組織内部にいる関係者のみならず、組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち、対処しているのかを講義していきます。</p> <p>【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明:講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か:管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1):企業で人を管理する際に重要となる、動機づけの問題について説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2):人を働く気にさせる動機づけの種類について考える。</p> <p>第5回 組織における人間(3):「組織における人間観」に基づく、様々な経営理論を紹介する。</p> <p>第6回 組織における人間(4):人は何に満足し、何に不満を感じるのか考える。</p> <p>第7回 年功主義と成果主義を改めて考える:年功主義・成果主義、それぞれの長所と短所を説明する。</p> <p>第8回 企業理念と組織文化:企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。</p> <p>第9回 組織構造を知る:組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。</p> <p>第10回 リーダーシップと人事管理:リーダーシップとは何か、人事管理との関連で考える。</p> <p>第11回 上司と部下の関係:理想的な上司と部下の関係、現実の上司と部下の関係を考える。</p> <p>第12回 リーダーの役割とは何か(1):リーダー(上司)の役割について考える。</p> <p>第13回 リーダーの役割とは何か(2):リーダー(上司)として適切な行動とは何かを知る。</p> <p>第14回 企業とキャリア:今後のキャリアと企業で働くことの意味について考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>前期筆記試験(70%), 授業でのレポート(30%) (予定)</p> <p>詳細については、1回目の講義で説明します。</p>		

授業科目	労務管理論	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の企業社会はなぜブラックか、日本の労使関係の特徴と、こゝにちのブラック企業の発生原因をさぐります。</p> <p>【概要】 今日の若者の雇用状況の深刻さは、格差、不安定、ワーキングプア、ブラック企業などといった言葉が示すように、かつて無いほど劣悪です。特に、若者の心身を破壊するブラック企業問題は、国会でも取り上げられ、早期の解決が求められていますが、このような企業が生まれてくる根本原因にまで遡った対策が必要です。本講義では、ブラック企業の出自である日本の企業社会の特徴を分析し、今日のグローバル化の中で、それがどのように変化しつつあるのかを分析し、ブラック企業問題とは日本の労使関係の問題であることをあきらかにします。</p> <p>【到達目標】 日本の経営の基本構造と基本法則を理解し、さらに、グローバル化の下での形態変化をとらえて、ブラック企業現象の本質的理解を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に指定しません。</p> <p>(2) 清野良榮編著『分析・日本資本主義』文芸閣、朝日吉太郎編著『グローバル化とドイツ経済。社会システムの新展開』文芸閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 労務管理論の対象と経営学の発展</p> <p>第2回 資本・賃労働関係の理解について 労働市場論を前提にした新しい労使関係論の試み</p> <p>第3回 現代資本主義と労使関係の発展 (1) 現代資本主義における「労働市場論を前提にした新しい労使関係論」</p> <p>第4回 現代資本主義と労使関係の発展 (2) 労使紛争の制度化・コンフリクト理論の科学化</p> <p>第5回 現代資本主義と労使関係の発展 (3) ミドルマネジメントの発達</p> <p>第6回 日本の経営の特徴 (1) 年功賃金</p> <p>第7回 日本の経営の特徴 (2) 企業別労働市場分断化と企業主義的労使関係の再生産構造</p> <p>第8回 日本の経営の特徴 (3) 事業所サンジカリズムの形成</p> <p>第9回 日本の経営の発展と限界と修正路線 漸次的賃金制度改革戦略</p> <p>第10回 グローバル経済と新日本の経営 (1) グローバル化と新労務管理戦略</p> <p>第11回 グローバル経済と新日本の経営 (2) 構造改革路線と格差形成・成果主義</p> <p>第12回 ドイツ労使関係とグローバル化 (1) 前後ドイツの労使関係の枠組</p> <p>第13回 ドイツ労使関係とグローバル化 (2) ドイツ軽罪のグローバル化</p> <p>第14回 金融市場危機と雇用破壊の下での労使関係</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	学期末試験 (100%)		

授業科目	管理会計論	担当者	北村浩一
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する</p> <p>【概要】 管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。</p> <p>【到達目標】 企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス・講義の進め方や評価について</p> <p>第2回 予算管理 (1)</p> <p>第3回 予算管理 (2)</p> <p>第4回 利益管理 (1)</p> <p>第5回 利益管理 (2)</p> <p>第6回 CVP分析 (1)</p> <p>第7回 CVP分析 (2)</p> <p>第8回 管理会計とは</p> <p>第9回 分権的組織の管理会計 (1)</p> <p>第10回 分権的組織の管理会計 (2)</p> <p>第11回 原価概念</p> <p>第12回 原価計算と原価管理</p> <p>第13回 標準原価管理</p> <p>第14回 原価企画とABC原価計算</p> <p>第15回 講義のまとめ</p> <p>(* 講義の進度によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	小テスト(計2回、各10%) と期末定期試験 (60%) の総計で評価します。		

授業科目	原価計算	担当者	岡村 雄輝
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 原価計算入門</p> <p>【概要】 原価計算とは、モノづくり（製品の製造）に要した原価を正確に把握する手続きのことです。本講義では、そうした手続きについての理解を深めるために、実際のモノづくりと原価計算をできるだけ身近に感じられるような事例を用いて、わかりやすく解説します。</p> <p>【到達目標】 製造業における取引を記帳する能力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 清水孝 (2012) 『原価計算』 税務経理協会 (予定), プリント		
授業スケジュール	第 1回 モノづくりと原価計算 第 2回 原価計算のあらましと工業簿記 第 3回 材料費の計算と記帳 第 4回 労務費の計算と記帳 第 5回 経費の計算と記帳 第 6回 個別原価計算 第 7回 原価の部別明細計算 第 8回 総合原価計算 第 9回 工程別総合原価計算 第 10回 製品の完成・販売と決算 第 11回 原価管理と標準原価計算 (1) 第 12回 原価管理と標準原価計算 (2) 第 13回 利益計画と直接原価計算 (1) 第 14回 利益計画と直接原価計算 (2) 第 15回 まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。		
成績評価の方法	小テスト (20%) と期末テスト (80%)		

授業科目	経営学特講 I	担当者	田原 武志, 東 圭太
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「経営」を広義にとらえ、手法を具体的に考察する。</p> <p>【概要】 本講義では、「経営」を一般的にイメージする会社経営はもちろんの事、文化祭実行委員会等の組織やそれぞれの家庭、自分自身の人生などを経営（マネジメント）する事はどういう事を学ぶ。それぞれの経営資源の抽出から始まり、次に成果を作り出していく手法について考察する。自己の成長と幸福が、家庭・会社・地域社会の成長と幸福へとつながるという基本理念のもと、学生諸君とともに経営を学ぶ場とする。</p> <p>【到達目標】 社会人としての様々な局面で、その課題を解決するべく、経営の手法を身につける。</p>		
使用教材	(1) 毎回プリントを用意する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーリング 第 2回～第 14回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表 (テーマ例) 「世界に通用する(誇れる)鹿児島県の良さととは?」「日新公いろは歌の考察」 「鹿児島県立短期大学の経営資源の考察」「企業の果たす社会的責任について」 「コミュニティービジネスの今後について考察」 「経営にコンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」 「家庭人、社会人としてのリスクマネジメント」「投機と投資の考察」 「人生において貯蓄の意義の考察」「ファイナンシャル・プランニングの基本考察」等々 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発表、レポートの評価、定期試験 (プリント・レポート・ノート持ち込み可) の結果 (全体で 100%)		

授業科目	経営学特講Ⅱ	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】この授業では、多国籍企業が市場戦略のなかでどのように文化を戦略的に活用しているかについて考察していく。グローバル化、生産から消費へのシフト、グローバルな市場競争、などの現代社会を捉えるための視点を提示する。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略を知る。特に、多国籍企業の市場戦略は自国の文化が大いに関係していることや、多国籍企業が文化を活用しながら自らの市場を創造する側面を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。</p> <p>第2回 グローバリゼーションとは何か：現代社会の特徴であるグローバル化について解説する。</p> <p>第3回 多国籍企業とグローバル化：グローバル化の主要な担い手である多国籍企業について解説する。</p> <p>第4回 多国籍企業の市場戦略：多国籍企業において市場戦略が重要になっていることを説明する。</p> <p>第5回 多国籍企業と文化（1）：従来の多国籍企業論において文化がどのように位置づけられてきたかを検討する。</p> <p>第6回 多国籍企業と文化（2）：多国籍企業と文化の関係を捉えるための、文化概念について再考する。</p> <p>第7回 国際マーケティング論における文化：国際マーケティング論において文化がどのように位置づけられてきたかを見ていく。</p> <p>第8回 市場戦略における文化的差異の活用：市場戦略において文化的差異が「ソフト・パワー」の源泉になることを説明する。</p> <p>第9回 ブランド形成における文化：ホルートの文化的ブランド論を取り上げながら、ブランド形成における文化の役割を検討する。</p> <p>第10回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（1）：多国籍企業の市場戦略における文化の活用に関する枠組みを考える。</p> <p>第11回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（2）：多国籍企業の市場戦略における文化の活用に関する枠組みを考える。</p> <p>第12回 事例分析（1）：第10回、第11回で提示した枠組みに基づき、実際の多国籍企業の市場戦略を分析する。</p> <p>第13回 事例分析（2）：第10回、第11回で提示した枠組みに基づき、実際の多国籍企業の市場戦略を分析する。</p> <p>第14回 事例分析（3）：第10回、第11回で提示した枠組みに基づき、実際の多国籍企業の市場戦略を分析する。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋レポート（30%）		

授業科目	情報管理論	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の考え方について</p> <p>【概要】情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捕らえようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではなく、社会科学的な要素も必要となる。</p> <p>そこで、この授業ではこの部分を中心に、企業における情報の管理について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、その特徴を説明する。</p> <p>第3回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の特徴とその重要性を確認し、理解する。</p> <p>第4回 比重が高まる情報の力について（1）：現代社会において、情報の持つ価値が高まっていることを説明する。</p> <p>第5回 比重が高まる情報の力について（2）：価値の高まった情報をいかに使いこなすかについて説明する。</p> <p>第6回 メディアリテラシーという考え方について（1）：メディアリテラシー全般について説明する。</p> <p>第7回 メディアリテラシーという考え方について（2）：情報に振り回されないために、気をつけるべきことは何か。</p> <p>第8回 メディアリテラシーという考え方について（3）：情報を発信するための考え方を理解する。</p> <p>第9回 情報とメディア媒体（1）：メディアと情報の関係について考える。</p> <p>第10回 情報とメディア媒体（2）：テレビやインターネットなど、メディア媒体の特徴を知る。</p> <p>第11回 情報操作（1）：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第12回 情報操作（2）：具体的な情報操作の例と、その対処法を説明する。</p> <p>第13回 情報化の意義と必要性（1）：企業における情報化の意義と必要性について説明する。</p> <p>第14回 情報化の意義と必要性（2）：実際の仕事上における、情報化の意義について知る。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	経営分析	担当者	岡村 雄輝
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 はじめて学ぶ財務諸表分析</p> <p>【概要】 本講義は、企業の財務諸表と経営戦略に関する情報を用いて、経営状況を分析する能力を養うことを目的としています。具体的には、複式簿記、わが国の会計制度を簡単におさらいし、実際の財務諸表を用いて、その「読み方」を学びます。</p> <p>【到達目標】 財務諸表をみて、会社の経営状況を自分の言葉で語れるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 田中弘 (2010) 『会計データの読み方・活かし方—経営分析の基本的技法』中央経済社 (予定), プリント		
授業スケジュール	第 1回 会計情報と企業分析 第 2回 財務諸表の仕組みを理解する (1) 第 3回 財務諸表の仕組みを理解する (2) 第 4回 貸借対照表を読む 第 5回 安全性を分析する (1) 第 6回 安全性を分析する (2) 第 7回 損益計算書を読む 第 8回 収益性を分析する (1) 第 9回 収益性を分析する (2) 第 10回 キャッシュフロー計算書を読む 第 11回 効率性を分析する 第 12回 成長性を分析する 第 13回 キャッシュフローを分析する 第 14回 損益の分かれ目を分析する 第 15回 まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。		
成績評価の方法	期末レポート (100%)		

授業科目	経営戦略論	担当者	瀬口 毅士
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略に関する基礎的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、企業が外部環境に適応し、長期的に存続・成長するための意思決定 (あるいは、そのような意思決定を行うための指針) である。経営戦略は、企業戦略、事業戦略 (競争戦略)、職能別戦略、の3つのレベルに区分できるが、本講義ではとりわけ前二者を中心に解説していく。さらに、グローバル戦略や企業の社会性などの、近年重要性を増しているテーマについても講義する。</p> <p>【到達目標】経営戦略論における基本概念を知る。それぞれの概念がどのような関係にあるのか、学説史的にどのような流れを辿ってきたのを理解する。本講義で習得した知識を現実の企業に適用し、分析できる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。 第 2回 経営戦略とは何か：経営戦略の概要を説明する。 第 3回 経営理念とドメイン：経営理念とドメイン (事業範囲) について解説する。 第 4回 規模の経済と範囲の経済、水平統合と垂直統合：規模の経済等の経営戦略論の基本事項を説明する。 第 5回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心として、多角化戦略について考える。 第 6回 M&A と戦略的提携：M&A および戦略的提携について、それぞれの特徴や違い等を詳しく見ていく。 第 7回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC (プロダクト・ライフサイクル) を解説する。 第 8回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分を考える。 第 9回 競争戦略とは何か、競争戦略の学説史：競争戦略の概要を知る。 第 10回 ポジショニング・アプローチ：競争戦略論のなかの、ポジショニング・アプローチを解説する。 第 11回 資源ベース・アプローチ：競争戦略論のなかの、資源ベース・アプローチを解説する。 第 12回 学習アプローチ、ゲーム論的アプローチ：競争戦略論のなかの、学習アプローチとゲーム論的アプローチを解説する。 第 13回 グローバル戦略：これまでの内容を基に、グローバル規模での経営戦略のあり方を考える。 第 14回 経営戦略と企業の社会性：企業の社会性という観点から、経営戦略を再考する。 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 毎回の小テスト (30%)		

授業科目	企業論	担当者	朝日 吉太郎
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 資本主義的企業の発展法則をベースにグローバル化の中の企業戦略を考えます。</p> <p><b>【概要】</b> 世界の政治・経済は、巨大な企業や企業集団に強く影響されています。そして、これらの企業の暴走がバブル崩壊・経済危機となって現れ、多くの人々に強い否定的な影響を与えています。どうしてこのような事態になってしまったのでしょうか。現代資本主義の特徴である独占資本の形成発展と現状を法則的にとらえながら、グローバル化の中での独占資本企業戦略の特徴、問題、課題について検討します。前期に社会政策を受講していると分かりやすいと思います。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本の企業集団の成立と発展、今後の変化とそれに対応する能力を身につけ、今日の企業社会のあり方について考える力を身につけます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に定めない (2) 授業時間内で指示する		
授業スケジュール	第1回 今日の経済の特徴と企業集団の力 第2回 資本主義と企業 第3回 競争と機械化 第4回 資本の再生産と領有法則の転変 第5回 蓄積と制限 第6回 合理化投資 第7回 利潤と競争 第7回 商業資本 第8回 利子生み資本 第9回 銀行と信用, 株式会社 第10回 独占資本の形成と企業集団 第11回 企業集団と国家 第12回 恐慌と戦争 第13回 日本の企業集団 (1) 戦前 第14回 日本の企業集団 (2) 戦後 第15回 グローバル化と企業集団の蓄積戦略の展開		
成績評価の方法	学期末試験 (100%)		

授業科目	財務会計論	担当者	宗田 健一
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 財務諸表を読めるようになる</p> <p><b>【概要】</b> 本年度の財務会計論では、会計学を初めて学ぶ学生を対象として、会計学の基礎に関して講義を行います。財務会計論は、会計関連科目の基礎をなす科目です。企業の活動状況を財務情報に集約して適切に利害関係者に伝達したり、企業の公表する財務諸表を理解したりするためには、会計学の知識が不可欠となります。本講義では、財務諸表を読み解く知識と技術の獲得を目指します。学習に際しては、学生自らが体験したり、考えたりする内容を組み入れます。講義参加型の学習を求めますので積極的に参加してください。</p> <p><b>【到達目標】</b> 財務諸表の作成プロセスを理解する。財務諸表を読み解く基本的な知識と技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 内藤文雄『会計学 エッセンス』, 中央経済社, 2013年。 (2) 桜井久勝『財務会計講義』(第15版), 中央経済社。(予定) 中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』, 税務経理協会, 2004年。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス: 履修登録確認, コース・パケット配布, 会計って何? 会計学を学ぶとどんなご利益があるのか。 第2回 ゲームをしながら意思決定を学ぶ。(意思決定と情報: テキスト第1章) 第3回 ゲームをしながら意思決定を学ぶ。(意思決定と情報: テキスト第1章) 第4回 株式会社の構造について復習。株式会社における会計の役割について (会計情報の役立ち: 第2章) 第5回 グループ・ディスカッション (会計の意義・役割について) 第6回 情報作成と開示 (ディスクロージャー制度: 第3章) 第7回 製造業を体験し, 情報を作成して, 開示する (有価証券報告書: 第4章) 第8回 復習, 小テスト (講義予備日) 第9回 貸借対照表の構造と役割を知る (貸借対照表: テキスト第5章) 第10回 損益計算書の構造と役割を知る (損益計算書: テキスト第6章) 第11回 キャッシュ・フロー計算書の構造と役割を知る (キャッシュ・フロー計算書: テキスト第7章) 第12回 株主資本等変動計算書の構造と役割を知る (株主資本等変動計算書: テキスト第8章) 第13回 製造原価明細書の構造と役割を知る (製造原価明細書: テキスト第8章) 第14回 復習, 小テスト (講義予備日) 第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施		
成績評価の方法	レポート, 講義への参加度 (発言や質問など) (40%) 筆記試験 (60%) で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 簿記論I, IIを履修済み(履修中)であること, ないし日商簿記検定3級以上の知識があることを前提に講義を行います。

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
		(履修年次) 1年, 2年いずれでも履修可 (単位) 2単位	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための「仕組みづくり」である。現代社会においてマーケティングの役割はますます重要になってきている。本講義では、マーケティングの基本および現代のマーケティングについて講義する。</p> <p>【到達目標】マーケティングの基本を習得し、消費者としての視点および販売者としての視点を養うことを目標とする。すなわち、消費者として、企業がどのようにマーケティング戦略を行おうとしているかを理解し、「賢い消費者」になることである。同時に、販売者として、顧客ニーズや顧客満足を満たすために、いかなる努力が必要であるかを知ることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 標的市場の選択：ターゲティングおよびセグメンテーションについて解説する。</p> <p>第4回 市場・消費者行動分析：消費者行動論を中心として、消費者の分析方法を説明する。</p> <p>第5回 競争分析：ポジショニングを中心に、企業間の競争構造に関する分析方法を知る。</p> <p>第6回 製品戦略：製品ライフサイクルや製品開発プロセスを中心に、製品戦略について解説する。</p> <p>第7回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法を講義する。</p> <p>第8回 流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択の方法を説明する。</p> <p>第9回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスやメディアミックスなどを解説する。</p> <p>第10回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド戦略について考える。</p> <p>第11回 関係性マーケティング：企業と消費者の長期的関係性の構築について考える。</p> <p>第12回 グローバル・マーケティング：グローバル規模でのマーケティング戦略を考える。</p> <p>第13回 DVD観賞</p> <p>第14回 ソーシャル・マーケティング：マーケティングにおける企業の社会的責任を解説する。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + レポート (40%)		

授業科目	経営工学	担当者	倉重 賢治
		(履修年次) 1, 2年いずれでも履修可能 (単位) 2単位	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤賢治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：経営工学とは</p> <p>第2回 生産スケジューリング1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第3回 生産スケジューリング2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第8回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第9回 需要予測：過去のデータから未来を予測する</p> <p>第10回 投資計画：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第11回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第13回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第14回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

(注1) 履修に際しては、簿記論Ⅰ、Ⅱ、財務会計論を履修済みであることが望ましい。

(注2) 情報リテラシーⅠ、Ⅱ、PCデータ活用を履修し、単位取得済みであれば、なお望ましい。

授業科目	コンピュータ会計	担当者	宗田 健一
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (授業形態) 実習方式 (一部、講義方式を含む。基本的パソコン教室での講義。)	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> パソコンを用いた財務諸表分析</p> <p><b>【概要】</b> この科目では、簿記一巡の手續きに関して理解しており、財務会計に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を行います。講義の前半では初歩的な会計用語の解説と財務諸表の見方に関して説明します。また、分析ツールのひとつとしてマイクロソフト社の表計算ソフト（エクセル）の使用を予定していますので、エクセルの基本的な操作に関して説明します。</p> <p>上記の初歩的な説明を行った後、講義の後半では、各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET (Electronic Disclosure for Investors' Network)）を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p><b>【到達目標】</b> 基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い、その結果の解釈を行うことができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 内藤文雄『会計学 エッセンス』, 中央経済社, 2013年。</p> <p>(2) 未定</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、会計の全体像</p> <p>第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方）</p> <p>第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 会計学と財務情報について（テキスト第1、2章）</p> <p>第5回 会計学と財務情報について（テキスト第3、4章）</p> <p>第6回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど）</p> <p>第7回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第8回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第9回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第10回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点、収益性の視点など）</p> <p>第11回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第12回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第13回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第14回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	<p>講義での発言内容、講義（毎回ではないが）で作成した資料（40%）、および期末レポート（60%）で評価する。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布する。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示する。</p>		

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (授業形態) 実習方式	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p><b>【概要】</b> 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のAccessの操作を修得し、データベース設計に関する応用問題に取り組んでいく。</p> <p><b>【到達目標】</b> データベースソフトのAccessを利用して、簡単なシステム開発を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『30時間でマスター Access2010』, 実教出版</p> <p>(2) きたみあきこ、『Access2007 マスターブック』, 毎日コミュニケーションズ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：リレーショナルデータベースの概念</p> <p>第2回 Accessの操作：Accessとは</p> <p>第3回 Accessの操作：レコードの並べ替え</p> <p>第4回 Accessの操作：レコードの追加</p> <p>第5回 Accessの操作：フォームの作成</p> <p>第6回 Accessの操作：選択クエリの作成</p> <p>第7回 Accessの操作：さまざまなクエリ</p> <p>第8回 Accessの操作：データベースの設計</p> <p>第9回 Accessの操作：リレーションシップの作成</p> <p>第10回 Accessの操作：レポートの作成</p> <p>第11回 Accessの操作：レポートのアレンジ</p> <p>第12回 Accessの操作：マクロの利用</p> <p>第13回 総合演習</p> <p>第14回 総合演習</p> <p>第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	<p>講義中の小テスト（40%）＋課題（60%）</p>		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念をExcelに含まれているVBAにより学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBAの利用により、さらに高度なExcelの活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 (1) 基本的なプログラミング技術を身につける。 (2) VBAを利用したExcelのより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 七条達弘, 『やさしくわかるExcelVBAプログラミング 第5版』, ソフトバンククリエイティブ (2) 立山秀利, 『ExcelVBAのプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』, 秀和システム</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論: プログラミングの概念 第2回 マクロ: マクロの登録と実行 第3回 エディタ: VBE (Visual Basic Editor) の使い方 第4回 VBAの利用: プロシージャ 第5回 VBAの利用: オブジェクト 第6回 VBAの利用: セルの操作 第7回 VBAの利用: 演算子 第8回 VBAの利用: 条件分岐 第9回 VBAの利用: 繰り返し処理 第10回 VBAの利用: 変数の利用 第11回 VBAの利用: 関数の作成 第12回 VBAの利用: ユーザーフォーム 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	情報論特講	担当者	岡村 俊彦, 倉重 賢治
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ICT (情報通信技術) について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】 ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといったICTを学び、日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに、コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 実社会において、自らICT業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) FOM出版「日商PC検定試験 知識科目 2級対策問題集」, プリント (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明: 授業概要と評価方法の説明 第2回 ハードとソフト: PC等のICT機器のハードウェア、ソフトウェアの解説 第3回 コンピュータのハードウェア1: PCの実物を分解し、ハードの構成と役割の学習 第4回 コンピュータのハードウェア2: PCの実物によるインターフェイスの学習 第5回 ソフトウェアの設定: アプリケーションやドライバなどソフトの導入と設定 第6回 ネットワークの仕組みと設定: ネットワーク機器と各種設定 第7回 ウェブ活用: さまざまなウェブサービスの利用と注意事項 第8回 コンピュータが扱う数字1: 2進数と16進数 第9回 コンピュータが扱う数字2: 負の数と実数 第10回 情報セキュリティ: 共通鍵暗号と公開鍵暗号 第11回 シミュレーション1: シミュレーションとは 第12回 シミュレーション2: エクセルを用いたシミュレーション 第13回 意思決定: エクセルのソルバー 第14回 データ分析: エクセルのデータ分析 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (100%)		

13 第二部商經学科教養科目  
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	夢田 司・望月正道・船津 潤・中谷彩一郎 福田忠弘・山本敬生・北 一浩
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期(注) [授業形態] 講義形式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大の三つの学科の7人の教員がそれぞれの分野から、世界各国さまざまな時代における「文化」とは何かを考察します。一週間という集中した期間で、さまざまな知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、様々な事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (必要に応じて後日指示します。) (2) 授業中、必要に応じて指示します。		
授業スケジュール	第1回 食の文化(1): 食生活を見なおしてみよう (夢田) 第2回 食の文化(2): 情報社会における食と健康について (夢田) 第3回 東アジアの漢字文化のいま (望月) 第4回 東アジアの流行歌のいま (望月) 第5回 民間企業と文化(1): 文明と文化の違い、商品と文化等 (船津) 第6回 民間企業と文化(2): 企業と「お国柄」、文化的産業と地域等 (船津) 第7回 変容する赤ずきん(1): 民話からグリム童話まで (中谷) 第8回 変容する赤ずきん(2): 近現代のパロディと語り直し (中谷) 第9回 枕崎のカツオ文化(1): 原耕という人物について (福田) 第10回 枕崎のカツオ文化(2): 原耕からみるカツオ漁(福田) 第11回 地方における政治文化(1): 地方議会改革のあり方 (山本) 第12回 地方における政治文化(2): ローカル・マニフェストの可能性 (山本) 第13回 デザインとは?: デザインとアートの違い (北) 第14回 デザインの新たな役割: 関係をデザインする=コミュニケーションデザイン (北) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポートの提出(80%)と毎回の授業の感想・意見等(20%)で評価します。		

(注) 前期集中講義期間 (9月18・22日, 24日~26日・29・30日の7日間)

授業科目	日本の歴史	担当者	永山 修一
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 南九州地域の原始～古代の歴史的展開</p> <p>【概要】 日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島で生活した人々の姿を、最新の情報を使用しながら概観していきたい。</p> <p>【到達目標】 身近な地域の、様々な事象の背景を、歴史的な視点から見ることのできる能力の一端を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 適宜、プリントを準備する。 (2) 『鹿児島県の歴史』(山川出版社, 1999年) 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆井祐一 『隼人と古代日本』(同成社, 2009年) 永山修一		
授業スケジュール	第1回 歴史の見方 第2回 資料と史料 第3回 旧石器時代・縄文時代 第4回 弥生時代 第5回 古墳時代 第6回 日向神話の世界 第7回 隼人の登場 第8回 隼人支配の特色 第9回 隼人の消滅 第10回 平安時代前期の薩摩・大隅 第11回 平安時代中期の薩摩・大隅 第12回 島津荘の成立 第13回 万之瀬川の河口から(特撮林公園跡) 第14回 奄美諸島の歴史(1)(夜光貝とカムイヤギ類須恵器をめぐる歴史) 第15回 奄美諸島の歴史(2)(キカイガシマと喜界島成久遺跡跡)		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文(60%)+レポート(40%)		

授業科目	日本文学	担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「日本近代詩」の世界</p> <p>【概要】 現在「詩」と一般的に言われるものは、日本では明治時代以前には存在していない。日本近代の「詩」は日本の西洋化とともに人工的に創り出されたものであり、その歴史を振り返ることで、日本の「詩」の多様性が見えてくる。講義では明治から大正にかけての日本近代詩の主要な作品を取り上げながら、「日本近代詩」の問題を考える。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から分析する方法を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 大岡信『蕩児の家系—日本現代詩の歩み』（思潮社）、他授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、明治という時代と詩</p> <p>第2回 「日本の詩」の始まりとは？：『新体詩抄』について</p> <p>第3回 詩を翻訳することの難しさ：訳詩集『於母影』の実験</p> <p>第4回 詩に歌うべきものとは何か：島崎藤村と「抒情」</p> <p>第5回 詩は読む人の心に届くか？：象徴詩の問題</p> <p>第6回 話すように書くということ：口語詩の問題</p> <p>第7回 口語詩の表現：川路柳虹、相馬御風、三木露風</p> <p>第8回 大正という時代と詩</p> <p>第9回 山村暮鳥の表現：『聖三稜玻璃』</p> <p>第10回 室生犀星の表現：『愛の詩集』</p> <p>第11回 大手招次の表現：『藍色の墓』</p> <p>第12回 萩原朔太郎の表現1：『月に吠える』</p> <p>第13回 萩原朔太郎の表現2：『青猫』</p> <p>第14回 萩原朔太郎の表現3：『氷島』</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%) , レポート (60%)		

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらう実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの方・考え方を養うことを目標とする。</p> <p>②自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：対人認知</p> <p>第5回 社会心理学②：自己開示と自己呈示</p> <p>第6回 社会心理学③：様々な対人関係</p> <p>第7回 社会心理学④：集団の影響</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリングⅠ</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：自己理解のためのカウンセリングⅡ</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：ストレスへの対処</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	「レポート (70%) + 毎回のリアクションペーパー (30%)」		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】広い視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 文化・異文化とは？ 第2回 コミュニケーションとは？ 第3回 言語・非言語コミュニケーション1 第4回 言語・非言語コミュニケーション2 第5回 言語・非言語コミュニケーション3 第6回 ステレオタイプと偏見 第7回 オリエンタリズム 第8回 価値観 第9回 グローバリゼーションと文化・文明の衝突 第10回 ディアスポラ 第11回 カルチャーショックと異文化適応 第12回 翻訳と通訳 第13回 異文化コミュニケーションの方法1 第14回 異文化コミュニケーションの方法2 第15回 多文化共生		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , 筆記試験 (70%)		

授業科目	アジア文化論	担当者	川野 和昭
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東・南アジアと南九州及び南西諸島の竹の文化の比較。</p> <p>【概要】講師自ら行っているラオス北部の少数民族及び南九州, 南西諸島のフィールドワークのデータを、「竹の文化」という切り口で、両地域の文化比較を行う。現地で撮影した映像を豊富に用いた講義を行う。</p> <p>【到達目標】「竹の文化」をキーワードに、東南アジアの文化の特質を明らかにするとともに、日本列島及びアジアにおける鹿児島 の文化的アイデンティティを確認する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストなし。その都度手作りの資料を配布する。		
授業スケジュール	第1回 本講の概要, 目的, 方法, 評価について。アジア地域の確認 第2回～第4回 焼畑文化, 特に「竹の焼畑」文化。南九州から南西諸島 第5回～第8回 ラオス北部の「竹の焼畑」文化 第9回～第11回 稲作儀礼と稲作神話の比較 第12回～第14回 竹の生活道具の比較 第15回 まとめ		
成績評価の方法	学期末筆記試験 (60%) と授業への意欲 (40%)		

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問われ直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 『ポケット六法』(平成26年度版)有斐閣2013年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回：憲法概論 第2回：基本権総論 第3回：包括的権利 第4回：精神的自由権(1) 第5回：精神的自由権(2) 第6回：精神的自由権(3) 第7回：経済的自由権 第8回：受益権 第9回：社会権(1) 第10回：社会権(2) 第11回：国会(1) 第12回：国会(2) 第13回：内閣 第14回：裁判所 第15回：財政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</li> <li>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</li> <li>・幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について</li> <li>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</li> <li>・表現の自由、知る権利、検閲の禁止、通信の秘密、報道の自由について</li> <li>・明白かつ現在の危険の基準、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</li> <li>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</li> <li>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</li> <li>・生存権、環境権、教育を受ける権利について</li> <li>・勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について</li> <li>・国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について</li> <li>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</li> <li>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</li> <li>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</li> <li>・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、予算について</li> </ul>		
成績評価の方法	筆記試験(90%)、授業での発言の記録(10%)により評価する。		

授業科目	数学の世界	担当者	拜田 稔
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 数学の世界を垣間見て、数学の考え方に触れる。</p> <p>【概要】 数学の世界の様々な手法や考え方を、難しい数式をなるべく用いないで紹介したい。 また、いろいろな分野で応用の利くような内容のものは、手法を修得してもらえるように努めたい。</p> <p>【到達目標】 数学の基礎が理解でき、数学的なものの見方や考え方ができるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 藤原正彦『天才の栄光と挫折 — 数学者列伝』文春文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 数学概論：代数学、幾何学、解析学、応用数学、数学史</p> <p>第2回 数の世界1：有理数と無理数、可算と非可算</p> <p>第3回 数の世界2：実数と虚数、複素数平面</p> <p>第4回 数列1：いろいろな数列</p> <p>第5回 数列2：数列の和</p> <p>第6回 極限の世界：無限大と無限小</p> <p>第7回 微分の考え方</p> <p>第8回 積分の考え方</p> <p>第9回 行列1：行列の定義と性質</p> <p>第10回 行列2：行列の計算</p> <p>第11回 行列3：連立方程式への応用</p> <p>第12回 微分方程式1：入門編</p> <p>第13回 微分方程式2：応用編</p> <p>第14回 数学と自然科学：数学の発展と自然現象の解析</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(75%) + レポートや小テストなど(25%)		

授業科目	環境問題	担当者	相場 慎一郎・井余田 秀美・野村 俊郎・則久 雅司
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を様々な角度から考える 【概要】環境問題を、森林(相場)、化学(井余田)、自動車産業(野村)、環境保護行政(則久)の四つの視点から考える 【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 総論：環境問題の複眼的考察 第2回 森林(1)：森林の役割 第3回 森林(2)：森林と環境 第4回 化学(1)：生活環境と公害 第5回 化学(2)：地球環境汚染 第6回 化学(3)：環境に配慮した生活 第7回 自動車(1)：ハイブリッド 第8回 自動車(2)：EV 第9回 自動車(3)：LCVとULCV 第10回 自動車(4)：発電と蓄電 第11回 環境保護行政(1)：総論 第12回 環境保護行政(2)：屋久島 第13回 環境保護行政(3)：奄美 第14回 環境保護行政(4)：まとめ 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	福重 一成
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】伝わる日本語とは何かを学ぶ 【概要】自分の頭で考え、そして考えたことを実際に話したり書いたりすることで、下記①②の目標への到達を目指します。この授業では特に「話す・書く」という部分に重点を置き、スピーチや論理的な文章の執筆などを行います。 【到達目標】「相手に伝えたいことをうまく伝えられず友人との人間関係に溝ができてしまった」あるいは「アルバイトの面接などにおいて自己アピールをうまくできず後悔した」というようなことは誰しも経験があるのではないのでしょうか。 演習形式の本授業は、主に以下の2つの能力の習得・研鑽を目指します。 ◇ 円滑な対人コミュニケーションを行える能力 ◇ これまでにインプットしてきた内容を適切にアウトプットできる能力 これらの能力を身につけることで、必要な情報を正確に受け取れるようになったり、情報を的確に伝達・表現できるようになったり、あるいは聞き手への十分な気配りが行えるようになり、その結果冒頭に挙げたようなトラブルが生じにくくはなりません。		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方の説明 第2回 偏愛マップでコミュニケーション 第3回 わかりやすい文章を書く・1-あいまい文 第4回 わかりやすい文章を書く・2-接続詞の上手な使い方 第5回 わかりやすい文章を書く・3-Eメールの文章 第6回 自己紹介をする・1-自分を紹介すること 第7回 自己紹介をする・2-みんなの前で話してみよう 第8回 敬語のしくみ・1-3種類の敬語 第9回 敬語のしくみ・2-間違いない敬語 第10回 敬語のしくみ・3-敬語を使いこなすために 第11回 想いを伝える・1-想いを伝えるということ 第12回 想いを伝える・2-手紙の執筆 第13回 想いを伝える・3-スピーチの準備 第14回 想いを伝える・4-自分を人に知ってもらうためのスピーチ 第15回 まとめ 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。		
成績評価の方法	評価基準は次のとおりです。平素の作業の成果(50%)、学期末に行うまとめテスト(50%) なお、総授業回数の1/3に該当する回数分を欠席した場合、単位は認定しないので留意のこと。 授業計画および授業内容の詳細については初回授業時に具体的に説明します。		

(注) 受講者数は20名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」、「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p><b>【概要】</b> この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。3日間の夏期集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p><b>【学習目標】</b> ①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成25年度実施概要 (平成26年度については未定。若干の変更の予定があります。)  日程 : 平成25年8月19日 (月) ~ 21日 (水) 場所 : 鹿児島大学 定員 : 県内12大学等の学生 150人程度		
成績評価の方法	未定		

(注) 「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p><b>【概要】</b> 地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。 この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p><b>【学習目標】</b> ①指定地域内の調査地区の現地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。 ②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 ③現地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成25年度実施概要 (平成26年度は未定。若干の変更の予定があります。)  日程 : ①平成25年8月26日 (月) ~ 28日 (水) 場所 : ①鹿児島市、指宿市、いちき串木野市 ②霧島市竹子地区 定員 : 県内12大学等の学生 150人程度		
成績評価の方法	未定		

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 2年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p><b>【概要】</b> 近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味がなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p><b>【到達目標】</b> 本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
授業スケジュール	<p>(講師車) 平成25年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期(7月25日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師: 有村恵美(生活科学科助教), 内田昌廣(商経学科教授), 西村道子(株式会社 昴) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ)</li> <li>・第2期(9月24,25日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師: 前田幸一(株 浜島印刷), 神前明浩(神前司法書士事務所) 田原武志(株 アシップ), 丸田真悟(NPO 法人かごしまアートネットワーク) 小林陸夫(大学生協九州事業連合)</li> <li>・第3期(12月24日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師: 井川直子(株 健康家族), 北川隆巳(京セラ株), 綾部敏郎(株 フォーバル), 秋葉重登(鹿児島相互信用金庫), 本学卒業生5人(中学校教員, 栄養士など)</li> <li>・第4期(2月7日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師: 疋田京子(商経学科准教授), 学生部学生課職員</li> </ul> <p>※26年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	レポート提出2回 + 感想用紙(第1～3期) (100%)		

(注) 26年度は3年生も希望者のみ履修可

14 第二部商経学科教養科目  
(外国語科目)

授業科目	英語 I (A)	担当者	土持 かおり
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ナチュラルスピードの英語での会話の聞き取りに慣れ親しむとともに、海外旅行で役立つ会話文やフレーズを身につける。</p> <p>【概要】授業の前半は、毎回、洋楽で楽しみながら英語の音になじむことからスタートし、英語の音声変化を学ぶとともに、リピーティング（音声聞きながらの音読）などの口頭練習で、英語の音やリズムになれ、「自然な英語を聞き取るコツ」「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。</p> <p>授業後半では、海外旅行英会話学習用のビデオ教材で、主人公ハルコと楽しく海外旅行を擬似体験しながら、ナチュラルスピードの会話の聞き取りに慣れ親しむとともに、一人で海外旅行をする際に役立つ、基本的な会話表現やフレーズを学習していきます。さらに、海外旅行で遭遇する英語での書類、案内、パンフレットなどから素早く必要な情報を読み取る練習をしていきます。</p> <p>なお、この授業では各自パソコンを使って自分のペースで取り組めるので、リスニングが苦手な人でも心配ありません。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の意図を理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音・易しい表現で、自分の意図を伝えられるようになる。</p>		
(1) テキスト	佐藤公雄編著 『First Time Abroad ー初めての海外旅行ー』 出版社：成美堂		
授業スケジュール	<p>&lt;毎回、LL 教室を使用します&gt;</p> <p>第 1 回 オリエンテーション：授業内容と進め方の説明 / リスニングとスピーキングのコツ</p> <p>第 2 回 On a Flight: Taking a Seat： 機内での過ごし方① ー機内で座席に着くー</p> <p>第 3 回 On a Flight: Mean Service： 機内での過ごし方② ー機内での食事ー</p> <p>第 4 回 Immigration： 入国の手続き① ー入国審査を受けるー</p> <p>第 5 回 Customs： 入国の手続き② ー税関での申告ー</p> <p>第 6 回 Checking in at a Hotel： ホテルの利用法① ーホテルにチェックインするー</p> <p>第 7 回 Seeing the Room： ホテルの利用法② ー部屋に案内してもらおうー</p> <p>第 8 回 Guest Services： ホテルの利用法③ ー客室でのサービスー</p> <p>第 9 回 Checking Out： ホテルの利用法④ ーホテルをチェックアウトするー</p> <p>第 10 回 Finding a Hotel： 広告から情報を読み取る</p> <p>第 11 回 Tourist Information： 旅行案内所を利用する</p> <p>第 12 回 Taking a City Bus： 市内バスに乗る</p> <p>第 13 回 Taking a Taxi： タクシーに乗る</p> <p>第 14 回 Review： 復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への出席と取り組み状況 (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

授業科目	英語 I (B)	担当者	霧島 S. 怜
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 An Understanding of Spoken Sentences and A Guided Mini- conversation. (相手の理解と会話の試み)</p> <p>【概要】学生の皆さん、「Roma meravigliosa non era costruita durante una notte」(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、高校生に天文学の最先端技術について完璧な巢保スペイン語で講義した者はいない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、ウクライナ語も簡単さ) という志は極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1) [前半] 又、必要に応じて習熟資料を配布する		
授業スケジュール	<p>第 1 回 演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。</p> <p>第 2 回 U20 Why Learning? (英和訳、読解等 ◇)</p> <p>第 3 回 同題 (教官と共に コミュニケーション練習 ◎)</p> <p>第 4 回 U 4 Beauty Contest (◇)</p> <p>第 5 回 (◎)</p> <p>第 6 回 U 5 Who Pays? (◇)</p> <p>第 7 回 (◎)</p> <p>第 8 回 U10 Fan Worship (◇)</p> <p>第 9 回 (◎)</p> <p>第 10 回 U 8 Cyber Love (◇)</p> <p>第 11 回 (◎)</p> <p>第 12 回 Spec. IAAE 10 'A Horrible Vacation' (◇ ◎)</p> <p>第 13 回 Spec. IAAE 23 'A Morning Cup of Coffee' (◇ ◎)</p> <p>第 14 回 St. Valentine's Day (◇ ◎)</p> <p>第 15 回 受講生が選択したテーマの学習 (X) 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と到達に応じて内容の増減が有り得る。</p>		
成績評価の方法	予習 40%, 演習参加 40%, 期末 Test 20% の合計		



授業科目	異文化コミュニケーション(英語)	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2013年度の実績 日程：9月3日(火)～9月19日(木) 参加者：17名 研修費用：約30万円(授業料, 往復航空重賃, 宿泊費, 平日の朝・昼食費等)</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前ガイダンス： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題(研修中の日記, 研修後のレポート作成)の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定(約2週間)。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にハワイ文化に関する授業(フラダンス), KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ, イオラニ宮殿, 真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌・体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2012年度中国研修の実績 ・日程：9月5日(水)～9月19日(水) [15日間] ・参加者：6名(文学科日本語日本文学専攻3名, 英語英文学専攻1名, 商経学科経済専攻1名, 経営情報専攻1名) ・費用：約16万円(授業料, 往復航空券, 寮の滞在費, 南京市内・市外の見学費用) ※2013年度は未実施</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題(レポート作成)の指示などです。</p> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(50%), および中国での学習成果(50%)を基に成績を算出します。		

授業科目	中国語 I (A)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク</p> <p>②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 我是上海人 第2回 我叫王平 第3回 这里是南京路 第4回 现在几点了? 第5回 今天是星期几? 第6回 你家有几口人? 第7回 没关系 (中間テスト) 第8回 香港的夏天热吗? (映画) 第9回 四川菜很好吃 (映画) 第10回 我经常散步 第11回 牌价是多少? 第12回 汉语难不难? 第13回 我没吃蒜 第14回 我想去超市 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語 I (B)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号(ピンイン)の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 遠藤光暎監修『はじめての中国語 すくすく』朝日出版社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習</p> <p>第2回 発音(1)：単母音と声調の導入、練習</p> <p>第3回 発音(2)：複母音の導入、練習</p> <p>第4回 発音(3)：子音の導入、練習</p> <p>第5回 挨拶ことば：発音の復習、初対面の挨拶と簡単な会話の導入、練習(教科書第1課)</p> <p>第6回 自己紹介：自己紹介および所属を尋ね合う表現の導入、練習(教科書第2課)</p> <p>第7回 復習(1)：第1～2課の復習</p> <p>第8回 動詞述語文：動詞を使った表現の導入、練習(教科書第3課)</p> <p>第9回 家族構成の言い方の導入、練習(教科書第3課)</p> <p>第10回 ものの名称を尋ねる言い方：「这那」の導入、練習(教科書第4課)</p> <p>第11回 数字、年齢を尋ねあう表現の導入、練習(教科書第5課)</p> <p>第12回 復習(2)：第3～5課の復習と応用練習</p> <p>第13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる</p> <p>第14回 復習(3)：全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%、期末試験：50%		

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概 要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似で練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク</p> <p>②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧</p> <p>第2回 我打算去旅行</p> <p>第3回 没看过,听过</p> <p>第4回 我能参加</p> <p>第5回 我记一下</p> <p>第6回 我们边走边谈</p> <p>第7回 好像借给小李了(中間テスト)</p> <p>第8回 我不会打日文(映画)</p> <p>第9回 你知道号码吗?(映画)</p> <p>第10回 什么都可以</p> <p>第11回 被谁偷走了呢?</p> <p>第12回 让你久等了</p> <p>第13回 有没有单间?</p> <p>第14回 我说得不好</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語によるコミュニケーションに慣れる</p> <p>【概 要】この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 遠藤光暁監修『はじめての中国語 すくすく』朝日出版社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 授業の概要説明, 前期の復習</p> <p>第2回 年月日・曜日の言い方の導入, 練習(教科書第6課)</p> <p>第3回 場所の尋ね方/言い方: 「在」の導入, 練習(教科書第7課)</p> <p>第4回 誘いの表現「吧」の導入, 練習(教科書第7課)</p> <p>第5回 復習(1) 第6~7課の復習</p> <p>第6回 時刻の言い方の導入, 練習(教科書第8課)</p> <p>第7回 「電話をかけ方」の導入, 練習(教科書第9課)</p> <p>第8回 復習(2): 第8~9課の復習</p> <p>第9回 買い物に用いられる表現の導入, 練習(教科書第10課)</p> <p>第10回 買い物に用いられる表現の応用練習(教科書第10課)</p> <p>第11回 趣味を語る: 「喜欢」の導入, 練習(教科書第11課)</p> <p>第12回 復習(3): 第10~11課の復習</p> <p>第13回 形容詞述語文の導入, 練習(教科書第12課)</p> <p>第14回 復習(4): 全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト: 50%, 期末試験: 50%		

15 第二部商経学科教養科目  
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習 I・II	担当者	西迫 貴美代、長岡 良治
	[履修年次] 1 年 [学期] 前期 生涯スポーツ実習 I ・後期 生涯スポーツ実習 II [単位] 1 単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習 I)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する(生涯スポーツ II)。</p> <p>【概要】          野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール          屋内スポーツ：バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、ミニサッカーなど          その他に、ストレッチの方法や基本的な身体技法(からだほぐし)を取り入れる。</p> <p>【到達目標】          ①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する          ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる          ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる(ルールの理解 審判の方法 簡易ルールの設定)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	適時、資料を配付する(ゲーム分析の方法について)		
授業スケジュール	主に男女別に履修する(出席状況、天候によって男女合同の場合もある) <ol style="list-style-type: none"> <li>バドミントン ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解しできるようになる。ゲームの方法を理解する(シングルス、ダブルスゲームの方法)</li> <li>硬式テニス(ミニテニス) フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム 前衛と後衛のポジションの理解)</li> <li>バレーボール、ミニバレーボール アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる</li> <li>バスケットボール シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)</li> <li>サッカー、ミニサッカー シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)</li> </ol>		
成績評価の方法	出席状況(50%)＋基礎的な技術(50%)		

16 第二部商經学科教養科目  
(情報科目)

授業科目	情報リテラシー I (A)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術こつても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著) 『初心者のための Microsoft Word 2013』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)、保存</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 グラフィック機能の利用・ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入</p> <p>第13回 レポートの作成・・・レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第14回 サンプル文書作成・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目50%) + 授業ごとに実施する課題(30%)		

授業科目	情報リテラシー I (B)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術こつても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著) 『初心者のための Microsoft Word 2013』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)、保存</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 グラフィック機能の利用・ワードアートの挿入、画像の挿入、オンライン画像の挿入</p> <p>第13回 レポートの作成・・・レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第14回 サンプル文書作成・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目50%) + 授業ごとに実施する課題(30%)		

授業科目	情報リテラシーⅡ(A)	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 普段何気なく使っているパソコン・アプリケーションの、仕組みや基本操作を確認する。</p> <p><b>【概要】</b> Windows 8 の概念・基本操作を習得し、それをあらゆるアプリケーションに活用する。</p> <p><b>【到達目標】</b> ファイル操作、インターネット閲覧・操作（メールを含む）、アプリケーションの活用が確実にできる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 資料プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 現在のパソコン活用状況の確認 第2回 基本操作（画面の見方・用語の確認） 第3回～第4回 メール操作（学内推奨のWebメール・Thunderbirdを使用） 第5回～第6回 ファイル・フォルダ操作 第7回～第8回 インターネットを活用 第9回～第10回 デジカメ・画像を活用 第11回 その他の機能（スキャナの活用、PDFファイルについて） 第12回 その他の機能（トラブル解決法について） 第13回～第14回 前期習得操作の復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業内での操作状況（40%）＋レポート提出（60%）		

授業科目	情報リテラシーⅡ(B)	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> コンピュータを道具として使える力を持つ</p> <p><b>【概要】</b> 現代は様々な情報がネットワークを介して飛び交っている情報ユビキタス社会である。我々はその中に生活し、情報を受信し、情報を発信しなければならない。その大きな窓口がコンピュータである。この時間ではコンピュータとはどのような機械なのか、どのようにしたら情報を受信し、発信する道具として使えるのか、演習をとおして初歩の初歩から体得しようとするものである。</p> <p><b>【到達目標】</b> そこにコンピュータがあるなら、それを臆せず使う人になる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2) ビデオ教材やホームページ上の記事を参考資料とする		
授業スケジュール	第1回 コンピュータを起動しよう。OSってなんだろう。 第2回 ビデオを介して、インターネットとは何か理解しよう 第3回 ブラウザの基本的使い方 第4回 Webメールの送受信 第5回 ファイルとフォルダ 第6回 フラッシュメモリを使おう（メールソフトを使ってメールしよう） 第7回 ホームページを作ってみよう 第8回 クリックひとつで次のページへ 第9回 ペイントで描いた画像をページへ 第10回 携帯から写メール 第11回 HTMLあれこれ 第12回 ホームページに自分のギャラリー（1） 第13回 ホームページに自分のギャラリー（2） 第14回 プレゼンでまとめよう（1） 第15回 プレゼンでまとめよう（2）		
成績評価の方法	メールによる日々の考察（50%）＋公開したホームページとプレゼン作品（50%）により評価する		

## 17 第二部商経学科専門科目

授業科目	現代社会論	担当者	篠田 剛
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代社会と私たちの生活世界</p> <p>【概要】 私たちは生まれた瞬間から家庭の中で生まれ、学校教育を受け、青年期の悩みを抱えながらも就職し、職場という社会で働き、家族を持ち、老後を迎える。何の変哲もないように見えるこの一生の間にも現代社会の変化は影響を与える。例えば、正社員になりたいという願望事態がほんの20年前にはほとんど存在しなかった願望である。本講義の前半は、私たちの成長過程にそって現代社会の変容をスケッチしていく。後半（第7回以降）はこうした現代社会の変容を理解するための重要なキーワードとして、グローバリゼーション、新自由主義、福祉国家、民主主義を取り上げ、現代社会を見通し、よりよく生きるための知を身につける。</p> <p>【到達目標】 現代社会を理解するためのキーワードを抑え、特に1990年代を画期とする日本社会の変容を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 指定しない (2) 授業の中で適宜提示する		
授業スケジュール	第1回 講義概要 第2回 現代社会の変容(1) 教育と学校 第3回 現代社会の変容(2) 青年期と自立 第4回 現代社会の変容(3) 職場と労働 第5回 現代社会の変容(4) 家族、育児、女性 第6回 現代社会の変容(5) 社会保障 第7回 グローバリゼーション(1) 多国籍企業と国民国家 第8回 グローバリゼーション(2) バブルと金融危機 第9回 新自由主義(1) 台頭と普及の過程 第10回 新自由主義(2) 受容の論理 第11回 福祉国家(1) 歴史的形成過程 第12回 福祉国家(2) 動揺と再編 第13回 民主主義(1) 歴史と理論 第14回 民主主義(2) より良い社会に生きるために 第15回 全体まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(70%)、コミュニケーションペーパー(30%)		

授業科目	経済学	担当者	篠田 剛
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>経済学は私たちの生きる現代社会の仕組みを説明する。なぜ多様な消費者と生産者がいるにもかかわらず商品交換は滞りなく行われるのか、不景気の下ではなぜ財政支出を拡大し金融緩和を行うのか、なぜ失業や経済格差はなくなるのか、そして、なぜ経済危機は繰り返されるのか。経済活動がすべての人びとにとって生活の重要な一部である以上、経済学は私たちにとって欠かすことのできない教養といえる。本講義では、経済学の基礎的なエッセンスを広くまなび、自らの頭で今日の経済現象を読み解き、判断していくための力を身につけることを目的としている。</p> <p>【概要】</p> <p>経済学と一口にいってもその対象や目的のちがいがからその体系も異なっている。本講義では、そうしたことから生じる学習者の混乱に配慮するために導入部分(第1～2回)を設け、初学者がミクロ経済学(第3～6回)、マクロ経済学(第7～10回)、社会経済学(第11～14回)の基礎をバランスよく学べるよう構成している。また、抽象的な基礎理論を扱いながらもイメージと学習意欲を持ちやすいように現代の問題にひきつけながら講義をすすめていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>今日の経済問題への知識と判断力を養うこと、他の関連科目の学習を深めるための基礎を身につけることが本講義の目標である。そのため、(1)各経済理論の考え方を理解すること、(2)経済分析に欠かせない重要な概念(キーワード)を理解すること、(3)そうした概念を用いて具体的な経済現象を実際に説明できるようになることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社、大谷禎之介『図解 社会経済学』櫻井書店		
授業スケジュール	第1回 講義の概要/現代社会と経済学のかかわり 第2回 資本主義社会と経済学の歩み 第3回 ミクロ経済学(1):市場における需要と供給 第4回 ミクロ経済学(2):政府の政策の需要・供給への影響 第5回 ミクロ経済学(3):消費者・生産者と市場の効率性 第6回 ミクロ経済学(4):市場の失敗と外部性への対応 第7回 マクロ経済学(1):国民所得の測定/生計費の測定 第8回 マクロ経済学(2):経済成長 第9回 マクロ経済学(3):貯蓄と投資 第10回 マクロ経済学(4):総需要・総供給/財政政策・金融政策 第11回 社会経済学(1):商品、価値、貨幣、資本 第12回 社会経済学(2):剰余価値の生産 第13回 社会経済学(3):資本蓄積と相対的過剰人口 第14回 社会経済学(4):恐慌のメカニズム 第15回 まとめ—市場の経済学と社会の経済学		
成績評価の方法	筆記試験(70%)、コミュニケーションペーパー(30%)		

授業科目	社会学	担当者	竹内 宏
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学とは比較の学問であるとはよく言われることです。この授業では、「社会学」の前に「国際」という語を冠して、グローバル化の影響下にあるドイツと日本の社会について比較考察します。</p> <p>【概要】グローバル化の諸影響の中でも、この授業では国際的人口移動に与える影響を、ドイツと日本の場合について考えてみましょう。ドイツが移民国家となった原因、移民統合政策の現況と課題、日本は移民国家に向かうのか、また、向うべきなのか、さらには、社会と市民の意識の変容と言ったテーマを中心に授業を進めます。</p> <p>【到達目標】 「グローバル化」という概念の理解、国際社会に生きる私たちに必要な知識の獲得と意識の涵養。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト, 文献とも、適宜配布, 指示します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション, グローバル化とは何か 第 2回 国際人口移動の主な原因 第 3回 ドイツにおける移民激増の背景と歴史 (1) 第 4回 ドイツにおける移民激増の背景と歴史 (2) 第 5回 ドイツの移民労働者 第 6回 「統合」とは何か, 「同化」, 「編入」 第 7回 ドイツにおける難民認定とその問題点 第 8回 復習のためのビデオ視聴 第 9回 日本在住のエスニック・マイノリティ (1) 第 10回 日本在住のエスニック・マイノリティ (2) 第 11回 日本の外国人政策の問題点 (1) 第 12回 日本の外国人政策の問題点 (2) 第 13回 日本の難民認定 第 14回 日本が直面するこれからの課題 第 15回 まとめ, レポートの課題説明		
成績評価の方法	授業中に行う3～4回的小レポート提出および期末レポート		

授業科目	文化と社会	担当者	田口 康明
		[履修年次] 1年・2年・3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化と社会の関連について、教育的な側面から検討する。手がかりとして、ひとりの子どもがどのように社会的文化的にその社会の成員になっていくのかについて検討する。</p> <p>【概要】本科目は、専門基礎科目に位置づけられているが、一定の文化を保持する社会と人間の関わりを子どもの成長という側面からとらえるものである。今日、「幼児」の世界は、「大人」の側からの強大な圧力にさらされ、「幼児」を「幼児」たらしめている「幼児期」が軽視されている。こうした今日の「幼児」と「幼児期」をどのようにとらえるのかについて、テキストをとおして検討する。</p> <p>【到達目標】テキストを熟読することによって、幼児期の特徴について深く理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)岡本夏木『幼児期』岩波新書, 2005年 (2)授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス この授業のすすめ方 第2回 「しつけ」1 しつけとは/自己実現 第3回 「しつけ」2 「問題解決」としつけ/大人の非合理性 第4回 「あそび」1 発達と身体/象徴あそび 第5回 「あそび」2 ルール/思考と文化 第6回 「表現」1 生活と表現 第7回 「表現」2 独自性と共同性 第8回 「ことば」1 ことばの世界と身体 第9回 「ことば」2 ことばのない世界 第10回 「ことば」3 身体と心的世界の結合 第11回 「ことば」4 ことばの世界の前 第12回 「ことば」5 ことばの成り立ちと私の世界 第13回 「ことば」6 関係性とことば 第14回 「幼児期」1 存在と時間 第15回 「幼児期」2 自分にとっての幼児期 まとめ		
成績評価の方法	授業中の発表 (各自担する) 70%, ファイナルレポート30%		

授業科目	経済情報論	担当者	内田 昌廣
	(履修年次) 1, 2, 3年いずれでも履修可 (単位) 2単位	(必修/選択) 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本経済が直面しているさまざまな課題について、現状を知り、何がどう問題なのかそうでないのか考えていきます。</p> <p>【概要】 日本経済を取り巻く経済の動きを採り上げ、受講者とともにさまざまな視点から掘り下げて考えていきます。</p> <p>【到達目標】 経済ニュースに関心を持ち、異なる視点・考え方を学び、経済の動きを多面的に捉える眼を持てるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 高橋伸彰『少子高齢化の死角—本当の危機とは何か』ミネルヴァ書房、東京大学高齢社会総合研究機構『2030年 超高齢未来—「ジェロントロジー」が、日本を世界の中心にする』東洋経済新報社、スーザン・ジョージ・ママーティン・ウルフ『徹底討論 グローバリゼーション 賛成/反対』作品社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス： 講義の目的・進め方について説明</p> <p>第2回 少子高齢化社会： 少子高齢化は悪いことなのか、少子高齢化で日本人は貧しくなるのか</p> <p>第3回 国の債務残高(1)： 国の借金が増えることは問題なのか、何が問題なのか</p> <p>第4回 国の債務残高(2)： 国民の貯蓄で国債を買い続けられるか</p> <p>第5回 デフレ経済： なぜ日本はデフレ経済になったのか、アメリカはなぜデフレにならないのか</p> <p>第6回 変動相場制と固定相場制： それぞれのメリット・デメリットは何か</p> <p>第7回 企業のグローバル化： 企業の海外進出は止まらないのか、企業が海外進出することは問題なのか</p> <p>第8回 貿易収支(1)： 日本は貿易赤字国になっていくのか、貿易赤字は悪いことなのか</p> <p>第9回 貿易収支(2)： 輸出を増やすには何かが必要か、輸出大国ドイツに学ぶこと</p> <p>第10回 自由貿易協定： 日本経済にとって有益なのか、有害なのか</p> <p>第11回 食料輸入： 食料自給率をもっと引き上げるべきなのか</p> <p>第12回 再生可能エネルギー： 電力供給の仕組みはどこが問題なのか、再生可能エネルギー普及への課題は何か</p> <p>第13回 新興国経済： 新興国の経済発展は、日本にとって脅威なのか有益なのか</p> <p>第14回 グローバリゼーション： グローバリゼーションの良い面、悪い面、課題を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	小レポート [10回] (50%) + 期末レポート (50%)		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	(履修年次) 1, 2, 3年いずれでも履修可 (単位) 2単位	(必修/選択) 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的典範が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約、行政上の義務履行確保制度、行政手続等をわかりやすく解説し、行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原理、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 『ポケット六法』（平成26年度版）有斐閣2013年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 法律による行政の原理</p> <p>第2回 行政立法</p> <p>第3回 行政行為(1)</p> <p>第4回 行政行為(2)</p> <p>第5回 行政指導</p> <p>第6回 行政上の義務履行確保制度</p> <p>第7回 行政手続法</p> <p>第8回 行政不服申立て</p> <p>第9回 行政事件訴訟法(1)</p> <p>第10回 行政事件訴訟法(2)</p> <p>第11回 行政事件訴訟法(3)</p> <p>第12回 国家賠償法(1)</p> <p>第13回 国家賠償法(2)</p> <p>第14回 損失補償</p> <p>第15回 公物</p>		
成績評価の方法	筆記試験(90%)、授業での発言の記録(10%)により評価する。		

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 格差や貧困が生まれる理由と、問題解決の方法を考える。</p> <p>【概要】 経済学の基礎を学びながら、賃金、労働時間、その他の労働条件、社会福祉や社会保障の本質・役割について勉強します。受講生のみなさんには、経済学の入門講座としても役立ちます。企業論、経営組織論、労務管理論を履修したい人は、予めこの授業を履修しておくこと、理解しやすくなります。</p> <p>【到達目標】 資本主義が作り出す貧困や格差の特徴をその原因からとらえ、今日の社会を生きるためには、何を考える必要があるのかという、視点を獲得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に定めない (2) 授業時間内で指示する		
授業スケジュール	第1回 講義の目的と進め方について 第2回 働くことってどういうこと？ 第3回 資本主義って何だろう？ 私たちの社会の秘密 (1) 第4回 資本主義って何だろう？ 私たちの社会の秘密 (2) 第5回 賃金 (1) 賃金形態の目くらし作用 第6回 賃金 (2) 時間賃金・出来高賃金 第7回 働き過ぎの日本人 どうしたら労働時間は短くなるか 第8回 労働基準の法律がどうして生まれたか 第9回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性 第10回 社会政策と資本主義国家 社会政策本質論争の貧困 第11回 帝国主義と協調的労使関係の形成 第12回 福祉国家と社会政策 第13回 ケインズ革命の終焉-社会政策から総合社会政策へ 第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性 第15回 今日の社会政策をめぐる諸問題		
成績評価の方法	学期末試験 (100%)		

授業科目	社会思想	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	民法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 民法の基本原則と基本ツール</p> <p>【概要】 民法は、市民社会における人対人の間に生ずる権利義務関係を規律する法で、共同生活上のルールであると同時に紛争解決の基準となるものです。本講義では、日本の民法典の歴史も概観しながら、特に総則・物権・債権を中心に、財産に関する法を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約の交渉、締結、履行、履行されなかった場合の救済手段についての流れを理解する。</li> <li>2. 未成年者など判断能力が不十分な者の契約締結に関する法規制の目的を理解する。</li> <li>3. 日常生活の「善意」と法律上の「善意」の違いを理解する</li> <li>4. トラブルが生じたとき、それが、法的にどのような問題なのかを大まかに説明できる</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	後日指定する 講義時に紹介する		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：「私法の一般法としての民法」とはどういう意味か</p> <p>第2回 民法の歴史を学ぶ：民法の制定と改正史</p> <p>第3回 人と財産：プレイヤーと道具に関するルール</p> <p>第4回 契約の成立：売買契約と雇用契約はどう違うか</p> <p>第5回 契約締結で生じる問題：錯誤、詐欺</p> <p>第6回 契約を締結する人に関する問題（1）：胎児、不在者はどうなるか</p> <p>第7回 契約を締結する人に関する問題（2）：泥酔者、未成年者、成年被後見人など</p> <p>第8回 所有権の取得：ダブル・ブッキングにどう対抗するか</p> <p>第9回 契約の賞味期限：条件、期限、時効</p> <p>第10回 代理：代理人による契約の締結</p> <p>第11回 契約内容の有効性：公序良俗違反をめぐる議論の展開</p> <p>第12回 契約が履行されないとき：債務不履行と損害賠償請求</p> <p>第13回 契約の不完全な履行：危険負担と瑕疵担保責任</p> <p>第14回 不法行為：事故の場合の損害賠償</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業の時に提出してもらおうレポート (30%) + 試験 (70%)		

授業科目	商法	担当者	板倉 大治
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 取引社会の変化とともに日々生成しつつある企業法の現在を判例・トピックを参照しながら探求する。</p> <p>【概要】 現代の経営は、ある程度大きな資本を用い、従業員を雇用して、多方面に、あるいは広い地域で事業を展開しています。それに伴って生じる様々なリスクを避けるため、たとえば「会社」組織を利用して出資者の危険を分散し、会社役員や従業員の行為に対する企業の責任を制限し、消費者との契約条項に企業側の責任の軽減・免除を定めたりしています。しかし、大企業の行き過ぎたリスク回避策は、取引相手である中小・零細企業や顧客・消費者など一般公衆の利益を損ない、あるいは環境問題を引き起こしたりします。そのような対立する利益の調整をはかり企業行動の規範を定めているのが商法です。</p> <p>商法は、企業取引を安全・円滑・迅速に行うための合理的な企業組織について規律を設けていますが、それらの現状と問題点を裁判例や最新のトピックを参照しながら検討します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 民法・一般法人法のほかに、商法・会社法が設けられている理由やその役割を説明できる。</li> <li>(2) 企業取引を安全・円滑・迅速に行うための諸制度について、その特色を説明できる。</li> <li>(3) 国際化や情報化など、現代社会の要請に応える諸制度について、その概要を説明できる。</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント（講義案と資料）を配布します。</p> <p>(2) 法学系の科目をいくつか履修する人には、岩波書店『セレクト六法』などの小型六法全書の購入を薦めます。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 企業法としての商法</p> <p>第2回 商業登記と情報化社会</p> <p>第3回 商号自由主義とその制限—CI戦略と商号—</p> <p>第4回 名板貸（名義貸し）の責任</p> <p>第5回 商号権によるブランドの保護—不正競争の防止—</p> <p>第6回 営業譲渡とその効果</p> <p>第7回 営業所と商業使用人—商業代理人制度—</p> <p>第8回 商業使用人と外観責任—表見支配人など—</p> <p>第9回 企業会計と商法—会計帳簿・書類の電子化—</p> <p>第10回 企業取引と普通取引約款</p> <p>第11回 消費者取引の規制—特定商取引法・製造物責任法—</p> <p>第12回 有価証券法の基礎</p> <p>第13回 会社法の基礎</p> <p>第14回 倒産処理の法制度</p> <p>第15回 企業不法行為法—公害法から環境法へ—</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績によって評価します。受験資格として3分の2以上出席して下さい。		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布、Webでも公開 (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係 第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例 第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理 第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印象管理 第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	簿記論 I	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式（黒板とパワーポイントの併用）	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の仕組みの理解</p> <p>【概要】みなさんは、これまでに一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では、何をいつ買ったか（現金収支とその明細）くらいしか記入しなかったと思います。しかし、利益の獲得を目的としている営利企業は、現金収支に限らず、さまざまな取引を記帳しています。企業はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。この複式簿記の仕組み（原理）を理解することがこのコース（科目）の目的です。</p> <p>【到達目標】複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記3級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』（平成26年度版）、中央経済社。（予定）・・・簿記論 II と共通 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』、中央経済社。（予定）・・・簿記論 II と共通 (2) ①中村忠『簿記の考え方・学び方[2訂版]』、税務経理協会、2004年。 ②上野清貴監修『簿記のススメー人生を豊かにする知識』、創成社、2012年。 ③内藤文雄『会計学 エッセンス』、中央経済社、2013年。 ④渡邊泉『歴史から学ぶ会計』、同文館出版、2008年。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、簿記って何？：履修登録確認、配布資料（簿記・会計の歴史）、コース・バケット 第2回 簿記の意味・目的・種類：テキスト第1章、簿記の基礎概念：テキスト第2章 第3回 取引：テキスト第3章、商工会議所簿記検定試験許容勘定科目表 第4回 勘定と仕訳：テキスト第4章 第5回 帳簿の記入：テキスト第5章、決算と財務諸表（その1）：テキスト第6章 第6回 決算と財務諸表（その1）：テキスト第6章 第7回 簿記一巡の手続きに関する学習（資料配布） 第8回 復習、予習・復習状況の確認：第6回までの資料、場合によっては小テスト 第9回 現金預金取引：テキスト第7章（これ以降は、簿記論 II に回す可能性がある） 第10回 商品売買（3分法）：テキスト第8章 第11回 商品売買（3分法）：テキスト第8章 第12回 売掛金と買掛金：テキスト第9章 第13回 その他の債権と債務：テキスト第10章 第14回 復習：テキストとワークブックを用いた復習 第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%）、および筆記試験（80%）で評価します。 第1回目の講義においてコース・バケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

受講モデル
1年前期：簿記論 I
1年後期：簿記論 II、財務会計論 管理会計論、経営分析 原価計算
2年後期：コンピュータ会計

(注1) 2014年度の簿記論 I, II は、前期、後期に連続して開講されます。簿記論 I を履修する学生は、後期に簿記論 II の履修登録を行うことをお勧めします。

授業科目	経営学総論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶに当たって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第 3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第 4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第 5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第 6回 人と企業との関係について (1)：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。 第 7回 人と企業との関係について (2)：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。 第 8回 人と企業との関係について (3)：消費者の立場から、企業との関係を考える。 第 9回 人と企業との関係について (4)：企業の社会的責任について考える。 第 10回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第 11回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第 12回 企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。 第 13回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第 14回 企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験 (70%)、授業でのレポート (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる</li> <li>・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる</li> <li>・調子の悪いパソコンを直す</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布、Webでも公開 (2) 初心者向け情報関連雑誌		
授業スケジュール	第 1回 概要説明 第 2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割 第 3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割 第 4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度 第 5回 コンピュータウイルス：コンピュータウイルスの仕組みと防御法 第 6回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み 第 7回 学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説 第 8回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法 第 9回 インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方 第 10回 周辺機器：モニター、光学ドライブ、プリンタなど周辺機器の役割、仕組み 第 11回 Web2.0とクラウド：新たなインターネットのトレンドと今後の展開 第 12回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法 第 13回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方 第 14回 学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	文書作成実習	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Wordの応用機能も習得していく。</p> <p>【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得）</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習・・・・・・・・概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第2回 あいさつ状の作成・・・・・・・・ビジネス文書の基礎知識、社外文書の作成（あいさつ状） 第3回 社内文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書のライティング技術、課題文書作成（表を利用した文書の作成） 第4回 図解の利用・・・・・・・・ネット社会の特徴について、図解を利用した文書の作成 第5回 企画書の作成・・・・・・・・デジタル情報の整理法について、計算式を含む文書の作成（企画書） 第6回 案内状の作成・・・・・・・・ネット関連の法律について、課題文書作成（案内状） 第7回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第8回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第9回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第10回 Excelデータの利用・・・Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み 第11回 文書の編集・・・・・・・・いろいろな応用機能（段組み、タブ、ヘッダー・フッターなど） 第12回 議事録の作成・・・・・・・・議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど） 第13回 報告書の作成・・・・・・・・課題文書（報告書）の作成（テキストファイルの利用、書式のコピーなど） 第14回 稟議書の作成・・・・・・・・稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など） 第15回 まとめ		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%+実技科目50%）+授業ごとに実施する課題（30%）		

授業科目	統計学	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの中に潜んでいる“お宝”を見つけ出すことが重要視されている。この講義では、宝探しのためのツールとして、基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 木下栄蔵、『入門統計解析』、講談社サイエンティフィク		
授業スケジュール	第1回 序論：統計学とは 第2回 個数の処理1：順列 第3回 個数の処理2：組合せ 第4回 データの基本処理1：平均値、度数分布 第5回 データの基本処理2：分散、標準偏差 第6回 データの基本処理3：正規分布 第7回 統計解析1：順位相関 第8回 統計解析2：相関係数 第9回 統計解析3：回帰直線 第10回 統計解析4：重回帰分析 第11回 統計解析5：カイ2乗検定 第12回 統計解析6：平均値の推定 第13回 統計解析7：平均値の検定 第14回 統計解析8：分散分析 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）+レポート（30%）		

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2年, 3年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する</li> <li>2) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する</li> <li>3) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる</li> <li>・わかりやすいドキュメントを作成する</li> <li>・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</li> </ul> <p>☆注意事項：ワープロや表計算ソフトの基礎的な使用法を習得した学生を対象とする。パソコン初心者の履修は不可。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布, Web でも公開 (2)		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成 第3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ 第6回 提案書作成1：インターネットによる費用検索 第7回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書 第8回 提案書作成3：プレゼン資料の作成 第9回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ 第10回 ホームページ作成1：USBメモリへのソフトの導入。HTML概念の復習。 第11回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成 第12回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成 第13回 ホームページ作成4：ページ公開 第14回 予備 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（3つの課題を総合的に評価）		

授業科目	PCデータ活用	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式（PCを使用）		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフトMicrosoft Excel基本操作の習得</p> <p>【概要】 表計算ソフトMicrosoft Excelを使用し、作表やグラフ化といった基本操作はもちろんのこと、一歩進んだ操作知識や、効率的に作業を進めるための応用力を身につけられるような技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフトMicrosoft Excelの基本操作を確実に習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第1回 表計算の基礎：入力・編集に関する基本操作 第2回 表計算の基礎：印刷に関する基本操作 第3回 表計算の基礎：別形式のデータの取り込みと作表 第4回 データ処理の基礎：数式の利用 第5回 データ処理の基礎：グラフの作成 第6回 データ処理の基礎：グラフの作成 第7回 データ処理の基礎：グラフの作成 第8回 データ処理の基礎：関数の利用（合計・平均・IF関数） 第9回 データ処理の基礎：関数の利用（VLOOKUP・数値データを丸める関数） 第10回 データ処理の基礎：関数の利用（論理関数） 第11回 データ処理の基礎：関数の利用（その他の関数） 第12回 データ処理の応用：データの集計（並べ替え・抽出（ほか）） 第13回 データ処理の応用：データの集計（ピボットテーブル） 第14回 表計算利用に必要な操作の例題・実習問題 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業内での操作状況（40%）＋試験（60%）		

授業科目	PCデータ活用実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 取得操作の実践活用</p> <p><b>【概要】</b> 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。</p> <p><b>【到達目標】</b> PC検定（データ活用）の3級・もしくは2級の取得</p> <p>後期から履修する場合は、前期授業内容程度の知識を習得していることが前提とする</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 資料プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回～第14回 演習</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (20%) + 授業内小テスト (20%) + 試験 (60%)		

授業科目	PCアプリケーション実習(A)	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> アプリケーションソフトの活用</p> <p><b>【概要】</b> 主に3つのアプリケーションソフトを体験し、パソコン活用の幅を広げる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 習得した各ソフトを利用してそれぞれ課題に基づいた作品（データ）を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料プリント</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPointの操作説明</p> <p>第3回～第4回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成</p> <p>第5回 プレゼンテーション 発表</p> <p>第6回～第7回 ホームページ作成：KompoZerの操作説明</p> <p>第8回～第11回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成</p> <p>第12回～第14回 データベース作成：Microsoft Office Accessの操作説明およびデータベースの作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (10%) + 各テーマごとの課題提出 (90%)		

授業科目	PCアプリケーション実習(B)	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを道具として使う力を持つ</p> <p>【概要】 パソコンは非常に有効な機械であり、OSの発達により格段に使いやすくなった。これを仕事に活用するときアプリケーションソフトの存在が見えてくる。昨今、特にHTML5の登場を契機にWebブラウザをアプリケーションの基盤として使おうとする傾向が見えてきている。そこでJavaScriptを用いてブラウザを制御する実習を通してアプリケーションについて考えてみることにする。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションソフトがどのような役割を担っているか理解し、積極的に活用しようとする人になる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) (2) ホームページに紹介されているJavaScriptの記事を参考資料とする</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ホームページにアニメーションを取り入れよう (オリエンテーション)</p> <p>第2回 JavaScriptの紹介 (1) HTMLにJavaScriptを組み入れる</p> <p>第3回 JavaScriptの紹介 (2) 繰り返しの処理などどのように行われるのか</p> <p>第4回 JavaScriptの紹介 (3) ソースにコメントをつけよう</p> <p>第5回 JavaScriptの紹介 (4) 画像の位置を制御</p> <p>第6回 JavaScriptの紹介 (5) 画像を動かしてみよう</p> <p>第7回 JavaScriptの紹介 (6) 簡単なゲームにしてみよう</p> <p>第8回 JavaScriptの紹介 (7) 簡単なゲームにしてみよう (その2)</p> <p>第9回 自分でやってみよう (1) 構想</p> <p>第10回 自分でやってみよう (2) 作画</p> <p>第11回 自分でやってみよう (3) アニメーション化</p> <p>第12回 自分でやってみよう (4) アニメーション化</p> <p>第13回 自分でやってみよう (5) アニメーション化</p> <p>第14回 自分でやってみよう (6) ホームページで公開</p> <p>第15回 まとめ アプリケーションソフトって何だろう</p>		
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開した作品 (50%) により評価する		

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と、構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】現在、アベノミクスと呼ばれる経済政策の下で、日本経済はどういった方向に進むべきか、様々な議論がなされています。しかし、そうした議論は一定の方向に収束する様相を見せず、真っ向からの激しい対立が続いています。こうした状況では、自分自身で主体的に考え、判断できることが非常に重要となります。この講義では、日本経済の特質と問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>なし</p> <p>田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 日本の産業政策と行政指導：勸告操短、企業の反発等</p> <p>第7回 開放体制への移行：IMF8条国への移行、産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結びつき、現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策：産活法、現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財政・財政学</p> <p>【概要】 財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に, グローバル化の影響等についても講義します(下記, 授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】 財政には, 政府の活動が正直に反映され, その政府の活動は, 社会のあり方や人々の生活, 経済状況に非常に重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活, 経済状況は, 国民一人一人の財政に対する判断によって大きく変わることになるでしょう。そこで, 本講義では, 受講者が現財政に関して自分自身で主体的に考え, 判断できるようになることを目指し, 財政に関する基本的な概念や理論, そして日本の財政の制度, 実態, 抱えている課題について理解を深めることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第 2回 財政とは何か: 財政の定義, 政府に対する評価の揺れ, 市場の失敗, 政府の機能等 第 3回 予算(1): 定義, 役割, 予算原則等 第 4回 予算(2): 日本の制度, その抱えている課題, 改革の方向等 第 5回 経費(1): 定義, 経費を分析する意味, 経費の分類等 第 6回 経費(2): 経費膨張の法則・転位効果, 小さな政府論とサブライサイド・エコノミクス等 第 7回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等 第 8回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等 第 9回 公債(1): 定義, 民間債務との対比, 租税との対比, 公債の種類等 第 10回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11回 財政投融资(1): 定義, 運用対象, 批判等 第 12回 財政投融资(2): 2001年度の改革, 今後の展望等 第 13回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等 第 14回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 本当の財政危機とは, 財政改革で求められる視点等 第 15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 小テスト(20%)。小テストの内容等, 詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	金融論	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>金融に関する基礎知識を習得するとともに, 金融が経済に及ぼす影響など幅広い視野を養います。</p> <p>【概要】</p> <p>金融の役割や金融機関が果たしている機能から, 金融業界が直面している課題や金融危機の原因まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済との関わりを幅広く学習することによって, 社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身に付けます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>金融の基本的な知識を習得し, 金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 杉山敏啓編『実務入門 改訂版 金融の基本教科書』日本能率協会マネジメントセンター, 岩崎博充『手にとるように銀行がわかる本』かんき出版, 株式フォーラム21『手にとるように株・証券がわかる本』かんき出版, 森宮康『保険の基本 新版』日経文庫		
授業スケジュール	第 1回 概要説明: 講義の目的・進め方 / 序論: 金融とは何か - お金が果たす役割, 金融という機能とは? 第 2回 銀行の役割(1): 決済の仕組み(内国為替, 手形, 外国為替) 第 3回 銀行の役割(2): 預金と貸出の関係, 預金金利・貸出金利の決定方法, 銀行の信用創造機能 第 4回 銀行の役割(3): 貸出形態, 貸出審査, 信用補完(担保・保証) 第 5回 銀行の役割(4): 新しい貸出手法(動産担保融資, 知的財産担保融資, リバースモーゲージ) 第 6回 銀行の役割(5): 地域金融機関の取り組み(リレーションシップ・バンキング) 第 7回 銀行の役割(6): 金融機関に対する規制, 預金者保護のための制度 第 8回 証券会社の役割(1): 株式の仕組み, 株式市場の仕組み, 株式上場の意義 第 9回 証券会社の役割(2): 証券会社の役割, 投資家保護のための制度 第 10回 保険会社の役割(1): 保険の仕組み, 生命保険と損害保険, 生命保険と損害保険の相互参入 第 11回 保険会社の役割(2): 保険会社の経営, 機関投資家としての役割, 保険会社に対する規制, 契約者保護のための制度 第 12回 その他の金融機関: 信託銀行, 投資信託委託会社, 消費者金融会社, クレジットカードの仕組み 第 13回 日本銀行と金融政策: 日本銀行の金融政策(金融引き締め・金融緩和, 量的緩和政策) 第 14回 金融危機から学ぶこと: 金融危機を防ぐには 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	経済学史	担当者	篠田 剛
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資本主義の歴史と経済学発展</p> <p>【概要】私たちの生活と経済は切っても切り離せない。それゆえ、現代に生きる私たちは、経済分析や経済政策の基礎理論を提供する経済学とも無関係でいることはできない。そもそも経済学は資本主義とともに誕生した。そして、経済学者たちは資本主義の抱える矛盾や謎と格闘してきた。その意味で経済学は観念の産物でも既に完成された学問でもなく、論争を繰り返しながら常にその時々の現実的課題に突き動かされて発展する生きた学問である。各時代を代表する理論を取り上げながらこれからの経済学の課題を考える。</p> <p>【到達目標】各時代の経済学の意義と限界を歴史的課題と関連づけながら理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 指定しない</p> <p>(2) 中村達也・八木紀一郎・新村聡・井上義朗 (2001) 『経済学の歴史——市場経済を読み解く』有斐閣アルマ, 大田一廣, 鈴木信雄, 高哲男, 八木紀一郎編 (2006) 『新版 経済思想史——社会認識の諸類型』名古屋大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要/経済学史を学ぶ意味</p> <p>第2回 資本主義の勃興期——古典派経済学の系譜</p> <p>第3回 古典派経済学 (1) 重商主義, 重農主義からアダム・スミスへ</p> <p>第4回 古典派経済学 (2) アダム・スミスと『国富論』</p> <p>第5回 古典派経済学 (3) 古典派経済学の遺産——マルサス, リカード, J.S. ミル</p> <p>第6回 資本主義の成熟と矛盾——近代の経済学の系譜</p> <p>第7回 近代の経済学 (1) マルクス——史的唯物論と剰余価値論</p> <p>第8回 近代の経済学 (2) 限界革命——オーストリア学派とローザンヌ学派</p> <p>第9回 近代の経済学 (3) マーシャルとケンブリッジ学派</p> <p>第10回 資本主義は制御できるか——20世紀の経済学の系譜</p> <p>第11回 20世紀の経済学 (1) ケインズ革命——大恐慌とケインズ</p> <p>第12回 20世紀の経済学 (2) 競争と独占の理論</p> <p>第13回 20世紀の経済学 (3) ケインズ理論への批判と継承</p> <p>第14回 21世紀の資本主義と現代経済学の諸潮流</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%), コミュニケーションペーパー (30%)		

授業科目	経済学特講	担当者	蔵元 淳
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】すべての人に関係する親族法と相続法と悪徳商法の手口について</p> <p>【概要】親族法 (親子, 兄弟姉妹, 夫婦の各関係) と相続法について, 弁護士経験にもとづき具体的に講義する。また, 経済的に苦しむ人々の救済手段たる消費者破産についてもふれる予定である。加えて, 悪徳商法にひっかからないための時間を設け, ネットワークビジネス, 内職商法, 就職商法, デート商法, キャッチセールスなどの被害の手口, 対処の仕方について講義をする。</p> <p>【到達目標】司法書士のレベルに到達できるよう講義するつもりである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 六法 (小六法, 模範六法その他何でも可) を持参願いたい。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 悪徳商法にひっかからないために。ネットワークビジネス, 内職商法, 就職商法, デート商法, キャッチセールスなどの被害の手口, 対処の仕方について</p> <p>第2回 婚姻 (結婚) とは</p> <p>第3回 内縁について</p> <p>第4回 離婚とは</p> <p>第5回 離婚原因について</p> <p>第6回 離婚に伴う親権の指定, 財産分与, 慰謝料などについて</p> <p>第7回 親子 (実子) について</p> <p>第8回 親子 (養子) について</p> <p>第9回 相続とは</p> <p>第10回 誰が相続するか</p> <p>第11回 相続の割合はどうか</p> <p>第12回 遺言書について</p> <p>第13回 遺留分とは, ということか</p> <p>第14回 個人破産とは, ということか</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) に授業での発言内容 (20%) を加味する。		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】 グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のインベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】 21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化</p> <p>第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇, 内国民待遇, 数量制限の禁止, ドーハラウンド</p> <p>第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU</p> <p>第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体かTPPか, NAFTA, メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界</p> <p>第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：广汽トヨタにおけるSPSとリーマン化の進展</p> <p>第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ</p> <p>第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道開拓：JITからJISへの進化と負担軽減</p> <p>第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業</p> <p>第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界</p> <p>第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS</p> <p>第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS</p> <p>第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS</p> <p>第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ</p> <p>第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	国際立地論	担当者	野村 俊郎
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業が渝業の地から国内の他地域へ、そして海外へ展開していくプロセスの考察</p> <p>【概要】 自動車産業を例に、創業の地から東北・北海道、九州への立地、南アフリカ、アルゼンチン、ベネズエラへの立地と展開していく過程を考察する。</p> <p>【到達目標】 資本の民族性と国際性を理解するとともに、ナショナル、リージョナル、グローバルの意味を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業で指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 国内立地と国際立地</p> <p>第2回 国内立地（1）東北・北海道への立地</p> <p>第3回 国内立地（2）東北・北海道への立地</p> <p>第4回 国内立地（3）東北・北海道への立地</p> <p>第5回 国内立地（4）九州への立地</p> <p>第6回 国内立地（5）九州への立地</p> <p>第7回 国内立地（6）九州への立地</p> <p>第8回 国際立地（1）中国への立地</p> <p>第9回 国際立地（2）南アフリカへの立地（IMV1）</p> <p>第10回 国際立地（3）アルゼンチンへの立地（IMV2）</p> <p>第11回 国際立地（4）ベネズエラへの立地（IMV3）</p> <p>第12回 国際立地（5）</p> <p>第13回 資本の民族性と国際性（1）：国家によって総括された資本と、それを超えていく資本</p> <p>第14回 資本の民族性と国際性（2）：ナショナル、リージョナル、グローバル</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】成長するアジアとアジア共同体への展望</p> <p>【概要】ヨーロッパ27カ国はヒト、モノ、カネの出入りが自由な共同体、EUを結成している。この27カ国は、地面の上には国境がなく、文字通り自由に出入りできる。アジアにも、こうした自由な共同体はできるのか？TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで、世界経済の成長を牽引する中国、インド、東南アジアの現状を概説する。以上の検討を踏まえて、アジア経済の未来を展望する。</p> <p>【到達目標】アジア共同体への道を、各国の発展の現状から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 アジアとヨーロッパ：統合に向かう成長と統合による成長 第2回 アジア経済への道（1）：経済統合の5段階 第3回 同上（2）：TPPによる完全自由化への道 第4回 同上（3）：東アジア共同体による保護を残した自由化への道 第5回 中国経済（1）：経済規模で日本を追い抜いた中国経済 第6回 同上（2）：社会主義を目指す資本主義 第7回 同上（3）：アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国へ改革開放30年の成果～ 第8回 インド経済（1）：インドの概況 第9回 同上（2）：植民地から独立、管理経済を経て91年から自由化 第10回 同上（3）：民族資本として成長するTATA 第11回 東南アジアの経済（1）：タイとインドネシア 第12回 同上（2）：マレーシア、フィリピン、ベトナム 第13回 アジアの未来（1）：中国、インド、日本の役割 第14回 同上（2）：アジア共同体への展望 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	外国貿易論	担当者	大重 康雄
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその課題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説するとともに、変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（JETRO）等のデータを使い考える。WTO・自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)などで変化する国際経済の実態を紹介し課題の抽出・討論を行う。</p> <p>【到達目標】貿易取引の基本的仕組みを理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) グローバル・エコノミー 有斐閣アルマ		
授業スケジュール	第1回 開講 貿易と私たちの暮らし 第2回 自由貿易のもたらす利益 第3回 新古典派貿易理論を学ぶ 第4回 グローバル生産システムと貿易の現状 第5回 国際収支からみた貿易の姿 第6回 外国為替市場と為替レート 第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史 第8回 貿易決済の方法 第9回 国際貿易の論点 中間まとめ 第10回 世界の地域貿易協定の現状 第11回 東アジアの発展と日本の貿易 第12回 鹿児島県の貿易取引の現状 第13回 海外直接投資と労働の国際移動 第14回 開発と環境を考える 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋ 授業での発言内容（20%）		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的要因をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 原林久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：対テロ</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：武器規制</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。		

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近「東アジア共同体」ということがしきりに叫ばれている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア</p> <p>第4回 歴史的形成2：植民地のようす</p> <p>第5回 歴史的形成3：植民地からの独立</p> <p>第6回 歴史的形成4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア</p> <p>第8回 東南アジア1：インドシナ三国</p> <p>第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第10回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第11回 東南アジア4：メコン河流域開発</p> <p>第12回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成</p> <p>第13回 アジアにおける協力体制1：ASEANを中心とする協力1</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制2：ASEANを中心とする協力2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート（100％）によって評価する。		

授業科目	地域経済論	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済と第一次産業—地域再生の視角—</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて、それに対する政策的処方箋を導出するなど、地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論 (1) 第 2回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論 (2) 第 3回 内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展 第 4回 地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題 第 5回 農山漁村地域の活性化 実態編 (1)：農山村地域での地域づくりとその手法 第 6回 農山漁村地域の活性化 実態編 (2)：漁村地域での地域づくりとその手法 第 7回 資源管理論：コモンズの悲劇と広域的資源管理組織 第 8回 里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト 第 9回 第一次産業の担い手問題：後継者対策とU・Iターン者 第 10回 地域リーダー論：地域リーダーの特徴、育成、そして役割 第 11回 経営組織論：地域づくりと経営組織形態 第 12回 農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック 第 13回 農山漁村地域の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み 第 14回 地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ 第 15回 まとめ「農山漁村地域再生への道標」		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業中に実施するレポート(40%)＋期末試験 (60%)		

授業科目	地域産業政策	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済の再建と地域社会の再生</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 地域のニーズを知る力、地域の課題や問題点を的確に捉えて、その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第 2回 日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第 3回 日本における地域開発の功罪 実態編 (1)：全国総合開発計画と高度経済成長 第 4回 日本における地域開発の功罪 実態編 (2)：格差の拡大と公害問題 第 5回 経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第 6回 内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第 7回 地域再生のための手法：六次産業化と水商工連携 第 8回 農村地域再生への取り組み 実態編 (1)：自然生態系との共生モデル他 第 9回 山村地域再生への取り組み 実態編 (2)：地域資源活用型ビジネスモデル他 第 10回 漁村地域再生への取り組み 実態編 (3)：地域まるごとブランド化と都市との交流 第 11回 地方都市再生への取り組み 実態編 (4)：中心市街地活性化とコンパクトシティ 第 12回 地方都市再生への取り組み 実態編 (5)：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第 13回 地方都市再生への取り組み 実態編 (6)：自然景観と芸術文化による地域づくり 第 14回 地域再生のための内発的発展モデル：人、組織、環境、産業 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業中に実施するレポート(40%)＋期末試験 (60%)		

授業科目	地域史	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経済のグローバル化の進展と農水産業の地域的動向</p> <p>【概要】 経済のグローバル化が進展する中で、世界、日本、そして鹿児島県における農水産業と農水産物流通の動向を解析し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、日本および鹿児島県の農水産業のありようを展望したい。</p> <p>【到達目標】 世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本および鹿児島県の農水産業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本および鹿児島県の農水産業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第 2回 マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスターブラウンと新マルサス主義批判 第 3回 農業の近代化と自由貿易政策および欧米と日本との農業比較：農業革命と自由貿易政策、経営規模と生産性 第 4回 食の安全と農水産業：遺伝子組み換えとBSEなど 第 5回 映像でみる戦後日本農業の歩み 第 6回 戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第 7回 日本農業の現状と課題(1)：国民経済に占める農業の地位と自給率の推移 第 8回 日本農業の現状と課題(2)：農業の近代化と担い手 第 9回 映像でみる水産業の世界 第 10回 水産業の成立・発展条件と日本の水産業の特徴 第 11回 戦後の日本水産業の歩みと水産業政策の検証(1)：「沿岸漁業等振興法」から「水産基本法」 第 12回 戦後の日本水産業の歩みと水産業政策の検証(2)：「沿岸漁業等振興法」から「水産基本法」 第 13回 鹿児島県の産業構造と第一次産業振興策 第 14回 枕崎市とカツオ産業 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業中に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方財政</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴といった視点を踏まえて、地方財政に関する基本的な概念と理論、そして日本の地方財政制度とその特質、課題に関する内容を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】 近年、行財政改革において地方分権が大きな焦点となる一方で、地方自治体に対しては、国に甘えている、財政改革が足りないといった批判が盛んになされています。しかし、こうした批判において、地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係はどうなっているのかといった重要な視点が置き去りにになっていることがしばしば見られます。本講義では、そうした重要な視点を踏まえて地方財政に関する理解を深め、地方財政や地方分権について受講者の皆さんが主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 4回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴、三位一体の改革等 第 5回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 6回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 7回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等 第 8回 地方の事務：機関委任事務廃止までの経緯、自治事務と法定受託事務等 第 9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等 第 10回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等 第 12回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等 第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	非営利組織論	担当者	平田 優, 福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 協同組合を中心とした非営利組織の活動や社会的な存立の意義について学ぶ。</p> <p>【概要】 私たちの社会は、政府や企業（営利組織）の活動のみから成り立っているわけではない。最近では非営利組織の役割が注目を集めている。非営利組織とは強制力を伴う政府とも、営利を追求する企業とも異なった組織形態と活動目的を持っている。非営利組織とは営利以外の何らかの目的を達成するために設立された民間の組織であり、その活動分野も、まちづくり、福祉、消費者保護、国際協力など多岐にわたっている。この講義ではまず非営利組織の組織的な特徴について取り上げ、共同組合を中心とするさまざまな非営利組織の活動について紹介していく。</p> <p>【到達目標】 国際的な協同組合の原則や価値についての知識を得ると同時に、非営利組織が果たす社会的な役割について理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 川口清史『非営利セクターと共同組合』日本経済評論社</p> <p>(2) 『21世紀を拓く新しい協同組合論』コープ出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と概要（福田）</p> <p>第2回 現代社会における非営利組織1：非営利組織の特徴（福田）</p> <p>第3回 現代社会における非営利組織2：歴史的経緯（福田）</p> <p>第4回 現代社会における非営利組織3：法的根拠（福田）</p> <p>第5回 国際社会で活動する組織：NGO1（福田）</p> <p>第6回 国際社会で活動する組織：NGO2（福田）</p> <p>第7回 非営利組織の世界的な展開：諸外国の事例（福田）</p> <p>第8回 日本の非営利組織：歴史と現在（平田）</p> <p>第9回 鹿児島のNPO（平田）</p> <p>第10回 協同組合1：概論（平田）</p> <p>第11回 協同組合2：歴史（平田）</p> <p>第12回 協同組合3：事業内容（平田）</p> <p>第13回 協同組合4：鹿児島の共同組合（平田）</p> <p>第14回 非営利組織の展望（平田）</p> <p>第15回 まとめ（福田）</p>		
成績評価の方法	レポート（100%）		

授業科目	労働法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」実現のための基礎知識</p> <p>【概要】 法体系の中でも労働法は憲法や民法の応用分野であり、憲法や民法・刑法・行政法といった基本的な法律の上になりたっている。そういう意味では、その全体像をつかむことは難しいかもしれない。しかし、1919年に国際労働機関（ILO）が結成されて以来、その法分野が目指したのは「ディーセント・ワーク」の実現なのだ。本講義では、就職するとき知っておくべき労働者の権利と義務、職場で問題が起こった場合の解決の手段に関する基本的なルールを講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。</li> <li>2. 権利侵害に対して、どのような救済手段、救済機関があるのかを知る。</li> </ol>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>後日指定する</p> <p>授業の時に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：労働法の成立史</p> <p>第2回 労働法の全体像：憲法・民法と労働法の関係</p> <p>第3回 労働契約の成立：労働基準法と労働契約</p> <p>第4回 労働法上の「労働者」「使用者」概念：プロ野球選手は「労働者」？</p> <p>第5回 就業規則・労働協約との関係：就業規則の不利益変更</p> <p>第6回 労働契約成立までの流れ：採用内定と試用期間の法的性格</p> <p>第7回 労働契約の内容：労働契約の基本的内容と使用者の労働条件明示義務</p> <p>第8回 労働契約の原則：雇用における男女平等と中間搾取の排除</p> <p>第9回 賃金についてのルール：賃金額の制限と賃金支払いのルール</p> <p>第10回 労働時間の基本的ルール：所定労働時間と法定労働時間</p> <p>第11回 労働時間制の多様化：変形労働時間制とフレックスタイム制</p> <p>第12回 年次有給休暇：休日・休暇・休業はどう違う？</p> <p>第13回 労働契約の変更と終了：解雇に関する法規制</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて：育児・介護休業と雇用機会均等</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業時に提出してもらおう小レポート（30%）+ 試験（70%）		

授業科目	地域研究特講	担当者	山本 晃正
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p>【概要】 キャッチセールス、資格商法、マルチ商法など、近年でも止むことはなく、常に新たな手口が登場する悪徳商法やワンクリック詐欺などの消費者被害はどのように規制されているのか、危険な製品で受けた消費者の被害はどのように賠償されるのか、サラ金への規制はどのようになっているのか、公正な競争や表示のための規制はどのようになっているのかなど、われわれ消費者を取り巻く様々な法律問題を、消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として、できるだけ具体的な事例を取り上げながら考えていく。</p> <p>【到達目標】 消費者がどのような状態にあり、どのような問題を抱えているのかを具体的かつ多面的に理解し、その上で、消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは』法律文化社		
授業スケジュール	第 1回 授業で扱う対象などの全体像の概説、消費者と契約：契約とは何か、契約の拘束力からの離脱 第 2回 消費者と契約：消費者契約法（目的、対象、取消権） 第 3回 消費者と契約：消費者契約法（不当条項の無効、適格消費者団体による差止請求権）、 第 4回 消費者と契約：電子消費者契約法、特定商取引法（対象とする取引の概要、ネガティブ・オプション、訪問販売の諸規制） 第 5回 消費者と契約：特定商取引法（訪問販売・電話勧誘販売での民事救済制度、クーリングオフの意味と制度概要） 第 6回 消費者と契約：特定商取引法（通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引・連鎖販売取引＝マルチ商法の諸規制） 第 7回 消費者と契約：無限連鎖防除法（ねずみ講の禁止）、復習のための第1回模擬演習テスト、製造物責任法（目的など） 第 8回 消費者と安全：製造物責任法（製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由） 第 9回 消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など 第 10回 消費者と信用取引：書留販売法（書留販売・ローン提携販売・信用購入あっせん） 第 11回 消費者と金融商品取引：金融商品取引法（投資家＝消費者保護規制） 第 12回 消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（競争政策の意味、カルテル禁止と灯油裁判、共同の取引拒絶など） 第 13回 消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（差別対価、不当廉売、抱合せ販売、再販売価格の拘束、独禁法の利用など） 第 14回 消費者と不当表示・景品提供：不当景品類及び不当表示防止法（景品表示法） 第 15回 まとめ：消費者基本法、消費者の諸権利、復習のための第2回模擬演習テスト		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地域主権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成26年度版）有斐閣2013年		
授業スケジュール	第1回 地方自治の意義 第2回 地方公共団体の種類 第3回 地方公共団体の区域・事務 第4回 住民の権利義務(1) 第5回 住民の権利義務(2) 第6回 条例(1) 第7回 条例(2) 第8回 議会(1) 第9回 議会(2) 第10回 執行機関(1) 第11回 執行機関(2) 第12回 議会と長との関係 第13回 地方公共団体と国の関係 第14回 予算 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(90%)、授業での発言の記録(10%)により評価する。		

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	宗田 健一				
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期				
	〔単位〕 2単位		〔必修/選択〕 選択				
	〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)						
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学習した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>						
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成26年度版), 中央経済社。(予定)・・・簿記論Ⅰと共通 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。(予定)・・・簿記論Ⅰと共通</p> <p>(2) ①中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』, 税務経理協会, 2004年。 ②上野清貴監修『簿記のススメ 一人人生を豊かにする知識』, 創成社, 2012年。 ③内藤文雄『会計学 エッセンス』, 中央経済社, 2013年。 ④渡邊泉『歴史から学ぶ会計』, 同文館出版, 2008年。</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス:履修登録確認, 配布資料, コース・パケット, 前期(簿記論Ⅰ)の復習(簿記論Ⅰの積み残しなど)</p> <p>第2回 手形:テキスト第11章</p> <p>第3回 有価証券:テキスト第12章</p> <p>第4回 固定資産:第13章</p> <p>第5回 資本金と引出金:第14章</p> <p>第6回 収益と費用:第15章</p> <p>第7回 消耗品:第15章, 税金:第16章</p> <p>第8回 復習, 予習・復習状況の確認:第7回までの資料, 場合によっては小テスト</p> <p>第9回 帳簿と伝票:第17章</p> <p>第10回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第11回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第12回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第13回 復習:テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第14回 復習:テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第15回 まとめ:試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>		<table border="1"> <tr> <th>受講モデル</th> </tr> <tr> <td>1年前期:簿記論Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>1年後期:簿記論Ⅱ, 財務会計論 管理会計論, 経営分析 原価計算</td> </tr> <tr> <td>2年後期:コンピュータ会計</td> </tr> </table>	受講モデル	1年前期:簿記論Ⅰ	1年後期:簿記論Ⅱ, 財務会計論 管理会計論, 経営分析 原価計算	2年後期:コンピュータ会計
受講モデル							
1年前期:簿記論Ⅰ							
1年後期:簿記論Ⅱ, 財務会計論 管理会計論, 経営分析 原価計算							
2年後期:コンピュータ会計							
成績評価の方法	<p>小テスト・予習・復習の状況(20%), および筆記試験(80%)で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>						

(注1) 2013年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も簿記論Ⅱを履修登録できます。

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位		〔必修/選択〕 選択
	〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し、組織内部にいる関係者のみならず、組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち、対処しているのかを講義していきます。</p> <p>【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明:講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か:管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1):企業で人を管理する際に重要となる、動機づけの問題について説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2):人を働く気にさせる動機づけの種類について考える。</p> <p>第5回 組織における人間(3):「組織における人間観」に基づく、様々な経営理論を紹介する。</p> <p>第6回 組織における人間(4):人は何に満足し、何に不満を感じるのかを考える。</p> <p>第7回 年功主義と成果主義を改めて考える:年功主義・成果主義、それぞれの長所と短所を説明する。</p> <p>第8回 企業理念と組織文化:企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。</p> <p>第9回 組織構造を知る:組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのかを考える。</p> <p>第10回 リーダーシップと人事管理:リーダーシップとは何か、人事管理との関連で考える。</p> <p>第11回 上司と部下の関係:理想的な上司と部下の関係、現実の上司と部下の関係を考える。</p> <p>第12回 リーダーの役割とは何か(1):リーダー(上司)の役割について考える。</p> <p>第13回 リーダーの役割とは何か(2):リーダー(上司)として適切な行動とは何かを知る。</p> <p>第14回 企業とキャリア:今後のキャリアと企業で働くことの意味について考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>前期筆記試験(70%), 授業でのレポート(30%) (予定)</p> <p>詳細については、1回目の講義で説明します。</p>		

授業科目	労務管理論	担当者	朝日 吉太郎
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の企業社会はなぜブラックか、日本の労使関係の特徴と、こゝにちのブラック企業の発生原因をさぐります。</p> <p>【概要】 今日の若者の雇用状況の深刻さは、格差、不安定、ワーキングプア、ブラック企業などといった言葉が示すように、かつて無いほど劣悪です。特に、若者の心身を破壊するブラック企業問題は、国会でも取り上げられ、早期の解決が求められています。このような企業が生まれてくる根本原因にまで遡った対策が必要です。本講義では、ブラック企業の出自である日本の企業社会の特徴を分析し、今日のグローバル化の中で、それがどのように変化しつつあるのかを分析し、ブラック企業問題とは日本の労使関係の問題であることをあきらかにします。</p> <p>【到達目標】 日本的経営の基本構造と基本法則を理解し、さらに、グローバル化の下での形態変化をとらえて、ブラック企業現象の本質的理解を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に指定しません。</p> <p>(2) 清野良榮編著『分析・日本資本主義』文理閣、朝日吉太郎編著『グローバル化とドイツ経済。社会システムの新展開』文理閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 労務管理論の対象と経営学の発展</p> <p>第2回 資本・賃労働関係の理解について 労働市場論を前提にした新しい労使関係論の試み</p> <p>第3回 現代資本主義と労使関係の発展 (1) 現代資本主義における「労働市場論を前提にした新しい労使関係論」</p> <p>第4回 現代資本主義と労使関係の発展 (2) 労使紛争の制度化-コンフリクト理論の科学化</p> <p>第5回 現代資本主義と労使関係の発展 (3) ミドルマネジメントの発達</p> <p>第6回 日本の経営の特徴 (1) 年功賃金</p> <p>第7回 日本の経営の特徴 (2) 企業別労働市場分断化と企業主義的労使関係の再生産構造</p> <p>第8回 日本の経営の特徴 (3) 事業所サンジカリズムの形成</p> <p>第9回 日本の経営の発展と限界と修正路線 漸次的賃金制度改革戦略</p> <p>第10回 グローバル経済と新日本的経営 (1) グローバル化と新労務管理戦略</p> <p>第11回 グローバル経済と新日本的経営 (2) 構造改革路線と格差形成・成果主義</p> <p>第12回 ドイツ労使関係とグローバル化 (1) 前後ドイツの労使関係の枠組</p> <p>第13回 ドイツ労使関係とグローバル化 (2) ドイツ軽罪のグローバル化</p> <p>第14回 金融市場危機と雇用破壊の下での労使関係</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	学期末試験 (100%)		

授業科目	経営学特講	担当者	瀬口 毅士
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】 この授業では、多国籍企業が市場戦略のなかでどのように文化を戦略的に活用しているかについて考察していく。グローバル化、生産から消費へのシフト、グローバルな市場競争、などの現代社会を捉えるための視点を提示する。</p> <p>【到達目標】 多国籍企業の市場戦略を知る。特に、多国籍企業の市場戦略には国の文化が大いに関係していることや、多国籍企業が文化を活用しながら自らの市場を創造する側面を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。</p> <p>第2回 グローバリゼーションとは何か：現代社会の特徴であるグローバル化について解説する。</p> <p>第3回 多国籍企業とグローバル化：グローバル化の主要な担い手である多国籍企業について解説する。</p> <p>第4回 多国籍企業の市場戦略：多国籍企業において市場戦略が重要になっていることを説明する。</p> <p>第5回 多国籍企業と文化 (1)：従来の多国籍企業論において文化がどのように位置づけられてきたかを検討する。</p> <p>第6回 多国籍企業と文化 (2)：多国籍企業と文化の関係を捉えるための、文化概念について再考する。</p> <p>第7回 国際マーケティング論における文化：国際マーケティング論において文化がどのように位置づけられてきたかを見ていく。</p> <p>第8回 市場戦略における文化的差異の活用：市場戦略において文化的差異が「ソフト・パワー」の源泉になることを説明する。</p> <p>第9回 ブランド形成における文化：ホルトの文化的ブランド論を取り上げながら、ブランド形成における文化の役割を検討する。</p> <p>第10回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (1)：多国籍企業の市場戦略における文化の活用に関する枠組みを考える。</p> <p>第11回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (2)：多国籍企業の市場戦略における文化の活用に関する枠組みを考える。</p> <p>第12回 事例分析 (1)：第10回、第11回で提示した枠組みに基づき、実際の多国籍企業の市場戦略を分析する。</p> <p>第13回 事例分析 (2)：第10回、第11回で提示した枠組みに基づき、実際の多国籍企業の市場戦略を分析する。</p> <p>第14回 事例分析 (3)：第10回、第11回で提示した枠組みに基づき、実際の多国籍企業の市場戦略を分析する。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	情報管理論	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義形式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の考え方について</p> <p>【概要】 情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捕らえようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではない、社会科学的な要素も必要となる。</p> <p>そこで、この授業ではこの部分を中心に、企業における情報の管理について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】 今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第2回 情報とは何か・情報の定義(1)：情報の定義を確認し、その特徴を説明する。 第3回 情報とは何か・情報の定義(2)：情報の特徴とその重要性を確認し、理解する。 第4回 比重が高まる情報の力について(1)：現代社会において、情報の持つ価値が高まっていることを説明する。 第5回 比重が高まる情報の力について(2)：価値の高まった情報をいかに使いこなすかについて説明する。 第6回 メディアリテラシーという考え方について(1)：メディアリテラシー全般について説明する。 第7回 メディアリテラシーという考え方について(2)：情報に振り回されないために、気をつけるべきことは何か。 第8回 メディアリテラシーという考え方について(3)：情報を発信するための考え方を理解する。 第9回 情報とメディア媒体(1)：メディアと情報の関係について考える。 第10回 情報とメディア媒体(2)：テレビやインターネットなど、メディア媒体の特徴を知る。 第11回 情報操作(1)：情報操作とは何かを説明する。 第12回 情報操作(2)：具体的な情報操作の例と、その対処法を説明する。 第13回 情報化の意義と必要性(1)：企業における情報化の意義と必要性について説明する。 第14回 情報化の意義と必要性(2)：実際の仕事上における、情報化の意義について知る。 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>前期筆記試験(70%)、授業でのレポート(30%) (予定) 詳細については、1回目の講義で説明します。</p>		

授業科目	経営分析	担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 はじめて学ぶ財務諸表分析</p> <p>【概要】 本講義は、企業の財務諸表と経営戦略に関する情報を用いて、経営状況を分析する能力を養うことを目的としています。具体的には、複式簿記、わが国の会計制度を簡単にさらし、実際の財務諸表を用いて、その「読み方」を学びます。</p> <p>【到達目標】 財務諸表をみて、会社の経営状況を自分の言葉で語れるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 田中弘(2010)『会計データの読み方・活かし方—経営分析の基本的技法』中央経済社(予定)、プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 会計情報と企業分析 第2回 財務諸表の仕組みを理解する(1) 第3回 財務諸表の仕組みを理解する(2) 第4回 貸借対照表を読む 第5回 安全性を分析する(1) 第6回 安全性を分析する(2) 第7回 損益計算書を読む 第8回 収益性を分析する(1) 第9回 収益性を分析する(2) 第10回 キャッシュフロー計算書を読む 第11回 効率性を分析する 第12回 成長性を分析する 第13回 キャッシュフローを分析する 第14回 損益の分かれ目を分析する 第15回 まとめ ※電卓を使用することがあります。必ず持参してください。</p>		
成績評価の方法	<p>期末レポート(100%)</p>		

授業科目	経営戦略論	担当者	瀬口 毅士
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略に関する基礎的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、企業が外部環境に適応し、長期的に存続・成長するための意思決定（あるいは、そのような意思決定を行うための指針）である。経営戦略は、企業戦略、事業戦略（競争戦略）、職能別戦略、の3つのレベルに区分できるが、本講義ではとりわけ前二者を中心に解説していく。さらに、グローバル戦略や企業の社会性などの、近年重要性を増しているテーマについても講義する。</p> <p>【到達目標】経営戦略論における基本概念を知る。それぞれの概念がどのような関係にあるのか、学説史的にどのような流れを辿ってきたかを理解する。本講義で習得した知識を現実の企業に適用し、分析できる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。 第2回 経営戦略とは何か：経営戦略の概要を説明する。 第3回 経営理念とドメイン：経営理念とドメイン（事業範囲）について解説する。 第4回 規模の経済と範囲の経済、水平統合と垂直統合：規模の経済等の経営戦略論の基本事項を説明する。 第5回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心として、多角化戦略について考える。 第6回 M&Aと戦略的提携：M&Aおよび戦略的提携について、それぞれの特徴や違い等を詳しく見ていく。 第7回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLC（プロダクト・ライフサイクル）を解説する。 第8回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分を考える。 第9回 競争戦略とは何か、競争戦略の学説史：競争戦略の概要を知る。 第10回 ポジショニング・アプローチ：競争戦略論のなかの、ポジショニング・アプローチを解説する。 第11回 資源ベース・アプローチ：競争戦略論のなかの、資源ベース・アプローチを解説する。 第12回 学習アプローチ、ゲーム論的アプローチ：競争戦略論のなかの、学習アプローチとゲーム論的アプローチを解説する。 第13回 グローバル戦略：これまでの内容を基に、グローバル規模での経営戦略のあり方を考える。 第14回 経営戦略と企業の社会性：企業の社会性という観点から、経営戦略を再考する。 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋毎回の小テスト（30%）		

授業科目	企業論	担当者	朝日 吉太郎
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資本主義的企業の発展法則をベースにグローバル化の中の企業戦略を考えます。</p> <p>【概要】世界の政治・経済は、巨大な企業や企業集団に強く影響されています。そして、これらの企業の暴走がバブル崩壊・経済危機となって現れ、多くの人々に強い否定的な影響を与えています。どうしてこのような事態になってしまったのでしょうか。現代資本主義の特徴である独占資本の形成発展と現状を法的にとらえながら、グローバル化の中での独占資本企業戦略の特徴、問題、課題について検討します。前期に社会政策を受講していると分かりやすいと思います。</p> <p>【到達目標】日本の企業集団の成立と発展、今後の変化とそれに対応する能力を身につけ、今日の企業社会のあり方について考える力を身につけます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に定めない (2) 授業時間内で指示する		
授業スケジュール	第1回 今日の経済の特徴と企業集団の力 第2回 資本主義と企業 第3回 競争と機械化 第4回 資本の再生産と領有法則の転変 第5回 蓄積と制限 第6回 合理化投資 第7回 利潤と競争 第7回 商業資本 第8回 利子生み資本 第9回 銀行と信用、株式会社 第10回 独占資本の形成と企業集団 第11回 企業集団と国家 第12回 恐慌と戦争 第13回 日本の企業集団（1）戦前 第14回 日本の企業集団（2）戦後 第15回 グローバル化と企業集団の蓄積戦略の展開		
成績評価の方法	学期末試験（100%）		

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p><b>【概要】</b> 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の操作を修得し、データベース設計に関する応用問題に取り組んでいく。</p> <p><b>【到達目標】</b> データベースソフトの Access を利用して、簡単なシステム開発を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『30時間でマスター Access2010』, 実教出版 (2) きたみあきこ, 『Access2007 マスターブック』, 毎日コミュニケーションズ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第2回 Access の操作：Access とは 第3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第4回 Access の操作：レコードの追加 第5回 Access の操作：フォームの作成 第6回 Access の操作：選択クエリの作成 第7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第8回 Access の操作：データベースの設計 第9回 Access の操作：リレーションシップの作成 第10回 Access の操作：レポートの作成 第11回 Access の操作：レポートのアレンジ 第12回 Access の操作：マクロの利用 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p><b>【概要】</b> プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p><b>【到達目標】</b> (1) 基本的なプログラミング技術を身につける。 (2) VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 七条達弘, 『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング 第5版』, ソフトバンククリエイティブ (2) 立山秀利, 『ExcelVBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』, 秀和システム</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：プログラミングの概念 第2回 マクロ：マクロの登録と実行 第3回 エディタ：VBE (Visual Basic Editor) の使い方 第4回 VBA の利用：プロシージャ 第5回 VBA の利用：オブジェクト 第6回 VBA の利用：セルの操作 第7回 VBA の利用：演算子 第8回 VBA の利用：条件分岐 第9回 VBA の利用：繰り返し処理 第10回 VBA の利用：変数の利用 第11回 VBA の利用：関数の作成 第12回 VBA の利用：ユーザーフォーム 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	財務会計論	担当者	宗田 健一
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財務諸表を読めるようになる</p> <p>【概要】 本年度の財務会計論では、会計学を初めて学ぶ学生を対象として、会計学の基礎に関して講義を行います。財務会計論は、会計関連科目の基礎をなす科目です。企業の活動状況を財務情報に集約して適切に利害関係者に伝達したり、企業の公表する財務諸表を理解したりするためには、会計学の知識が不可欠となります。本講義では、財務諸表を読み解く知識と技術の獲得を目指します。学習に際しては、学生自らが体験したり、考えたりする内容を組み入れます。講義参加型の学習を求めますので積極的に参加してください。</p> <p>【到達目標】 財務諸表の作成プロセスを理解する。財務諸表を読み解く基本的な知識と技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 内藤文雄『会計学 エッセンス』, 中央経済社, 2013年。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』(第15版), 中央経済社。(予定)</p> <p>中村忠『簿記の考え方・学び方[三訂版]』, 税務経理協会, 2004年。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パッケージ配布、会計って何？ 会計学を学ぶとどんなご利益があるのか。</p> <p>第2回 ゲームをしながら意思決定を学ぶ。(意思決定と情報：テキスト第1章)</p> <p>第3回 ゲームをしながら意思決定を学ぶ。(意思決定と情報：テキスト第1章)</p> <p>第4回 株式会社の構造について復習。株式会社における会計の役割について(会計情報の役立ち：第2章)</p> <p>第5回 グループ・ディスカッション(会計の意義・役割について)</p> <p>第6回 情報作成と開示(ディスクロージャー制度：第3章)</p> <p>第7回 製造業を体験し、情報を作成して、開示する(有価証券報告書：第4章)</p> <p>第8回 復習、小テスト(講義予備日)</p> <p>第9回 貸借対照表の構造と役割を知る(貸借対照表：テキスト第5章)</p> <p>第10回 損益計算書の構造と役割を知る(損益計算書：テキスト第6章)</p> <p>第11回 キャッシュ・フロー計算書の構造と役割を知る(キャッシュ・フロー計算書：テキスト第7章)</p> <p>第12回 株主資本等変動計算書の構造と役割を知る(株主資本等変動計算書：テキスト第8章)</p> <p>第13回 製造原価明細書の構造と役割を知る(製造原価明細書：テキスト第8章)</p> <p>第14回 復習、小テスト(講義予備日)</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	<p>レポート、講義への参加度(発言や質問など)(40%)筆記試験(60%)で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パッケージを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

授業科目	情報耐特講	担当者	岡村 俊彦, 倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 2単位	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ICT(情報通信技術)について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】 ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといったICTを学び、日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに、コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 実社会において、自らICT業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) FOM出版「日商PC検定試験 知識科目 2級対策問題集」, プリント</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータのハードウェア1：PCの実物を分解し、ハードの構成と役割の学習</p> <p>第4回 コンピュータのハードウェア2：PCの実物によるインターフェイスの学習</p> <p>第5回 ソフトウェアの設定：アプリケーションやドライバなどソフトの導入と設定</p> <p>第6回 ネットワークの仕組みと設定：ネットワーク機器と各種設定</p> <p>第7回 ウェブ活用：さまざまなウェブサービスの利用と注意事項</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字1：2進数と16進数</p> <p>第9回 コンピュータが扱う数字2：負の数と実数</p> <p>第10回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号</p> <p>第11回 シミュレーション1：シミュレーションとは</p> <p>第12回 シミュレーション2：エクセルを用いたシミュレーション</p> <p>第13回 意思決定：エクセルのソルバー</p> <p>第14回 データ分析：エクセルのデータ分析</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>レポート(100%)</p>		

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p><b>【概要】</b> マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための「仕組みづくり」である。現代社会においてマーケティングの役割はますます重要になってきている。本講義では、マーケティングの基本および現代のマーケティングについて講義する。</p> <p><b>【到達目標】</b> マーケティングの基本を習得し、消費者としての視点および販売者としての視点を養うことを目標とする。すなわち、消費者として、企業がどのようにマーケティング戦略を行おうとしているかを理解し、「賢い消費者」になることである。同時に、販売者として、顧客ニーズや顧客満足を満たすために、いかなる努力が必要であるかを知ることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績評価の方法等を確認する。</p> <p>第 2回 マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第 3回 標的市場の選択：ターゲティングおよびセグメンテーションについて解説する。</p> <p>第 4回 市場・消費者行動分析：消費者行動論を中心として、消費者の分析方法を説明する。</p> <p>第 5回 競争分析：ポジショニングを中心に、企業間の競争構造に関する分析方法を知る。</p> <p>第 6回 製品戦略：製品ライフサイクルや製品開発プロセスを中心に、製品戦略について解説する。</p> <p>第 7回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法を講義する。</p> <p>第 8回 流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択の方法を説明する。</p> <p>第 9回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスやメディアミックスなどを解説する。</p> <p>第 10回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド戦略について考える。</p> <p>第 11回 関係性マーケティング：企業と消費者の長期的関係性の構築について考える。</p> <p>第 12回 グローバル・マーケティング：グローバル規模でのマーケティング戦略を考える。</p> <p>第 13回 DVD観賞</p> <p>第 14回 ソーシャル・マーケティング：マーケティングにおける企業の社会的責任を解説する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 毎回の小テスト (30%)		

## 18 商経学科の演習・実習科目

## 第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習Ⅰ	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習Ⅱ	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

## 第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習Ⅰ	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習Ⅱ	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	学科教員全員
<p><b>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</b></p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p><b>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか？</b></p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学科的なものの考え方から出発して、自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p><b>③「演習」系科目の受講の流れ</b></p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p> <p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」</p> <p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>3年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p><b>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</b></p> <p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p><b>⑤成績評価の方法</b></p> <p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p><b>⑥受講登録上の注意</b></p> <p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 年次指定なし [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 1年（第一部）、2年（第二部） [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業重賞、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

## 19 教職に関する科目

	教職入門	担当者	田口康明
授業科目	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教職の意義や役割について、実際の学校におけるその職務内容や身分等を含めて理解し、あわせて児童生徒への進路選択の機会提供に資する教師の役割について考察する。</p> <p>【概要】本科目は、教員免許の取得に必要な科目であり、「教職の意義」について検討考察し、学校で働く教師の職務内容、すなわち教育活動とサービスの関係、研修や身分とその保障について扱う。また近年、学校教育と実社会の繋がりが着目され、その際重要となる教職員の役割として進路選択を可能にする力の育成、すなわちキャリア教育についても扱う。講義を中心とするが、必要に応じて資料に関連した文献、記事、VTR等を取り入れる。</p> <p>【到達目標】「教職とは何か」という点についての理解につけるが、教職の意義および教員の役割、教員の職務内容(研修、サービス及び身分保障等を含む)に関する知識を習得すること。子どもたちの進路選択と教職の関係を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版 2010年 (2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 教育職員免許法における本科目の位置づけなど</p> <p>第2回 教える・教えられる関係の変遷1 古代のソクラテスの対話法や中世の徒弟訓練の親方について</p> <p>第3回 教える・教えられる関係の変遷2 江戸時代の寺子屋の師匠や産業革命期のヨーロッパで発生した近代学校の教師</p> <p>第4回 教える・教えられる関係の変遷3 教職の位置づけについて、戦前の教師聖職論から戦後の専門職論へ</p> <p>第5回 現代学校における教師の役割と仕事1 学校における教員の日常と職務内容</p> <p>第6回 現代学校における教師の役割と仕事2 学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談</p> <p>第7回 現代の教師の身分と地位1 教員養成制度と研修制度</p> <p>第8回 現代の教師の身分と地位2 教員のサービス・身分と公務員制度</p> <p>第9回 学校における分業制の理解 学校での少数職種、校内分業体制と校務分掌、教職の全体性</p> <p>第10回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割1 いじめ・不登校への地域と連携した対応、学校を取り巻く社会での連携、自然体験</p> <p>第11回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割2 進路選択とキャリア教育、社会体験のコーディネーターとしての役割、職業観の涵養</p> <p>第12回 教師の資質をめぐる動き1 戦後の教員政策の変遷</p> <p>第13回 教師の資質をめぐる動き2 学校評価・教員評価・不適格教員・心の健康</p> <p>第14回 これからの教師に求められるものは何か 生涯学習社会における教師の成長の意義</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業中のミニ・レポート(3回程度)30%、筆記試験70%		

授業科目	教育原理	担当者	田口康明
	〔履修年次〕1年 〔学期〕前期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>【概要】教員になるために必要な教育学の知識として、最低限身につけておくべき教育学の理論を踏まえつつ、実際の教育を分析的に見る目を養うことがねらいである。主として学校教育を中心に考察する。教育の目標・意義・思想・歴史・制度に関する広汎かつ基礎的な知識理解の習得を目指す。具体的には、現代の学校教育を支える近代公教育史及びその思想の理解である。最新の教育実践・学校経営の事例の紹介など、今日的なトピック・情報を数多く取り入れて講義を進める予定である。</p> <p>【到達目標】教育の理念や歴史に関する基礎的な知識理解の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版 2010年</p> <p>(2) 参考文献は随時紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この科目の位置づけと目的</p> <p>第2回 教育とは何か その目的と機能に関する教育思想の理解</p> <p>第3回 現代の学校と教育課題 今日の学校教育を取り巻く「問題行動」について理解する</p> <p>第4回 近代公教育思想1 ジョン・ロックとルソーの人間観・教育思想について理解する</p> <p>第5回 西洋での学校の出現 中世から近代にかけて簇生した学校や大学について理解する</p> <p>第6回 近代公教育思想2 ペスタロッチとヘルバルトの教育思想について理解する</p> <p>第7回 日本における学校の成立 明治5年の学制の意義と社会的役割について理解する</p> <p>第8回 近代公教育思想3 日本の教育の原型を創った森有礼と師範学校教育について理解する</p> <p>第9回 日本における学校教育の展開 大正期から昭和初期にかけての学校改革運動の発生とその結末について理解する</p> <p>第10回 戦後日本の教育改革 戦後日本の学校教育の原型となった教育改革について理解する</p> <p>第11回 戦後日本のカリキュラムの改革史 学習指導要領の変遷とその重点の変化について理解する</p> <p>第12回 日本の1950年代～80年代の教育改革 中央教育審議会・臨時教育審議会による教育改革について理解する</p> <p>第13回 世界の教育改革とPISA 1970年代から今日までの各国の教育改革とPISAについて理解する</p> <p>第14回 新しい学習指導要領 平成24年度完全実施（中学校）の学習指導要領の改正点について理解する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験と小レポート（8：2程度の比率）で評価する。		

授業科目	教育心理学	担当者	石川満佐育
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ&amp;概要】</b> 教育活動を行ううえで必要となる知識(理論や概念)を提供する科目として教育心理学がある。本講義では、教育心理学の主要テーマである「学習」、「発達」、「評価」、「性格」の4つについて学ぶ。 適切な教育活動を行うには、学習に関する理論や概念を知る必要がある。また、教育の対象である子どもの発達過程や年齢に応じた心理的特性を知っておく必要がある。さらに、知識の習得だけでなく、その知識を教育活動にどのように活かしていくかを考えることを意識できるようにする。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①教育心理学に関する知識(概念・理論)の習得 ②教育心理学の観点から教育活動を考える意識を持つ。 ③知識を応用するという意識を高める</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・教育心理学とは? 第2回 学習①:学習理論 第3回 学習②:動機づけ 第4回 学習③:学習指導法 第5回 学習④:記憶のメカニズム 第6回 学習⑤:効果的な学習法 第7回 発達①:発達理論①(エリクソンの心理社会的発達理論) 第8回 発達②:発達理論②(ピアジェの認知発達理論) 第9回 発達③:乳幼児期の発達の特徴 第10回 発達④:児童期、青年期の発達の特徴 第11回 評価①:教育評価 第12回 評価②:知能検査 第13回 性格①:パーソナリティ理論 第14回 性格②:パーソナリティ検査 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(70%) +リアクションペーパー(30%)		

授業科目	教育行政学概論	担当者	岩橋 法雄
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b>現代日本の教育の行政・制度 <b>【概要】</b>日本の教育の管理運営は、誰(Who)が、誰(Whom)を、どのようなルール(which principles)で、行われているのか?その仕組みと今後考えるべき課題を、歴史的かつ比較的に考察していく。「誰が」は直接的には教育行政機関(文部科学省、教育委員会)であるが、まずは教育委員会の委員長と教育長の違いから説き起こそう。それは、教育委員会の理念の解説をすることとなるからである。「誰を」は学校教育だけではないのだが当面は学校を中核に説き起こし、子どもの権利条約の立場から考察する。「どのような・・・」は、案外みなさんに関心を持たれていないが、学校で学び、生活する私たちに密接に関係している&lt;教育の法律に関すること&gt;である。教育の様々な分野での法とその意味を歴史的に、そして構造的に概観する。 <b>【到達目標】</b>日本の教育行政・制度、公教育経営の基本的な事項について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 高橋寛人『危機に立つ教育委員会』(約100ページ)、クロスカルチャー出版、2013年。1260円(税込み) (2) 授業中に随時指示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 ・ゲルマン型とアングロ・サクソン型(Administration と Governance)の相違と特質 第2回 学校、選ばれる学校とそうでない学校(unpopular と popular)の相克。教育の制度と管理運営。 第3回 戦後日本の教育行政の基本原則、その歴史的変遷 ・1945年教育基本法の「教育行政」観、教育委員会委員長と教育長(レイマン・コントロールの意味)、教育委員会の基本的性格 第4回 変化する社会と教育委員会の改革論議と動向1 第5回 新教育基本法の「教育行政」観。日本の教育行政機関・文部科学大臣・文部科学省、教育委員会(教育委員会の構成と権限) 第6回 教育関連諸法規の概要 第7回 教師と法 ・公務員としての教師は、何ができて何ができないか?(身分上の問題)、対生徒の関係において、何ができて何ができないか?(①体罰になること、ならないこと、②校長の権限、教諭の権限) 第8回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課すレポート並びに最終試験によって評価する		

※ 7.5回

授業科目	教育課程論	担当者	吉田 尚史
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期集中 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育課程(カリキュラム)の定義・歴史・現状・課題。現在の学習指導要領との関連。</p> <p>【概要】本来、教育課程(カリキュラム)は、各学校毎に作成されるものであるが、日本には、その教育課程の基準である学習指導要領が存在し各学校種に応じて規定されている。そうした教育課程(カリキュラム)の基本概念及び編成方法、歴史と現状、課題について概説する。また、子どもの学習を促進するカリキュラムづくりのあり方について受講生とともに検討し、学習指導要領を踏まえた教育課程を編成する方法と力量を形成する。</p> <p>【到達目標】教育課程(カリキュラム)の定義、歴史、現状、課題に関する基礎的認識・概念の習得。2年次の実習に向けて各学校のカリキュラムのねらいと内容を適切に理解する能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に定めない。資料を配付する。</p> <p>(2) 大杉須英編『中学校学習指導要領(平成20年版)全文と改訂のピンポイント解説』明治図書出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 教育課程(カリキュラム)とは何か 教育課程の基本概念や教育課程の編成方法・形式について理解する。</p> <p>第2回 学習指導要領と教育課程編成、教科書 学習指導要領と各学校の教育課程並びに教科書との関係を把握し、学習指導要領について理解を深める</p> <p>第3回 日本の教育課程行政(学習指導要領)史 戦後の学習指導要領の編成について理解する</p> <p>第4回 現行の学習指導要領の解説(1) 平成20年の改訂について主に「総則」を理解する</p> <p>第5回 現行の学習指導要領の解説(2) 平成20年の改訂について主に各教科「国語」「英語」「家庭」を理解する</p> <p>第6回 教育目標と教材教具 教育目標と教材・教具の関連について理解し、優れた教材・教具を紹介する。</p> <p>第7回 まとめ 今後の教育課程のあり方を展望する。これまでの学習成果をまとめる。</p>		
成績評価の方法	筆記試験70%、授業内の小テスト・課題30%		

※ 7.5回 0.5回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	国語科教育法	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。</p> <p>【概要】中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。</p> <p>【到達目標】中学校国語科教育の意義を説明できる。 学習指導案を作成することができる。 模擬授業の振り返りを通して、客観的な観点から授業研究ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』, プリント。</p> <p>(2) 授業中、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：中学校国語科の目標と内容</p> <p>第2回 中学校学習指導要領 国語編について</p> <p>第3回 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の目標と内容</p> <p>第4回 「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の目標と内容</p> <p>第5回 教材研究の方法(1)</p> <p>第6回 教材研究の方法(2)</p> <p>第7回 学習指導案の作成(1)</p> <p>第8回 学習指導案の作成(2)</p> <p>第9回 模擬授業の意義</p> <p>第10回 模擬授業(1)</p> <p>第11回 模擬授業(2)</p> <p>第12回 模擬授業(3)</p> <p>第13回 模擬授業(4)</p> <p>第14回 教育実習について</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	学習指導案の作成(50%)、模擬授業についてのレポート(50%)		

授業科目	英語科教育法	担当者	久木田美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語教育の大変革期を迎え、現代の英語教育に必要とされる基礎知識と未来への展望を把握すると共に、科学的に分析し、各自が多文化共生社会での望ましい英語教師像をイメージできるようにする。</p> <p>【概要】日本における英語教育の変遷を把握し、世界の外国語教育、英語教育の指導理念、枝刈り教育の指導法の変遷、言語スキルの指導法、情報技能と指導、授業論などを概説し、現代の指導者に不可欠な国際理解教育についても考察する。実践面としては、ここ数年の東京都中学校英語教育研究会の動向を踏まえつつ、同研究会の研究公開授業などのビデオ等を参考に実習前の英語教育の基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】教育実習前に、現代の英語教育の状況を把握することによって、英語教師としての資質向上に精進すると共に、自立的に、臨機応変に、授業を組み立てていくことをも目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 岡秀夫他著、『グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法』、成美堂 文部科学省、『中学校学習指導要領解説 外国語編』、開隆堂</p> <p>(2) 随時プリント、</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本の英語教育の歴史の変遷 第2回 世界の英語教育、外国語教育の目的 第3回 指導理念を考えるモデル・ケース：小学校英語教育、広い視野からみる外国語学習の目標 第4回 指導法の変遷 第5回 現代の主な指導法、評価論 第6回 言語スキルと指導技術（リスニング、スピーキング） 第7回 言語スキルと指導技術（リーディング、ライティング、コミュニケーション・スキル） 第8回 国際理解教育 第9回 情報技能と指導 第10回 授業展開、学習指導案 第11回 授業研究、外国語学習者の心理 第12回 教師論、教育現場が実習生に求める資質・英語力 第13回 模擬授業 第14回 模擬授業 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業の発言内容（30%）、レポート（70%）で評価する。		

授業科目	家庭科教育法	担当者	富山裕子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。</p> <p>【概要】小学校から高等学校まで連続して家庭科を学ぶという学習者の視点に立った指導を実現するために、中学校における家庭科教育に求められていることを理解し、家庭科教育の意義や家庭科のあゆみ、指導目標と評価、授業計画の実際についても理解する。具体的には、学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容について理解し、学習指導計画に基づいた指導案の作成および模擬授業による授業実践力の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育の意義が理解できる。</li> <li>・学習指導要領の主旨を踏まえた小・中・高等学校における家庭科教育の系統性の大切さが理解できる。</li> <li>・学習指導要領の主旨を踏まえ、家庭科の指導目標と評価について理解した授業計画及び学習指導案の作成ができる。</li> <li>・立案した学習指導案に拠った模擬授業の実践と考察ができる。</li> </ul>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 多々納道子・福田公子 編著 「教育実践力をつける家庭科教育法」〔第3版〕 大学教育出版</p> <p>(2) 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力 第2回 家庭科教育のあゆみと今日的課題 第3回 教科教育としての家庭科教育の理念と特徴 第4回 家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題 第5回 小学校の家庭科の指導目標 第6回 中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標 第7回 高等学校の普通教科「家庭」及び専門教科「家庭」の指導目標 第8回 小・中・高等学校各発達段階における家庭科教育の課題 第9回 中学校「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導計画 第10回 中学校「技術・家庭（家庭分野）」の教材と授業計画 第11回 中学校「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案作成 第12回 中学校「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案（本時案）に基づいた授業の展開（模擬授業） 第13回 家庭科における評価 第14回 家庭科における学習環境（人的・物的）の整備 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、提出物（学習指導案20%、模擬授業についてのレポート20%）で評価する。		

授業科目	道徳教育の研究	担当者	田口康明
	〔履修年次〕2年 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と、道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)『中学校学習指導要領解説 道徳編』文部科学省</p> <p>(2)随時、指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する</p> <p>第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ</p> <p>第3回 道徳の目標及び内容 —道徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する</p> <p>第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ</p> <p>第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ</p> <p>第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ</p> <p>第7回 新たな「道徳教育」の課題 人権教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など</p> <p>第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）30%、試験70%		

※ 7.5回

授業科目	道徳教育論	担当者	田口康明
	〔履修年次〕2年（栄養教諭課程履修者） 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】栄養教諭として必要な道徳教育に関する基本的な知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)『小学校学習指導要領解説 道徳編』『中学校学習指導要領解説 道徳編』文部科学省</p> <p>(2)随時、指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する</p> <p>第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ</p> <p>第3回 道徳の目標及び内容 —道徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する</p> <p>第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ</p> <p>第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ</p> <p>第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ</p> <p>第7回 新たな「道徳教育」の課題 人権教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など</p> <p>第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）30%、試験70%		

※ 7.5回

授業科目	特別活動の研究	担当者	田口康明
	〔履修年次〕2年 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修(注) 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における「特別活動」の理解</p> <p>【概要】入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。</p> <p>【到達目標】中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容 第6回 「特別活動」の現代的な意義 第7回 「体験的活動」「キャリア教育」など 第8回 まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

※ 7.5回

授業科目	特別活動論	担当者	田口康明
	〔履修年次〕2年(栄養教諭課程履修者) 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修(注) 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小・中学校における「特別活動」の理解</p> <p>【概要】入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。</p> <p>【到達目標】小・中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文科省 (2) 授業において紹介する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容 第6回 「特別活動」の現代的な意義 第7回 「体験的活動」「キャリア教育」など 第8回 まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

※ 7.5回

授業科目	教育方法学概論	担当者	吉田 尚史
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期集中 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育方法と教師の指導技術を中心に教育方法論の基本的事項と授業づくりの基礎的技法を学ぶ。</p> <p>【概要】授業について代表的な思想や優れた教師の実践を学ぶことを通して、授業に対する考えや教育の方法・技術に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】授業や教育の方法・技術について、「教える」という立場から、分析したり、考えたりすることができる。先輩教師の授業実践から、授業の世界の複雑さや奥深さを捉えることができる。自分なりに「よい授業」に対する考え（授業や教育に対する哲学）を深め、それを指導案や教材・教具・発問等の指導技術に具体化することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)特に定めなし。資料を配付する。</p> <p>(2)日本教育方法学会編『リテラシーと授業改善—PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究』図書文化社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業とは何か 近代以前、近代以降の授業の様子を歴史的に考察する</p> <p>第2回 授業を創る(1) 具体的な教材と教育内容、教育目標の関係を理解する</p> <p>第3回 授業を創る(2) 授業のプロセスを構想し、教授行為と学習形態・学習方法について検討する</p> <p>第4回 授業を創る(3) 教育の環境づくりとメディア・教育機器の活用、授業の評価の方法について理解する</p> <p>第5回 授業の技術 ベテラン教員の実践事例に学ぶ</p> <p>第6回 教科書のない授業 総合的な学習の時間の指導法について理解する</p> <p>第7回 まとめ 授業の世界の複雑さと教師という仕事の特異性について理解する。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業内の小テスト・課題 30%		

※ 7.5回 0.5回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	教育相談	担当者	石川満佐育
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ&amp;概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、教師という立場から援助者として生徒に関わるうえで必要となる知識やスキル等を、「カウンセリング心理学」、「発達臨床心理学」、「学校心理学」の観点から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①教育相談について学校現場で必要な知識を習得する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・教育相談とは？</p> <p>第2回 教育相談の必要性と重要性</p> <p>第3回 教育相談の基本的な考え方</p> <p>第4回 校内支援体制①：役割について</p> <p>第5回 校内支援体制②：連携について</p> <p>第6回 生徒理解の方法①：アセスメントについて</p> <p>第7回 生徒理解の方法②：アセスメントの実際</p> <p>第8回 教師に求められるカウンセリング理論</p> <p>第9回 教師が行うカウンセリング技法Ⅰ</p> <p>第10回 教師が行うカウンセリング技法Ⅱ</p> <p>第11回 心理教育プログラム</p> <p>第12回 教育相談の実際①：不登校のケース</p> <p>第13回 教育相談の実際②：いじめのケース</p> <p>第14回 教育相談の実際③：発達障害のケース</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +リアクションペーパー (30%)		

授業科目	生徒指導論	担当者	石川満佐育
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ&amp;概要】</b> 児童生徒の不応等が多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、不応を起している生徒、支援が必要な生徒の実態を理解し、そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的、多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？ 第2回 学校心理学的アプローチ 第3回 教師と児童生徒の関係 第4回 児童生徒の仲間関係 第5回 児童生徒における諸問題①：不登校 第6回 児童生徒における諸問題②：いじめ 第7回 児童生徒における諸問題③：暴力 第8回 児童生徒における諸問題④：学校ストレス 第9回 心理教育①：ソーシャルスキルトレーニング 第10回 心理教育②：構成的グループエンカウンター 第11回 特別支援教育① 第12回 特別支援教育② 第13回 進路指導について① 第14回 進路指導について② 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +リアクションペーパー (30%)		

授業科目	生徒指導原論	担当者	石川満佐育
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ&amp;概要】</b> 児童生徒の不応等が多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、不応を起している生徒、支援が必要な生徒の実態を理解し、そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的、多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？ (学校心理学的アプローチ) 第2回 教師と生徒との関係・教師と児童生徒の関係 第3回 児童生徒の仲間関係 第4回 児童生徒における諸問題①：不登校 第5回 児童生徒における諸問題②：いじめ・暴力 第6回 特別支援教育 第7回 進路指導について 第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +リアクションペーパー (30%)		

※ 7.5回

授業科目	教職実践演習（中学校教諭）	担当者	田口康明, 石川満佐育, 竹本寛秋, 久木田美枝子, 坂上ちえ子
	〔履修年次〕2年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>授業の概要： 短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、使命感や責任感、教育的な愛情など、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は教科に関する教員が中心になって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用の説明を行う。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。</p> <p>第7回：[振り返り講演]についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学] (11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。)教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察</p> <p>第11回：[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科等の指導の重点について討論活動を行い、授業計画や学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する</p>		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	町田和恵・木場幸子・田口康明・石川満佐育
	〔履修年次〕2年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状況に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 短大の2年間で学んだ栄養管理並びに教職に関する知識と、教育実習などで獲得した給食管理と食育指導などの実践体験を統合する。その際、使命感や責任感、教育的な愛情など、栄養教諭として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』、文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房）</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。</p> <p>第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。時間は8:20～12:50までを予定している。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。</p> <p>第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した食育の指導に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)] 給食の時間における食に関する指導の重点について、模擬授業や討論活動を行い、学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」を発表。</p>		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む）	担当者	田口康明
	〔履修年次〕2年 〔学期〕前期 〔単位〕5単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕実習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における教育実習</p> <p>【概要】教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。</p> <p>第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性</p> <p>第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。</p> <p>第3回 模擬授業（1）</p> <p>第4回 模擬授業（2）</p> <p>第5回 模擬授業（3）</p> <p>第6回 教育実習に関わる実務について</p> <p>第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて</p> <p>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。</p> <p>この他、「人権教育」に関する講演会を事前又は事後に実施。</p>		
成績評価の方法	<p>実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。</p>		

授業科目	栄養教育実習	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕2年 〔学期〕前期集中 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育現場において求められている栄養教育実践力</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、学校給食を生きた教材として有効に活用することなどによって、子どもに正しい食習慣を身につけさせる指導と、給食の栄養や衛生の管理を柱とした職務内容を学習することを目的とし、実践の教育現場での授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的に学習する。主に県内の小、中学校、給食センターで、1週間の実習を行う。</p> <p>【到達目標】学校教育全般の組織・運営を理解し、栄養教諭職務の全体像を把握する。また、栄養教諭としての基礎的能力の修得をめざし、作成した学習指導案に基づいて授業を行い、食に関する実践的な指導力を身につけるとともに、児童・生徒の理解、定着度を評価する力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省『食生活学習教材』</p>		
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <p>1, 指導教諭等からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営</li> <li>・校務分掌の理解</li> <li>・サービス 等</li> </ul> <p>2, 児童及び生徒への個別相談、指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導、相談の場の参観、補助 等</li> </ul> <p>3, 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助</li> <li>・教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助</li> <li>・給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助</li> <li>・児童生徒会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助</li> <li>・指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 等</li> </ul> <p>4, 食に関する指導の連携・調整の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）の参観、補助</li> <li>・家庭・地域との連携・調整の参観、補助 等</li> </ul> <p>5, 学校給食の管理を一体的に担う方法</p>		
成績評価の方法	<p>実習先評価（60%）、実習ノート・参加態度等（40%）によって総合的に評価する。</p>		

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 2年                      [学期] 前期 [単位] 1単位                      [必修/選択] 必修(注)                      [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかれることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。事前指導の内容は、栄養教育実習の意義、目的や実習校での参観・参加・授業実習、学習指導案の説明と作成などである。また、事後指導では各実習生の報告をもとに必要な指導を行う。</p> <p>【到達目標】 本授業では、教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』 (2) 文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール	<p>事前指導</p> <p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション 意義や目的、心構えなど</p> <p>第2回 実習の評価の方法、実習後の提出物(実習ノート、学習指導案など)、実習中の短大との連絡方法などの指導</p> <p>第3回 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施(1) 班に分かれて授業をする</p> <p>第5回 模擬授業の実施(2) 班に分かれて授業をする</p> <p>事後指導</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表(1) 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表(2) 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価、実習の反省、問題点の整理 今後の課題の明確化</p>		
成績評価の方法	発表・提出物(80%)、取り組み態度(20%)を総合的に評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる		

※ 7.5回

## 20 司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館	担当者	岩下 雅子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2 単位 [必修/選択] [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 従来の学校図書館の運営から、さらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する。 <b>【概要】</b> 「図書館は成長する有機体である」。これは図書館の父と呼ばれるランガナタンが提唱した図書館五原則の一つです。学校図書館もしかり。学校図書館ほどのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのでしょう。現在の学校図書館が公共図書館、公共施設、地域と積極的に相互協力・連携するようになったのはなぜでしょう。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します。 <b>【到達目標】</b> 学校経営の中における学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布 「新訂 学校経営と学校図書館」野口武悟、前田稔 NHK出版		
授業スケジュール	第 1回 学校図書館の理念と教育的意義 第 2回 世界・日本の学校図書館史 第 3回 鹿児島県の学校図書館史 第 4回 鹿児島県の学校図書館の現状 第 5回 学校図書館法 第 6回 学校経営の中の学校図書館 第 7回 学校図書館の運営①—小学校の事例を中心に 第 8回 学校図書館の運営②—中学校の事例を中心に 第 9回 学校図書館の運営③—高校の事例を中心に 第 10回 学校図書館とネットワーク(1)P T A・地域との連携 第 11回 学校図書館とネットワーク(2)公共図書館等との連携 第 12回 学校図書館の施設・設備 第 13回 学校図書館をデザインする 第 14回 学校図書館と司書教諭の役割 第 15回 学校図書館の課題と展望のまとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) 授業ごとに実施するレポート (40%)		

授業科目	学校図書館メディアの構成	担当者	岩下 雅子
	[履修年次] 1・2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 多様化した今日の情報メディアを学校図書館でどのように扱うか学ぶ <b>【概要】</b> 学校図書館メディアとは何だろう。高度情報化社会、知識基盤社会、知識経済社会の中で、児童生徒を取り巻く学習環境も大きく変化（教育課程の変化）している。この科目では、学校図書館メディアの構築のために、適切な情報・資料の選択収集・整理（組織化）・提供・保存の仕方をどのように学校図書館は行うか考察する <b>【到達目標】</b> 学校図書館メディア化の組織化と司書教諭の果たす役割を学ぶ		
(1) テキスト (2) 参考文献	「新訂 学校図書館メディアの構成」北克一、平井尊士 NHK出版		
授業スケジュール	第 1回 学習環境の変化と学校図書館メディアの現状 第 2回 学校図書館メディアとその活用 第 3回 学校図書館メディアの構築 第 4回 学校の教育方針とメディア選択 第 5回 学校図書館メディアの組織化（収集と整理） 第 6回 学校図書館をデザインする(1)—本棚、分類、配架 第 7回 学校図書館をデザインする(2)—目録～ネットワーク 第 8回 日本十進分類法(1) 第 9回 日本十進分類法(2) 第 10回 学校図書館と目録(1) 第 11回 学校図書館と目録(2) 第 12回 件名目録 第 13回 学校図書館とネットワーク 第 14回 特別支援と学校図書館メディア 第 15回 学校図書館メディアのまとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) 授業ごとに実施するレポート (40%)		